

つくば市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和4年3月

つくば市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果の概要	2
III	調査結果	10
1	市民.....	10
(1)	回答者属性.....	10
(2)	男女共同参画の意識について.....	13
(3)	地域活動などに関する考え、意識について.....	44
(4)	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について.....	52
(5)	就業関係について.....	58
(6)	人権について.....	81
(7)	災害について.....	109
(8)	市政運営について.....	118
(9)	その他について.....	137
2	事業所.....	151
(1)	回答者属性.....	151
(2)	雇用や職場環境について.....	152
(3)	育児休業制度について.....	162
(4)	介護休業制度について.....	164
(5)	非正規雇用について.....	167
(6)	ハラスメントについて.....	169
(7)	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について.....	170
3	職員.....	175
(1)	回答者属性.....	175
(2)	庁内での状況について.....	177
(3)	市政運営について.....	222
(4)	男女共同参画の取り組みについて.....	227

I 調査の概要

1 調査の目的

平成30年3月策定の『つくば市男女共同参画推進基本計画(2018～2022)』の見直しにあたり、男女共同参画に関する意識や意向、ニーズを的確に把握し、今後の施策展開の参考とするため

2 調査対象

市民意識調査 : 20歳以上のつくば市民(住民基本台帳に基づく無作為抽出)

事業所調査 : つくば市内に立地する事業所(無作為抽出)

職員意識調査 : 市職員全数(会計年度任用職員を除く)

3 調査期間

市民意識調査及び事業所調査 : 令和3年10月28日から令和3年11月18日

職員意識調査 : 令和3年10月27日から令和3年11月30日

4 調査方法

市民意識調査及び事業所調査 : 郵送による配布・回収(WEBによる回答を併用)

職員意識調査 : いばらき電子申請・届出サービスを用いて実施

5 回収状況

調査名	対象者数	有効回答数	有効回答率
市民意識調査	3,000	911	30.4%
事業所調査	300	127	42.3%
職員意識調査	2,002	898	44.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。(無回答を除く)
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。
- ・【性別】や【性・年齢別】のクロス集計の結果で大きな差異がみられない場合、掲載は省略しています。

Ⅱ 調査結果の概要

1 市民

男女共同参画の意識について

男女の地位に関する設問では、男女の地位が「平等」の割合が特に高い項目は、『学校教育の場』、『家庭生活』、『法律や制度』となっています。

前回調査と比較すると、『職場』を除いた各項目で男女の地位が「平等」の割合は増加せず、むしろ『学校教育の場』、『法律や制度』では「平等」の割合が減少していることから、平等の実現には至っていないことが示されます。

男女別でみると、すべての項目で、男性に比べて女性の「平等」の割合が低く、比較的「平等」の割合が高い『家庭生活』、『学校教育の場』、『法律や制度』においても、男女間において意識に差があることが大きいことが伺えます。

「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合については、『学校教育の場』を除いた項目で高くなっています。中でも『政治の場』、『社会通念、慣習、しきたりなど』、『社会全体』では、前回と同様に“男性の方が優遇されている”の割合が特に高いことから、日常生活においては男女平等の意識が浸透しつつあるものの、政治や社会全体では、依然として男性優遇の傾向がみられます。

関連して、男女平等のための取組に関する設問では、男女とも「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も高く、目に見えない無意識で行っている慣習などの改善などが求められています。

社会通念、慣習に関連して、「男性は仕事、女性は家庭」といった固定的性別役割分担意識の是非については、反対する人が過半数を占め、女性では特に反対する人が多くなっています。また、家庭における夫婦の役割分担でも、「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」の割合が最も高く、性別役割分担意識は薄れてきていると考えられます。

しかし、現実の家事の分担をみると、「掃除」「洗濯」「食事の用意」「食事の後片付け」は女性が担当している割合が高く、一方で「家庭において全体的な実権を握っている」のは「男性」の割合が高いことから、家庭生活における意識は「平等」であるのに現実には性別役割分担意識が残っているという矛盾が生じています。

地域活動などに関する考え、意識について

区会（自治会）やボランティアなどの地域活動への参加については、「参加している」の割合は前回調査と大きく変わらず、回答者全体の約3割程度となっています。男女別にみると、男性と比べて女性の地域活動へ参加「している」割合は少なくなっています。

地域活動に参加しない理由については、「きっかけがないから」、「参加したいが、仕事が忙しいから」、「情報がないから」が多くなっています。

女性が地域活動のリーダーとなるために必要なことは、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感の解消」、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消」が上位2位となっており、男女双方の抵抗感を解消することが必要となっています。

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

○ ワーク・ライフ・バランスの希望と実態

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度に関する設問では、男女ともに「仕事」と「家庭生活」を優先したい、「家庭生活」を優先したいが他の項目に比べ高い割合となっています。しかし、現実（現状）では、特に男性20歳代～50歳代、女性20歳代で「仕事」を優先しているが最も高い割合となっており、希望と現実の間に差があることが示されています。

○ ワーク・ライフ・バランス実現へのニーズ

ワーク・ライフ・バランス実現に向けてのニーズについての設問では、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の割合が最も高くなっているとともに、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する」が前回調査より大きく割合が増加しています。

就業関係について

○ 女性の就業

女性が職業をもつことについての設問では、「女性は子どもが生まれても、ずっと仕事を続ける方がよい」が、前回調査よりも割合が増加しており、女性が継続して就業する意識が浸透していることが示されています。また、前回調査では「女性は出産や子育てで一度退職し、その時期が過ぎたら再び仕事を持つほうがよい」が約41%であったのが減少し、約36%となっています。

○ 企業における女性の活躍を推進する取組

企業における女性の活躍を推進する取組が進んでいるかについては、“そう思う”と“そう思わない”がどちらも40%程度で拮抗していますが、前回調査に比べると“そう思う”が増加しており、女性の活躍推進の取組が進んでいることが伺えます。

○ 職場における女性の昇進・昇格

職場における女性の昇進・昇格が十分に行われているかの設問では、“そう思わない”が約50%であった一方、“そう思う”は約30%と、前回調査から“そう思う”は増加しているものの、傾向としては大きく変わらない結果となっています。

○ 女性が働きやすくするためのニーズ

女性が働きやすくするためのニーズについての設問では、「育児・介護のための休暇制度の充実とともに、男性も取得しやすい環境整備」、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」、「出産・介護などで退職した女性の再雇用制度の充実」が、前回調査同様、他の項目に比べ割合が高くなっています。また、前回調査よりも割合が高くなった項目として、「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」、「昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女格差を是正する」の項目が挙げられます。

○ 女性の起業

女性も起業し社会に出ていると思うかは、「そう思う」の割合は男女とも30%台半ばとなっています。

○ 管理職以上に昇進することのイメージ

管理職以上に昇進することのイメージは、男性では「家族から評価される」、「自分自身で決められる事柄が多くなる」の割合が女性より高くポジティブなイメージがある一方、女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」「責任が重くなる」などの割合が男性より高く、ネガティブなイメージが多くなっています。

人権について

○ セクシュアル・ハラスメントについて

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験の有無について、「ある」と答えた割合は前回調査と同様、回答者の約6%となっています。「ある」と答えた方を対象にした対処についての設問では、「我慢した」が回答者の7割以上を占め、前回同様最も割合の高い項目となっています。

○ ドメスティック・バイオレンスについて

ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の有無は、「ある」と答えた割合は前回調査と同様、約7%となっています。「ある」と答えた方を対象にしたドメスティック・バイオレンスの相談についての設問では、「相談したかったが、相談しなかった」人の割合は、前回と変わらず約20%となっており、相談支援の拡充が早急に望まれます。

○ 性の多様性について

「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高いのは『セクシュアル・マイノリティ、性的少数者』『LGBT、LGBTQ等』『カミングアウト』『性自認、性同一性、性別違和』『性的指向』となっています。一方、『アウティング』『SOGI（ソジ、ソギ）』『アライ（Ally）』の項目では「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。

この中の『性的少数者』の当事者に関連する事項については、「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」、「学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと」、「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」で認知度が高く、特に女性では男性より認知度が高くなっています。

災害について

災害が起きたときに、避難所に必要なものについての設問では、「女性の運営責任者」、「女性の相談員」「性的被害等の発生予防対策や相談窓口」を除くすべての項目で、“必要だと思う”が80%以上の割合となっており、中でも、女性については「男女別の更衣室」、「男女別のトイレ」、「女性用品の常備」の割合が他の項目に比べ高くなっています。

市政運営について

本市の市政において、女性の意見や視点が十分に活かされているかについての設問では、“活かされている”の割合が、“活かされていない”の割合よりも高くなっていますが、男女別では男性よりも女性で“活かされていない”の割合が高くなっています。また、“活かされている”の割合が前回調査と同程度にとどまっています。

また、市政へのニーズについては、男女ともに「審議会・委員会等への女性の登用増」、「市民の意見や提案等の募集拡充」の割合が最も高くなっています。

2 事業所

雇用や職場環境について

○ 採用

従業員の中の女性の割合についての設問では、従業員の女性比率は、「半数より少ない」が最も高いものの、前回調査よりもその割合は減少しており、同時に「半数より多い」が前回調査よりも割合が高いことから、女性従業員の採用について前向きな方向が示されています。

○ 昇進

女性役員がいるかについては、女性役員が「いる」の割合が前回調査より約 18 ポイント減少するとしています。同時に、女性の管理職の割合でも「全くいない」が前回調査より増加しており、女性の昇進・登用が進んでいないことが伺えます。もっとも、管理職への女性登用の意思が「ある」企業の割合は前回調査より増加しており、今後の女性登用が期待されます。

○ 男女の取扱状況

事業所での男女の取扱状況についての設問では、すべての項目において、均等に「なっている」が 60%以上となっています。しかし、「募集」、「配置」では他の項目と比べて平等に「なっていない」の割合が高くなっており、事業所における課題となる部分と考えられます。

そうした課題の解消に向け、男女雇用機会均等法で定められているポジティブ・アクションについての措置に関する設問では、「女性がいない部署や業務に、積極的に女性を配置する」、「女性が参加していなかった会議や勉強会に、積極的に女性を参加させる」、「募集・採用に関して女性に配慮した措置がある」などの割合が、前回調査よりも高くなっています。一方、「特に配慮していない」は、前回調査よりも割合は低くなったものの、約 28%と高い水準となっています。

育児休業制度・介護休業制度について

○ 育児休業制度

育児休業制度の対象となる従業員がいる事業所での、令和 2 年度の育児休業の取得率については、「100%」の割合が最も高いものの、「0%」も約 16%と高くなっています。育児休業制度利用後の職場復帰についての設問では、「ほとんどが復帰している」が全体の約 87%となっています。

○ 介護休業制度

介護休業制度の利用対象になる従業員を持つ事業所での、過去5年間に制度を利用した従業員の有無は、女性で「いる」が22%、「男女どちらもいる」が約29%となっており、「男女どちらもいる」が前回調査より3倍程度となっています。

また、介護休業制度利用後に職場復帰した従業員の割合についての設問では、「ほとんどが復帰している」が約96%と大半を占めています。

○ 再雇用制度

介護休業・出産・育児・介護等を理由に退職した社員を再度雇用する制度の有無については「設けている」、「設けていない」の割合がどちらも41.7%となっています。再雇用制度を設けている事業所の割合は、前回調査から約12ポイント増加しており、再雇用制度が徐々に広まりつつあることが伺えます。実際に再雇用制度を利用した従業員の有無については、利用した女性従業員が「いる」企業の割合が約34%にのぼっています。

非正規雇用について

非正規雇用の社員・従業員のうち、女性が占める割合については、「全員女性」、「半数より多い」をあわせた割合が約63%と、前回調査より減少しています。また、パートタイマーに対する制度や保障についての設問では、すべての項目で前回調査より割合が増加しており非正規雇用の社員・従業員への保障が以前より手厚くなっています。

ハラスメントについて

セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント等のハラスメント防止のために取り組んでいることは、「就業規則にハラスメントを禁止する条項を記載している」、「事業所内に相談・苦情窓口を設置している」、「ハラスメントに関する研修を実施している」の割合が高くなっており、特に「就業規則にハラスメントを禁止する条項を記載している」、「ハラスメントに関する研修を実施している」は前回調査に比べて18ポイント以上増加しています。

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

社員の1人当たりの1ヶ月の平均残業時間についての設問では、「0時間」、「1時間以上10時間未満」、「10時間以上20時間未満」の各項目を合わせると、回答者全体の70%程度となっています。

また、ワーク・ライフ・バランスへの取組状況については、「積極的に取り組み、効果が出ている」「積極的に取り組んでいるが、あまり成果があがっていない」が、前回調査よりも高い割合になっており、効果の有無にかかわらず積極的に取り組んでいる事業所が増加していると考えられます。

3 職員

庁内での状況について

職場での性別による格差・優遇についての設問では、すべての項目において、「平等」が70%を超えています。その中で、「昇任・昇格」は、他の項目と比べて“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっており、本市役所における課題となる部分と考えられます。

そうした課題に関連して、男女とも仕事のしやすい環境を整えるための弊害としては「労働時間が長すぎる」、「性別によって仕事内容に差がある」が挙げられています。

○ 昇任・昇格

管理職になりたいかについては、女性は男性より「なりたいとは思わない」が高く、女性の管理職への意欲が低いことが伺えます。管理職になりたくない理由としては、女性で「仕事と家庭（個人）の生活の両立を図る自信がないから」「今のままで特に不満はないから」「自分の能力に自信がないから」の割合が男性より高く、女性の不安感が原因となっていると思われます。

それらに関連して、女性が一層職場で活躍するために必要なことに関する設問では、「女性管理職の積極的な登用」、「女性の仕事に対する意識の改革」、「慣例的に女性の仕事となっていたものの見直し」が高くなっていますが、女性では「男性の男女共同参画に対する意識改革」の割合も高くなっています。

○ ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスに対する職場の理解についての設問では、“理解は進んでいると思う”の割合が回答者全体の約81%に達していますが、“理解は進んでいないと思う”の割合が約16%と、引き続き理解の浸透が望まれます。

○ ハラスメント

1年間に、職場で性別を理由としたハラスメントを受けた経験がある人、または職場で経験した人を知っている人の割合は約28%と、一定数の人がハラスメント被害を受けています。しかし、相談窓口の認知度は約80%にとどまっていることから、ハラスメントの防止とともに、相談窓口の周知が望まれます。

○ 災害

災害が起きたときに、市として避難所に必要なものについての設問では、「女性の運営責任者」を除くすべての項目で、「必要だと思う」が90%以上の割合となっています。もっとも、「女性の相談員」も前回調査に比べて約20ポイント増加しており、必要性が浸透していると考えられます。

市政運営

本市の市政において、女性の意見や視点が十分に活かされているかについては、“活かされている”の割合が約78%を占めていますが、男女別にみると、女性では“活かされていない”の割合が男性に比べ高くなっています。

また、市政へのニーズについては、「男性の意識啓発活動」が最も割合の高い項目となっており、特に男性で高くなっています。そのほか、前回調査に比べて「学校教育における男女共同参画意識の育成」が約12ポイント増加しています。

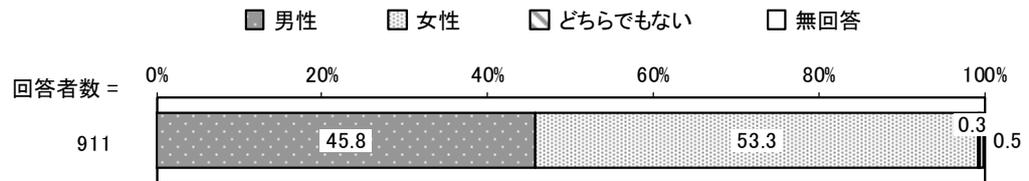
Ⅲ 調査結果

1 市民

(1) 回答者属性

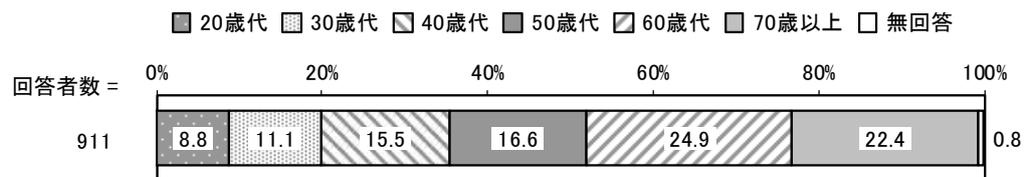
F 1 あなたの性別はどちらですか。

「女性」の割合が53.3%、「男性」の割合が45.8%となっています。



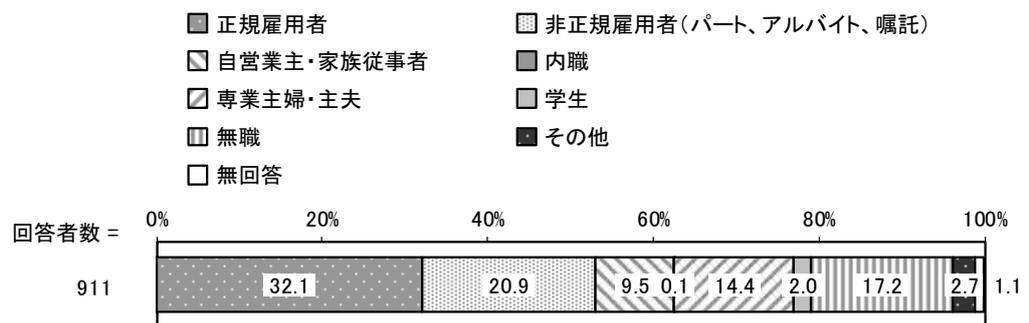
F 2 あなたは何歳代ですか。

「60歳代」の割合が24.9%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が22.4%、「50歳代」の割合が16.6%となっています。



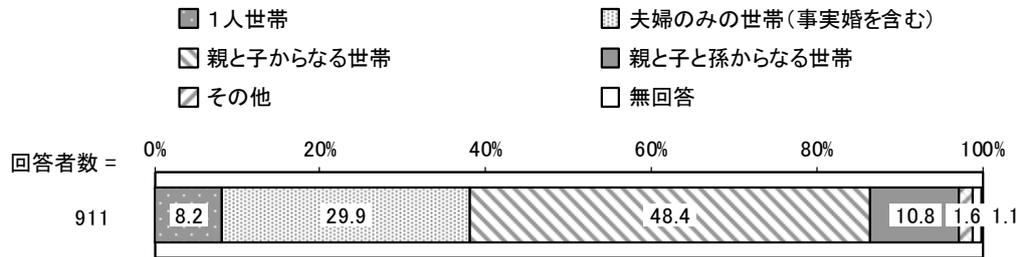
F 3 あなたの主な職業は次のどれにあたりますか。

「正規雇用者」の割合が32.1%と最も高く、次いで「非正規雇用者（パート、アルバイト、嘱託）」の割合が20.9%、「無職」の割合が17.2%となっています。



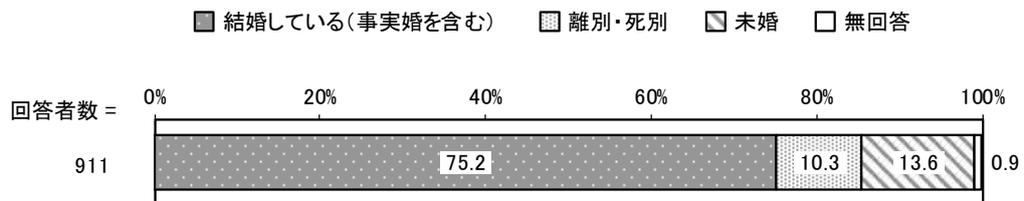
F 4 あなたの世帯状況は次のどれですか。

「親と子からなる世帯」の割合が48.4%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯(事実婚を含む)」の割合が29.9%、「親と子と孫からなる世帯」の割合が10.8%となっています。



F 5 あなたは、結婚されていますか。

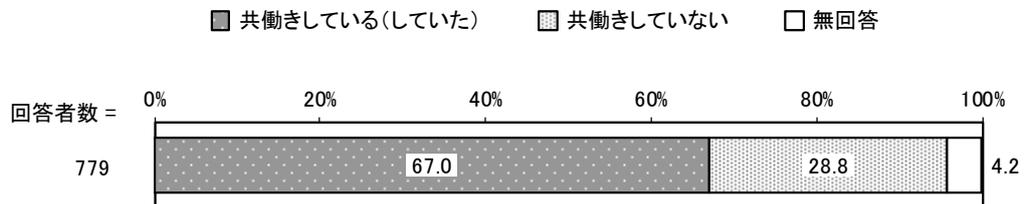
「結婚している(事実婚を含む)」の割合が75.2%と最も高く、次いで「未婚」の割合が13.6%、「離別・死別」の割合が10.3%となっています。



F 5で「結婚している(事実婚を含む)」「離別・死別」と回答した方におうかがいします。

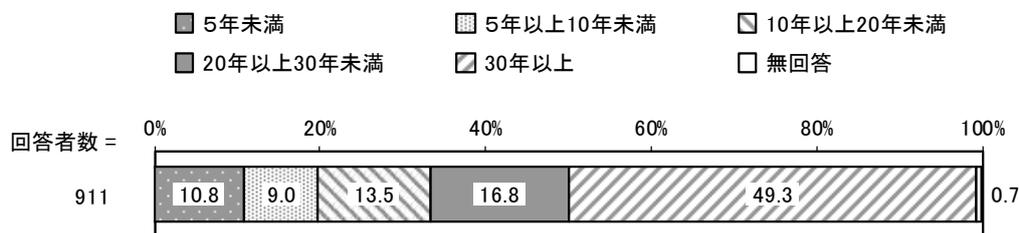
F 5-1 あなたとあなたの配偶者またはパートナーは共働きをしていますか。(していましたか)

「共働きしている(していた)」の割合が67.0%、「共働きしていない」の割合が28.8%となっています。



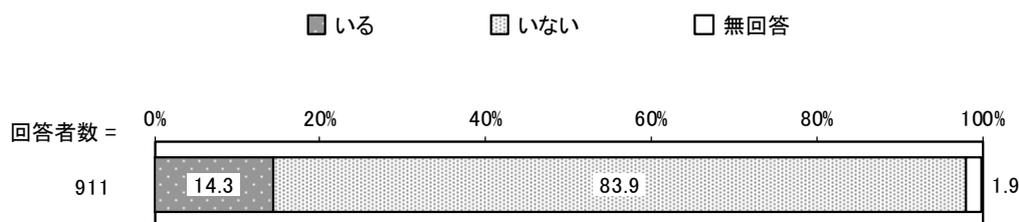
F 6 あなたはつくば市に住むようになって何年になりますか。

「30年以上」の割合が49.3%と最も高く、次いで「20年以上30年未満」の割合が16.8%、「10年以上20年未満」の割合が13.5%となっています。



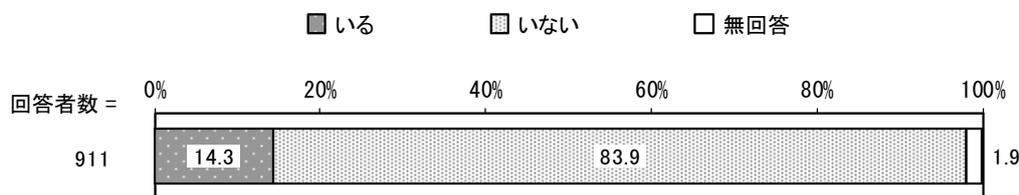
F 7 あなたには小学生以下のお子さんがいらっしゃいますか。

「いる」の割合が14.3%、「いない」の割合が83.9%となっています。



F 8 現在、あなたのご家族に看護・介護を必要としている方はいますか。

「いる」の割合が14.3%、「いない」の割合が83.9%となっています。



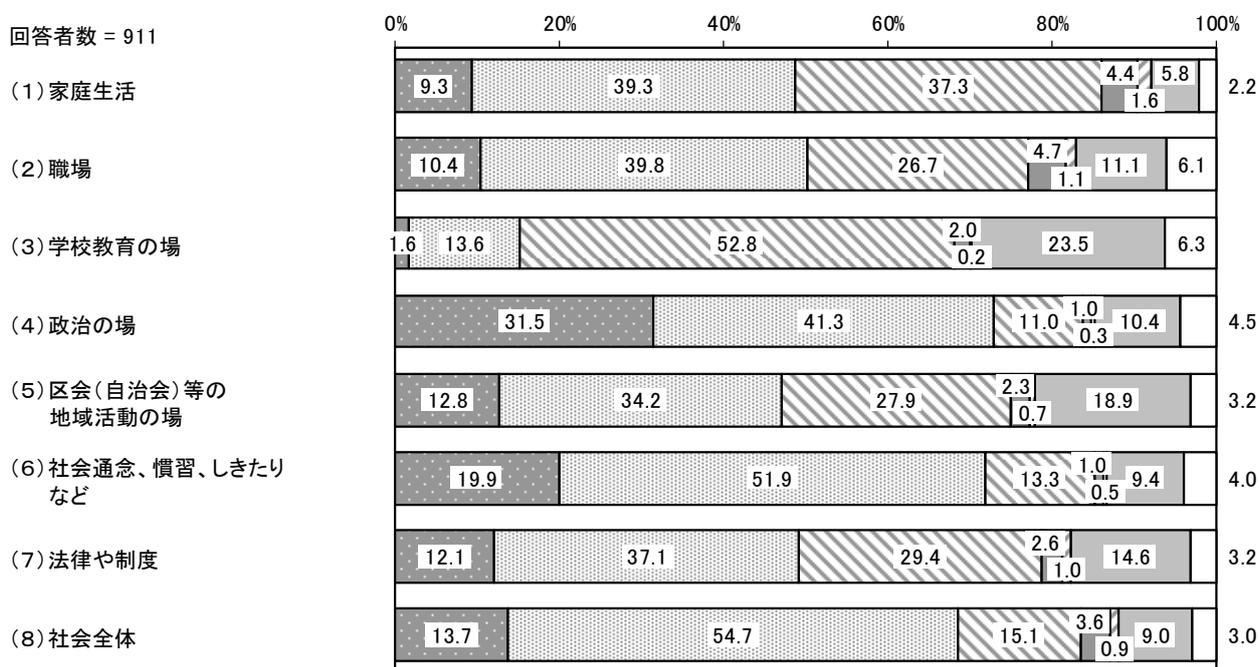
(2) 男女共同参画の意識について

問1 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

『学校教育の場』以外の全ての項目で、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。特に、『政治の場』『社会通念、慣習、しきたりなど』『社会全体』では、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、『学校教育の場』では「平等」の割合が最も高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- わからない
- 無回答

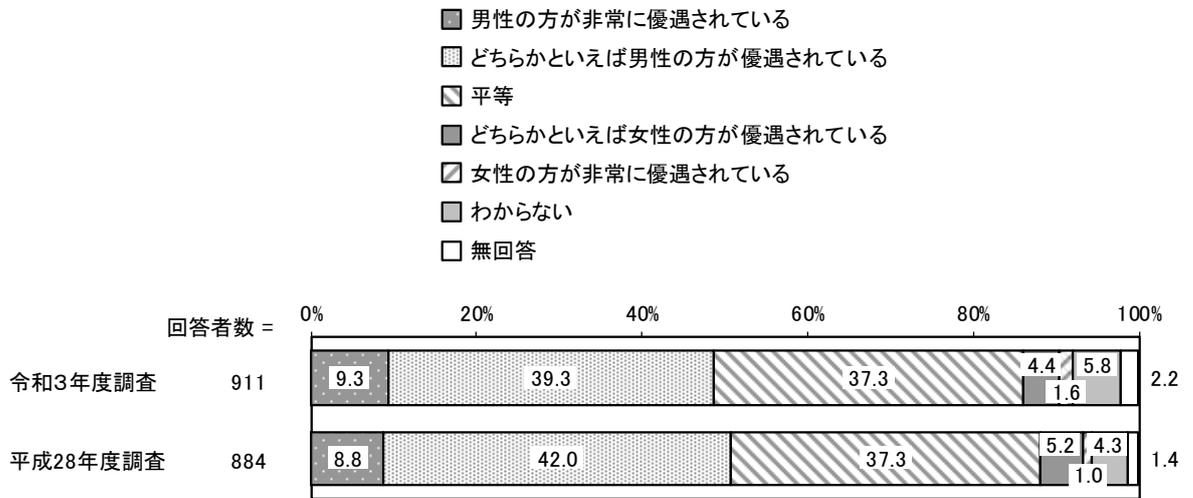
回答者数 = 911



(1) 家庭生活

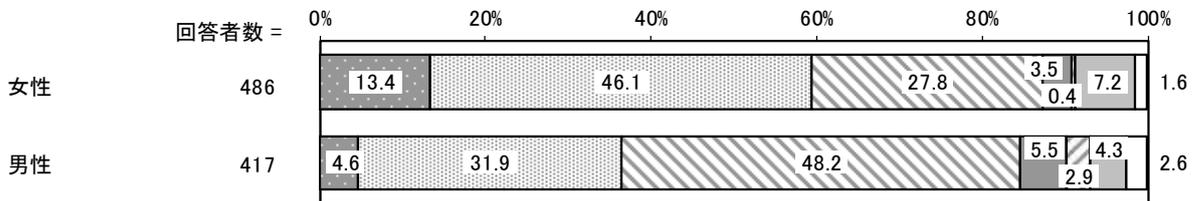
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



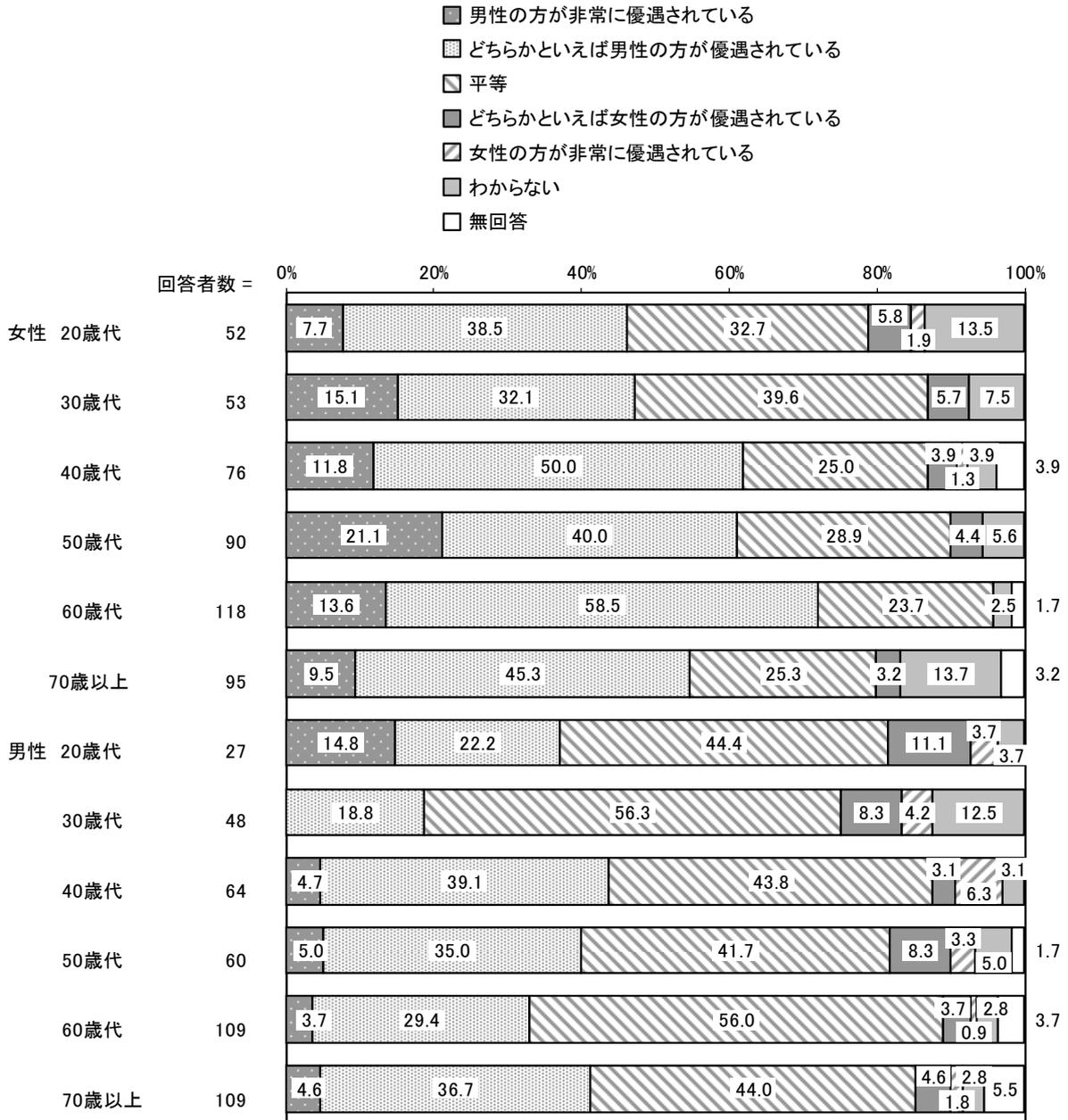
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

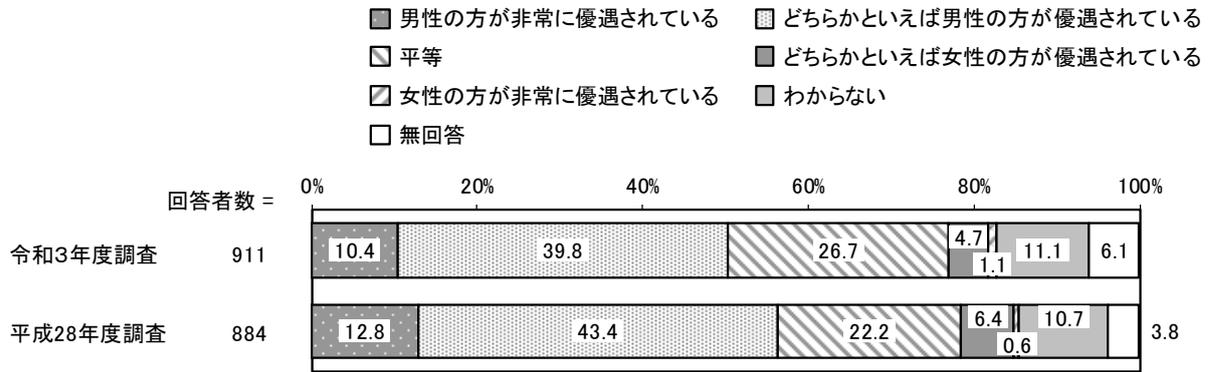
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 60 歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、男性 30 歳代、男性 60 歳代で「平等」の割合が高くなっています。また、男性 20 歳代で、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



(2) 職場

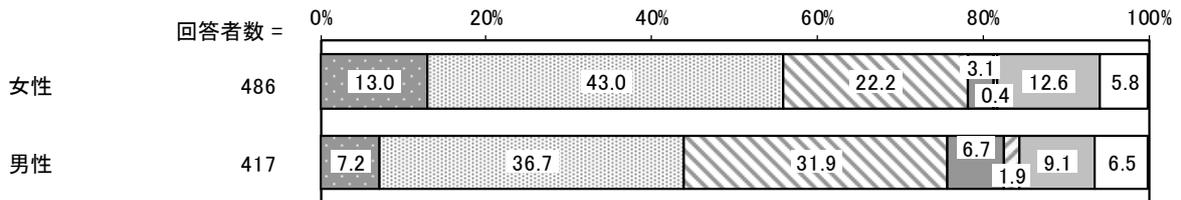
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。



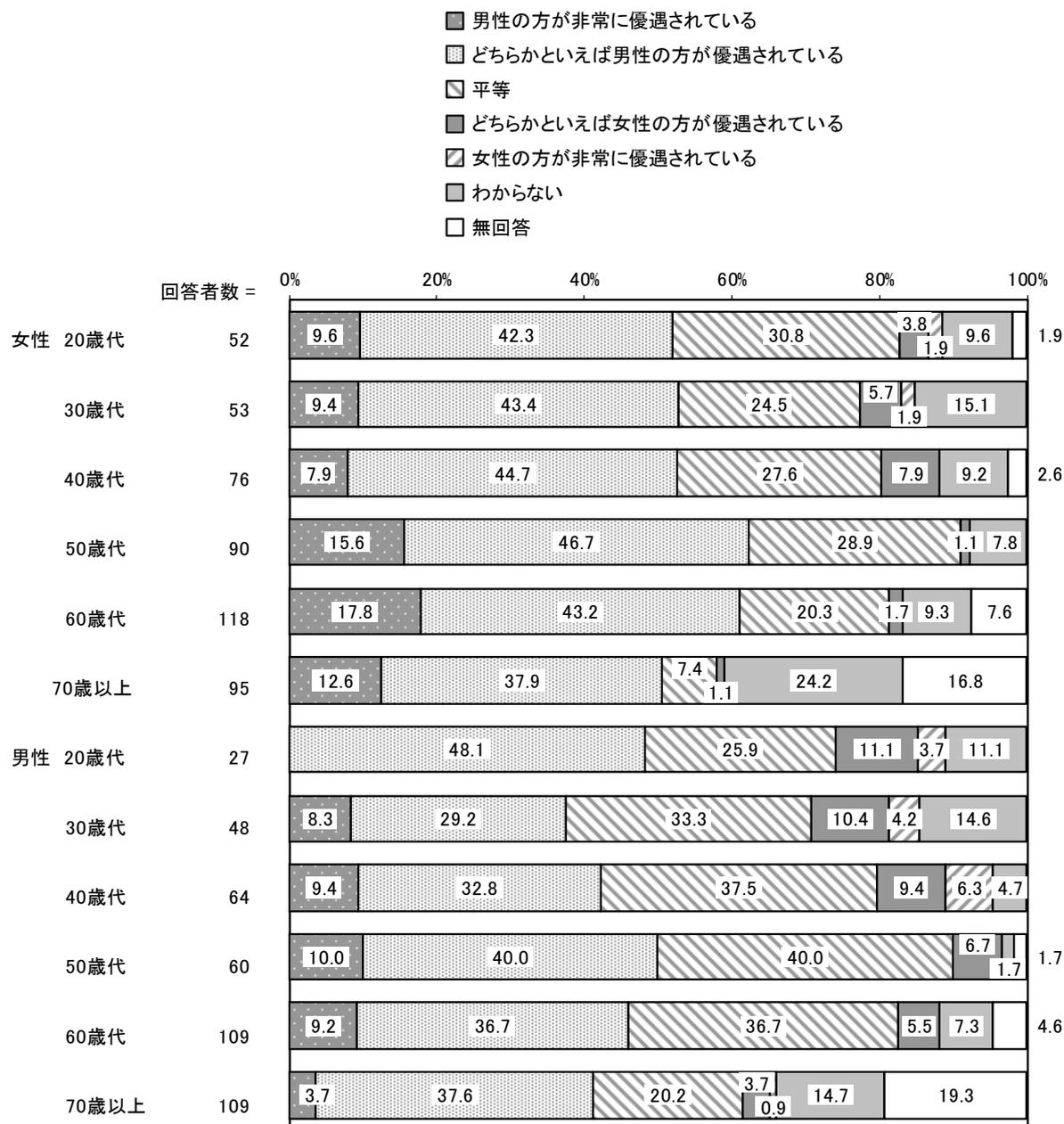
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

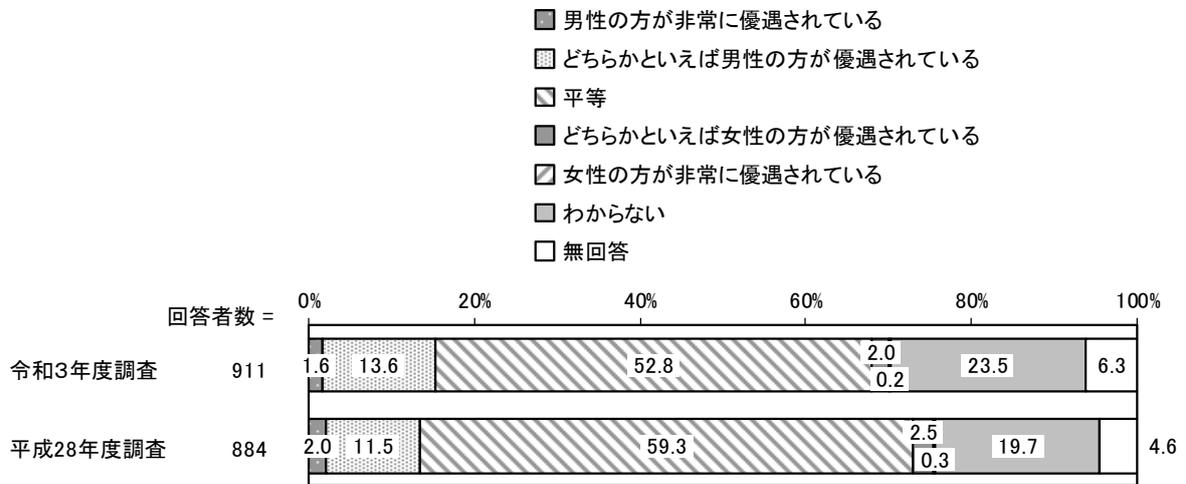
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代、女性 60 歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、男性 50 歳代で「平等」の割合が高くなっています。また、男性 20 歳、男性 30 歳代、男性 40 歳代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



(3) 学校教育の場

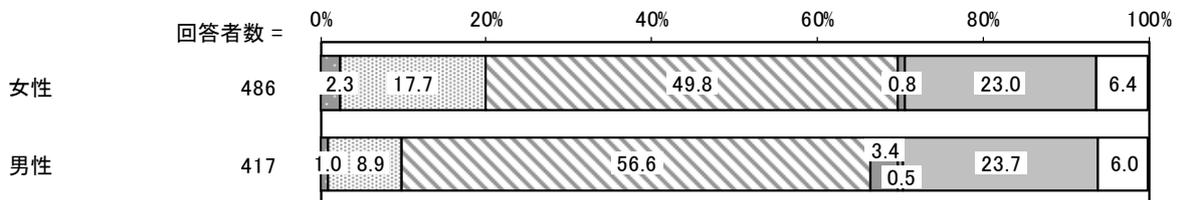
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「平等」の割合が減少しています。



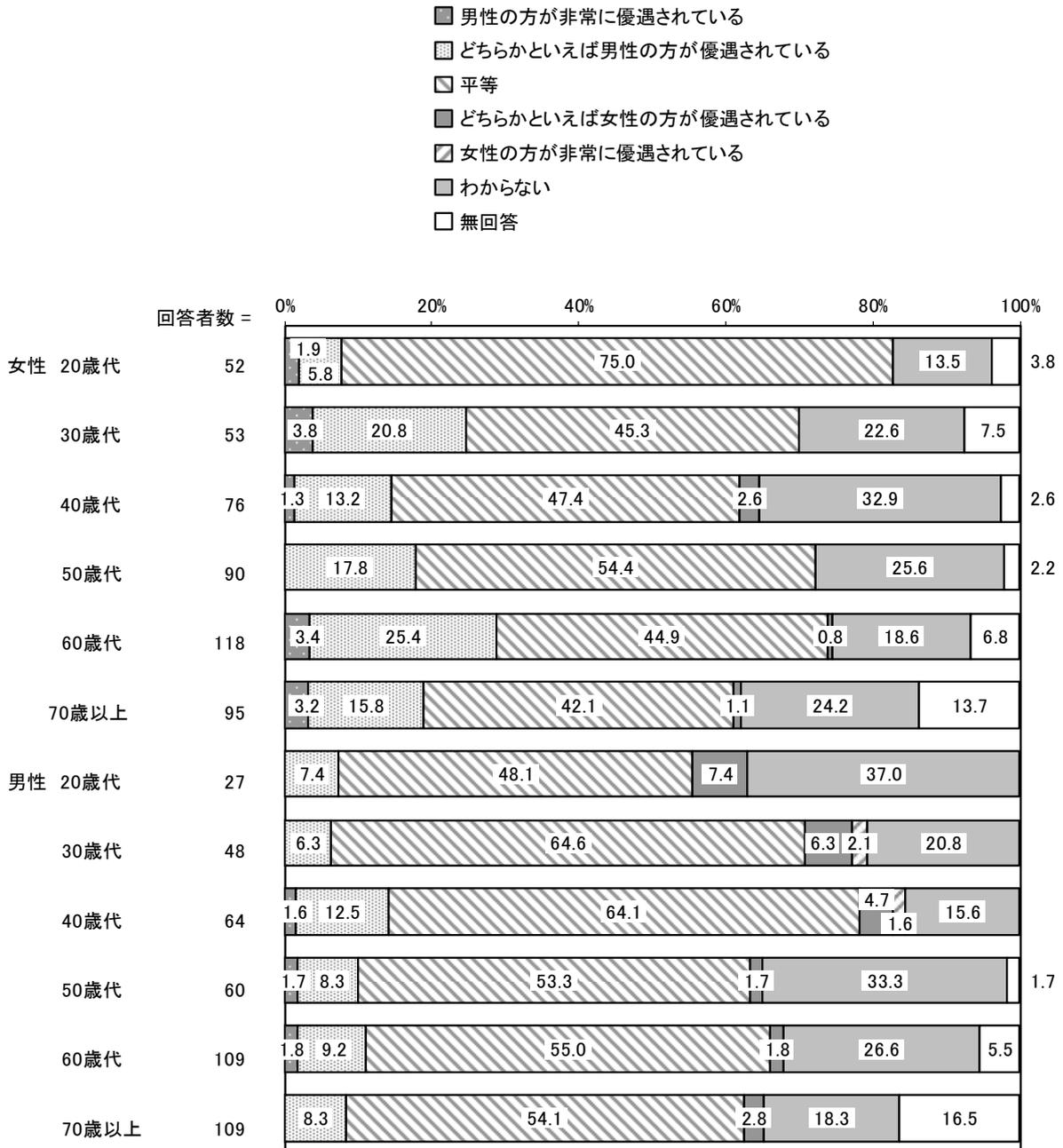
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

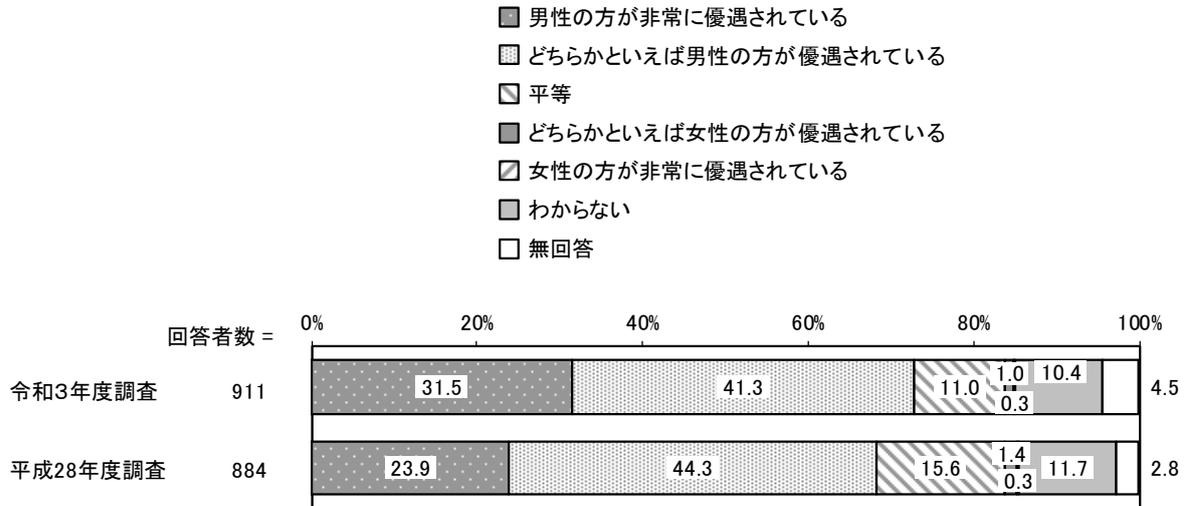
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 30 歳代、女性 60 歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、女性 20 歳代で「平等」の割合が高くなっています。また、男性 20 歳代、男性 30 歳代、男性 40 歳代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



(4) 政治の場

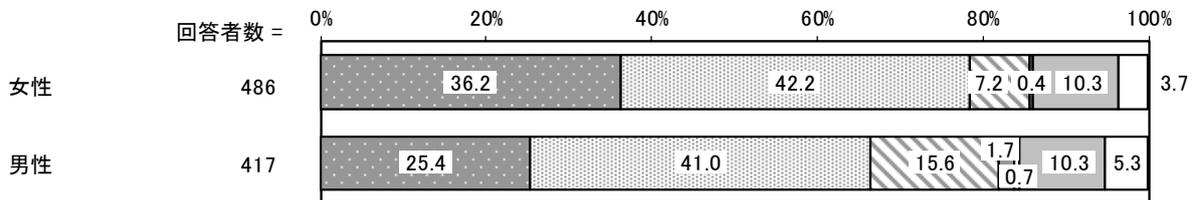
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が増加しています。



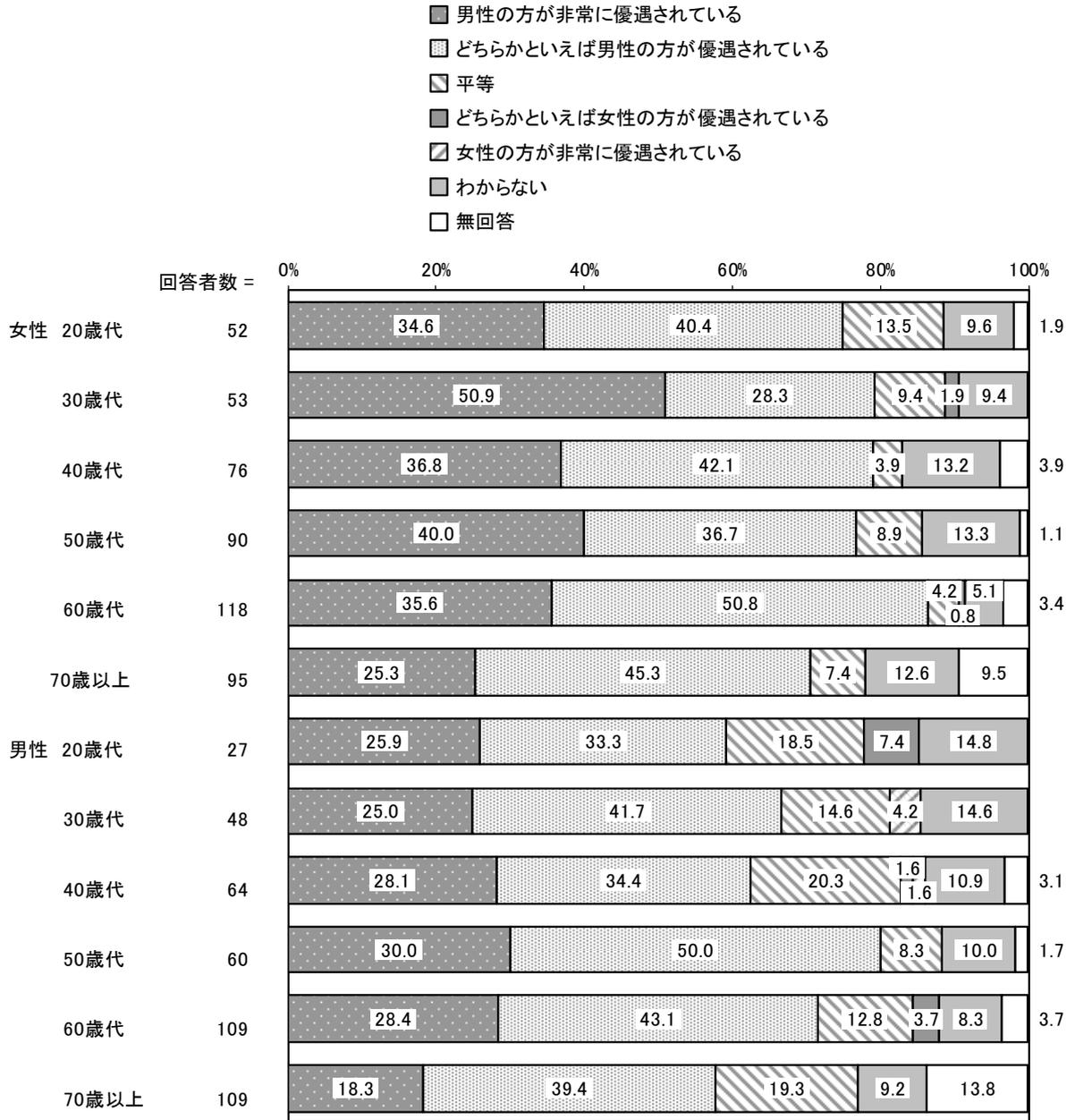
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

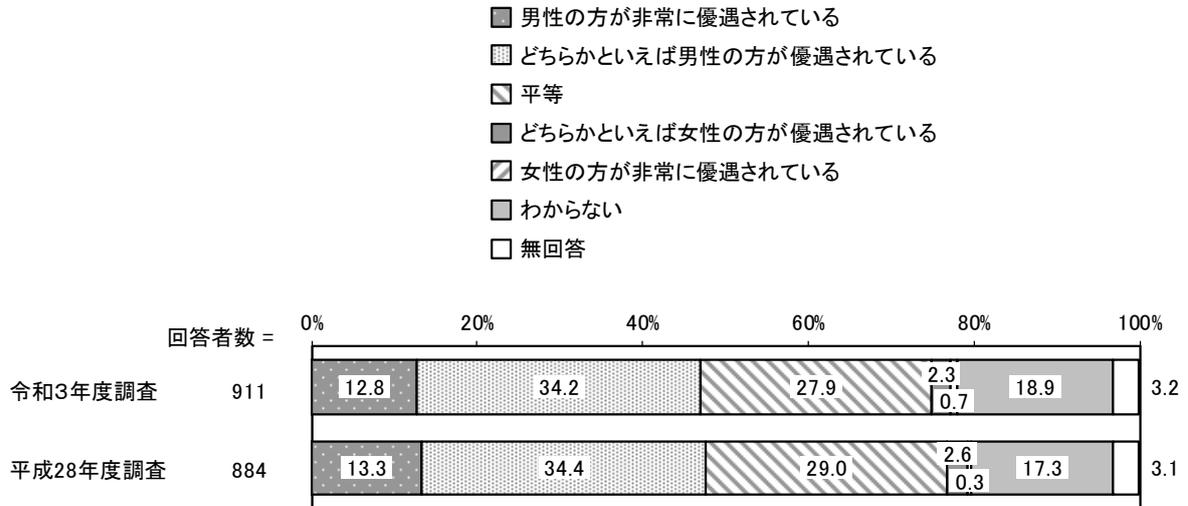
性・年齢別で見ると、他に比べ、すべての年代で男性に比べ女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高く、特に女性の30歳代で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



(5) 区会（自治会）等の地域活動の場

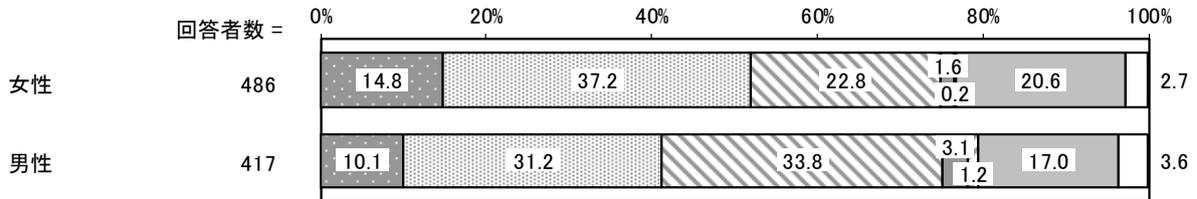
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

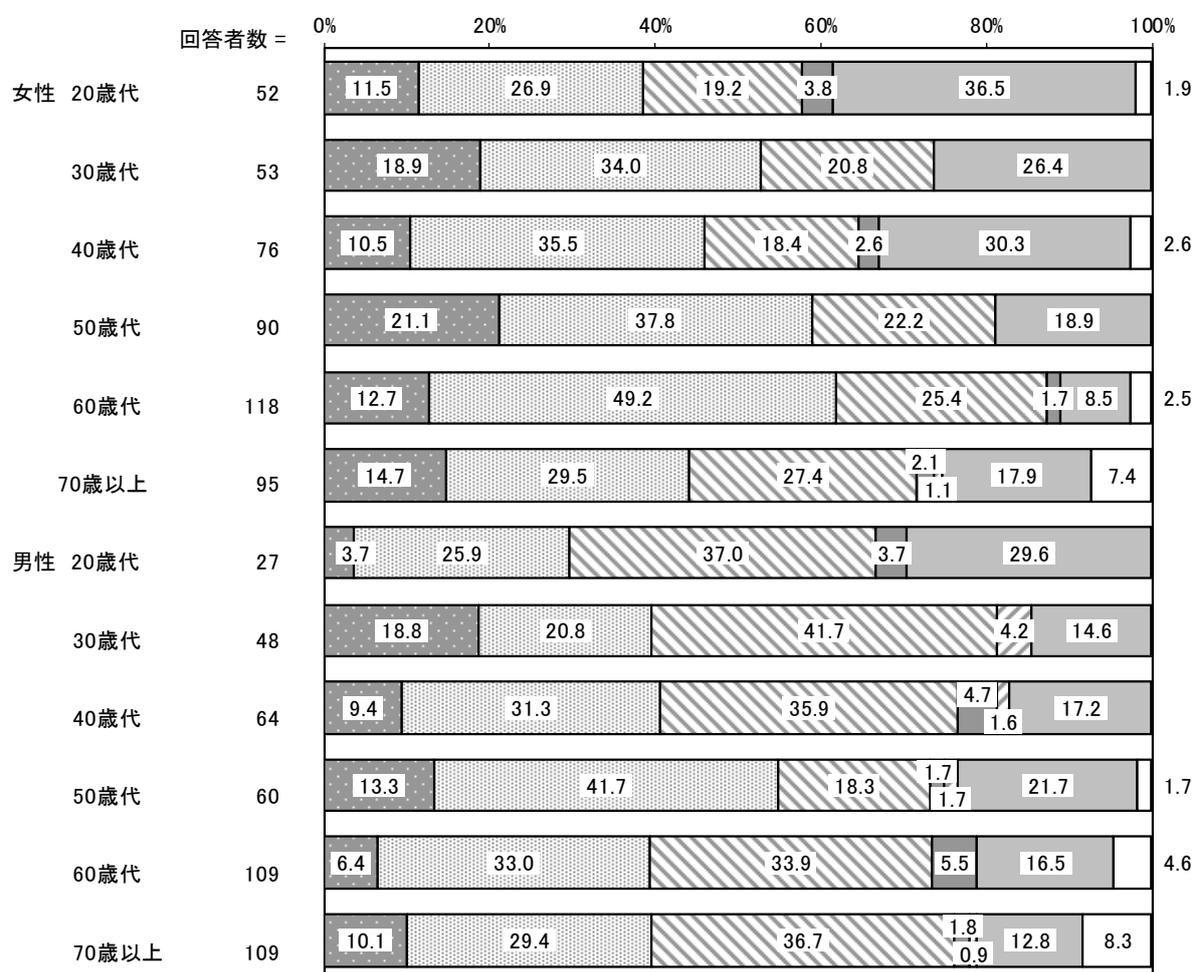
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代、女性 60 歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、男性 30 歳代で「平等」の割合が高くなっています。また、男性 40 歳代、男性 60 歳代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

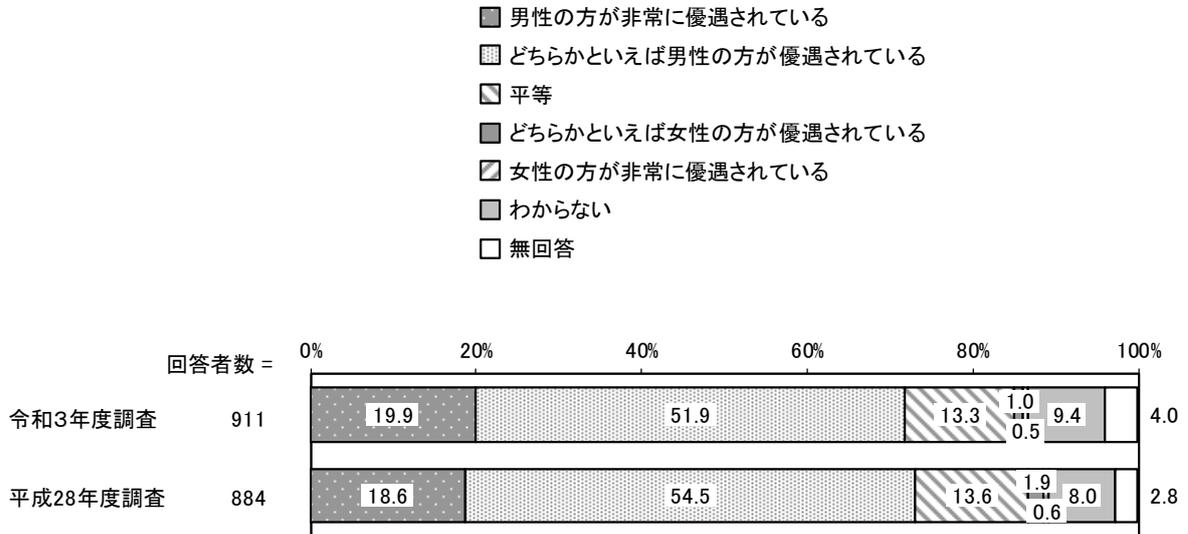
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



(6) 社会通念、慣習、しきたりなど

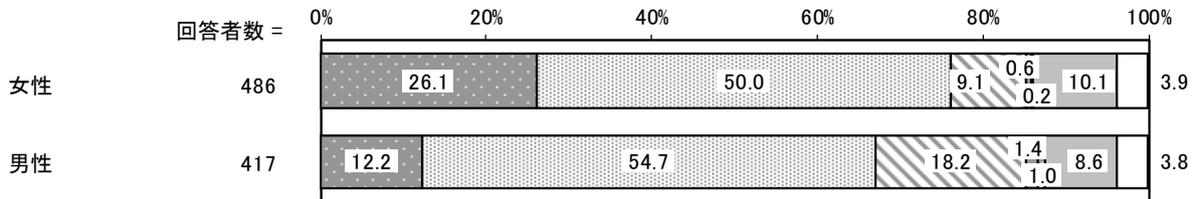
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

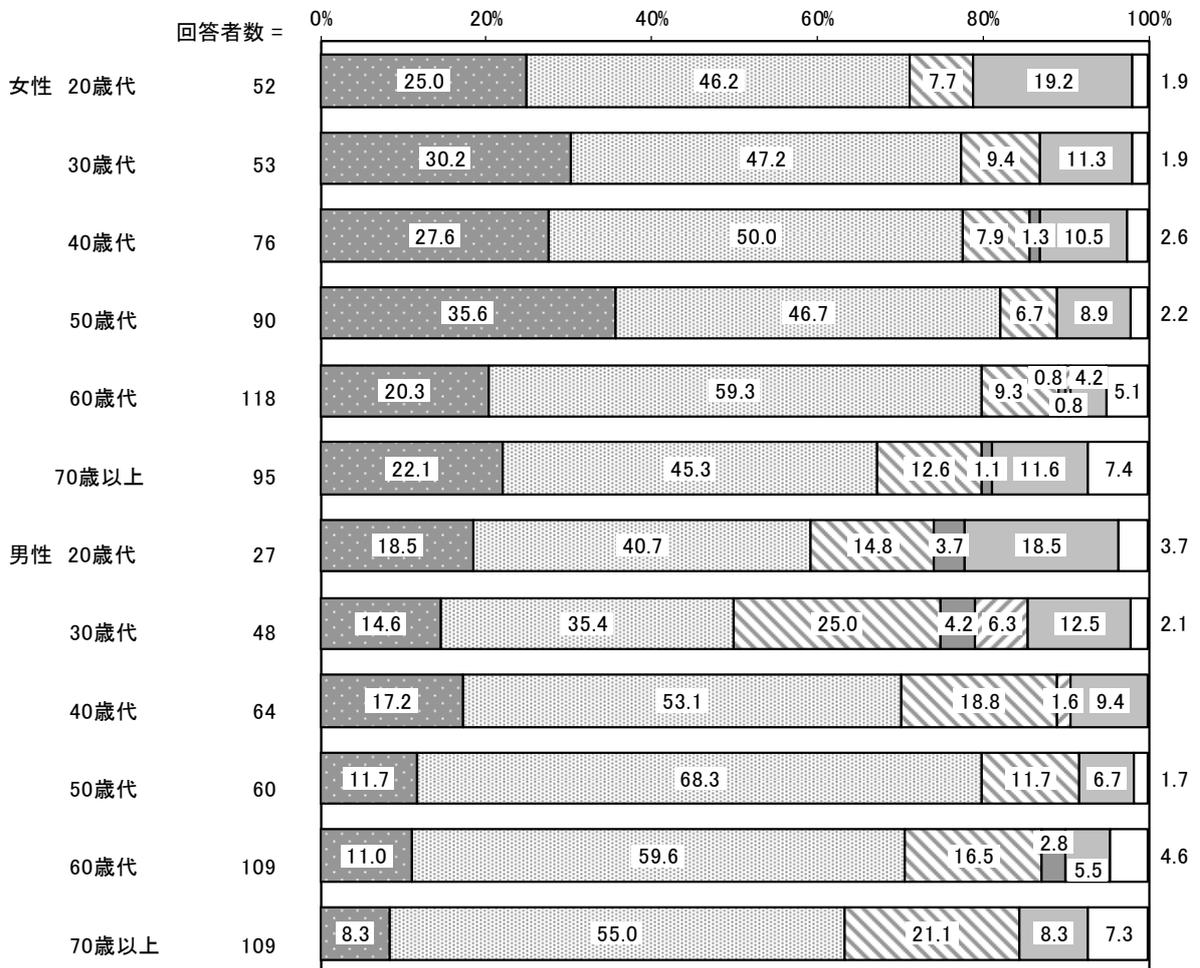
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代、女性 60 歳代、男性 50 歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、男性 30 歳代、男性 70 歳以上で「平等」の割合が高くなっています。また、男性 30 歳代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

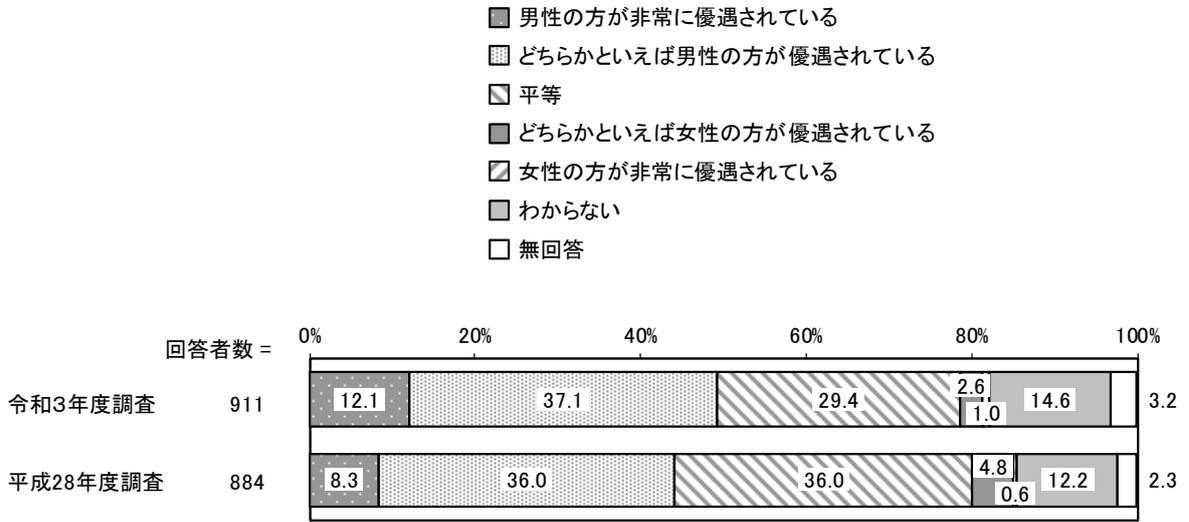
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▩ わからない
- 無回答



(7) 法律や制度

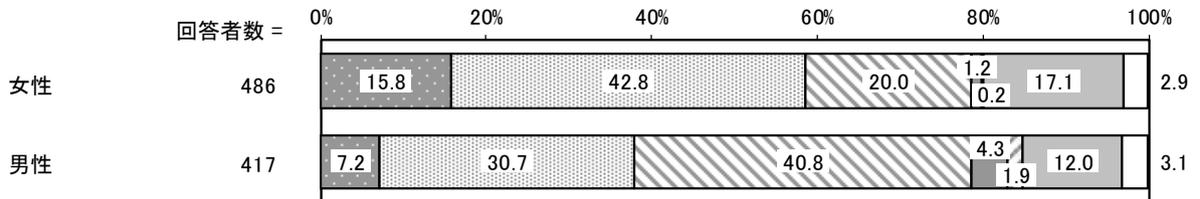
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「平等」の割合が減少しています。



【性別】

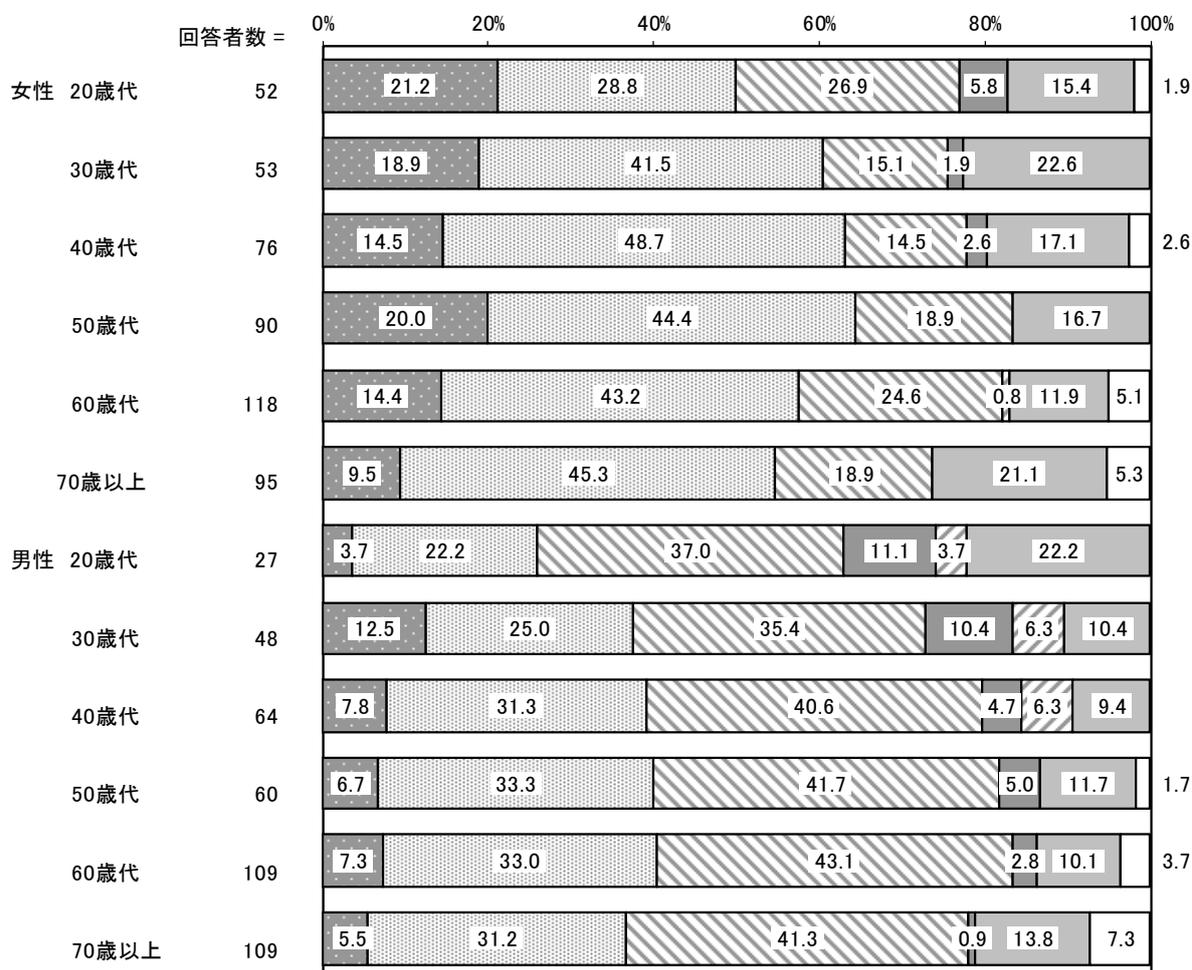
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 40 歳代、女性 50 歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、男性 50 歳代、男性 60 歳代で「平等」の割合が高くなっています。また、男性 20 歳代、男性 30 歳代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

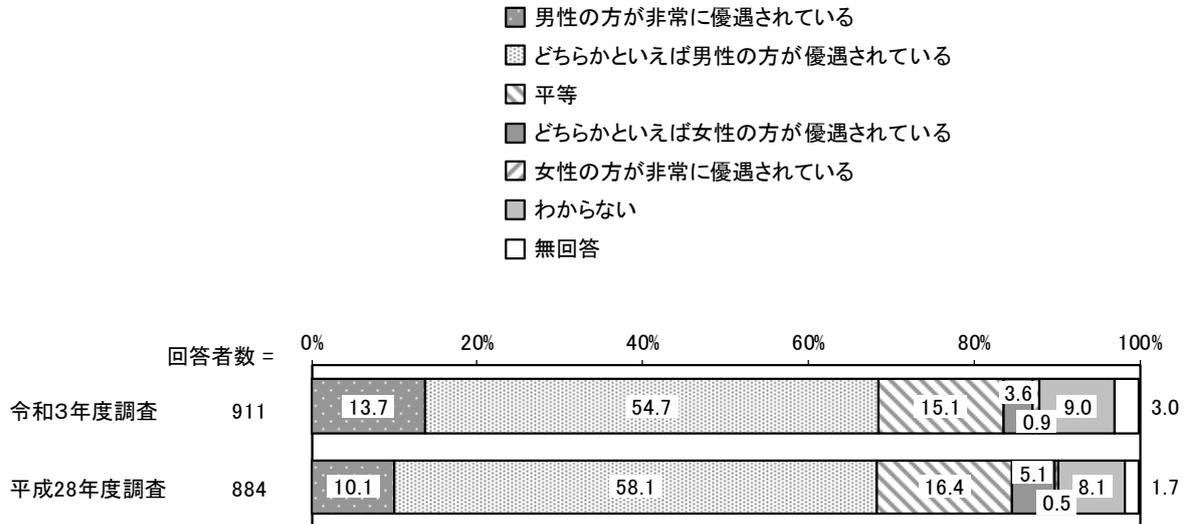
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



(8) 社会全体

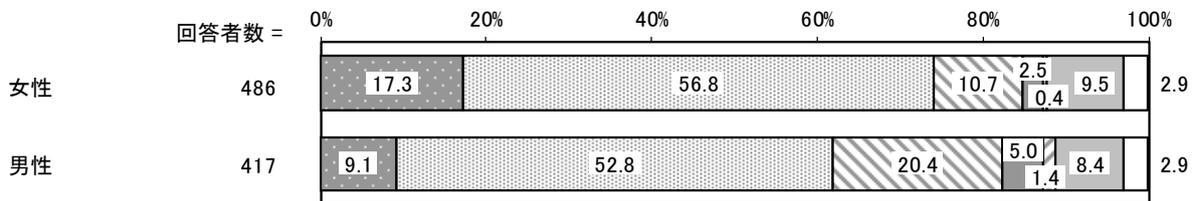
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

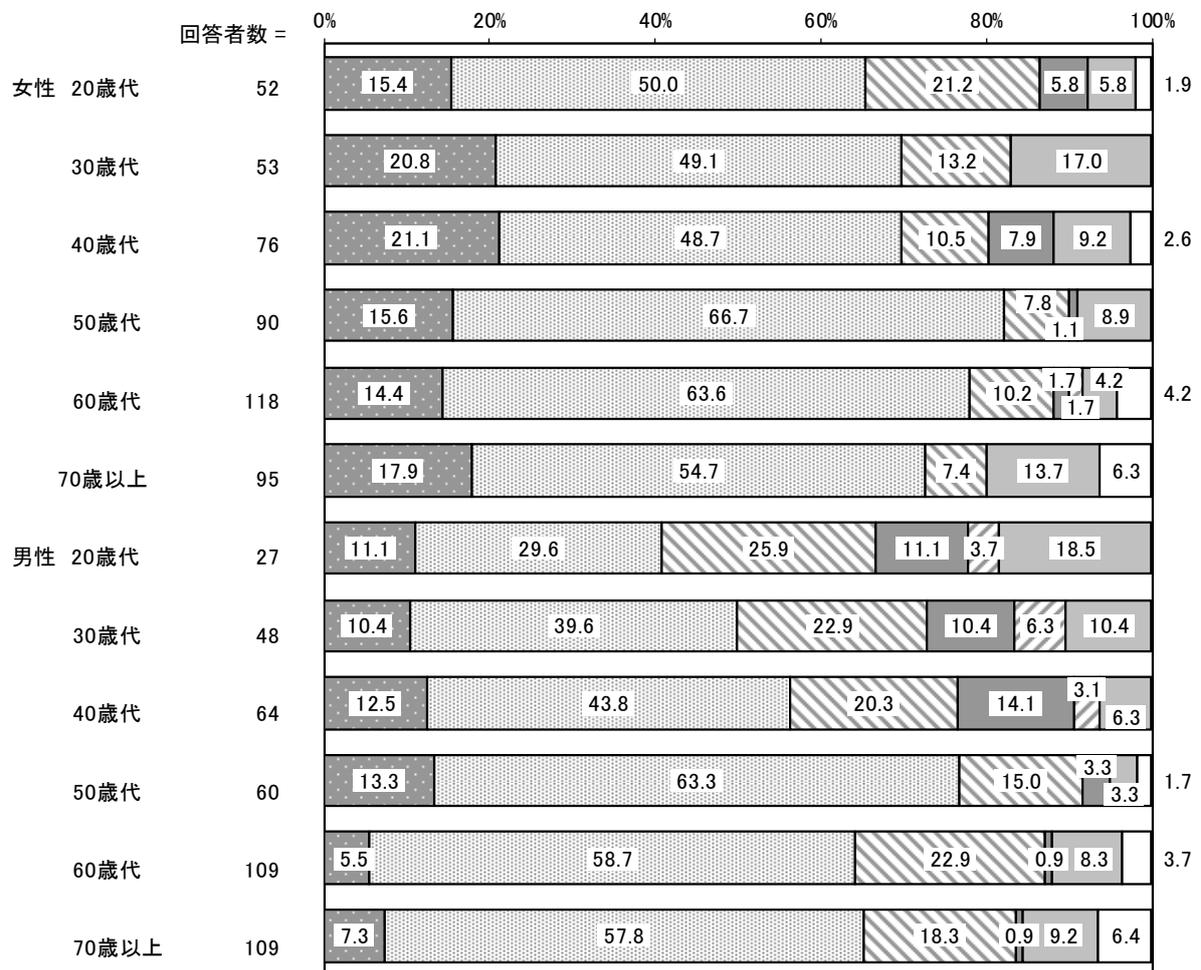
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代、女性 60 歳代、男性 50 歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、男性 20 歳代で「平等」の割合が高くなっています。また、男性 20 歳代、男性 30 歳代、男性 40 歳代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

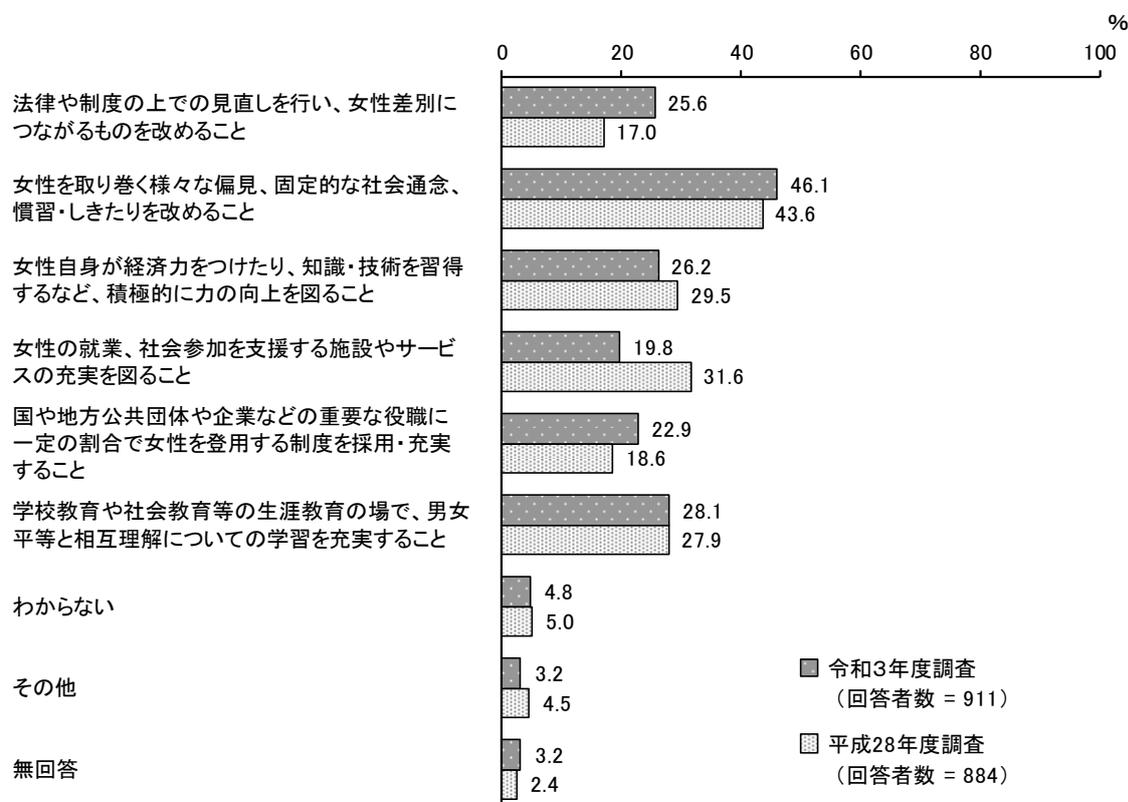


問2 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、あなたはどのようなことが重要だと思いますか。(〇は2つまで)

「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が46.1%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育等の生涯教育の場で、男女平等と相互理解についての学習を充実すること」の割合が28.1%、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の割合が26.2%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」の割合が増加しています。一方、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「国や地方公共団体や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	国や地方公共団体や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	学校教育や社会教育等の生涯教育の場で、男女平等と相互理解についての学習を充実すること	わからない	その他	無回答
女性	486	27.0	48.1	25.9	21.8	20.2	26.5	5.1	3.1	2.7
男性	417	24.2	43.4	26.9	17.3	26.4	29.5	4.6	3.4	3.6

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性 30 歳代で「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が、女性 50 歳代で「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」の割合が高くなっています。また、男性 30 歳代で「学校教育や社会教育等の生涯教育の場で、男女平等と相互理解についての学習を充実すること」の割合が、男性 50 歳代で「国や地方公共団体や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」の割合が高くなっています。

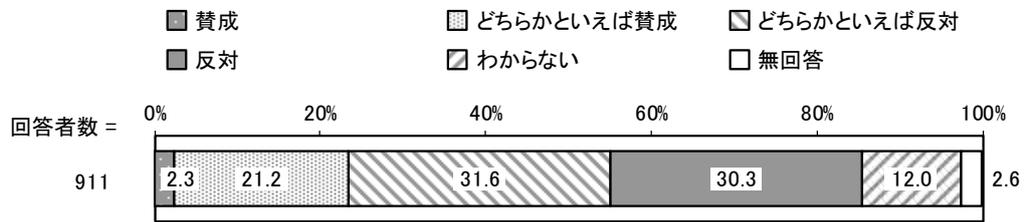
単位：％

区分	回答者数（件）	法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	国や地方公共団体や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	学校教育や社会教育等の生涯教育の場で、男女平等と相互理解についての学習を充実すること	わからない	その他	無回答
女性 20 歳代	52	25.0	51.9	25.0	32.7	21.2	17.3	5.8	1.9	1.9
30 歳代	53	22.6	56.6	15.1	20.8	17.0	34.0	3.8	5.7	—
40 歳代	76	23.7	48.7	28.9	23.7	17.1	25.0	5.3	5.3	2.6
50 歳代	90	38.9	50.0	30.0	17.8	23.3	18.9	3.3	1.1	2.2
60 歳代	118	28.0	43.2	28.0	29.7	16.9	29.7	3.4	3.4	0.8
70 歳以上	95	20.0	45.3	24.2	8.4	25.3	32.6	9.5	1.1	7.4
男性 20 歳代	27	22.2	48.1	18.5	18.5	14.8	29.6	14.8	7.4	—
30 歳代	48	29.2	43.8	14.6	10.4	10.4	39.6	14.6	4.2	—
40 歳代	64	23.4	40.6	25.0	14.1	23.4	29.7	4.7	7.8	3.1
50 歳代	60	21.7	48.3	28.3	18.3	35.0	31.7	—	—	3.3
60 歳代	109	25.7	44.0	30.3	20.2	29.4	24.8	0.9	1.8	4.6
70 歳以上	109	22.9	40.4	31.2	18.3	30.3	28.4	3.7	2.8	5.5

問3 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。
(○は1つだけ)

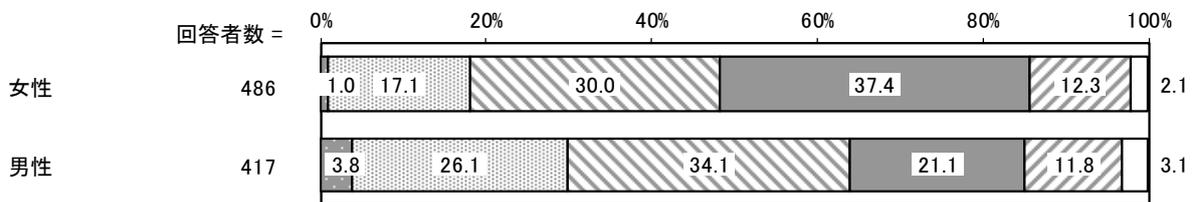
【新規設問】

「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が23.5%、「どちらかといえ
ば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が61.9%となっています。



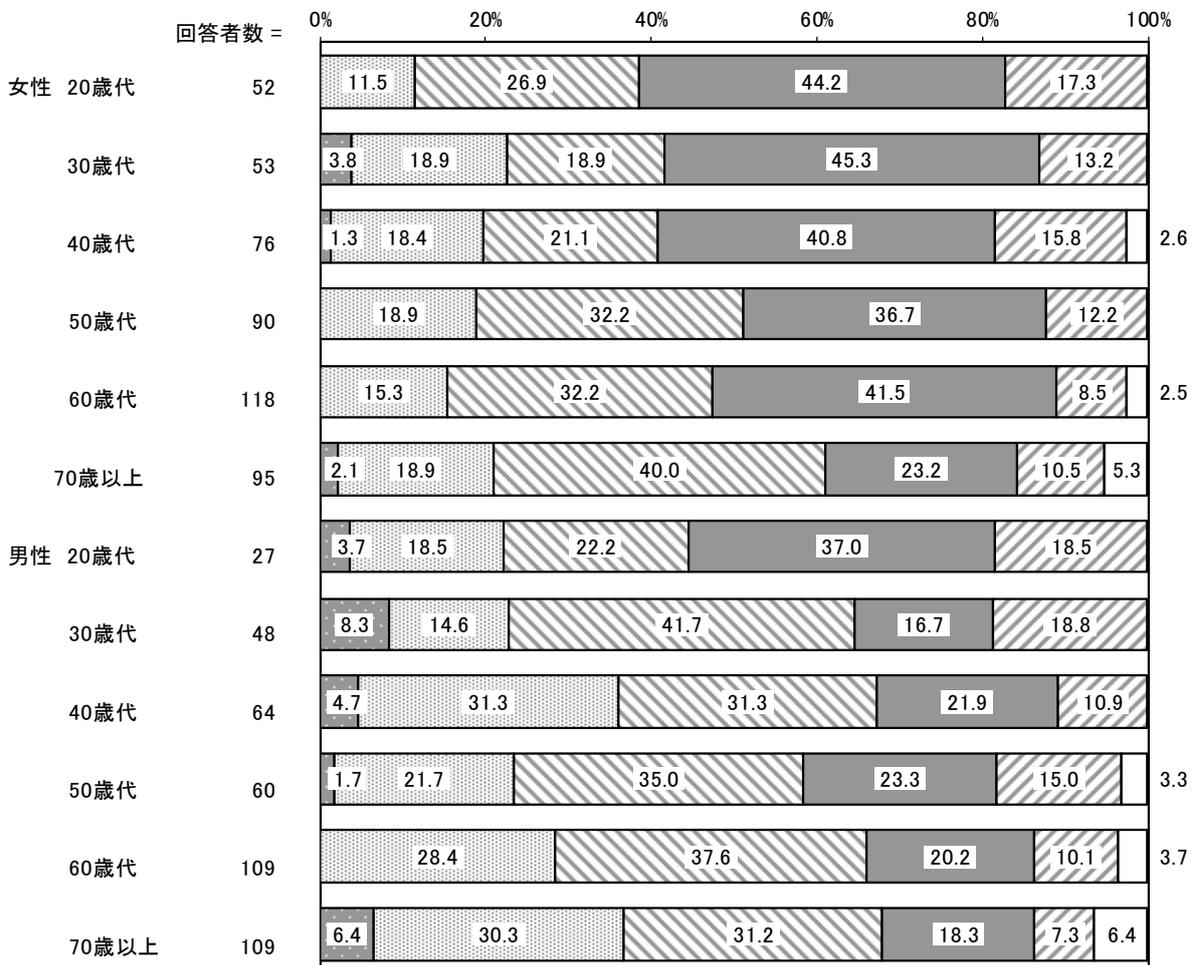
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“反対”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男
性で“賛成”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性40歳代、男性70歳以上で“賛成”の割合が、女性20歳
代、女性60歳代で“反対”の割合が高くなっています。

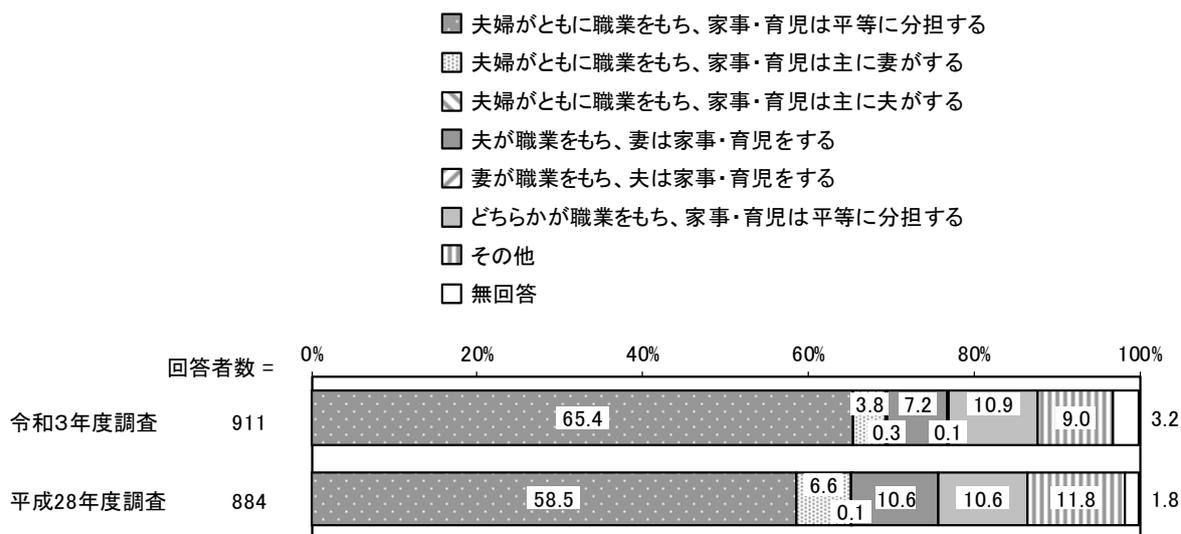


問4 家庭における夫婦の役割分担について、あなたはどうかあるべきだと思いますか。
(○は1つだけ)

「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」の割合が65.4%と最も高く、次いで「どちらかが職業をもち、家事・育児は平等に分担する」の割合が10.9%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」の割合が増加しています。

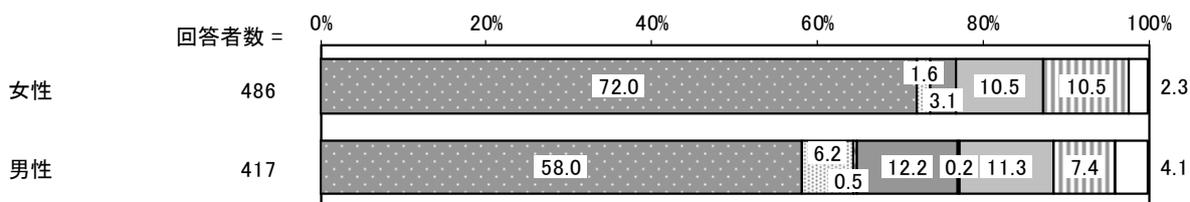


<「その他」意見より>

- ・夫婦で話し合い、納得すればどちらでもよい。
- ・それぞれの家庭が自分たちの実情に合った生活用式を選べばよい。
- ・夫婦が両方またはどちらかが職業をもち、家事・育児は互いに協力しあう。

【性別】

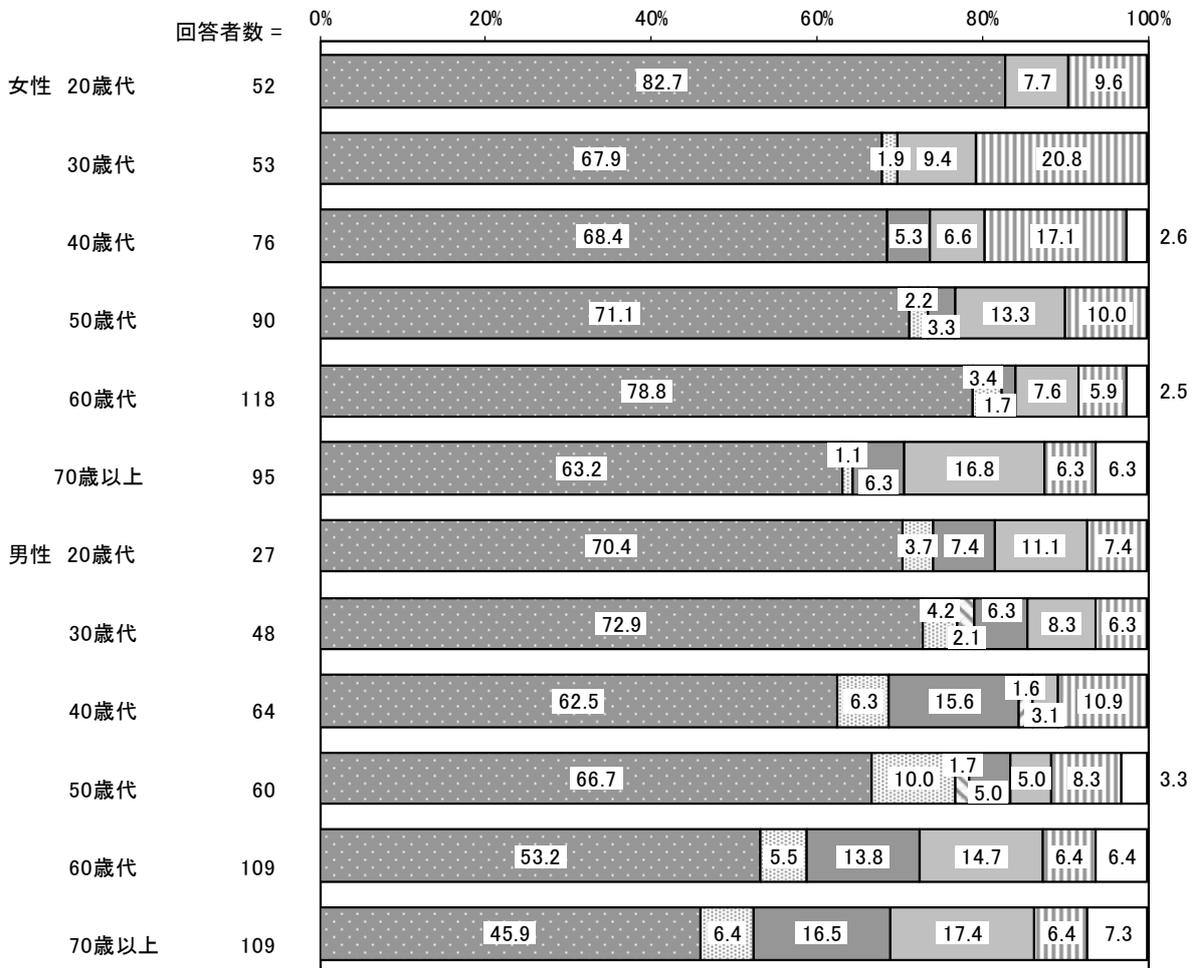
性別でみると、男性に比べ、女性で「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「夫が職業をもち、妻は家事・育児をする」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 20 歳代で「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」の割合が、男性 50 歳代で「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は主に妻がする」の割合が高くなっています。また、男性 40 歳代、男性 70 歳以上で「夫が職業をもち、妻は家事・育児をする」の割合が、男性 70 歳以上、女性 70 歳以上で「どちらかが職業をもち、家事・育児は平等に分担する」の割合が高くなっています。

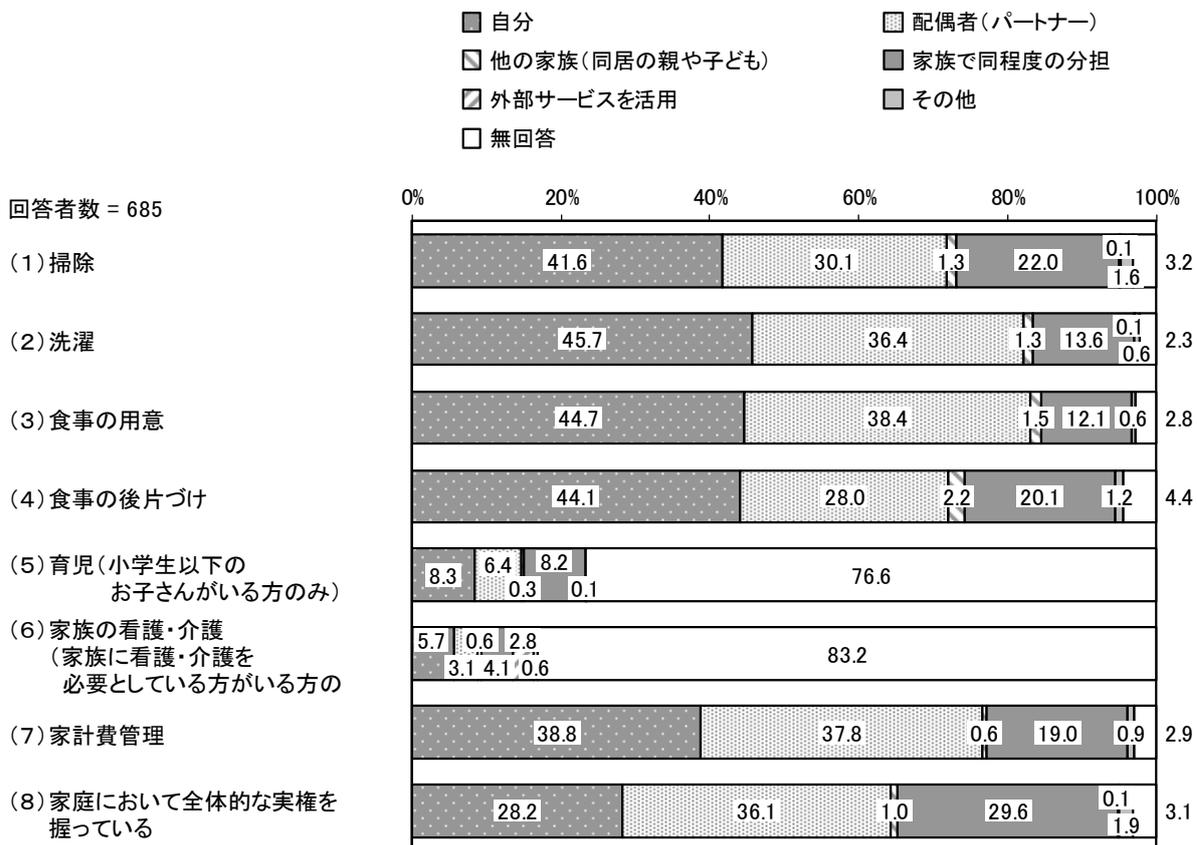
- 夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する
- ▨ 夫婦がともに職業をもち、家事・育児は主に妻がする
- ▩ 夫婦がともに職業をもち、家事・育児は主に夫がする
- 夫が職業をもち、妻は家事・育児をする
- ▨ 妻が職業をもち、夫は家事・育児をする
- ▩ どちらかが職業をもち、家事・育児は平等に分担する
- その他
- 無回答



問5 配偶者またはパートナーがいる方におうかがいします。

問5 次にあげるような家庭内の仕事等は、主にどなたが担当、決定していますか。
(○はそれぞれ1つ)

『家庭において全体的な実権を握っている』以外のすべての項目で「自分」の割合が最も高くなっています。『掃除』『食事の後片づけ』『家計費管理』『家庭において全体的な実権を握っている』では、他に比べ、「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。

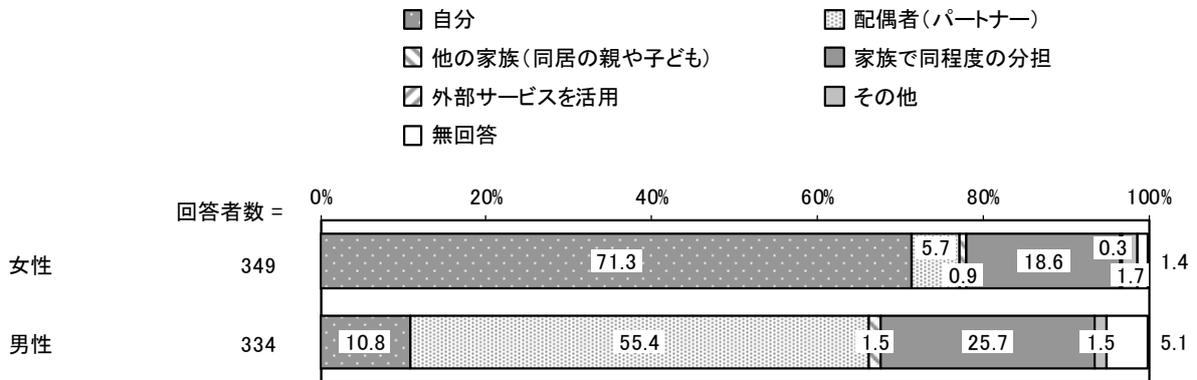


※平成 28 年度調査時と選択対象者が変更されているため経年比較グラフは記載なし

(1) 掃除

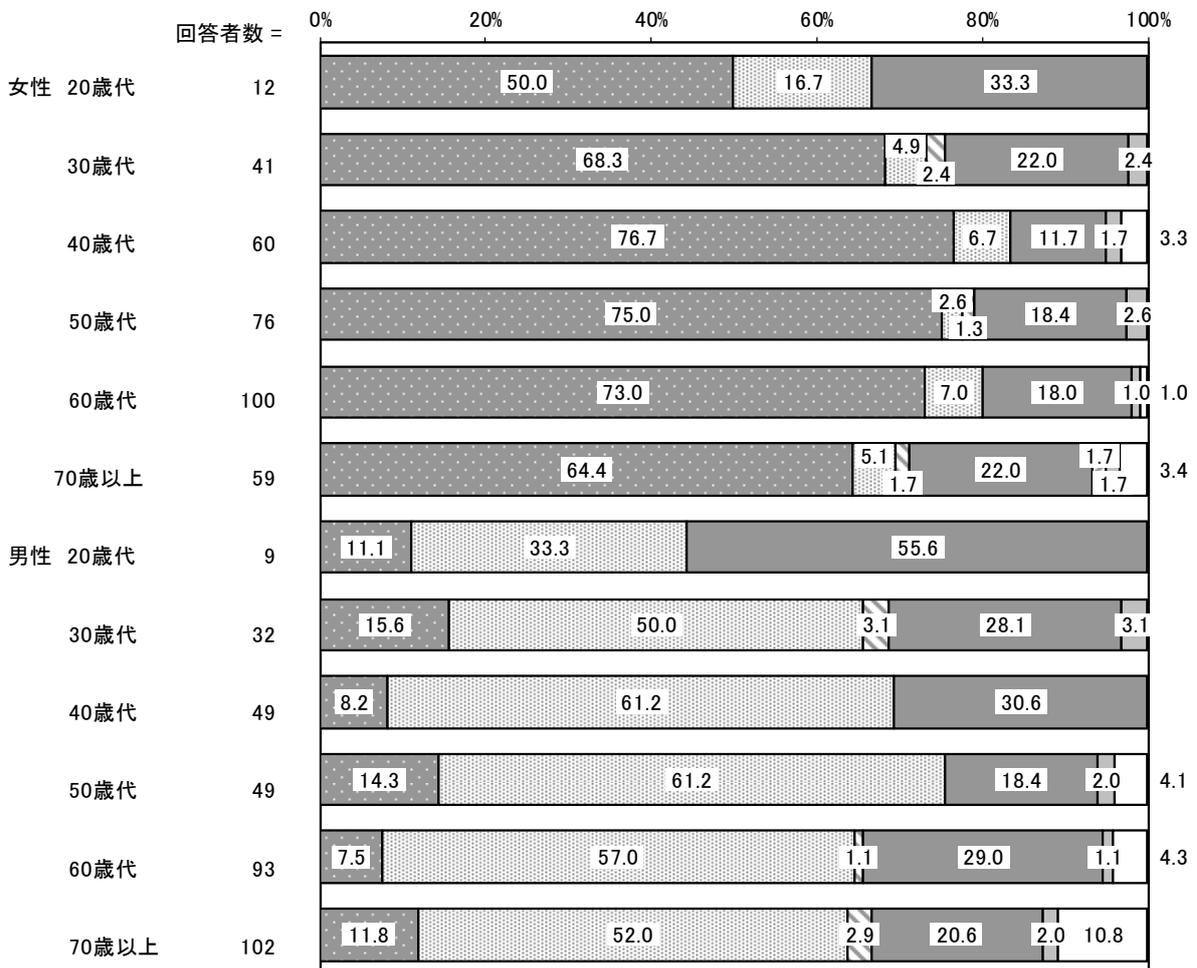
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「自分」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）」「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

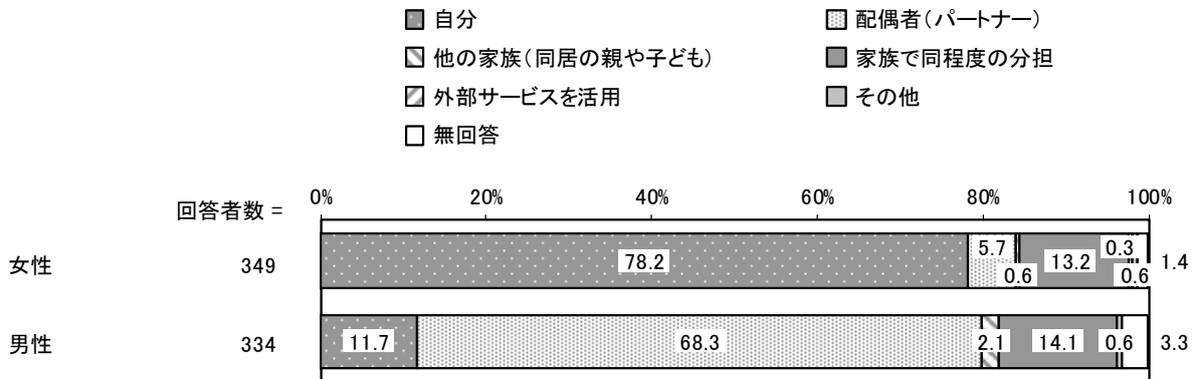
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性40歳代、女性50歳代、女性60歳代で「自分」の割合が70%以上となっています。また、男性30歳代、男性40歳代、男性50歳代、男性60歳代、男性70歳代で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。



(2) 洗濯

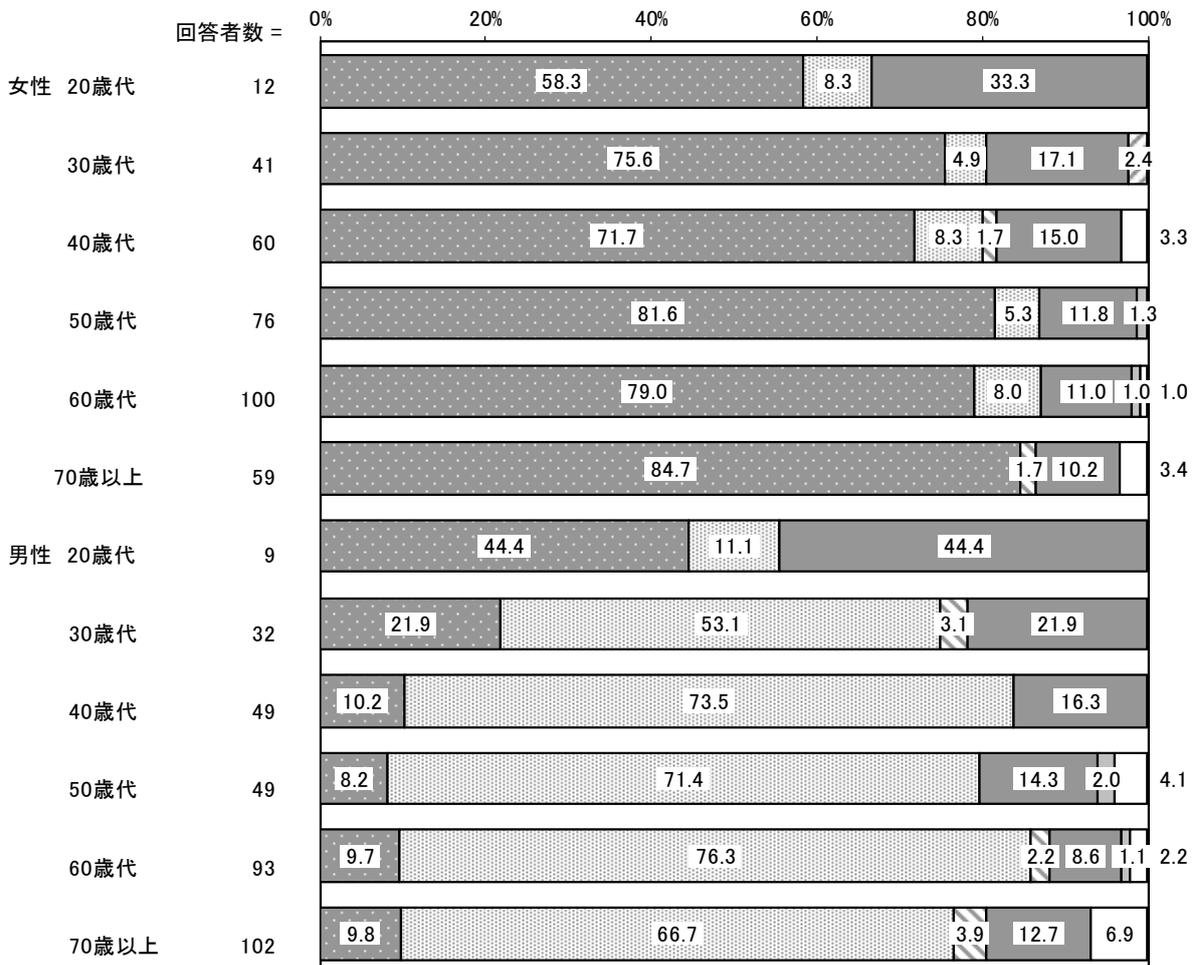
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「自分」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

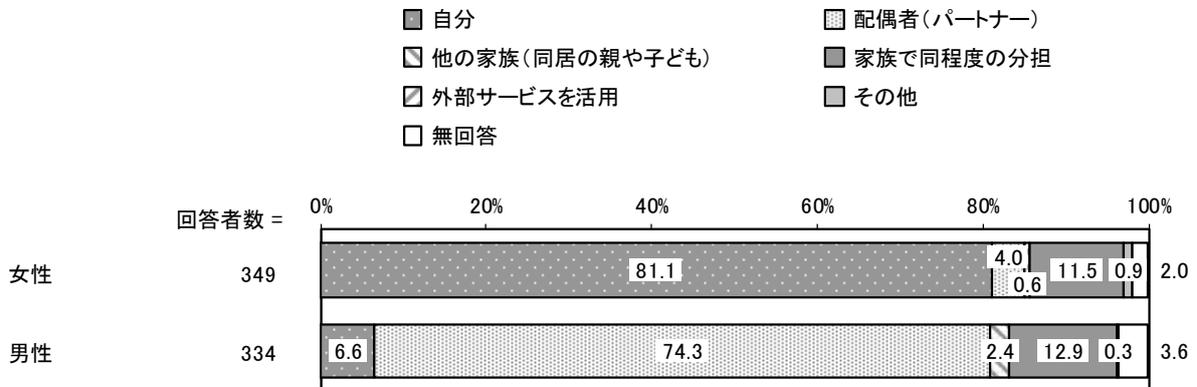
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性50歳代、女性70歳以上で80%以上、女性60歳代で70%以上が「自分」の割合となっています。また、男性40歳代、男性50歳代、男性60歳代で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。



(3) 食事の用意

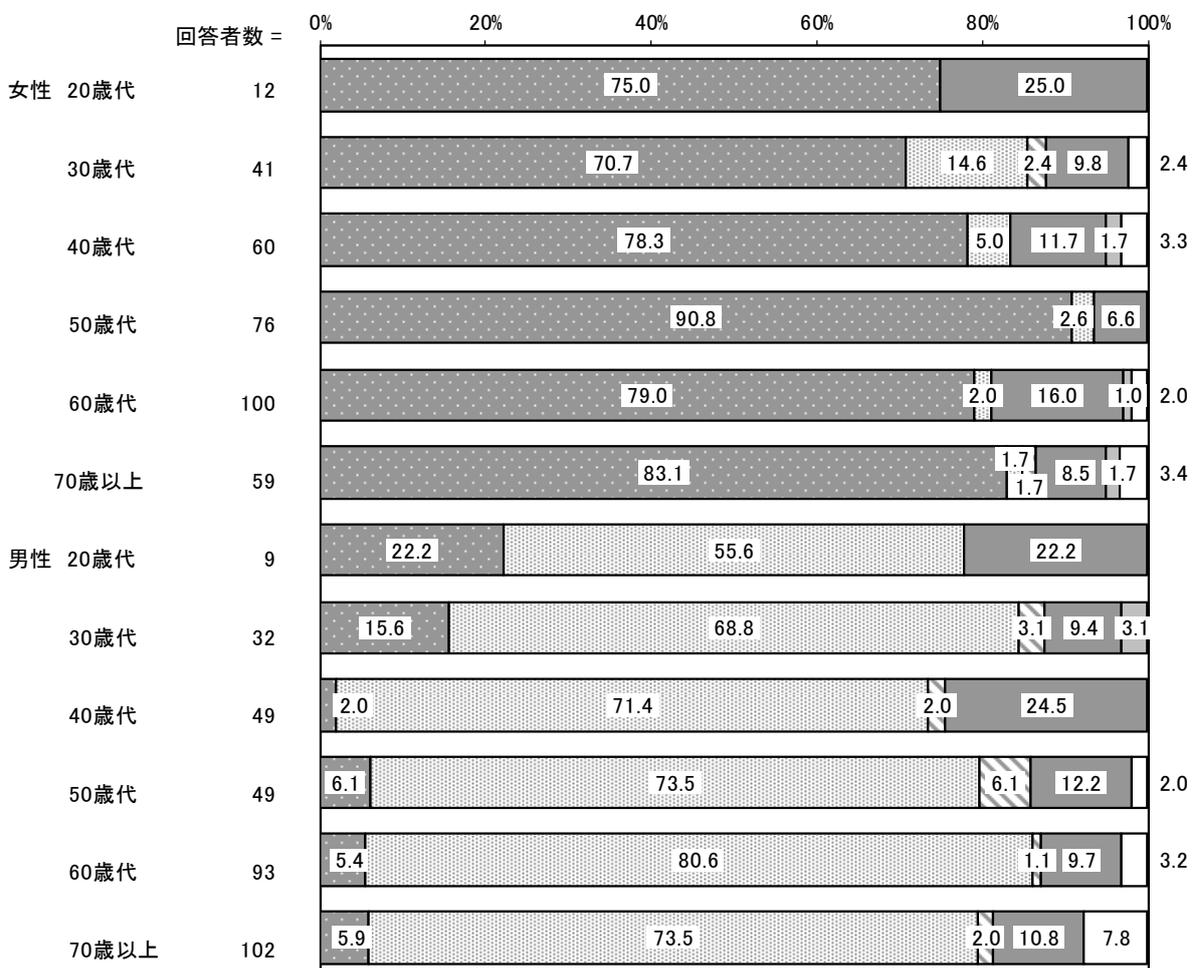
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「自分」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

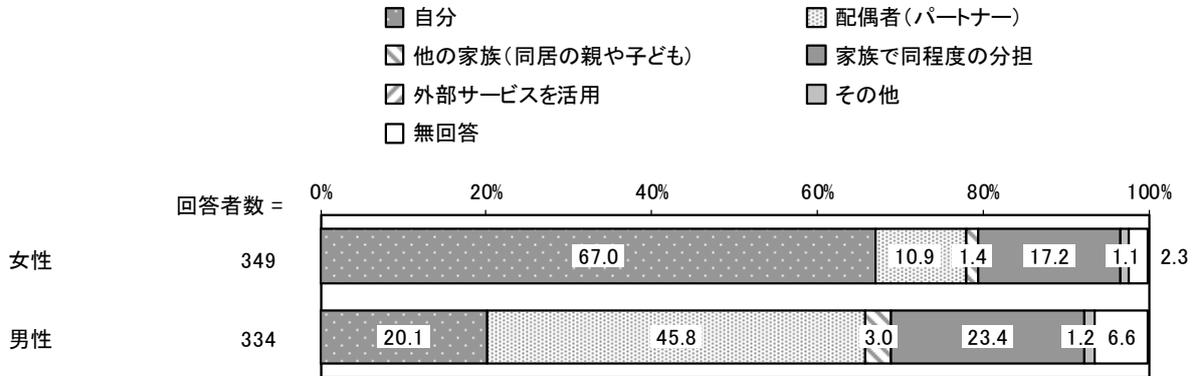
性・年齢別でみると、他に比べ、女性 50 歳代で「自分」の割合が 90%以上となっています。また、男性 60 歳代で「配偶者（パートナー）」の割合が、男性 40 歳代、女性 20 歳代で「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



(4) 食事の後片づけ

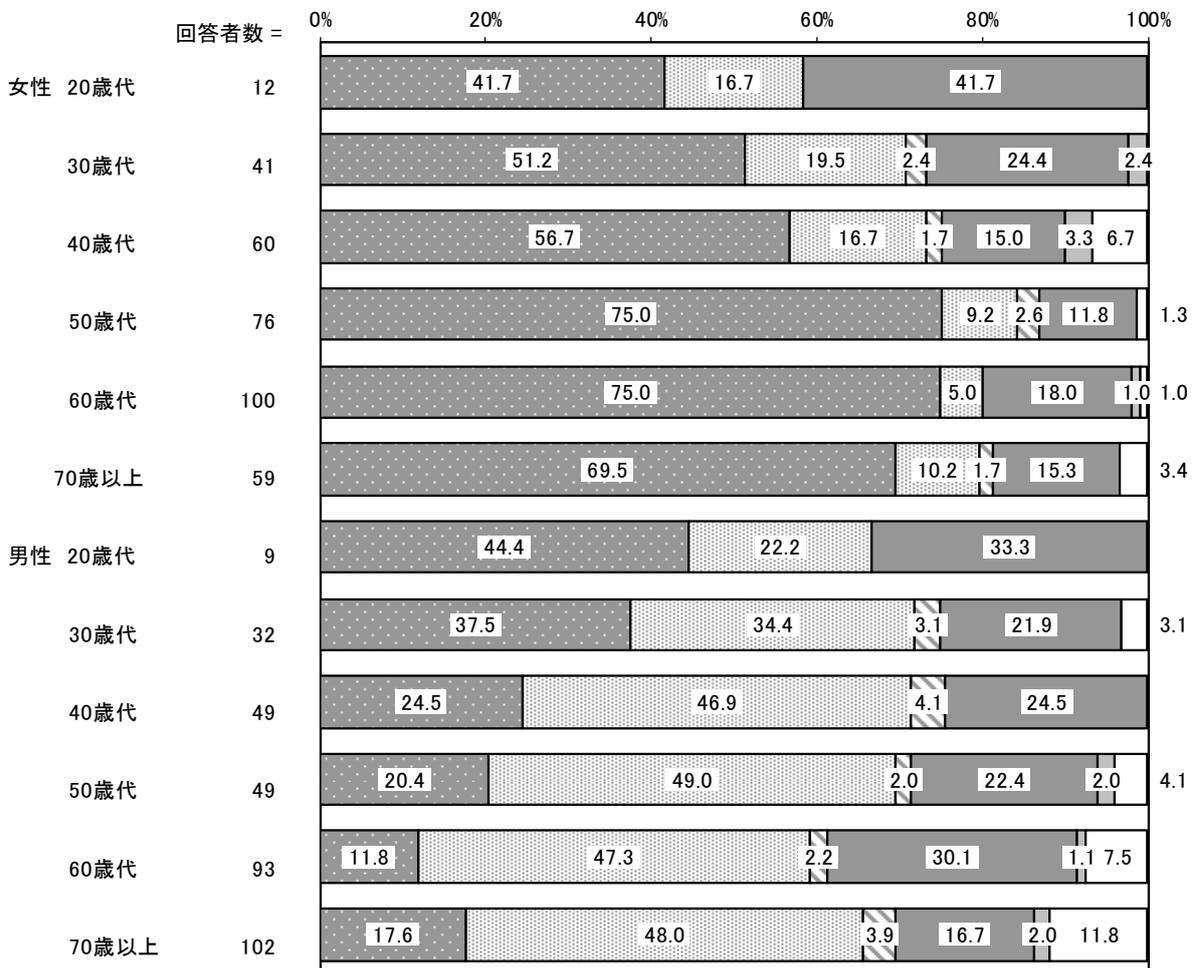
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「自分」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）」「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

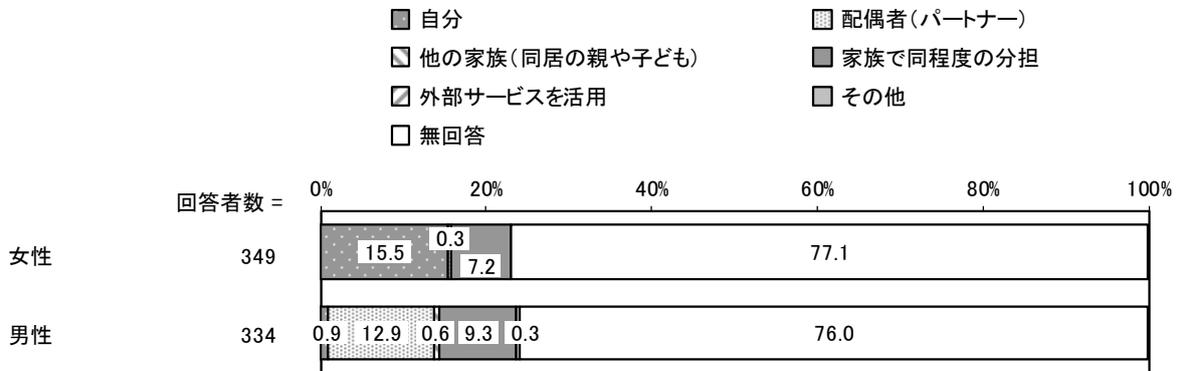
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代、女性 60 歳代で「自分」の割合が 70% 以上となっています。また、男性 40 歳代、男性 50 歳代、男性 60 歳代、男性 70 歳以上で「配偶者（パートナー）」の割合が、女性 20 歳代で「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



(5) 育児（小学生以下のお子さんがいる方のみ）

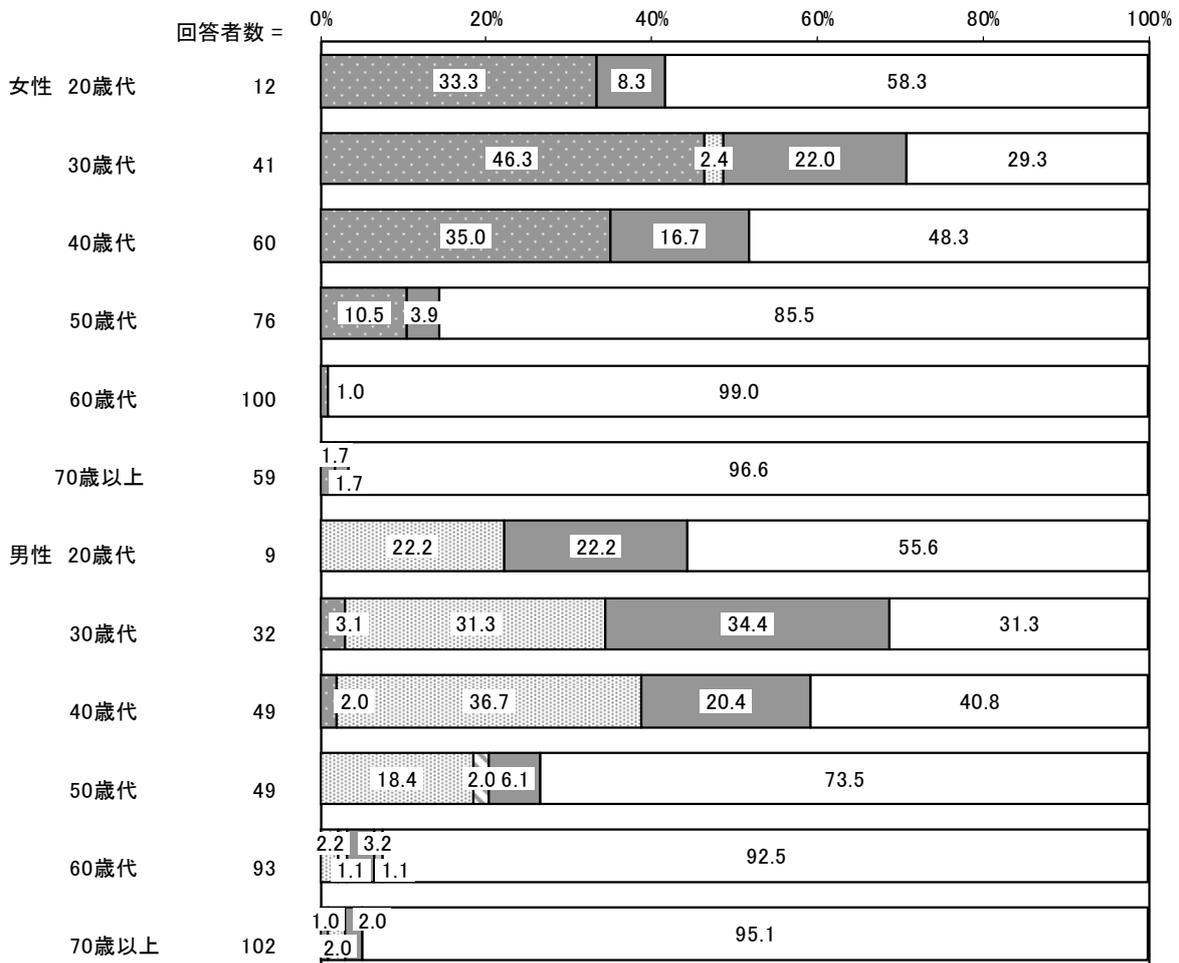
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「自分」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

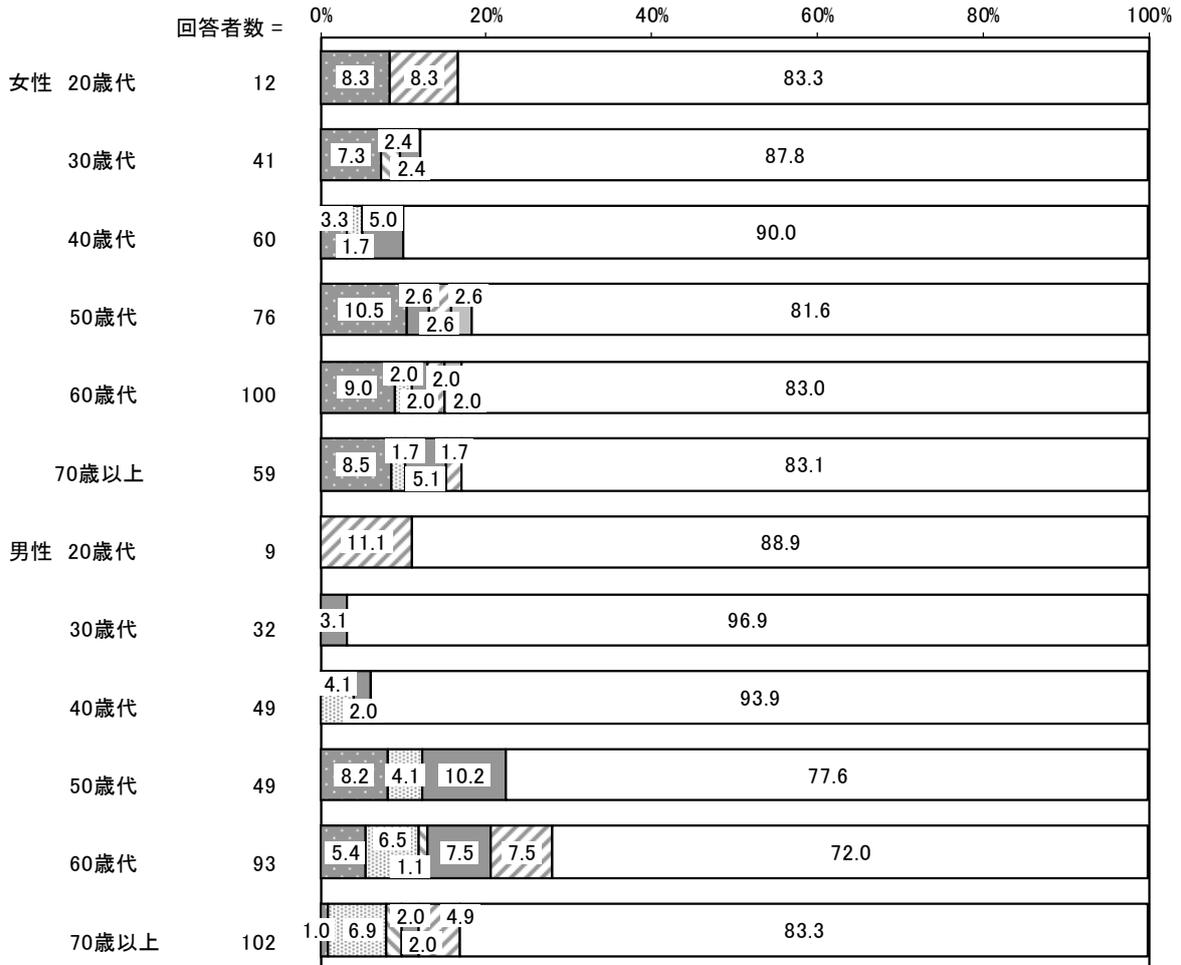
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性30歳代で「自分」の割合が40%以上となっています。また、男性40歳代で「配偶者（パートナー）」の割合が、男性30歳代で「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



(6) 家族の看護・介護（家族に看護・介護を必要としている方がいる方のみ）

【性・年齢別】

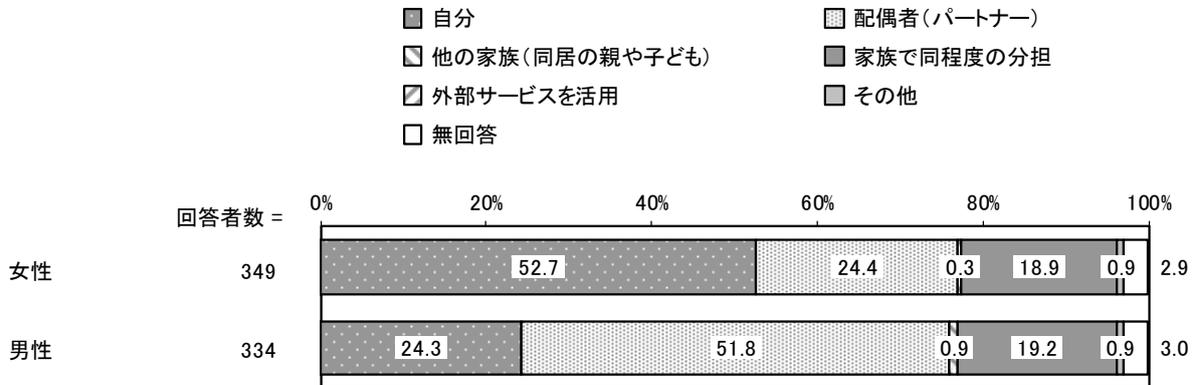
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性70歳以上で「自分」の割合が、女性50歳代、女性60歳代、女性70歳以上で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。また、男性30歳代で「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



(7) 家計費管理

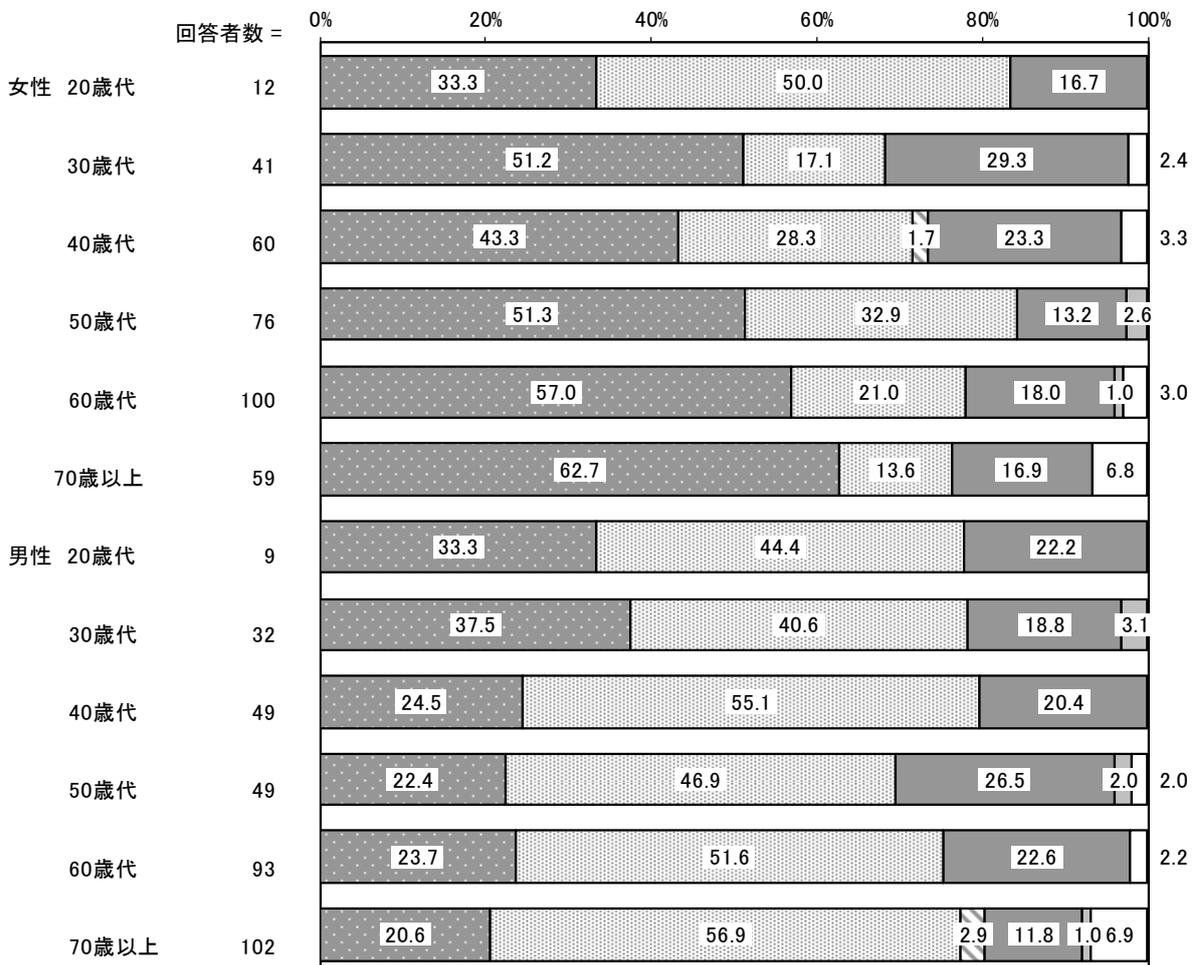
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「自分」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

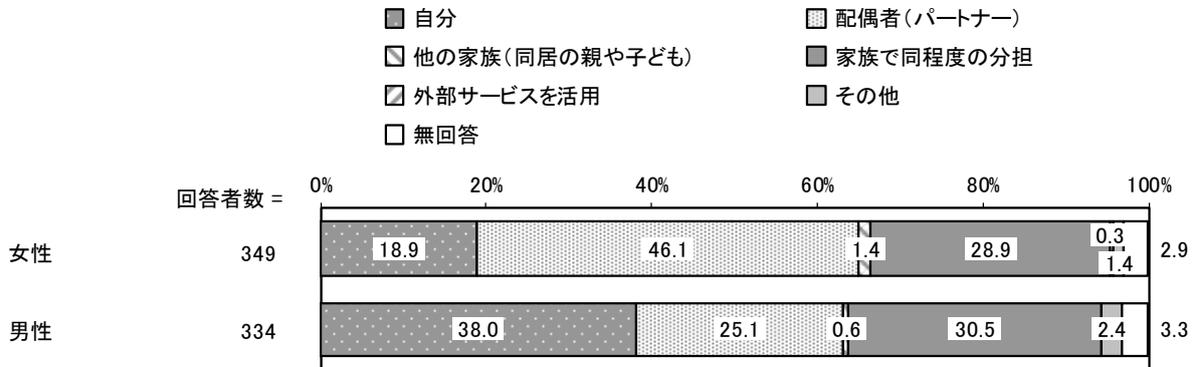
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性60歳代、女性70歳以上で「自分」の割合が、男性70歳以上で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。また、女性30歳代で「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



(8) 家庭において全体的な実権を握っている

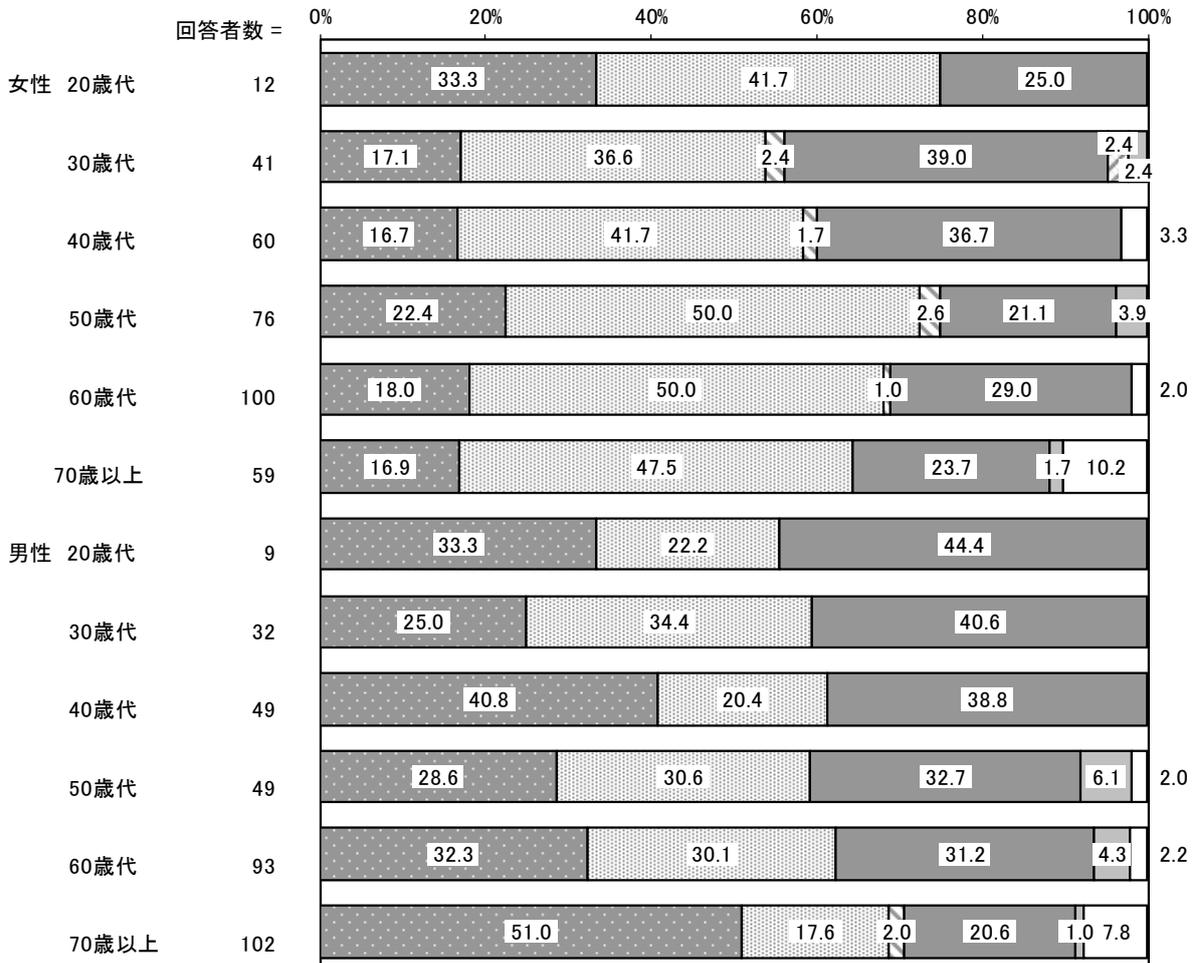
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「自分」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性70歳以上で「自分」の割合が、女性50歳代、女性60歳代、女性70歳以上で「配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。また、男性30歳代で「家族で同程度の分担」の割合が高くなっています。



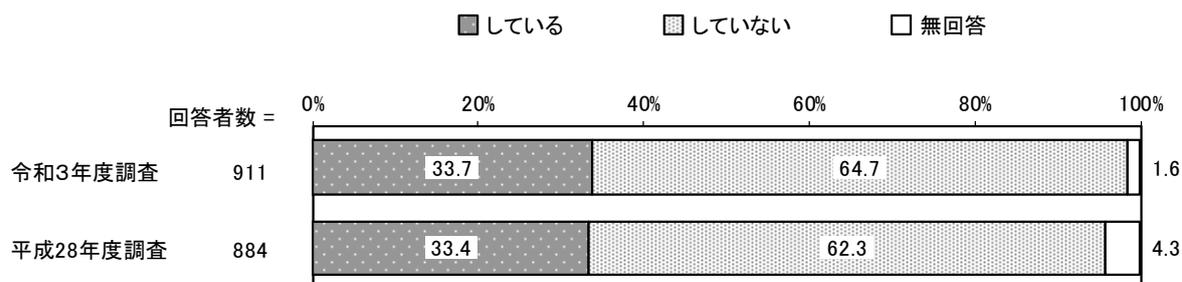
(3) 地域活動などに関する考え、意識について

問6 あなたは現在、区会（自治会）やボランティアなどの地域活動に参加していますか。（○は1つだけ）

「している」の割合が33.7%、「していない」の割合が64.7%となっています。

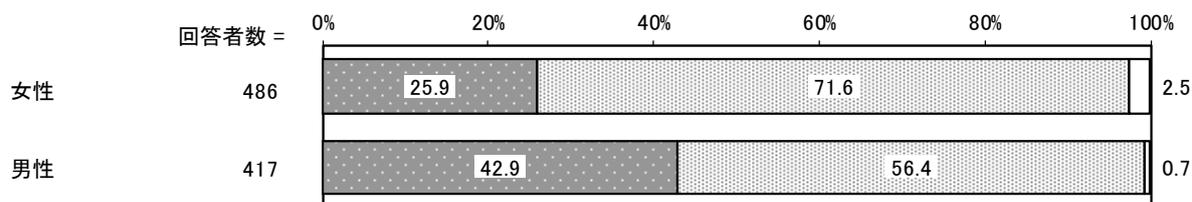
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



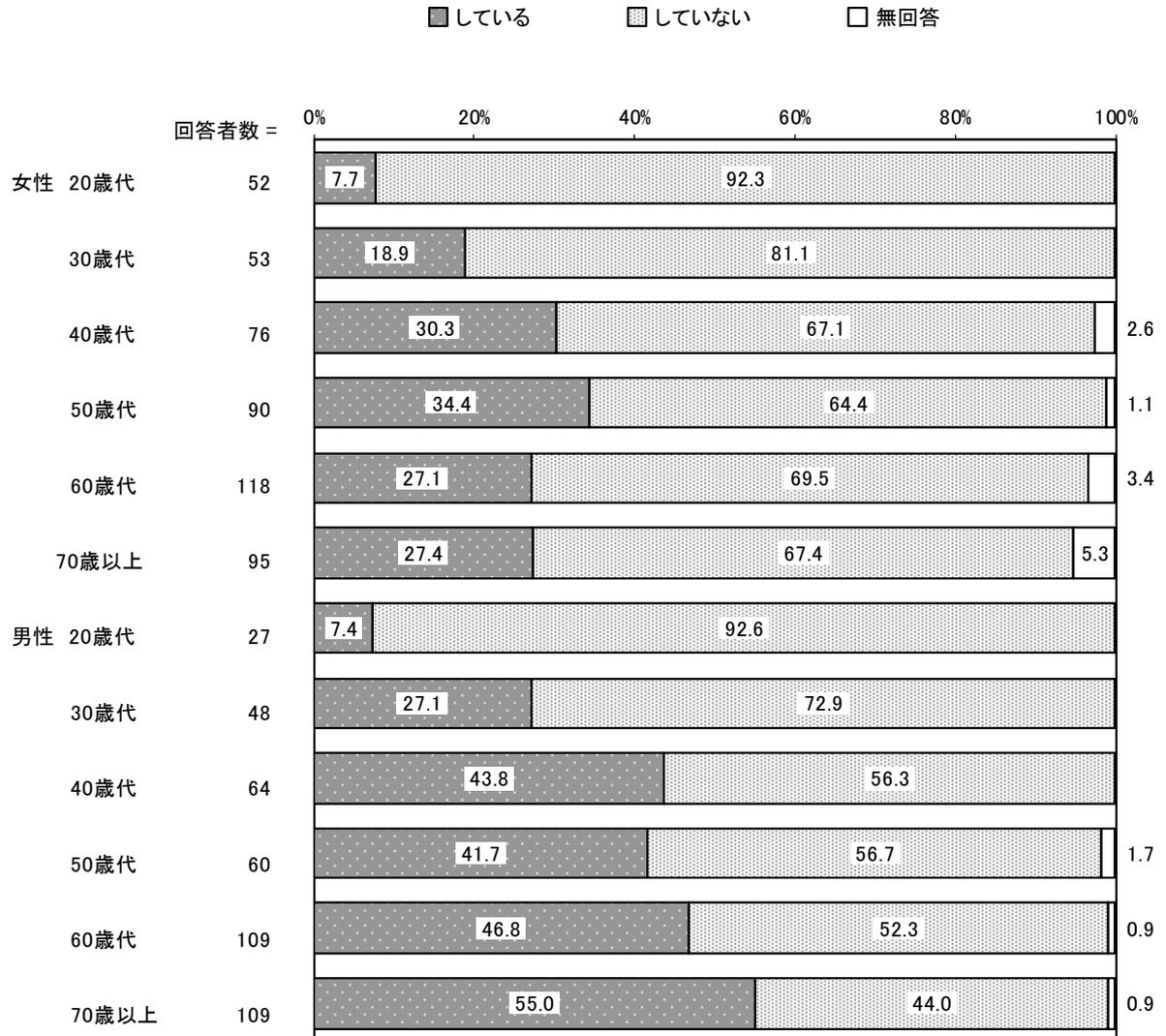
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「していない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「している」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性70歳以上で「している」の割合が、女性20歳代、男性20歳代で「していない」の割合が高くなっています。



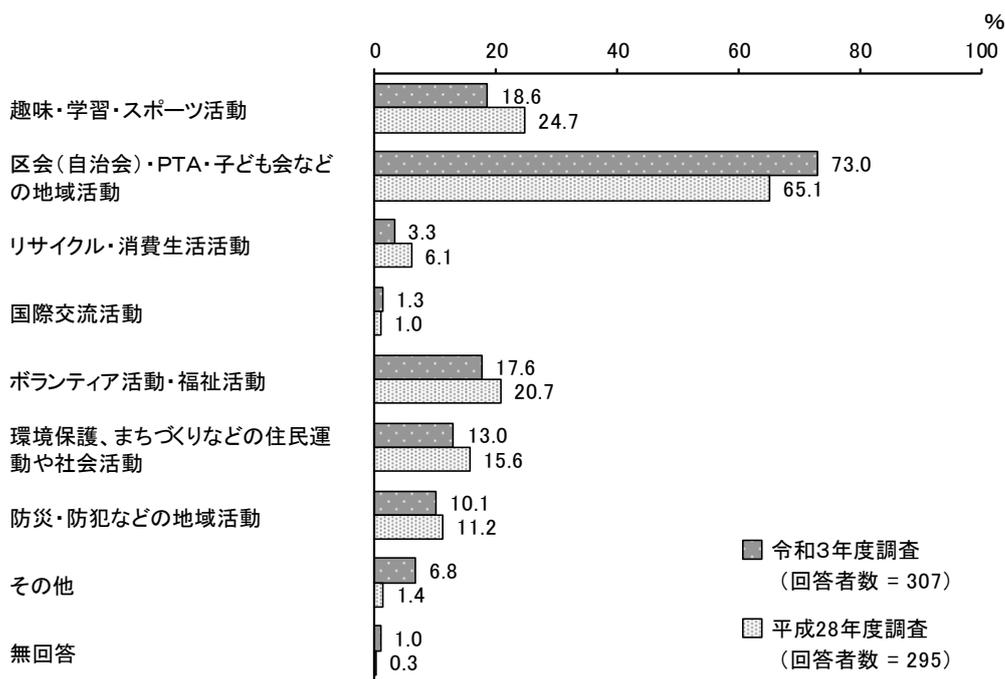
問6で「している」と回答した方におうかがいします。

問6-1 それほどのような活動内容ですか。(〇はいくつでも)

「区会(自治会)・PTA・子ども会などの地域活動」の割合が73.0%と最も高く、次いで「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が18.6%、「ボランティア活動・福祉活動」の割合が17.6%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「区会(自治会)・PTA・子ども会などの地域活動」の割合が増加しています。一方、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が減少しています。



< 「その他」意見より >

- ・ 民生委員
- ・ 地区内清掃活動
- ・ 小学生の見守り など

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「区会（自治会）・PTA・子ども会などの地域活動」「環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動」「防災・防犯などの地域活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	趣味・学習・スポーツ活動	区会（自治会）・PTA・子ども会などの地域活動	リサイクル・消費生活活動	国際交流活動	ボランティア活動・福祉活動	環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動	防災・防犯などの地域活動	その他	無回答
女性	126	19.8	69.8	3.2	2.4	19.8	9.5	3.2	4.8	0.8
男性	179	17.9	74.9	3.4	0.6	16.2	15.6	15.1	8.4	1.1

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性70歳以上、男性70歳以上で「趣味・学習・スポーツ活動」「ボランティア活動・福祉活動」の割合が、男性30歳代で「区会（自治会）・PTA・子ども会などの地域活動」の割合が高くなっています。また、男性60歳代、男性70歳以上で「防災・防犯などの地域活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	趣味・学習・スポーツ活動	区会（自治会）・PTA・子ども会などの地域活動	リサイクル・消費生活活動	国際交流活動	ボランティア活動・福祉活動	環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動	防災・防犯などの地域活動	その他	無回答
女性 20歳代	4	25.0	25.0	—	—	25.0	—	—	25.0	—
30歳代	10	10.0	80.0	—	—	20.0	20.0	10.0	—	10.0
40歳代	23	13.0	87.0	—	4.3	21.7	4.3	—	—	—
50歳代	31	12.9	80.6	—	—	9.7	9.7	6.5	—	—
60歳代	32	18.8	59.4	6.3	6.3	21.9	—	—	9.4	—
70歳以上	26	38.5	57.7	7.7	—	26.9	23.1	3.8	7.7	—
男性 20歳代	2	—	50.0	—	—	100.0	50.0	—	50.0	—
30歳代	13	—	100.0	—	—	—	15.4	7.7	—	—
40歳代	28	10.7	96.4	—	—	7.1	7.1	10.7	—	—
50歳代	25	16.0	76.0	—	—	4.0	4.0	12.0	4.0	—
60歳代	51	13.7	74.5	2.0	—	15.7	19.6	17.6	5.9	2.0
70歳以上	60	30.0	60.0	8.3	1.7	26.7	20.0	18.3	16.7	1.7

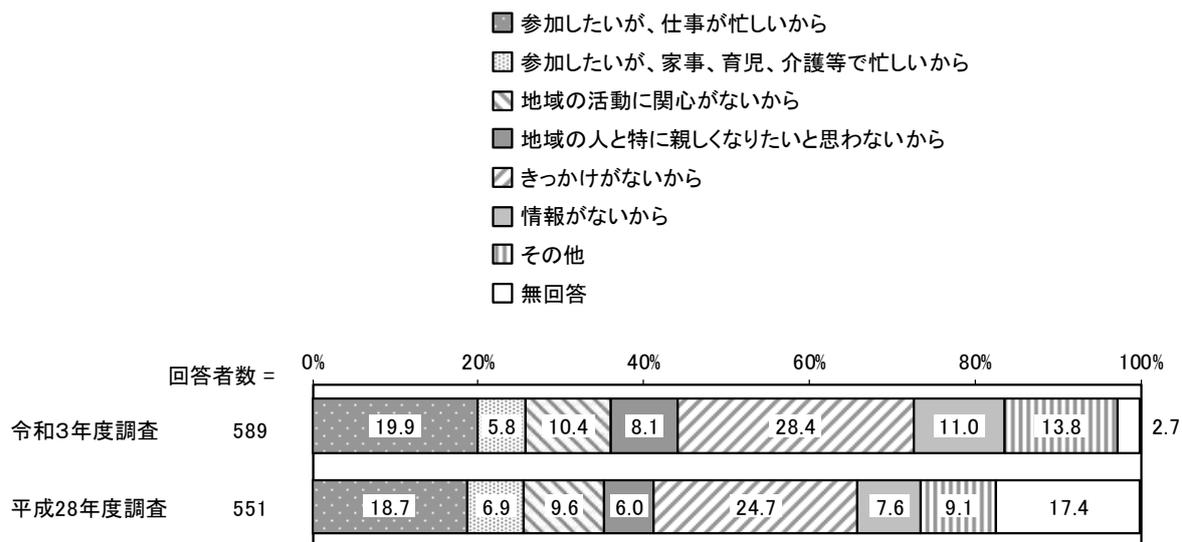
問6で「していない」と回答した方におうかがいします。

問6-2 それはなぜですか。(主な理由1つに○)

「きっかけがないから」の割合が28.4%と最も高く、次いで「参加したいが、仕事が忙しいから」の割合が19.9%、「情報がないから」の割合が11.0%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

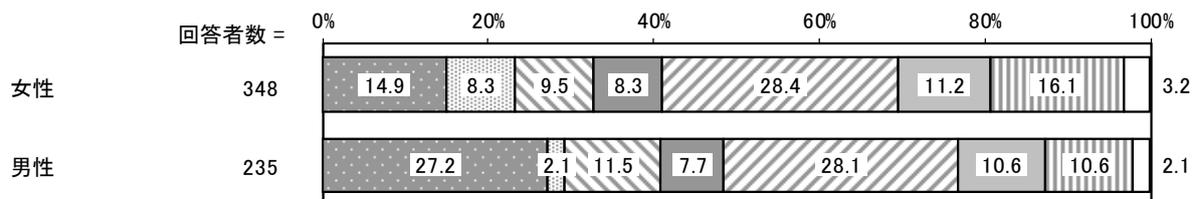


<「その他」意見より>

- ・コロナウイルス感染症の影響でできなくなった。
- ・介護があるから。
- ・他地区から来た人は自治会に入れなかったから。
- ・高齢のため。 など

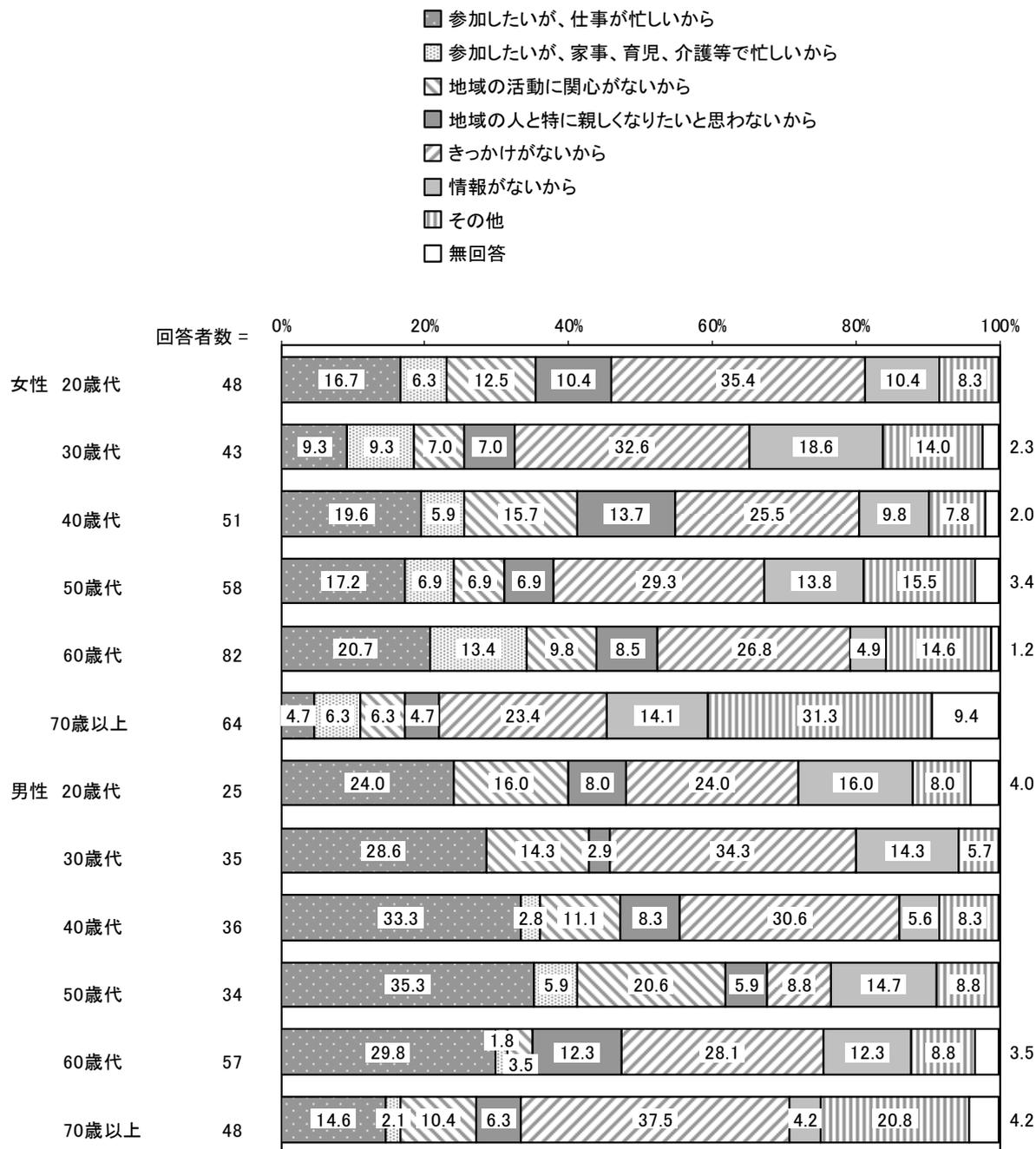
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「参加したいが、家事、育児、介護等で忙しいから」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「参加したいが、仕事が忙しいから」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

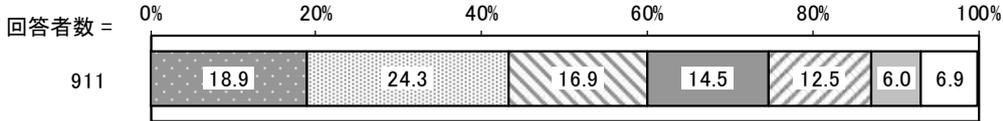
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 40 歳代、男性 50 歳代で「参加したいが、仕事が忙しいから」の割合が、女性 60 歳代で「参加したいが、家事、育児、介護等で忙しいから」の割合が高くなっています。また、女性 20 歳代、男性 30 歳代、男性 70 歳代で「きっかけがないから」の割合が高くなっています。



問7 あなたは、町内会やボランティア、NPOなど、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から1つ選んでください。(〇は1つだけ) 【新規設問】

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感の解消」の割合が24.3%と最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消」の割合が18.9%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについての評価向上」の割合が16.9%となっています。

- 女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消
- 女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感の解消
- 社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについての評価向上
- 女性が地域活動のリーダーになることについての啓発や情報提供・研修の実施
- 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組促進
- その他
- 無回答

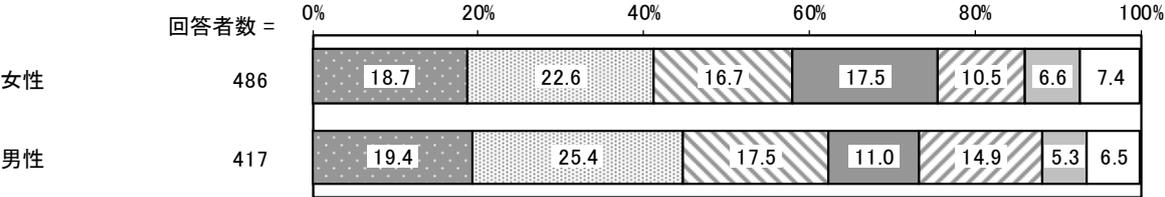


<「その他」意見より>

- ・リーダーとして活動できるだけの時間の確保。
- ・女性を無理に増やす必要はない。
- ・リーダーは男女問わず、なるべき人になるべき。 など

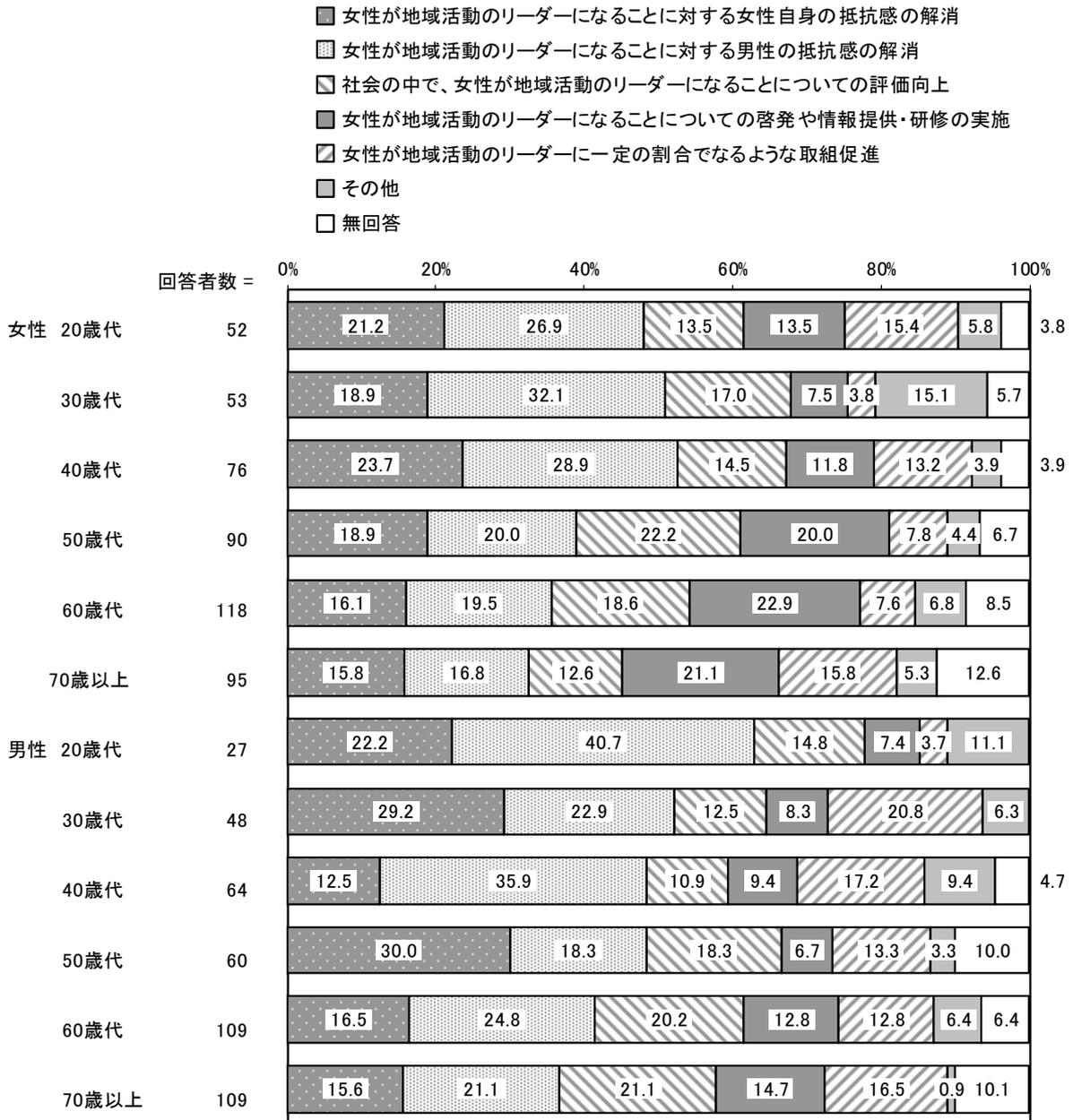
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性が地域活動のリーダーになることについての啓発や情報提供・研修の実施」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 30 歳代、男性 50 歳代で「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消」の割合が、男性 20 歳代で「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感の解消」の割合が高くなっています。また、女性 50 歳代、女性 60 歳代、女性 70 歳以上で「女性が地域活動のリーダーになることについての啓発や情報提供・研修の実施」の割合が高くなっています。



(4) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

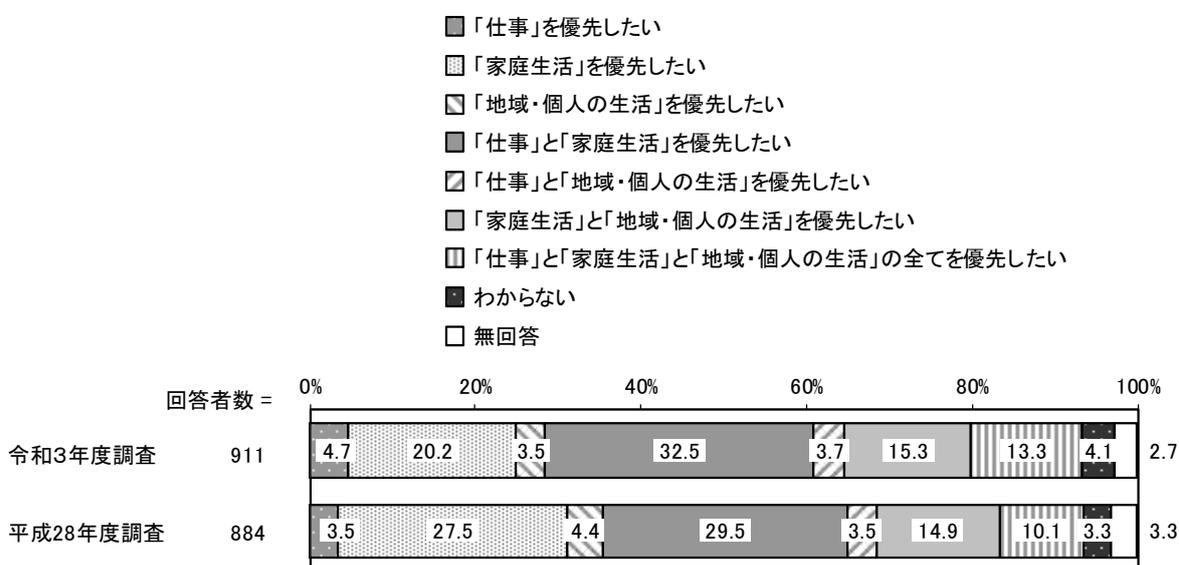
問8 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度についておうかがいします。

(1) あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけ選んでください。

「仕事」と「家庭生活」を優先したいの割合が32.5%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先したいの割合が20.2%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したいの割合が15.3%となっています。

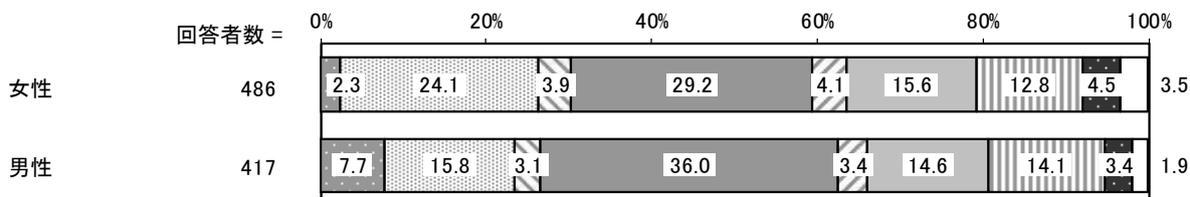
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「家庭生活」を優先したいの割合が減少しています。



【性別】

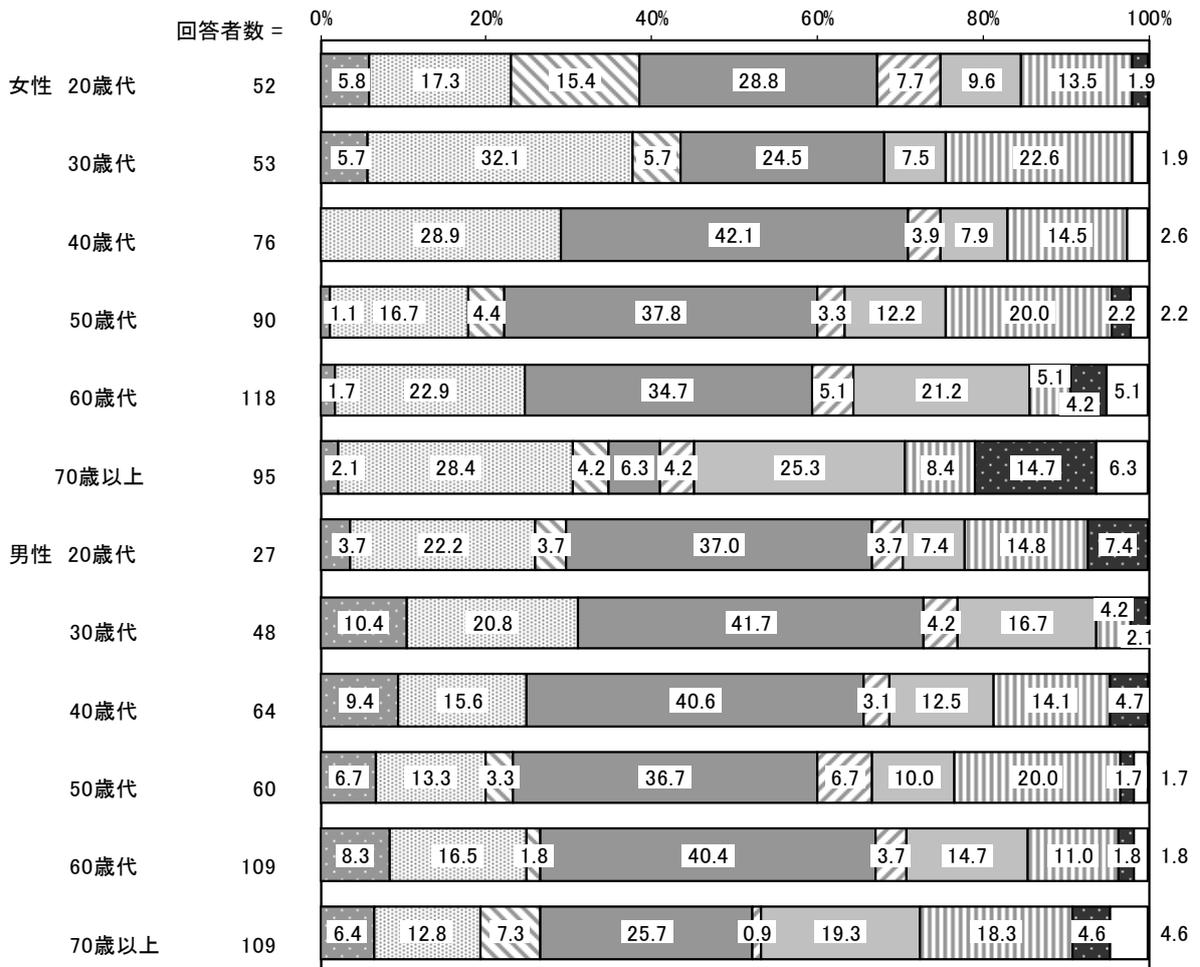
性別で見ると、男性に比べ、女性で「家庭生活」を優先したいの割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事」を優先したい「仕事」と「家庭生活」を優先したいの割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性30歳代、女性40歳代、女性70歳以上で「家庭生活」を優先したい」の割合が、女性20歳代で「地域・個人の生活」を優先したい」の割合が高くなっています。また、女性40歳代、男性30歳代、男性40歳代、男性60歳代で「仕事」と「家庭生活」を優先したい」の割合が、女性70歳以上で「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい」の割合が高くなっています。

- 「仕事」を優先したい
- ▨ 「家庭生活」を優先したい
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」を優先したい
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい
- ▩ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい
- ▩ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先したい
- わからない
- 無回答

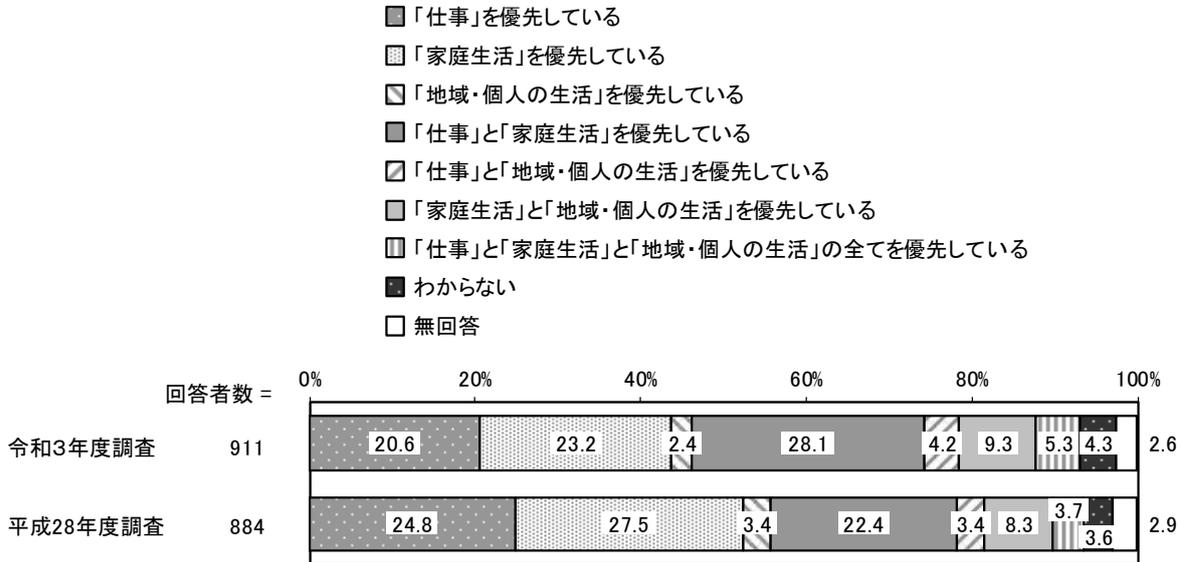


(2) それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものをこの中から1つだけ選んでください。

「仕事」と「家庭生活」を優先している」の割合が28.1%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」の割合が23.2%、「仕事」を優先している」の割合が20.6%となっています。

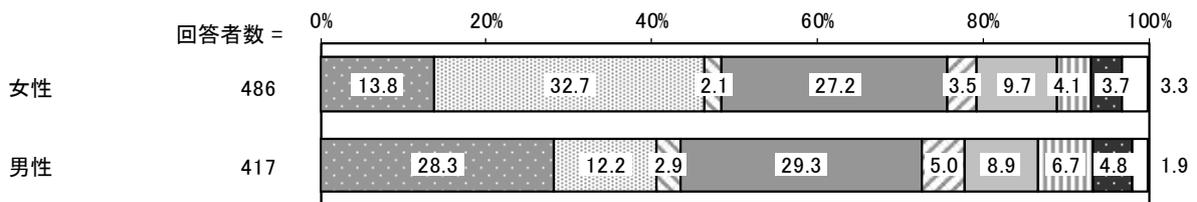
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」を優先している」の割合が増加しています。



【性別】

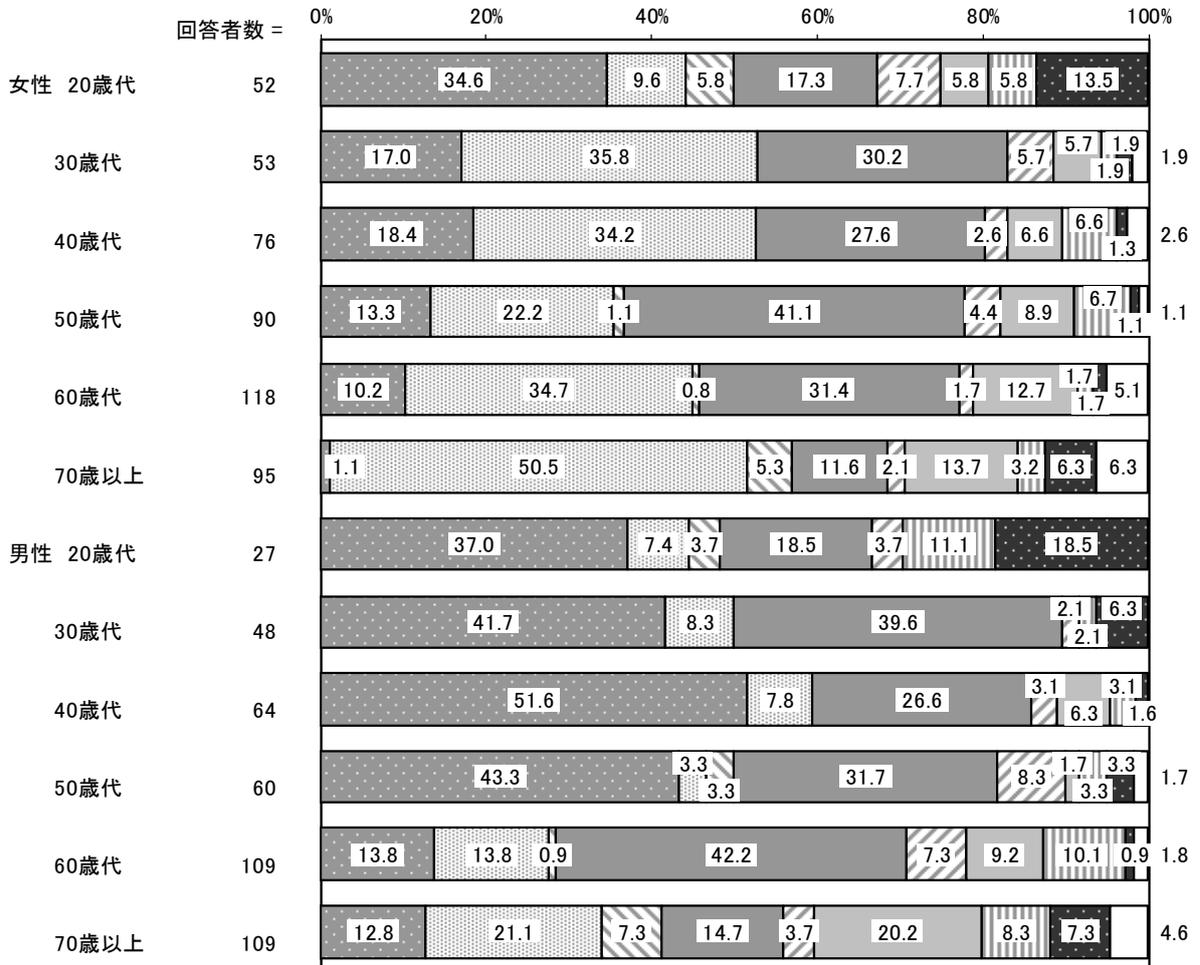
性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性40歳代で「仕事」を優先しているの割合が、女性70歳以上で「家庭生活」を優先しているの割合が高くなっています。また、女性50歳代、男性60歳代で「仕事」と「家庭生活」を優先しているの割合が、男性70歳以上で「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先しているの割合が高くなっています。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先している
- わからない
- 無回答

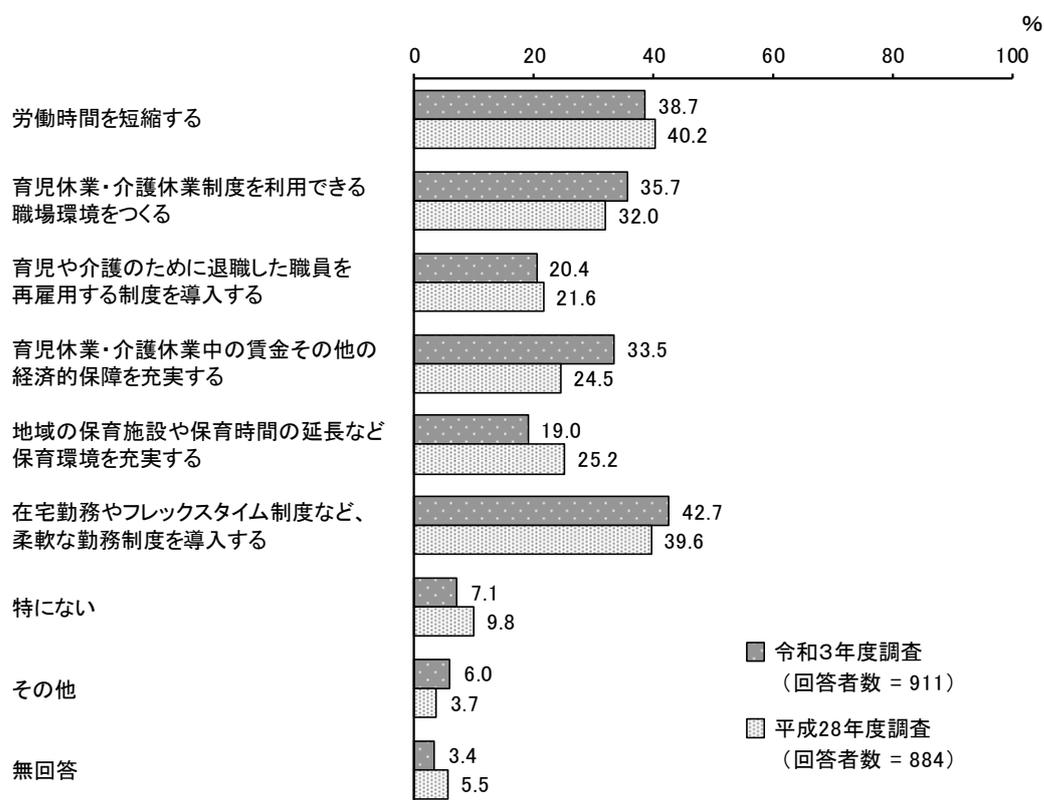


問9 あなたは、仕事と家庭生活を両立させていけるような環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の割合が42.7%と最も高く、次いで「労働時間を短縮する」の割合が38.7%、「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」の割合が35.7%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する」の割合が増加しています。一方、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育環境を充実する」の割合が減少しています。



<「その他」意見より>

- ・賃金の上昇。
- ・非正規雇用者を正規雇用にするシステムの導入。非正規雇用者にも、正規の労働者と同じ勤務制度を導入する。
- ・職場に余裕をもたせること。人員、時間など。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」「育児や介護のために退職した職員を再雇用する制度を導入する」「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する」「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「労働時間を短縮する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	労働時間を短縮する	育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる	育児や介護のために退職した職員を再雇用する制度を導入する	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する	地域の保育施設や保育時間の延長など保育環境を充実する	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	特になし	その他	無回答
女性	486	34.2	41.6	24.3	36.4	19.1	45.9	5.6	6.2	4.3
男性	417	43.9	29.5	15.8	30.0	18.7	39.8	8.9	5.8	2.4

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性40歳代で「労働時間を短縮する」の割合が、女性20歳代、女性50歳代、女性60歳代、女性70歳以上で「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」「育児や介護のために退職した職員を再雇用する制度を導入する」の割合が高くなっています。また、女性20歳代で「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する」「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	労働時間を短縮する	育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる	育児や介護のために退職した職員を再雇用する制度を導入する	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する	地域の保育施設や保育時間の延長など保育環境を充実する	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	特になし	その他	無回答
女性 20歳代	52	55.8	44.2	25.0	50.0	9.6	57.7	—	3.8	—
30歳代	53	43.4	34.0	18.9	34.0	34.0	50.9	3.8	9.4	1.9
40歳代	76	40.8	34.2	19.7	35.5	19.7	46.1	—	9.2	2.6
50歳代	90	35.6	43.3	24.4	37.8	15.6	53.3	3.3	13.3	1.1
60歳代	118	25.4	46.6	25.4	35.6	23.7	43.2	8.5	0.8	7.6
70歳以上	95	21.1	43.2	28.4	30.5	13.7	32.6	12.6	2.1	8.4
男性 20歳代	27	48.1	25.9	14.8	44.4	11.1	44.4	11.1	11.1	—
30歳代	48	56.3	20.8	6.3	37.5	22.9	54.2	2.1	6.3	—
40歳代	64	60.9	20.3	9.4	20.3	12.5	42.2	6.3	15.6	—
50歳代	60	53.3	31.7	15.0	26.7	16.7	51.7	6.7	3.3	1.7
60歳代	109	34.9	33.0	22.9	26.6	16.5	33.9	15.6	0.9	1.8
70歳以上	109	31.2	34.9	17.4	33.9	25.7	30.3	7.3	4.6	6.4

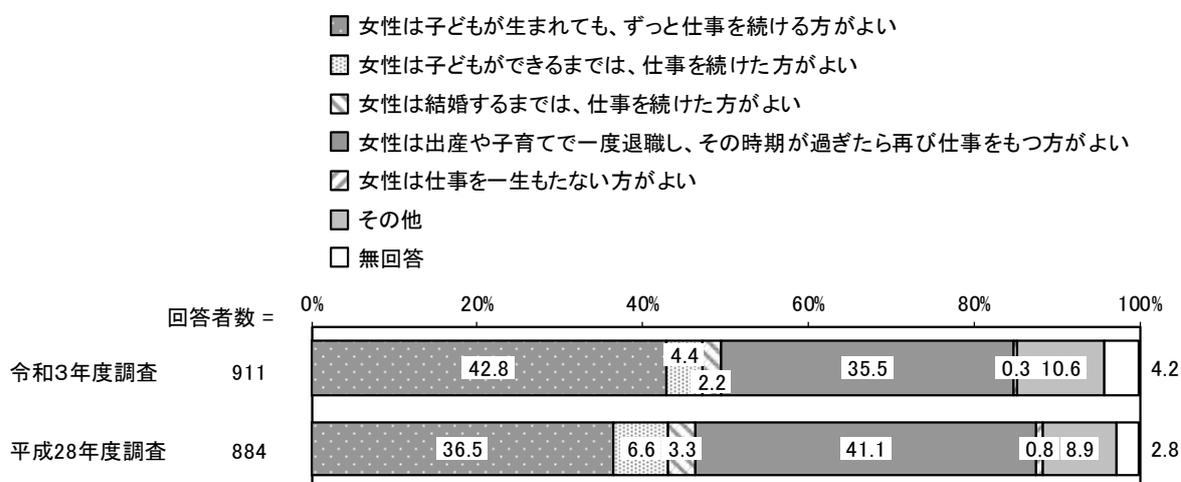
(5) 就業関係について

問10 女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。あなたのお考えに最も近いものをこの中から1つだけ選んでください。

「女性は子どもが生まれても、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が42.8%と最も高く、次いで「女性は出産や子育てで一度退職し、その時期が過ぎたら再び仕事をもつ方がよい」の割合が35.5%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「女性は子どもが生まれても、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が増加しています。一方、「女性は出産や子育てで一度退職し、その時期が過ぎたら再び仕事をもつ方がよい」の割合が減少しています。

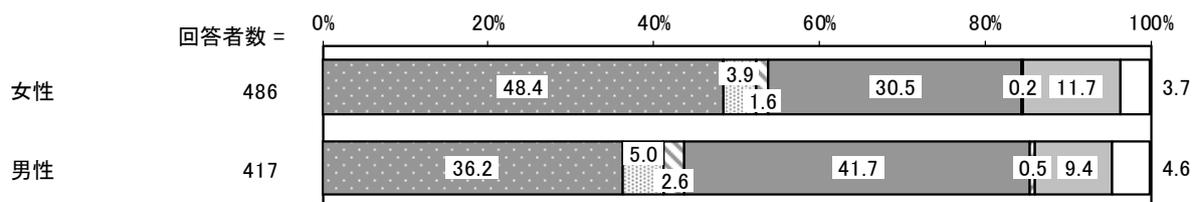


<「その他」意見より>

- ・なるべくその女性が望む形を実現させたい。
- ・人それぞれなので、どの形でもよい。
- ・結婚するまでは女性本人の意思。結婚後は夫婦で話し合う。 など

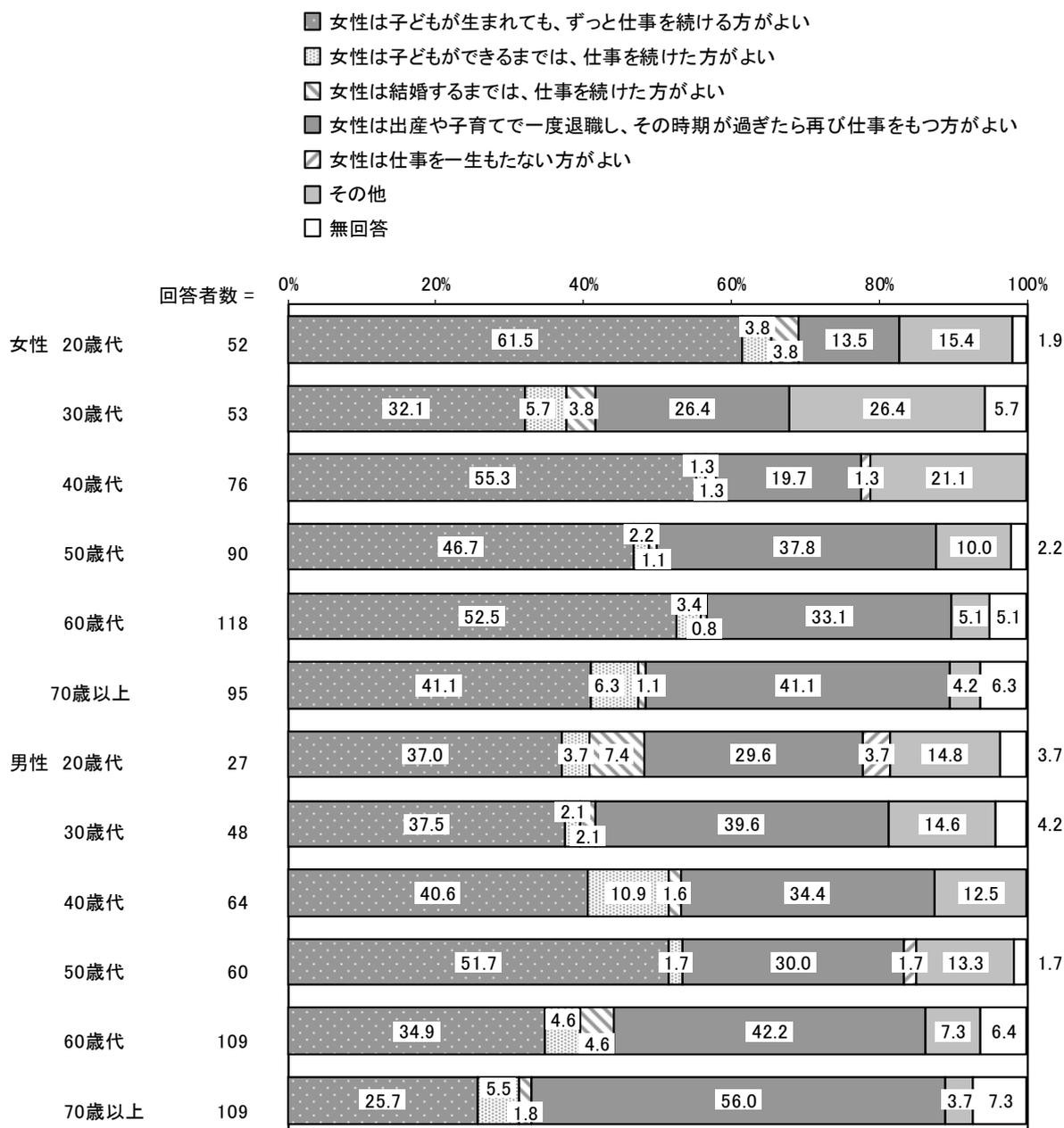
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性は子どもが生まれても、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「女性は出産や子育てで一度退職し、その時期が過ぎたら再び仕事をもつ方がよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 20 歳代で「女性は子どもが生まれても、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が、男性 40 歳代で「女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい」の割合が高くなっています。また、男性 70 歳以上で「女性は出産や子育てで一度退職し、その時期が過ぎたら再び仕事をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

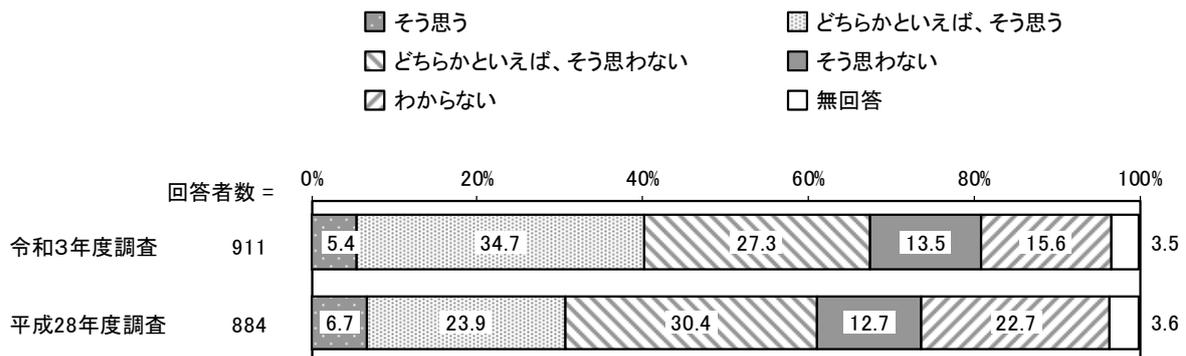


問 11 企業において、女性の活躍を推進する取組は進んでいると思いますか。あなたのお考えに最も近いものをこの中から1つだけ選んでください。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」をあわせた“そう思う”の割合が40.1%、「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が40.8%、「わからない」の割合が15.6%となっています。

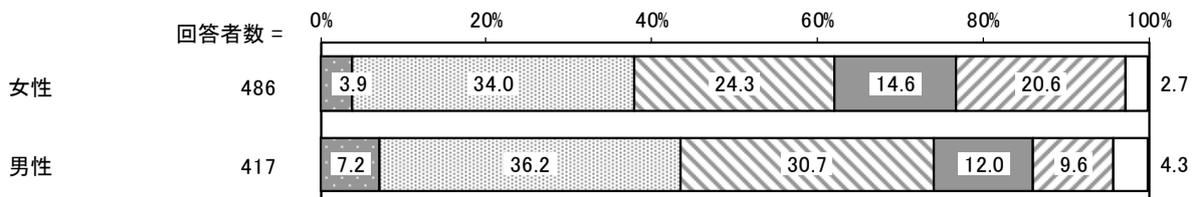
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。



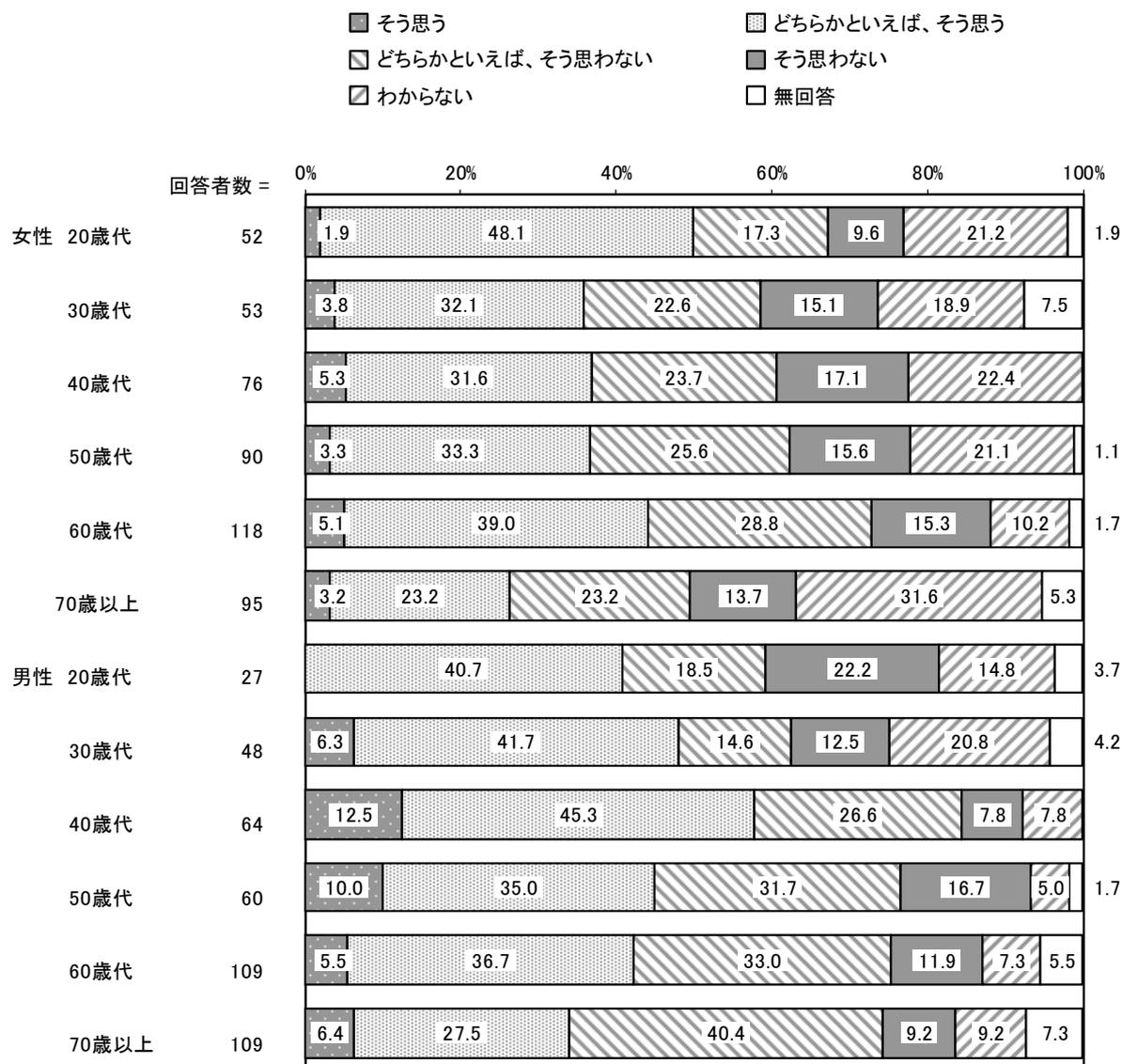
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性40歳代で“そう思う”の割合が、男性50歳代、男性70歳以上で“そう思わない”の割合が高くなっています。また、女性70歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

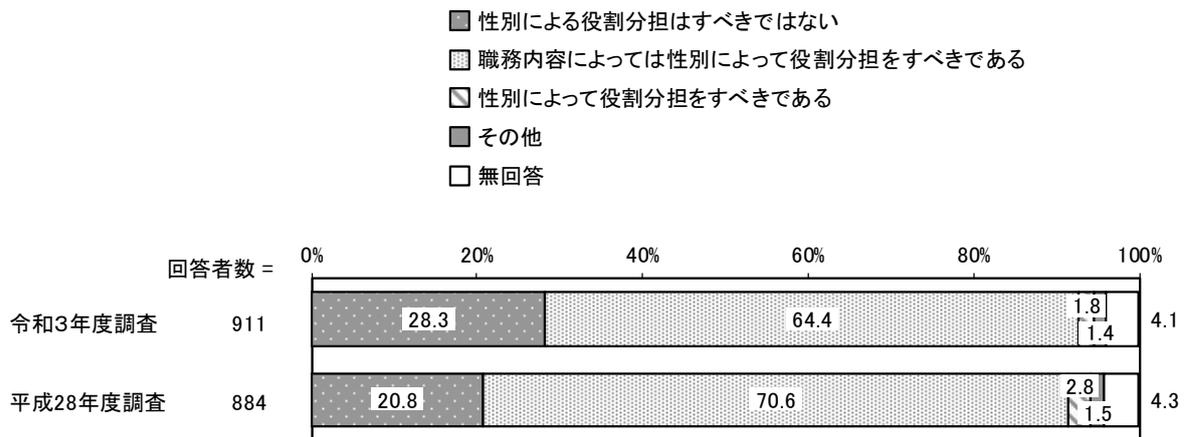


問 12 一般的に、職場において、性別によって役割分担をすることについてあなたはどうかと思いますか。あなたのお考えに最も近いものをこの中から1つだけ選んでください。

「職務内容によっては性別によって役割分担をすべきである」の割合が64.4%と最も高く、次いで「性別による役割分担はすべきではない」の割合が28.3%となっています。

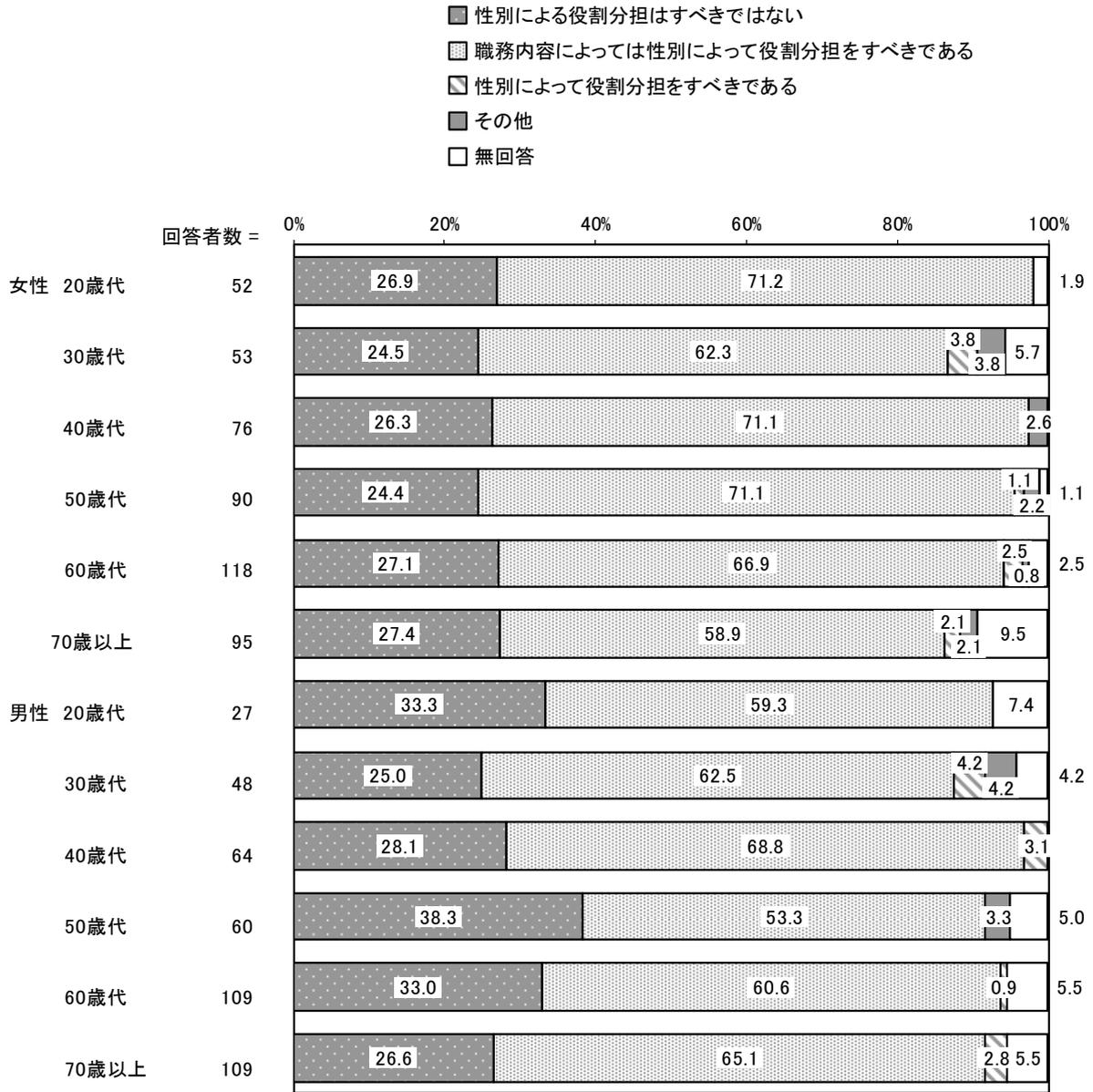
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「性別による役割分担はすべきではない」の割合が増加しています。一方、「職務内容によっては性別によって役割分担をすべきである」の割合が減少しています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 50 歳代で「性別による役割分担はすべきではない」の割合が、女性 20 歳代、女性 40 歳代、女性 50 歳代で「職務内容によっては性別によって役割分担をすべきである」の割合が高くなっています。

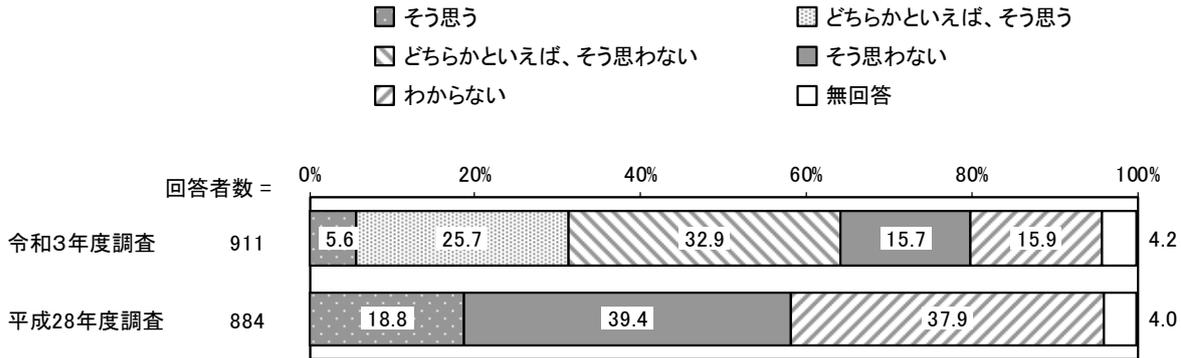


問 13 一般的に、あなたは、職場における女性の昇進・昇格は十分行われていると思いますか。(○は1つ)

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」をあわせた“そう思う”の割合が31.3%、「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が48.6%、「わからない」の割合が15.9%となっています。

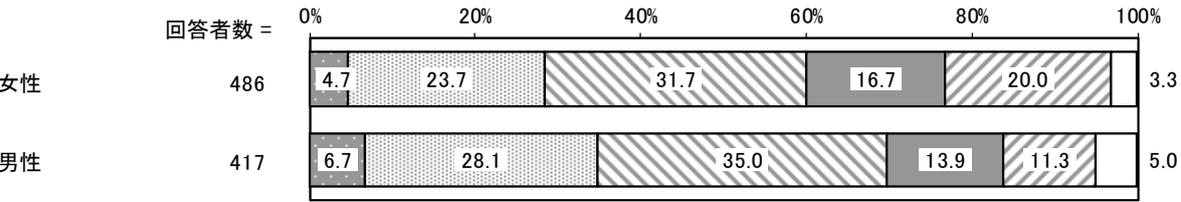
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。また、「わからない」の割合が減少しています。



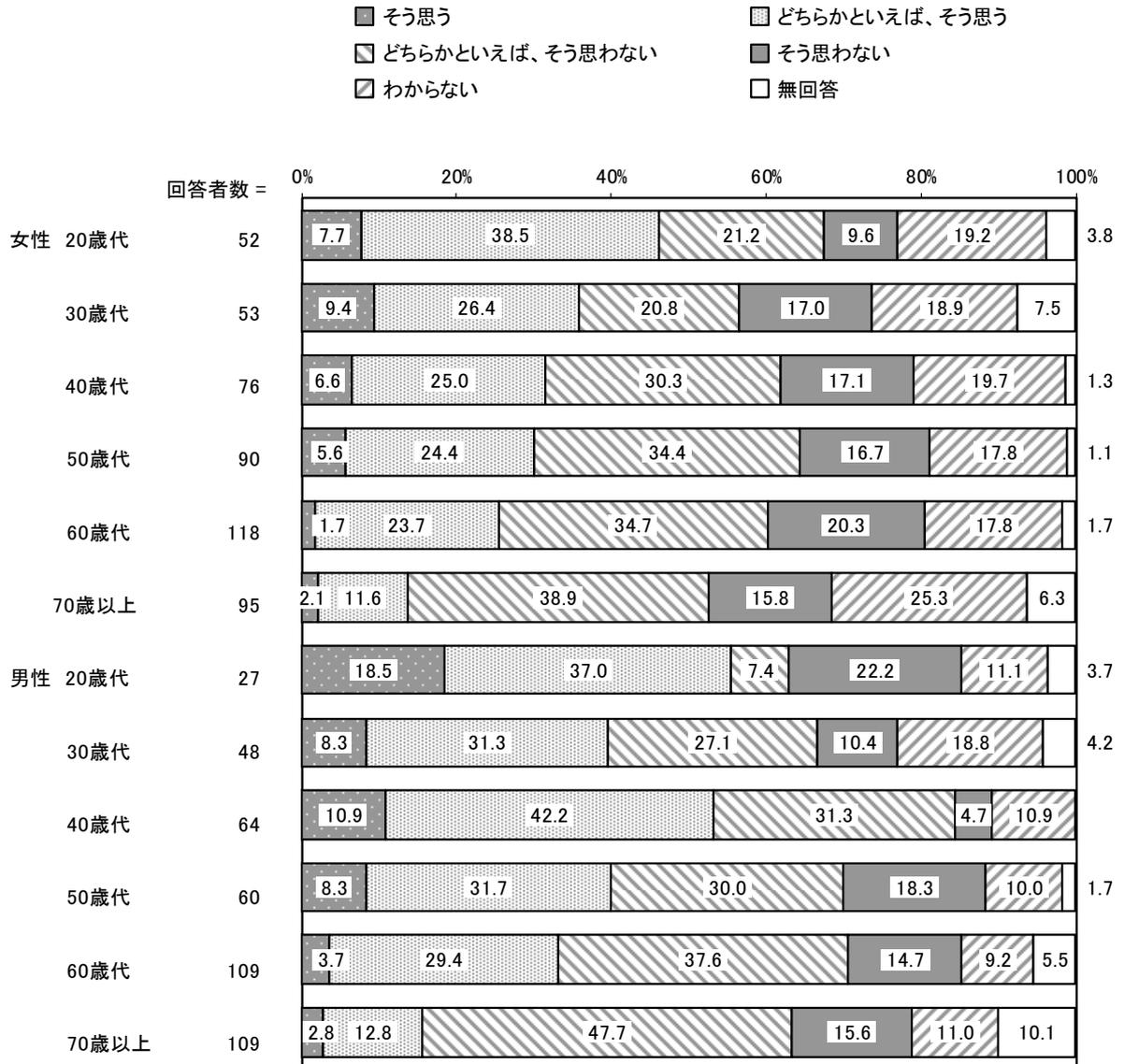
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 20 歳代、男性 40 歳代で“そう思う”の割合が、男性 70 歳以上で“そう思わない”の割合が高くなっています。



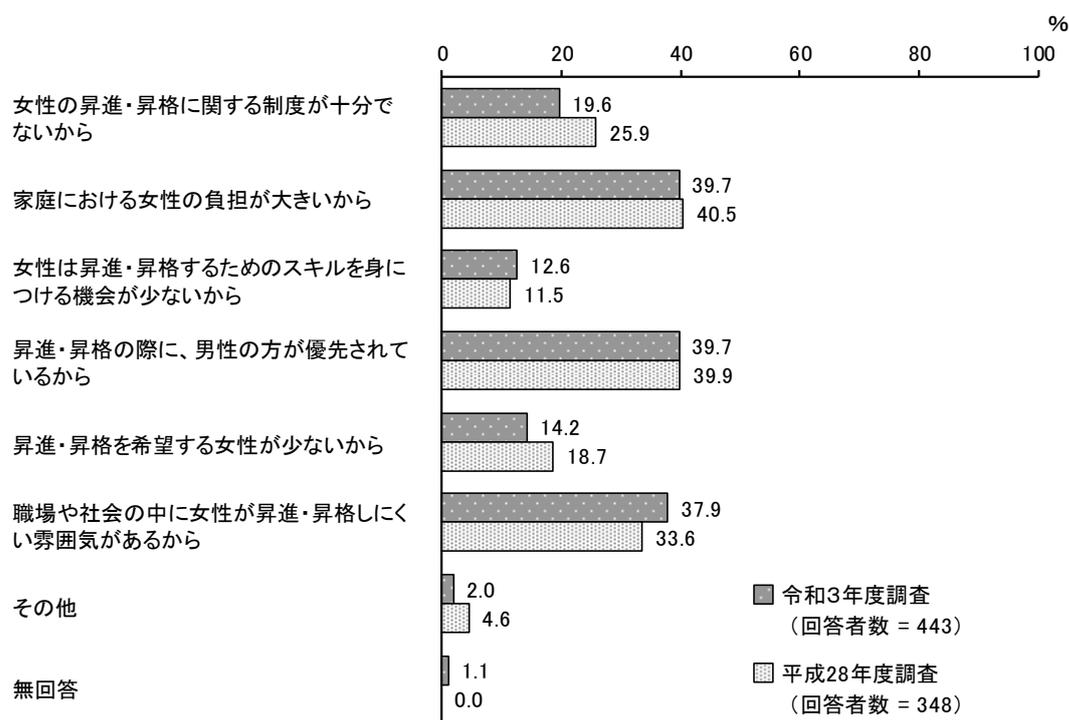
問13で「どちらかといえば、そう思わない」または「そう思わない」と回答した方におうかがいします。

問13-1 その理由は何ですか。(〇は2つまで)

「家庭における女性の負担が大きいから」、「昇進・昇格の際に、男性の方が優先されているから」の割合が39.7%と最も高く、次いで「職場や社会の中に女性が昇進・昇格しにくい雰囲気があるから」の割合が37.9%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「女性の昇進・昇格に関する制度が十分でないから」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭における女性の負担が大きいから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性の昇進・昇格に関する制度が十分でないから	家庭における女性の負担が大きいから	女性は昇進・昇格するためのスキルを身につける機会が少ないから	昇進・昇格の際に、男性の方が優先されているから	昇進・昇格を希望する女性が少ないから	職場や社会の中に女性が昇進・昇格しにくい雰囲気があるから	その他	無回答
女性	235	19.6	49.4	10.6	40.0	13.6	36.6	1.7	1.7
男性	204	19.1	29.4	15.2	39.2	14.7	39.2	2.5	0.5

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性70歳以上で「女性の昇進・昇格に関する制度が十分でないから」の割合が、女性30歳代で「家庭における女性の負担が大きいから」の割合が高くなっています。また、男性60歳代で「昇進・昇格の際に、男性の方が優先されているから」の割合が高くなっています。

単位：％

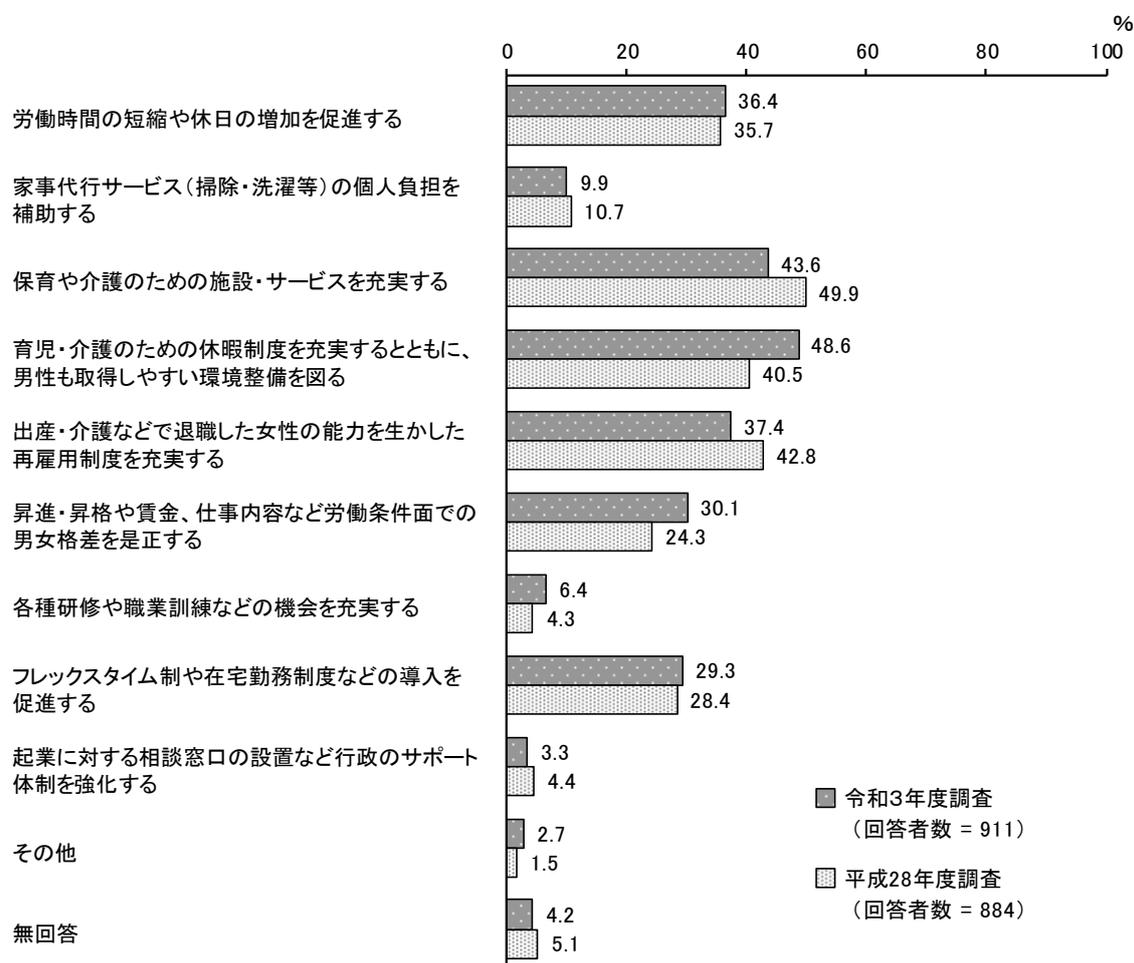
区分	回答者数(件)	女性の昇進・昇格に関する制度が十分でないから	家庭における女性の負担が大きいから	女性は昇進・昇格するためのスキルを身につける機会が少ないから	昇進・昇格の際に、男性の方が優先されているから	昇進・昇格を希望する女性が少ないから	職場や社会の中に女性が昇進・昇格しにくい雰囲気があるから	その他	無回答
女性 20歳代	16	12.5	43.8	6.3	43.8	18.8	37.5	6.3	—
30歳代	20	5.0	75.0	10.0	20.0	15.0	50.0	5.0	—
40歳代	36	33.3	47.2	13.9	36.1	13.9	27.8	2.8	—
50歳代	46	13.0	45.7	6.5	39.1	15.2	50.0	2.2	4.3
60歳代	65	18.5	58.5	4.6	46.2	15.4	30.8	—	1.5
70歳以上	52	25.0	34.6	21.2	42.3	7.7	32.7	—	1.9
男性 20歳代	8	—	25.0	25.0	25.0	12.5	62.5	12.5	—
30歳代	18	11.1	33.3	11.1	22.2	16.7	44.4	11.1	—
40歳代	23	8.7	34.8	4.3	34.8	21.7	34.8	4.3	4.3
50歳代	29	20.7	31.0	13.8	34.5	31.0	37.9	—	—
60歳代	57	10.5	36.8	15.8	52.6	10.5	35.1	—	—
70歳以上	69	33.3	20.3	18.8	37.7	8.7	40.6	1.4	—

問 14 女性が働きやすくするためには、どんなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」の割合が 48.6%と最も高く、次いで「保育や介護のための施設・サービスを充実する」の割合が 43.6%、「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する」の割合が 37.4%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」「昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女格差を是正する」の割合が増加しています。一方、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	労働時間の短縮や休日の増加を促進する	家事代行サービス(掃除・洗濯等)の個人負担を補助する	保育や介護のための施設・サービスを充実する	育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る	出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する	昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女格差を是正する	各種研修や職業訓練などの機会を充実する	フレックスタイム制や在宅勤務制度などの導入を促進する	起業に対する相談窓口の設置など行政のサポート体制を強化する	その他	無回答
女性	486	35.4	10.9	43.2	52.9	35.6	30.9	5.8	30.0	3.3	3.7	3.1
男性	417	37.4	8.6	44.6	44.1	40.0	29.0	6.7	29.0	3.1	1.7	5.3

【性・年齢別】

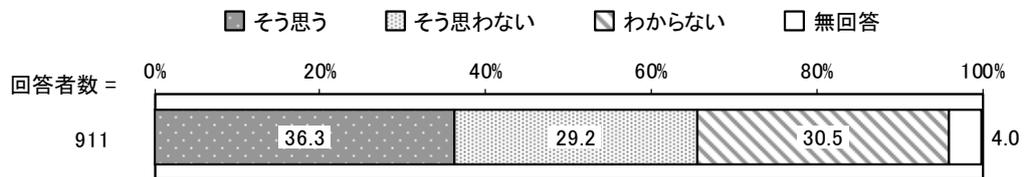
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 40 歳代で「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」の割合が、女性 40 歳代で「家事代行サービス（掃除・洗濯等）の個人負担を補助する」の割合が高くなっています。また、女性 60 歳代、男性 50 歳代、男性 60 歳代で「保育や介護のための施設・サービスを充実する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	労働時間の短縮や休日の増加を促進する	家事代行サービス（掃除・洗濯等）の個人負担を補助する	保育や介護のための施設・サービスを充実する	育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る	出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する	昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女格差を是正する	各種研修や職業訓練などの機会を充実する	フレックスタイム制や在宅勤務制度などの導入を促進する	起業に対する相談窓口の設置など行政のサポート体制を強化する	その他	無回答
女性 20 歳代	52	44.2	9.6	30.8	63.5	34.6	34.6	3.8	38.5	1.9	1.9	1.9
30 歳代	53	32.1	15.1	37.7	49.1	18.9	30.2	7.5	34.0	—	15.1	5.7
40 歳代	76	43.4	19.7	42.1	48.7	26.3	30.3	5.3	30.3	2.6	2.6	—
50 歳代	90	33.3	15.6	42.2	46.7	41.1	30.0	5.6	32.2	5.6	3.3	1.1
60 歳代	118	37.3	4.2	50.8	59.3	37.3	27.1	5.1	29.7	4.2	1.7	1.7
70 歳以上	95	24.2	6.3	46.3	50.5	45.3	35.8	7.4	21.1	3.2	1.1	8.4
男性 20 歳代	27	51.9	7.4	33.3	44.4	33.3	44.4	7.4	7.4	3.7	3.7	3.7
30 歳代	48	39.6	12.5	35.4	50.0	37.5	33.3	—	29.2	6.3	2.1	4.2
40 歳代	64	54.7	7.8	34.4	37.5	43.8	20.3	4.7	32.8	1.6	3.1	1.6
50 歳代	60	36.7	10.0	51.7	50.0	38.3	26.7	6.7	33.3	3.3	3.3	1.7
60 歳代	109	31.2	7.3	50.5	43.1	45.0	33.9	6.4	29.4	0.9	0.9	6.4
70 歳以上	109	29.4	8.3	47.7	43.1	36.7	24.8	11.0	29.4	4.6	—	9.2

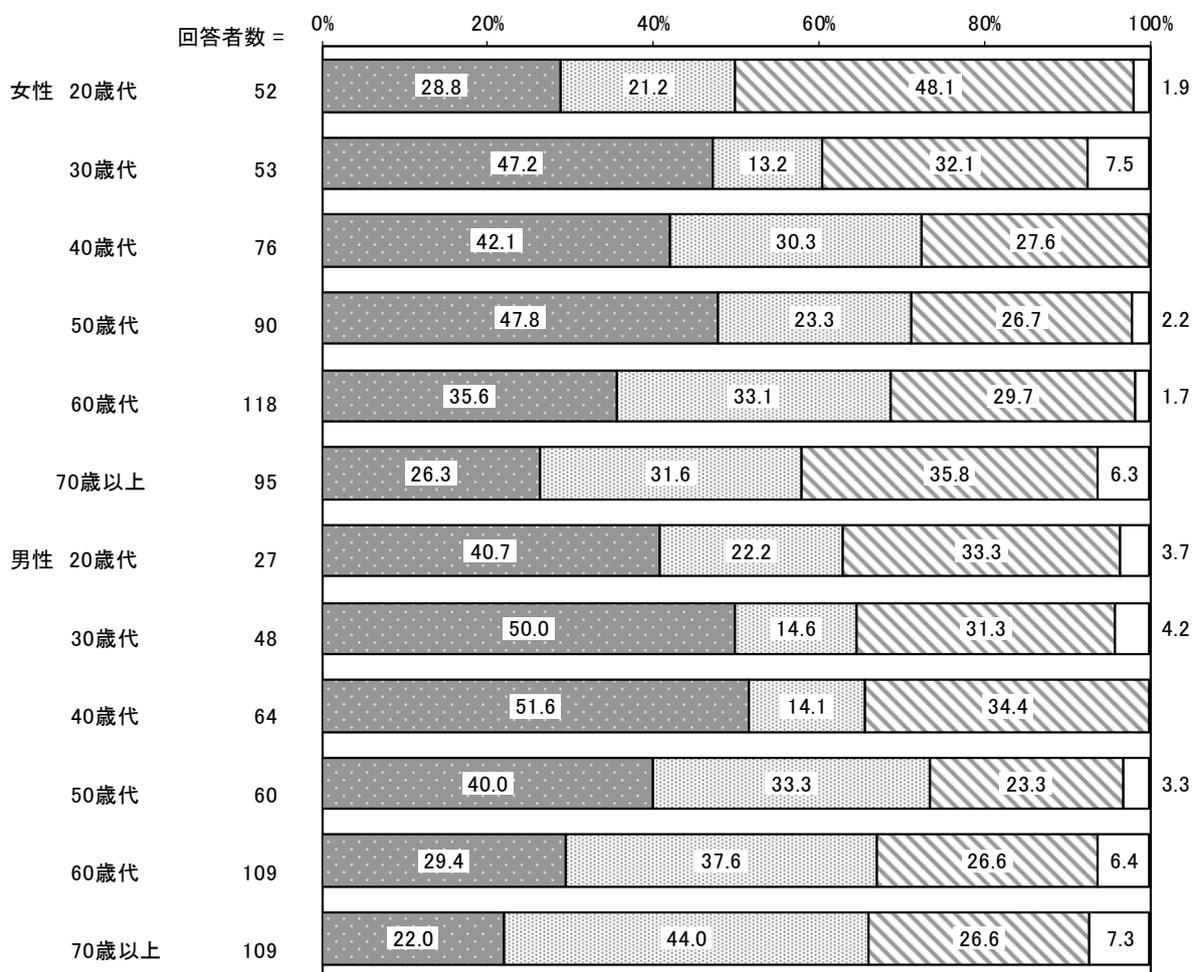
問 15 一般的に、女性が起業（会社を興したり、お店を開いたりすること）することについておうかがいします。女性が起業して社会に出ていると思いますか。
 (○は1つ) 【新規設問】

「そう思う」の割合が36.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が30.5%、「そう思わない」の割合が29.2%となっています。



【性・年齢別】

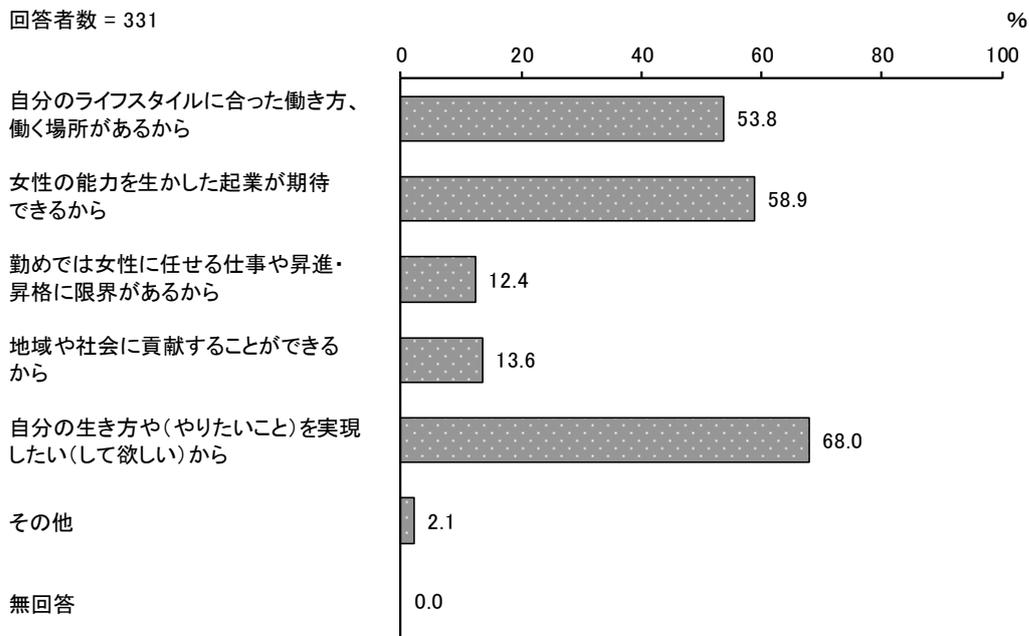
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性30歳代、男性40歳代で「そう思う」の割合が、男性70歳以上で「そう思わない」の割合が高くなっています。



問 15 で「そう思う」と回答した方におうかがいします。

問 15-1 その理由は何ですか。(○は3つまで) 【新規設問】

「自分の生き方や(やりたいこと)を実現したい(して欲しい)から」の割合が68.0%と最も高く、次いで「女性の能力を生かした起業が期待できるから」の割合が58.9%、「自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があるから」の割合が53.8%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性の能力を生かした起業が期待できるから」「自分の生き方や(やりたいこと)を実現したい(して欲しい)から」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があるから	女性の能力を生かした起業が期待できるから	勤めでは女性に任せる仕事や昇進・昇格に限界があるから	地域や社会に貢献することができるから	自分の生き方や(やりたいこと)を実現したい(して欲しい)から	その他	無回答
女性	183	53.6	61.7	13.7	14.8	74.9	2.7	—
男性	148	54.1	55.4	10.8	12.2	59.5	1.4	—

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 30 歳代で「自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があるから」の割合が、男性 60 歳代で「女性の能力を生かした起業が期待できるから」の割合が高くなっています。また、女性 70 歳以上で「地域や社会に貢献することができるから」「自分の生き方や（やりたいこと）を実現したい（して欲しい）から」の割合が高くなっています。

単位：%

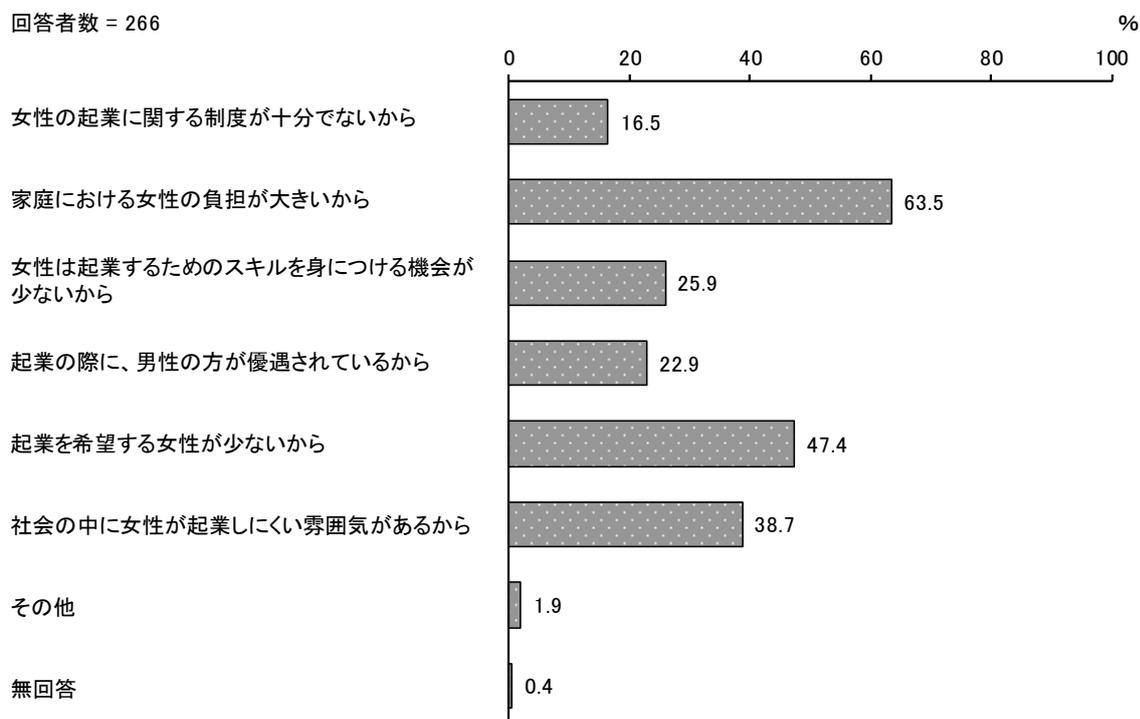
区分	回答者数（件）	自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があるから	女性の能力を生かした起業が期待できるから	勤めでは女性に任せる仕事や昇進・昇格に限界があるから	地域や社会に貢献することができるところから	自分の生き方や（やりたいこと）を実現したい（して欲しい）から	その他	無回答
女性 20 歳代	15	66.7	73.3	6.7	—	66.7	6.7	—
30 歳代	25	76.0	60.0	16.0	4.0	72.0	4.0	—
40 歳代	32	53.1	40.6	12.5	6.3	71.9	6.3	—
50 歳代	43	48.8	67.4	18.6	14.0	72.1	2.3	—
60 歳代	42	42.9	64.3	9.5	21.4	78.6	—	—
70 歳以上	25	52.0	68.0	16.0	36.0	84.0	—	—
男性 20 歳代	11	27.3	45.5	18.2	18.2	63.6	9.1	—
30 歳代	24	41.7	50.0	4.2	—	62.5	4.2	—
40 歳代	33	69.7	51.5	12.1	6.1	42.4	—	—
50 歳代	24	66.7	58.3	16.7	16.7	62.5	—	—
60 歳代	32	46.9	78.1	6.3	21.9	68.8	—	—
70 歳以上	24	54.2	37.5	12.5	12.5	62.5	—	—

問 15 で「そう思わない」と回答した方におうかがいします。

問 15-2 その理由は何ですか。(○は3つまで)

【新規設問】

「家庭における女性の負担が大きいから」の割合が 63.5%と最も高く、次いで「起業を希望する女性が少ないから」の割合が 47.4%、「社会の中に女性が起業しにくい雰囲気があるから」の割合が 38.7%となっています。



【性別】

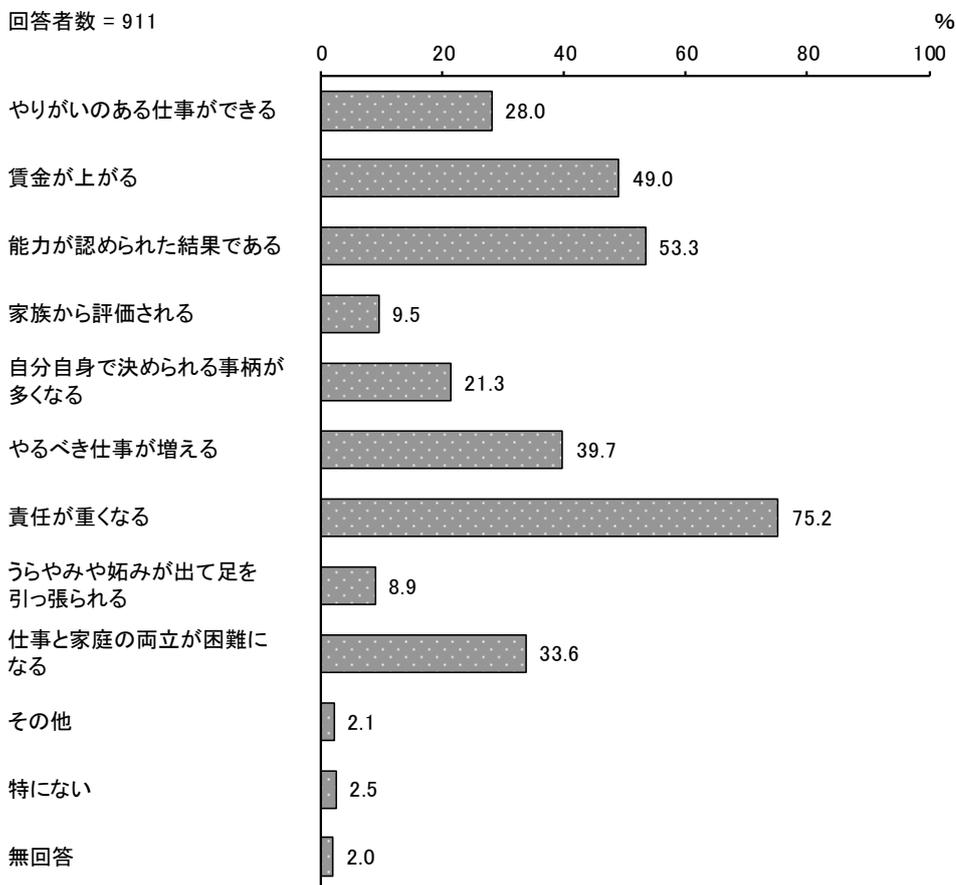
性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭における女性の負担が大きいから」「起業の際に、男性の方が優遇されているから」「社会の中に女性が起業しにくい雰囲気があるから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	女性の起業に関する制度が十分でないから	家庭における女性の負担が大きいから	女性は起業するためのスキルを身につける機会が少ないから	起業の際に、男性の方が優遇されているから	起業を希望する女性が少ないから	社会の中に女性が起業しにくい雰囲気があるから	その他	無回答
女性	131	15.3	70.2	24.4	29.8	45.0	42.0	0.8	0.8
男性	131	18.3	58.0	27.5	16.8	48.9	35.1	3.1	—

問 16 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも) 【新規設問】

「責任が重くなる」の割合が75.2%と最も高く、次いで「能力が認められた結果である」の割合が53.3%、「賃金が上がる」の割合が49.0%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「能力が認められた結果である」「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「家族から評価される」「自分自身で決められる事柄が多くなる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	やりがいのある仕事 ができる	賃金が上がる	能力が認められた結 果である	家族から評価される	自分自身で決められ る事柄が多くなる	やるべき仕事が増え る	責任が重くなる	うらやみや妬みが出 て足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が 困難になる	その他	特にない	無回答
女性	486	29.8	48.8	57.8	5.8	17.7	40.3	75.9	9.3	40.9	2.3	1.9	2.1
男性	417	26.1	48.7	48.7	14.1	25.4	39.3	74.3	8.6	25.4	1.9	3.1	1.9

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 60 歳代で「やりがいのある仕事ができる」の割合が、男性 20 歳代で「賃金が上がる」の割合が高くなっています。また、女性 30 歳代で「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が高くなっています。

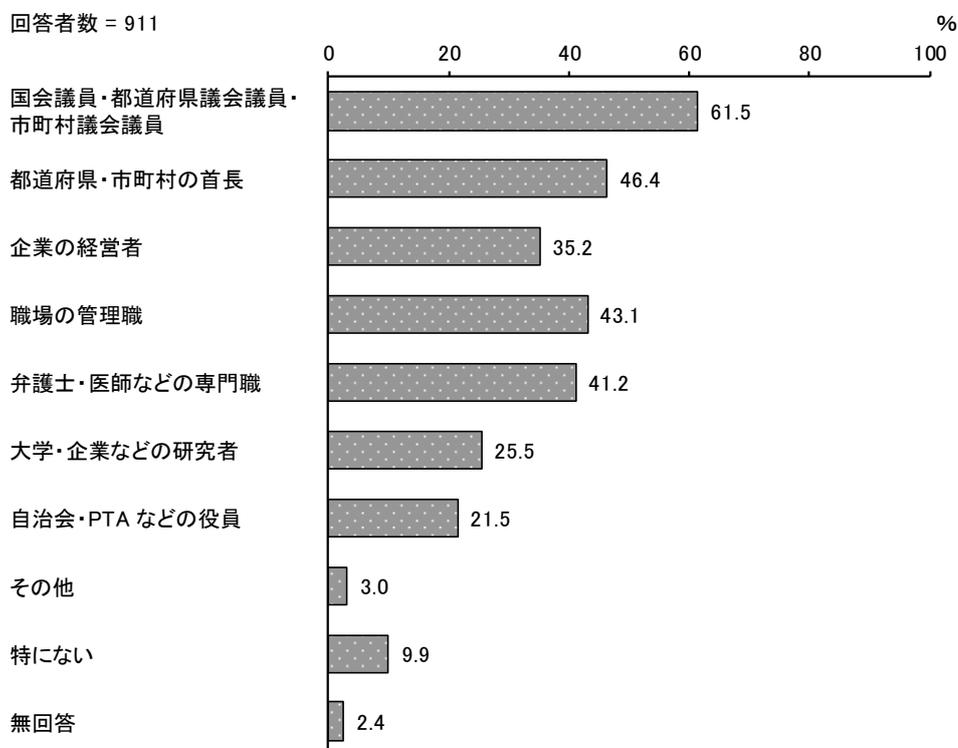
単位：%

区分	回答者数 (件)	やりがいのある仕事 ができる	賃金が上がる	能力が認められた結 果である	家族から評価される	自分自身で決められ る事柄が多くなる	やるべき仕事が増え る	責任が重くなる	うらやみや妬みが出 て足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が 困難になる	その他	特 に ない	無 回 答
女性 20 歳代	52	11.5	63.5	51.9	3.8	19.2	51.9	90.4	13.5	21.2	3.8	—	—
30 歳代	53	17.0	52.8	43.4	5.7	13.2	43.4	73.6	5.7	52.8	5.7	1.9	1.9
40 歳代	76	31.6	60.5	52.6	2.6	14.5	53.9	81.6	13.2	48.7	1.3	—	—
50 歳代	90	31.1	47.8	67.8	4.4	18.9	42.2	74.4	5.6	42.2	1.1	—	—
60 歳代	118	40.7	44.9	65.3	8.5	20.3	35.6	77.1	8.5	43.2	0.8	2.5	—
70 歳以上	95	31.6	33.7	55.8	7.4	17.9	26.3	64.2	10.5	33.7	3.2	5.3	9.5
男性 20 歳代	27	18.5	77.8	48.1	14.8	18.5	55.6	88.9	11.1	25.9	—	—	—
30 歳代	48	14.6	54.2	39.6	12.5	16.7	39.6	70.8	8.3	27.1	6.3	4.2	—
40 歳代	64	18.8	50.0	54.7	10.9	21.9	48.4	76.6	9.4	31.3	4.7	—	—
50 歳代	60	26.7	41.7	43.3	13.3	25.0	53.3	75.0	11.7	31.7	—	1.7	3.3
60 歳代	109	28.4	49.5	49.5	15.6	26.6	33.9	78.9	8.3	21.1	0.9	5.5	1.8
70 歳以上	109	34.9	41.3	51.4	15.6	32.1	27.5	66.1	6.4	22.0	0.9	3.7	3.7

問 17 女性の割合が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。(〇はいくつでも)

【新規設問】

「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」の割合が 61.5%と最も高く、次いで「都道府県・市町村の首長」の割合が 46.4%、「職場の管理職」の割合が 43.1%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「弁護士・医師などの専門職」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「自治会・PTA などの役員」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員	都道府県・市町村の首長	企業の経営者	職場の管理職	弁護士・医師などの専門職	大学・企業などの研究者	自治会・PTA などの役員	その他	特にない	無回答
女性	486	62.8	45.7	35.8	44.0	44.4	23.9	16.0	2.7	10.3	3.1
男性	417	59.7	47.2	34.5	42.0	37.2	27.1	27.6	3.4	9.6	1.7

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 50 歳代で「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」「弁護士・医師などの専門職」の割合が、女性 40 歳代で「都道府県・市町村の首長」「企業の経営者」の割合が高くなっています。

単位：%

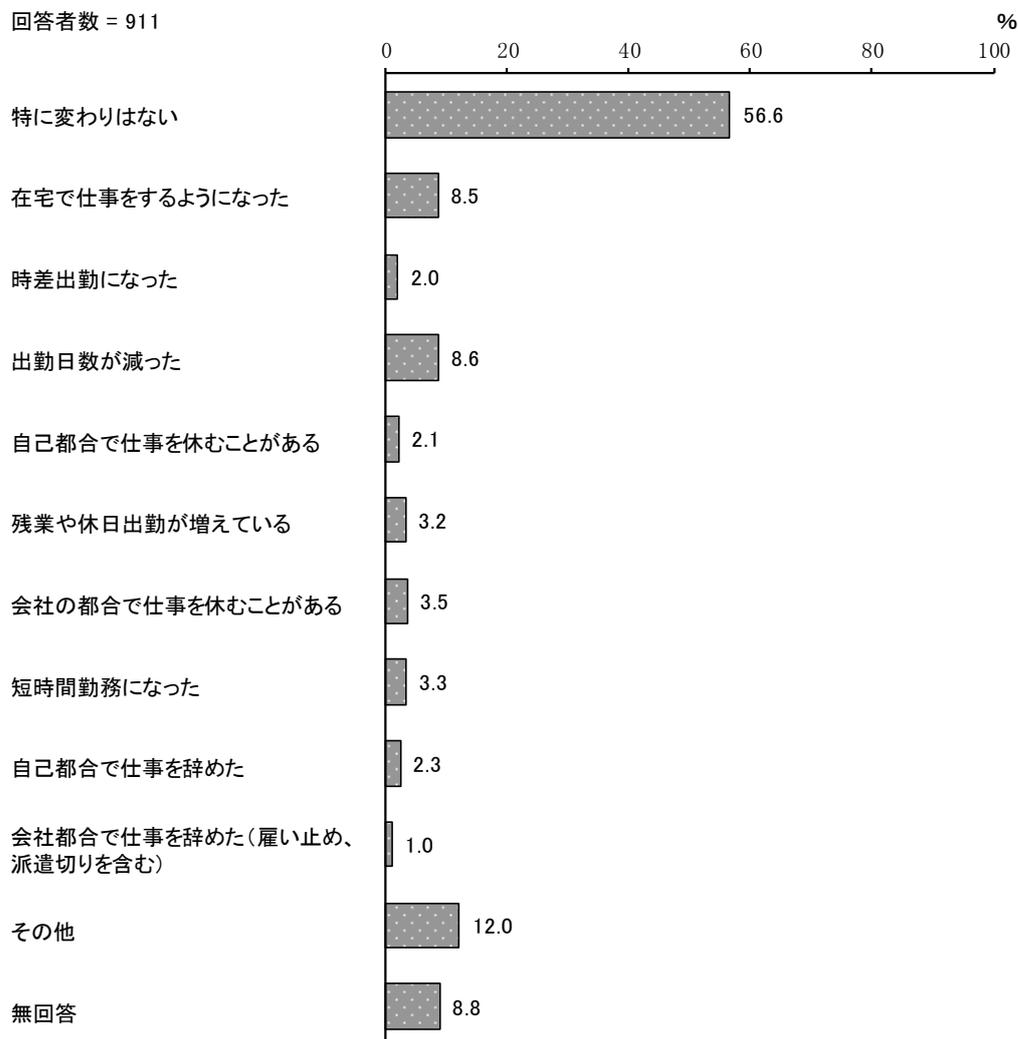
区分	回答者数 (件)	国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員	都道府県・市町村の首長	企業の経営者	職場の管理職	弁護士・医師などの専門職	大学・企業などの研究者	自治会・PTAなどの役員	その他	特にない	無回答
女性 20 歳代	52	65.4	38.5	28.8	44.2	46.2	21.2	13.5	1.9	11.5	1.9
30 歳代	53	62.3	45.3	35.8	35.8	47.2	22.6	13.2	7.5	9.4	1.9
40 歳代	76	67.1	63.2	50.0	51.3	51.3	30.3	14.5	1.3	7.9	—
50 歳代	90	65.6	51.1	36.7	45.6	38.9	27.8	14.4	1.1	10.0	3.3
60 歳代	118	59.3	38.1	36.4	47.5	39.8	16.9	16.1	0.8	11.0	4.2
70 歳以上	95	61.1	40.0	27.4	37.9	47.4	26.3	22.1	5.3	10.5	5.3
男性 20 歳代	27	59.3	25.9	37.0	48.1	37.0	22.2	25.9	—	18.5	—
30 歳代	48	45.8	47.9	27.1	43.8	29.2	20.8	31.3	4.2	14.6	—
40 歳代	64	57.8	50.0	37.5	32.8	35.9	25.0	28.1	4.7	10.9	—
50 歳代	60	71.7	55.0	41.7	46.7	55.0	31.7	31.7	5.0	5.0	1.7
60 歳代	109	58.7	42.2	39.4	45.0	30.3	26.6	22.9	1.8	9.2	1.8
70 歳以上	109	61.5	51.4	26.6	39.4	38.5	30.3	28.4	3.7	7.3	3.7

問 18 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの働き方は変わりましたか。
(〇はいくつでも)

【新規設問】

「特に変わりはない」の割合が 56.6%と最も高くなっています。

回答者数 = 911



< 「その他」意見より >

- ・一時的在宅勤務指示で仕事ができなかった。
- ・家事の負担が増えた。
- ・医療従事者であるため、給与に見合っていない結果となっている。
- ・オンライン会議が多くなった。 など

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「特に変わりはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	特に変わりはない	在宅で仕事をするようになった	時差出勤になった	出勤日数が減った	自己都合で仕事を休むことがある	残業や休日出勤が増えている	会社の都合で仕事を休むことがある	短時間勤務になった	自己都合で仕事を辞めた	会社都合で仕事を辞めた(雇い止め、派遣切りを含む)	その他	無回答
女性	486	53.3	6.4	1.6	7.6	2.3	3.5	2.5	4.1	3.1	0.8	14.0	11.5
男性	417	60.7	11.0	2.2	9.8	1.9	2.9	4.8	2.4	1.4	1.2	9.4	5.5

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性30歳代、男性40歳代で「特に変わりはない」の割合が、男性50歳代で「在宅で仕事をするようになった」の割合が高くなっています。また、男性20歳代で「出勤日数が減った」「会社の都合で仕事を休むことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	特に変わりはない	在宅で仕事をするようになった	時差出勤になった	出勤日数が減った	自己都合で仕事を休むことがある	残業や休日出勤が増えている	会社の都合で仕事を休むことがある	短時間勤務になった	自己都合で仕事を辞めた	会社都合で仕事を辞めた(雇い止め、派遣切りを含む)	その他	無回答
女性 20歳代	52	57.7	15.4	—	11.5	3.8	7.7	1.9	5.8	5.8	—	3.8	3.8
30歳代	53	62.3	7.5	1.9	9.4	7.5	1.9	3.8	5.7	1.9	—	11.3	5.7
40歳代	76	57.9	11.8	2.6	5.3	2.6	5.3	1.3	1.3	2.6	—	13.2	1.3
50歳代	90	60.0	5.6	4.4	14.4	2.2	4.4	5.6	5.6	3.3	2.2	6.7	3.3
60歳代	118	51.7	2.5	—	5.9	—	2.5	1.7	4.2	4.2	0.8	14.4	16.9
70歳以上	95	37.9	2.1	1.1	2.1	1.1	1.1	1.1	3.2	1.1	1.1	27.4	28.4
男性 20歳代	27	51.9	11.1	3.7	22.2	—	3.7	18.5	3.7	—	—	7.4	—
30歳代	48	70.8	10.4	—	10.4	2.1	2.1	2.1	2.1	4.2	2.1	4.2	—
40歳代	64	71.9	10.9	3.1	7.8	1.6	6.3	1.6	1.6	—	1.6	3.1	—
50歳代	60	53.3	21.7	1.7	16.7	1.7	6.7	3.3	3.3	—	—	5.0	5.0
60歳代	109	62.4	11.0	3.7	10.1	3.7	—	7.3	0.9	1.8	0.9	11.0	1.8
70歳以上	109	54.1	5.5	0.9	3.7	0.9	1.8	2.8	3.7	1.8	1.8	16.5	16.5

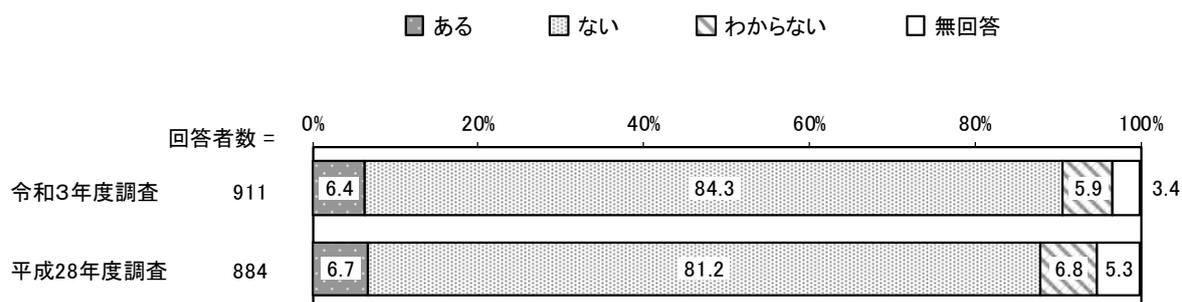
(6) 人権について

問 19 ここ5年の間に、職場・学校・地域活動（区会（自治会）、PTAなど）の場で、問 19-1の(ア)から(サ)のようなセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。

「ない」の割合が84.3%と最も高くなっています。

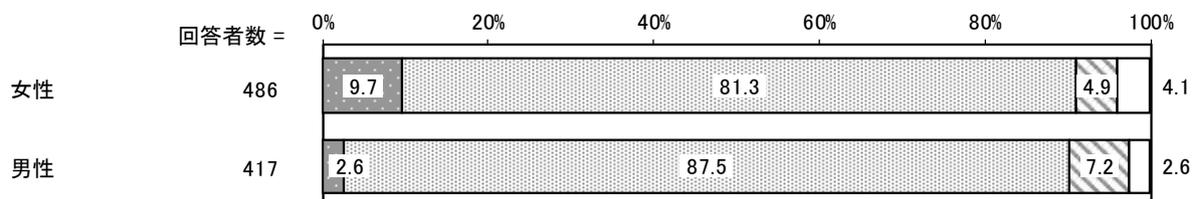
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



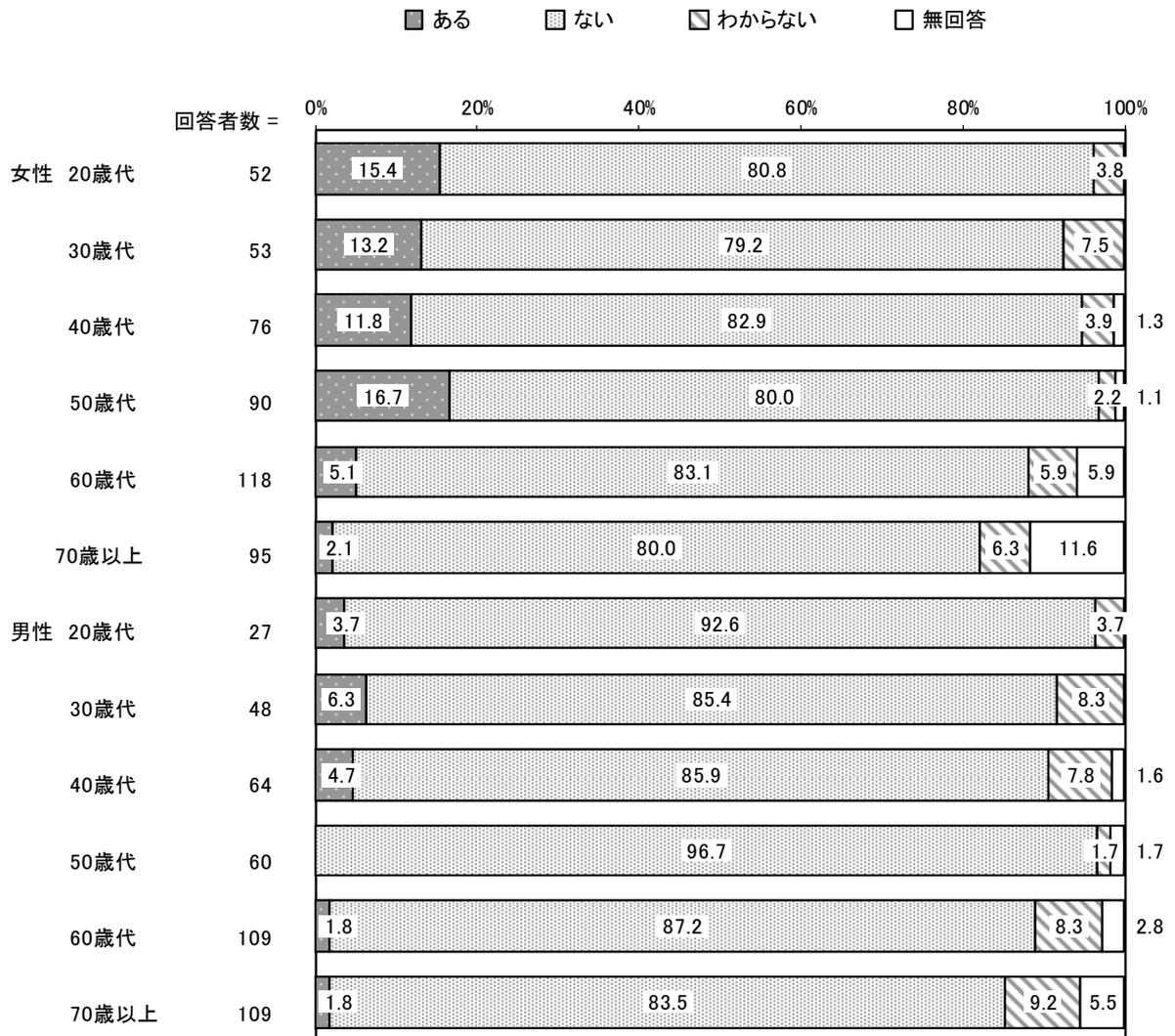
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「ない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

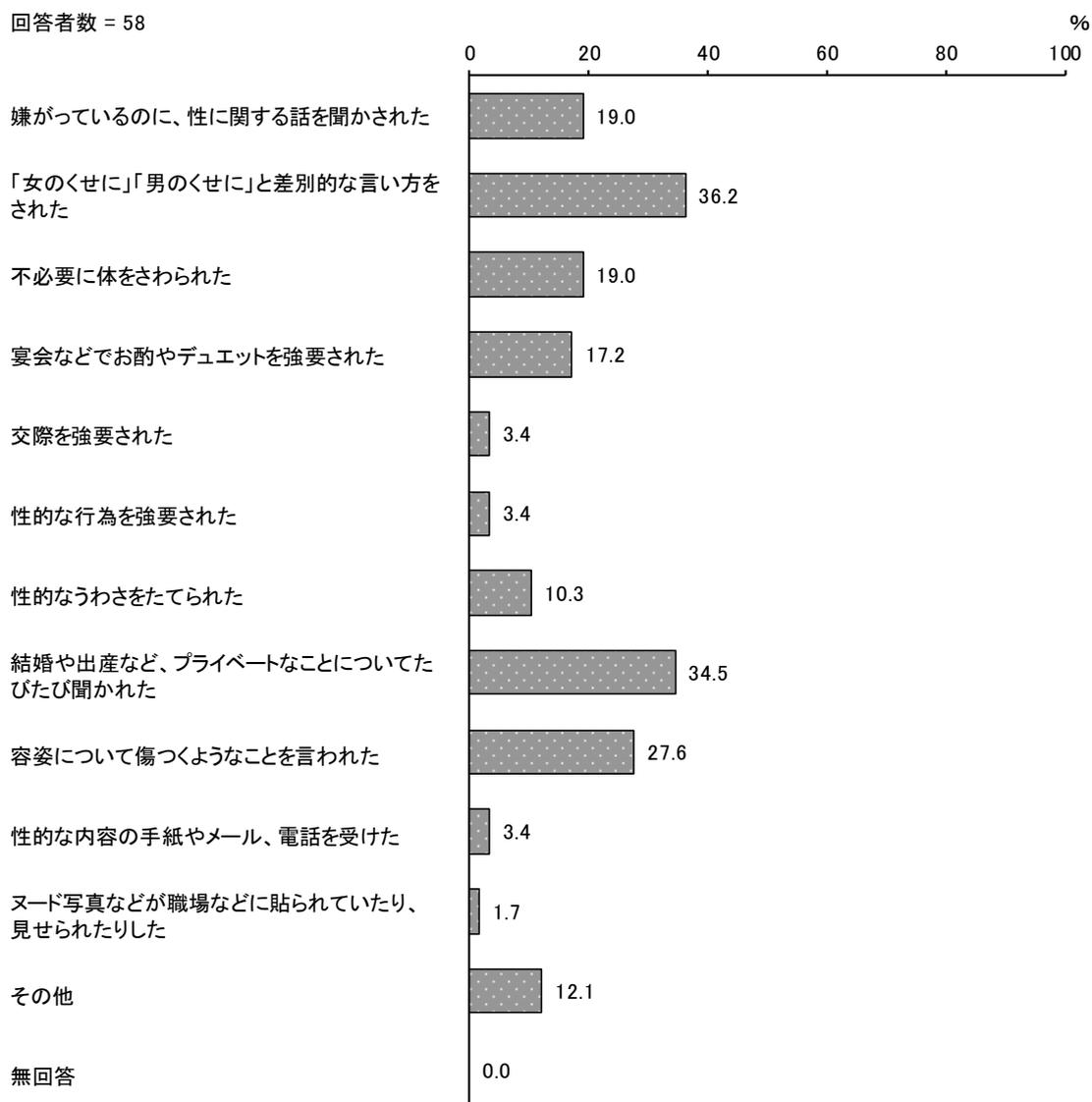
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 20 歳代、女性 30 歳代、女性 40 歳代、女性 50 歳代で「ある」の割合が、男性 50 歳代で「ない」の割合が高くなっています。



問 19 で「ある」と回答した方におうかがいします。

問 19-1 受けたことがあるものを選んでください。(〇はいくつでも)

「女のくせに」「男のくせに」と差別的な言い方をされた」の割合が 36.2%と最も高く、次いで「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」の割合が 34.5%、「容姿について傷つくようなことを言われた」の割合が 27.6%となっています。



< 「その他」意見より >

- ・男性社員の性的な遊びを写した写真をみせられて自慢された。
- ・職場で「(妻として)、家事してるのか、ご飯は何を作ってるのか。」など聞かれること。
- ・性的な内容の画像を見せられ「興味深いよね」と同意を求められた。 など

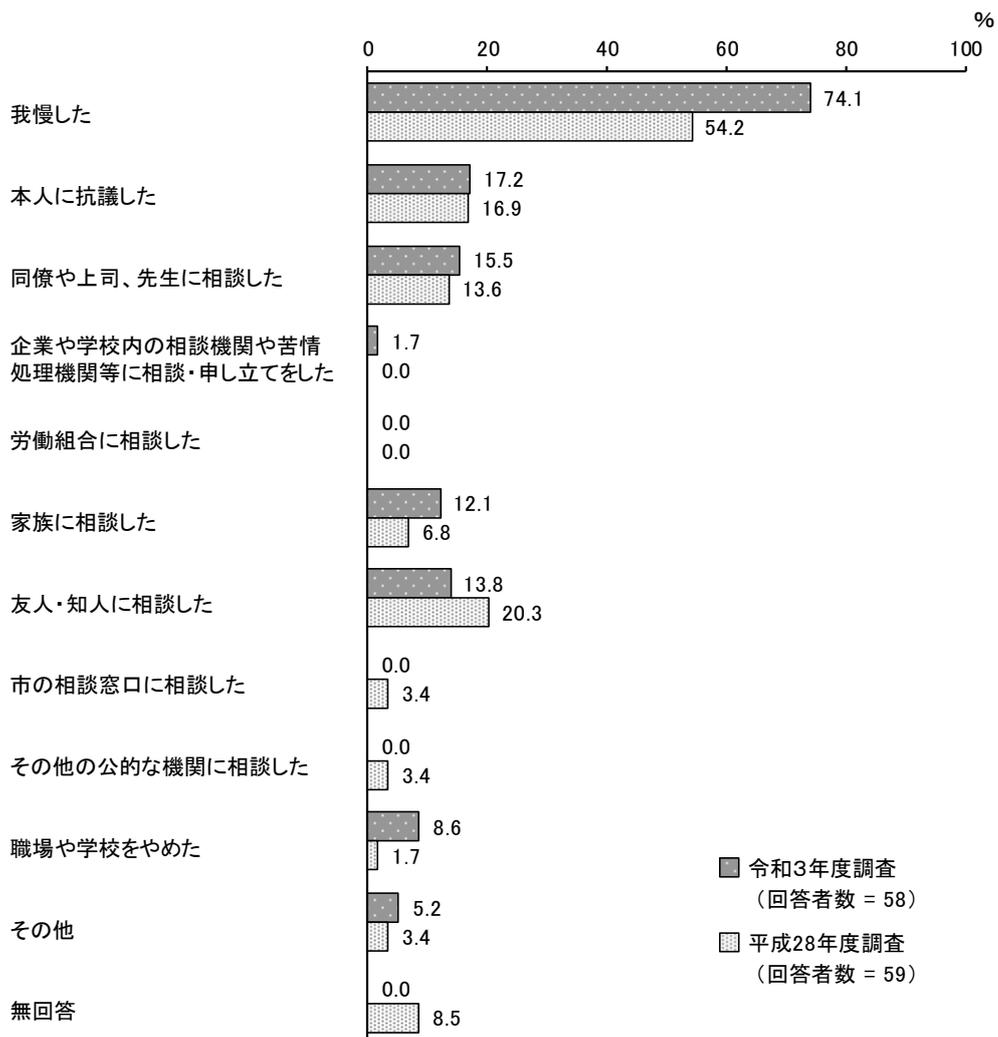
問 19 で「ある」と回答した方におうかがいします。

問 19-2 そのことについて、あなたはどうしましたか。(〇はいくつでも)

「我慢した」の割合が 74.1%と最も高く、次いで「本人に抗議した」の割合が 17.2%、「同僚や上司、先生に相談した」の割合が 15.5%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「我慢した」「家族に相談した」「職場や学校をやめた」の割合が増加しています。一方、「友人・知人に相談した」の割合が減少しています。



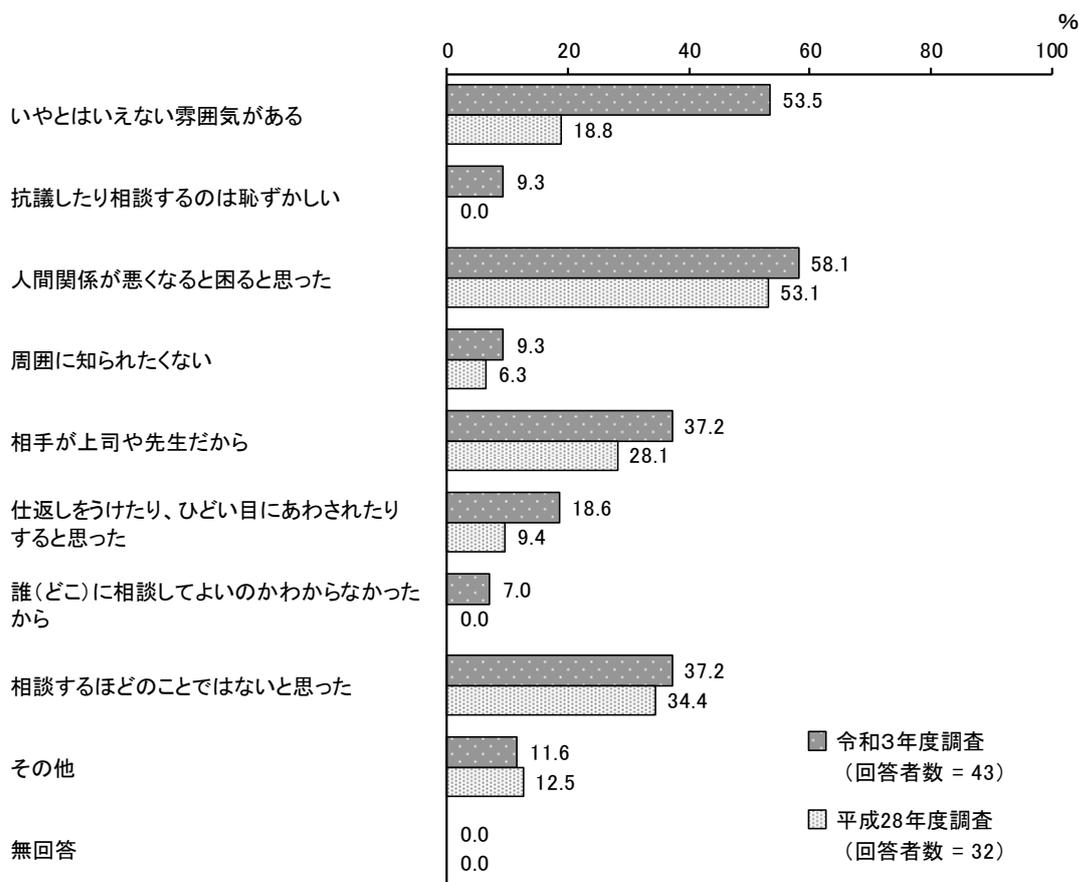
問 19-2 で「我慢した」と回答した方におうかがいします。

問 19-2-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「人間関係が悪くなると困ると思った」の割合が 58.1%と最も高く、次いで「いやとはいえない雰囲気がある」の割合が 53.5%、「相手が上司や先生だから」、「相談するほどのことではないと思った」の割合が 37.2%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「いやとはいえない雰囲気がある」「抗議したり相談するのは恥ずかしい」「相手が上司や先生だから」「仕返しをうけたり、ひどい目にあわされたりすると思った」「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから」の割合が増加しています。

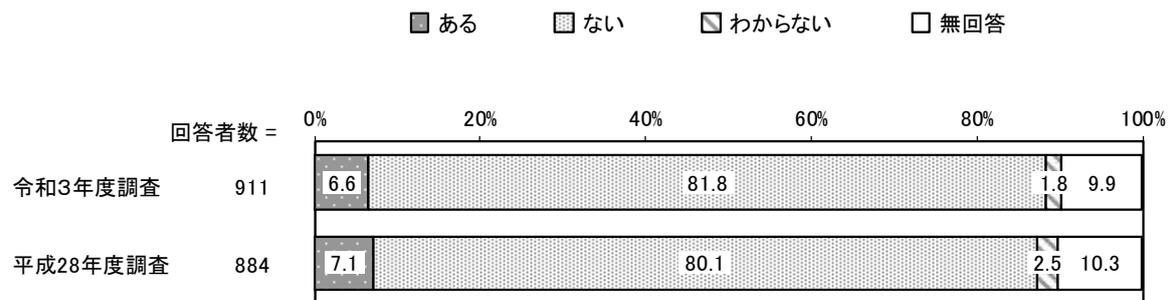


問 20 配偶者や恋人などから、様々な暴力行為を身体的または精神的に受けることをドメスティック・バイオレンスといいます。あなたは、ここ5年の間に、問20-1の(ア)から(コ)のような暴力を受けたことがありますか。(〇は1つ)

「ない」の割合が81.8%と最も高くなっています。

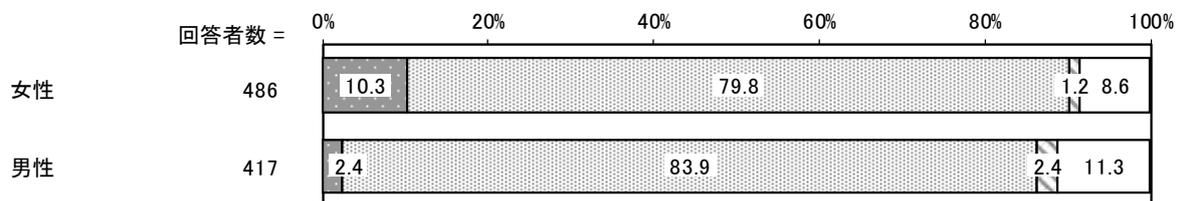
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



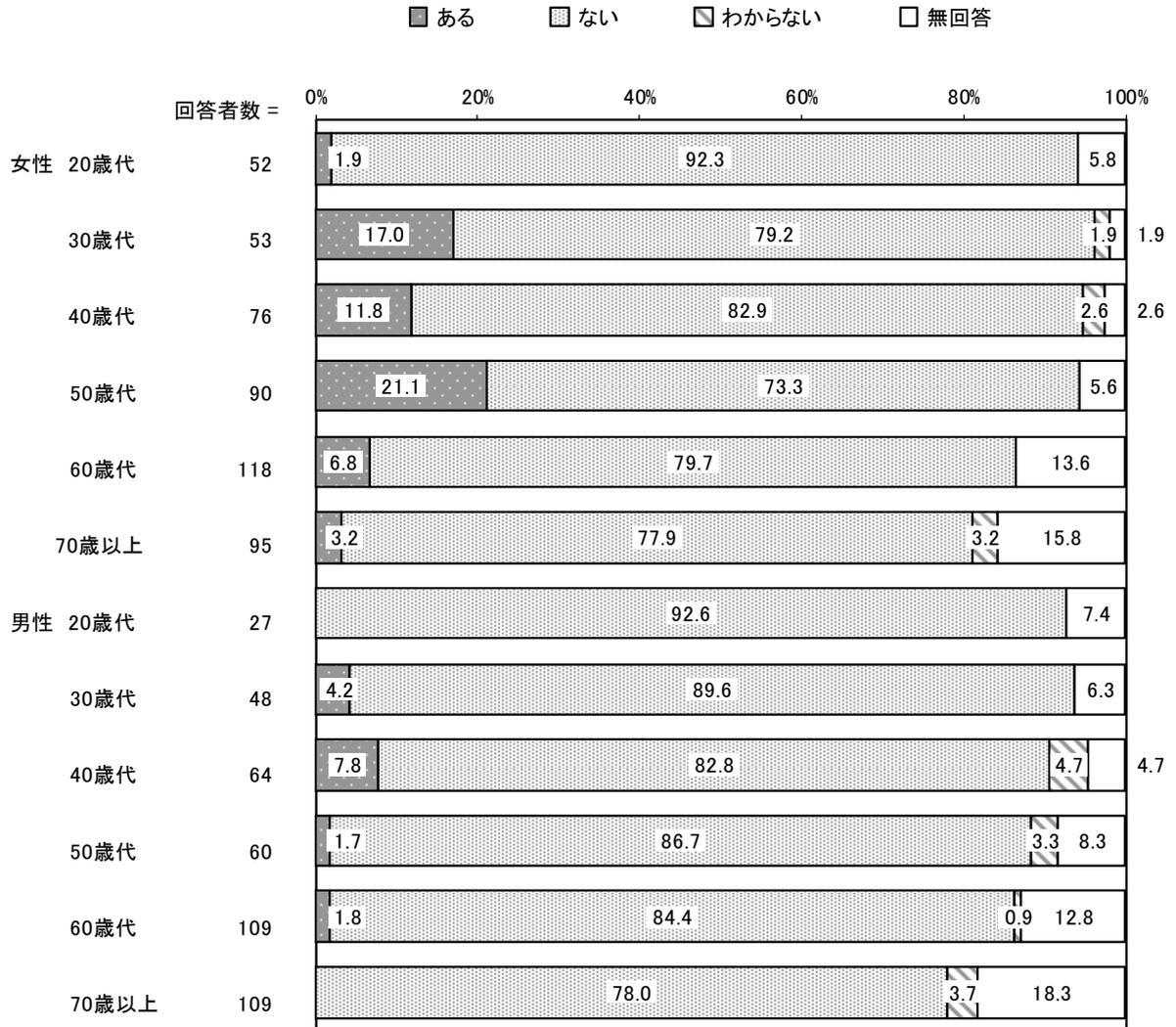
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 30 歳代、女性 40 歳代、女性 50 歳代で「ある」の割合が、男性 20 歳代、女性 20 歳代で「ない」の割合が高くなっています。



問 20 で「ある」と回答した方におうかがいします。

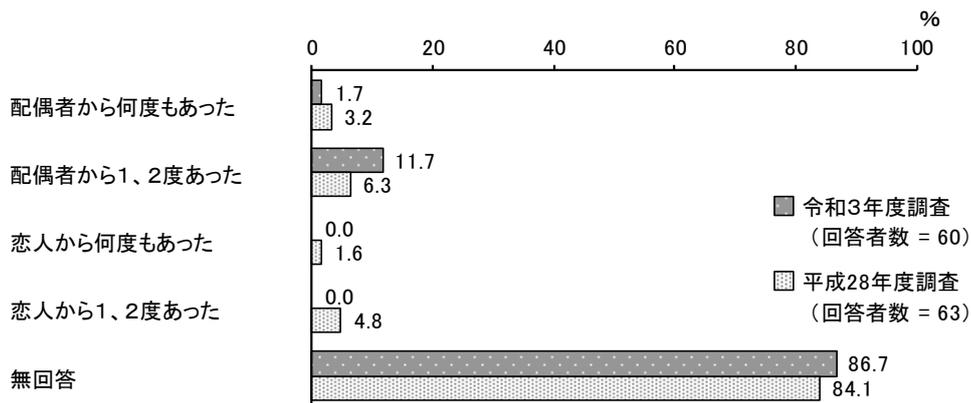
問 20-1 受けたことがあるものを（ア）～（サ）に○をつけてください。
（○はいくつでも）
また、誰からどれくらい受けましたか。1～4にそれぞれ○をつけてください。

（ア）大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる

「配偶者から1、2度あった」の割合が11.7%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「配偶者から1、2度あった」の割合が増加しています。

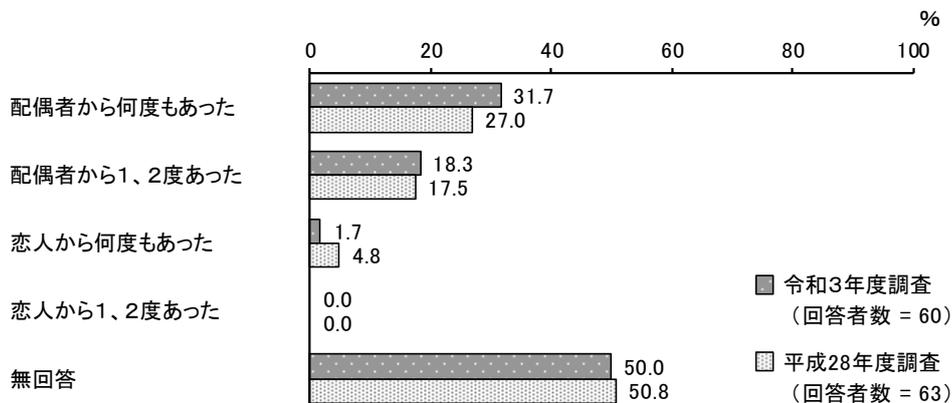


（イ）「ばかだ、役立たずだ」などと言われる

「配偶者から何度もあった」の割合が31.7%と最も高く、次いで「配偶者から1、2度あった」の割合が18.3%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

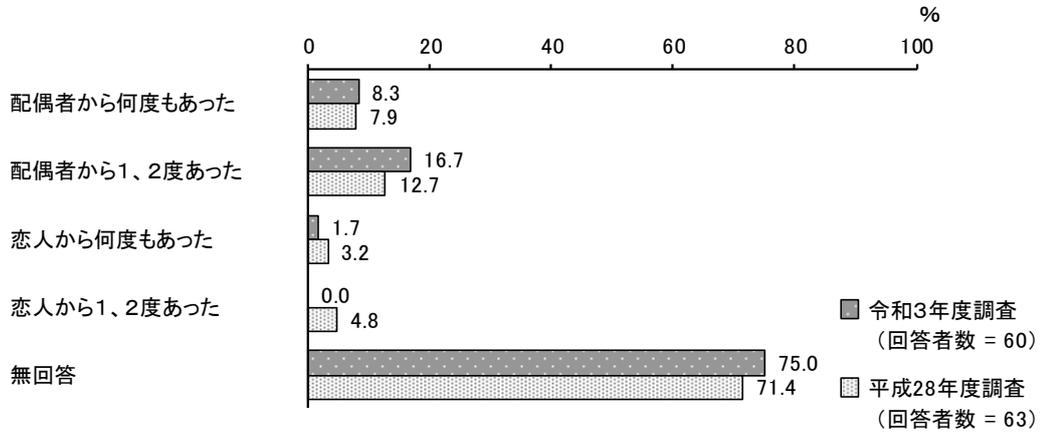


(ウ) 外出や人との付き合いを制限される

「配偶者から1、2度あった」の割合が16.7%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

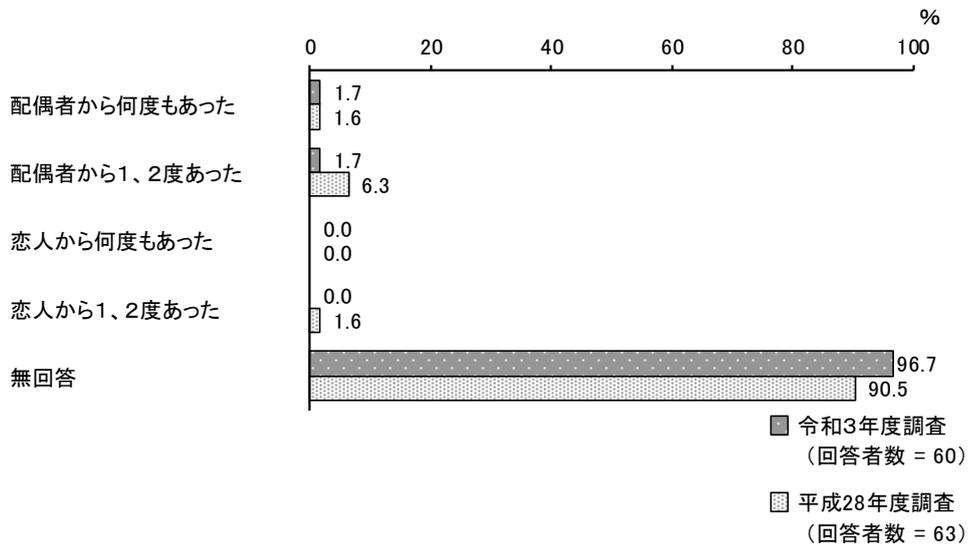


(エ) 身体を傷つける可能性のあるもので殴られる

「配偶者から何度もあった」、「配偶者から1、2度あった」の割合が1.7%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

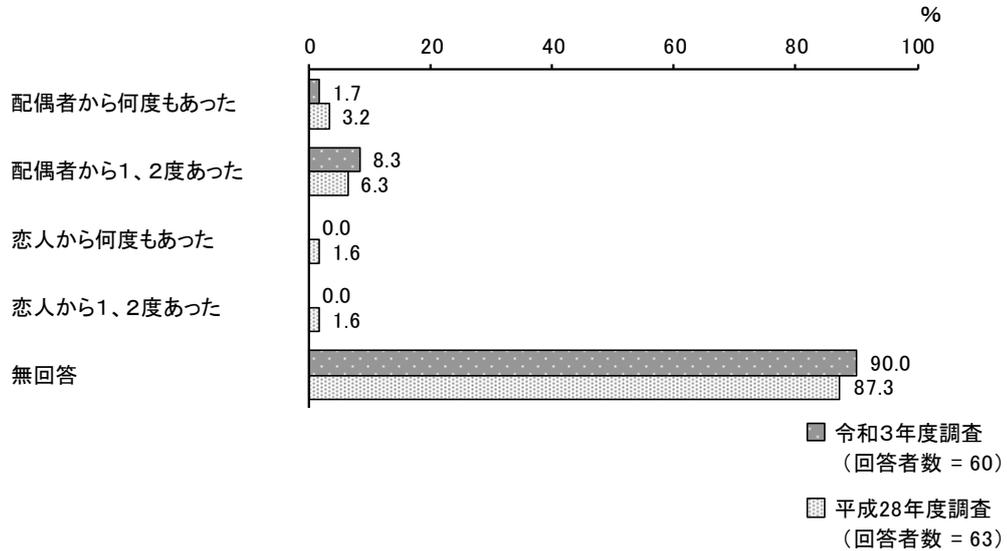


(オ) 平手で打たれる

「配偶者から1、2度あった」の割合が8.3%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

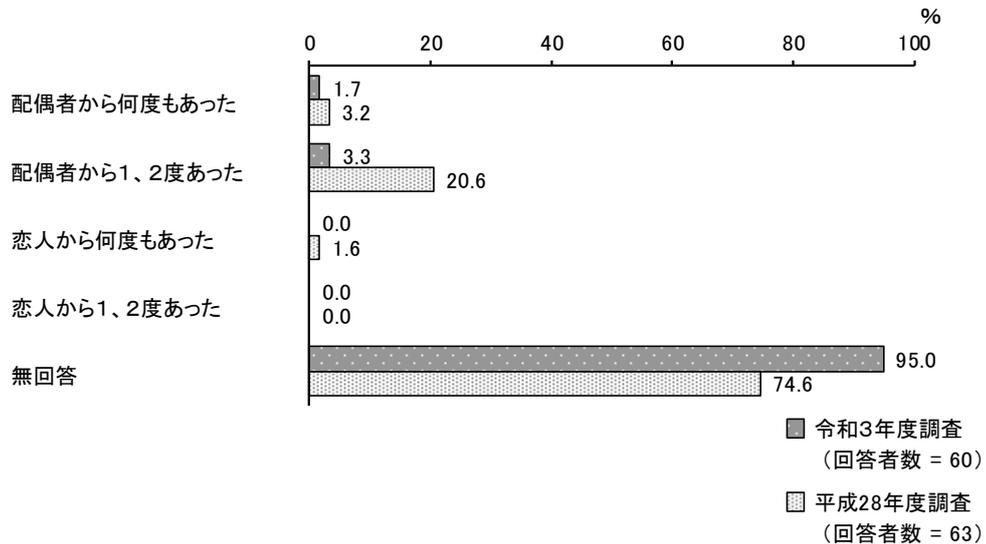


(カ) げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする

「配偶者から1、2度あった」の割合が3.3%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「配偶者から1、2度あった」の割合が減少しています。

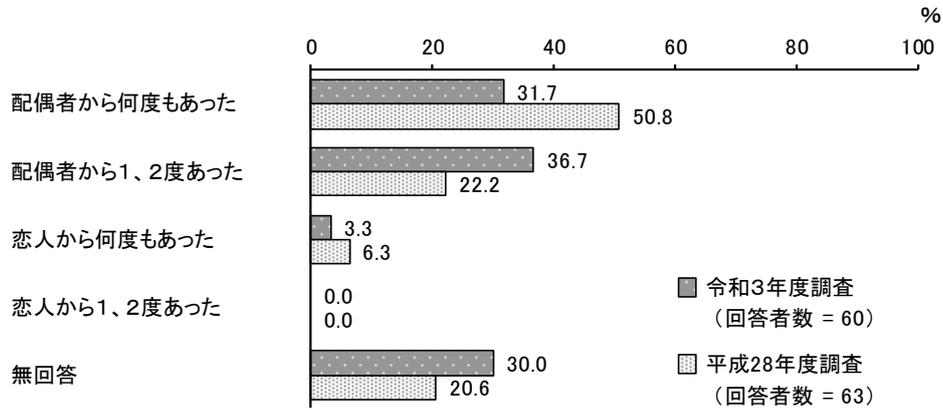


(キ) 大声でどなられたり、暴言を吐かれる

「配偶者から1、2度あった」の割合が36.7%と最も高く、次いで「配偶者から何度もあった」の割合が31.7%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「配偶者から1、2度あった」の割合が増加しています。一方、「配偶者から何度もあった」の割合が減少しています。

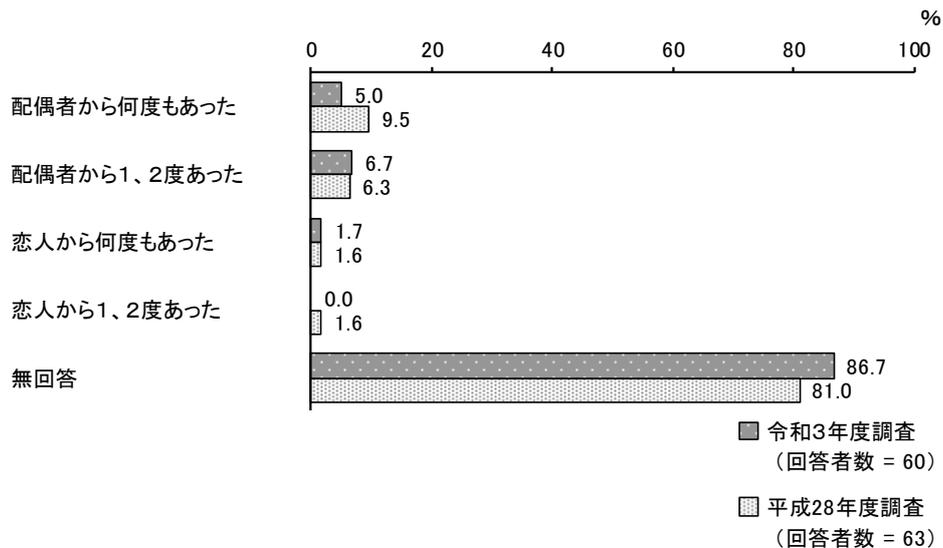


(ク) 嫌がっているのに性的行為を強要される

「配偶者から1、2度あった」の割合が6.7%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

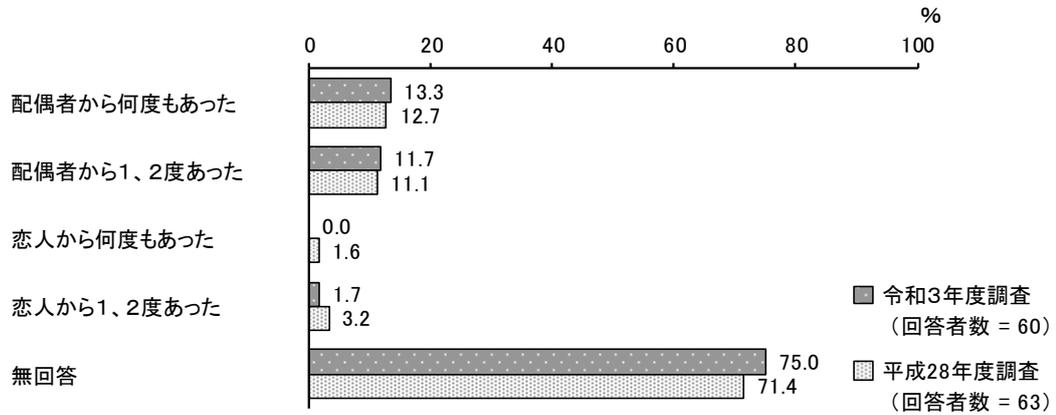


(ケ) 何を言っても無視され続ける

「配偶者から何度もあった」の割合が 13.3%と最も高く、次いで「配偶者から 1、2度あった」の割合が 11.7%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

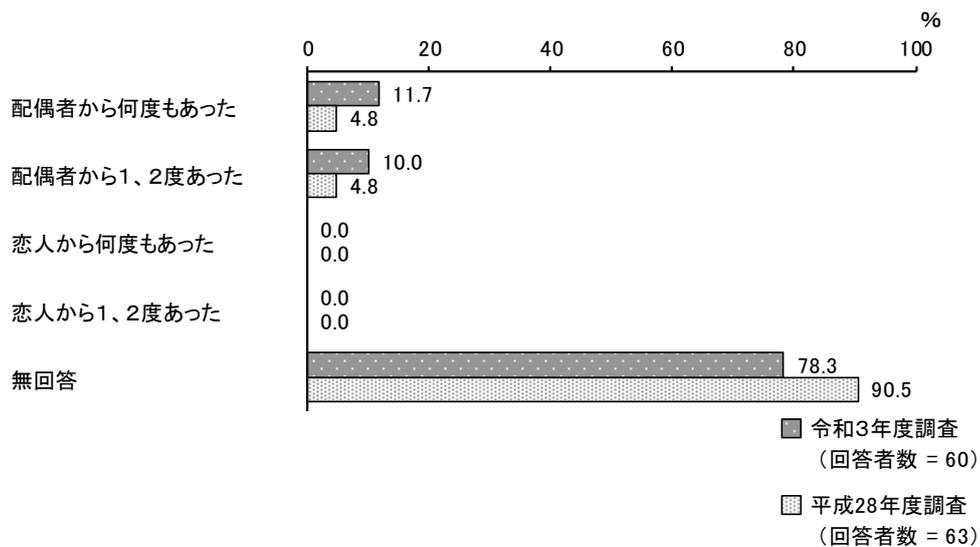


(コ) 生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる

「配偶者から何度もあった」の割合が 11.7%と最も高く、次いで「配偶者から 1、2度あった」の割合が 10.0%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「配偶者から何度もあった」「配偶者から 1、2度あった」の割合が増加しています。

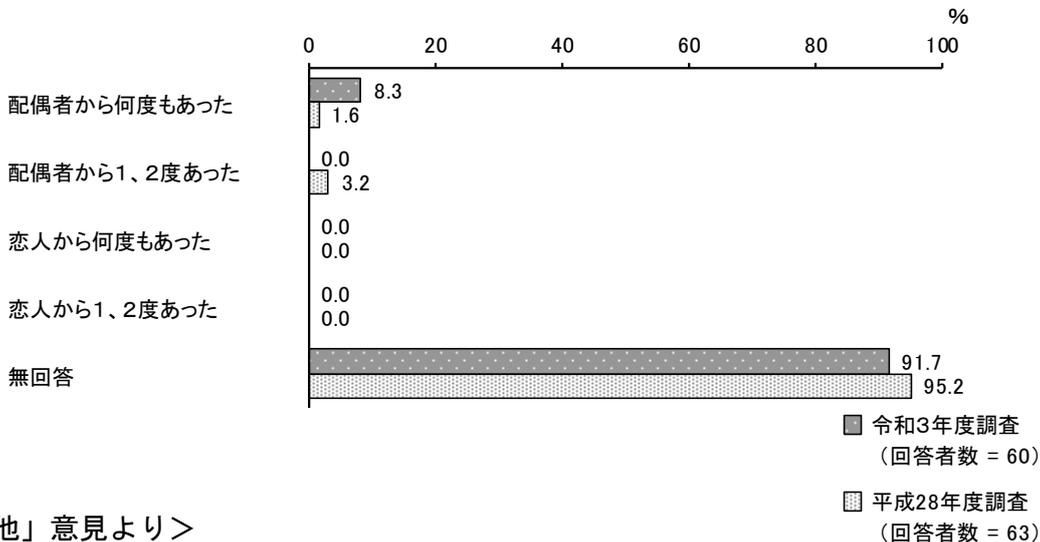


(サ) その他

「配偶者から何度もあった」の割合が8.3%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「配偶者から何度もあった」の割合が増加しています。



< 「その他」意見より >

- ・ 固定観念を押しつけられる
- ・ 希望の性別の子どもを産まないことをなじられる
- ・ 物をこわすなどの威嚇 など

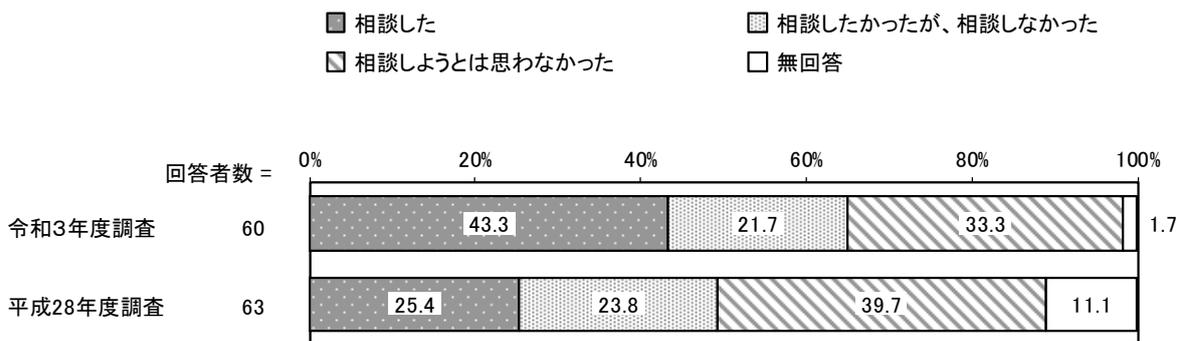
問20で「ある」と回答した方におうかがいします。

問20-2 あなたは、これまでに受けたそのような行為を誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。

「相談した」の割合が43.3%と最も高く、次いで「相談しようとは思わなかった」の割合が33.3%、「相談したかったが、相談しなかった」の割合が21.7%となっています。

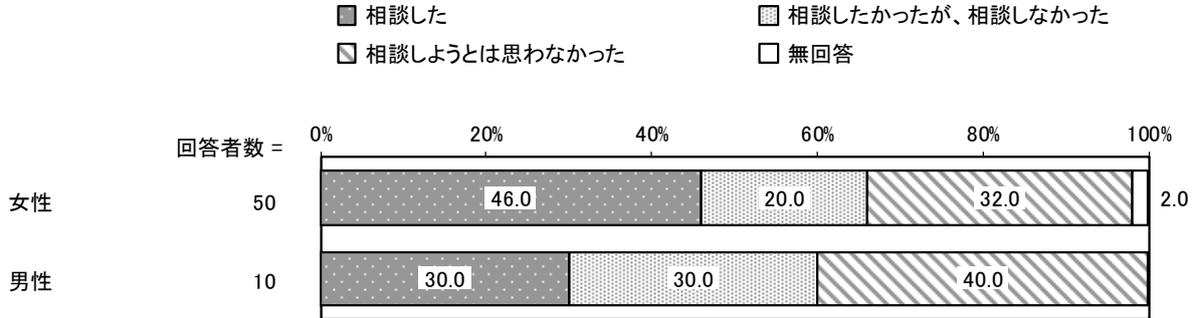
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「相談した」の割合が増加しています。一方、「相談しようとは思わなかった」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「相談した」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「相談したかったが、相談しなかった」「相談しようとは思わなかった」の割合が高くなっています。



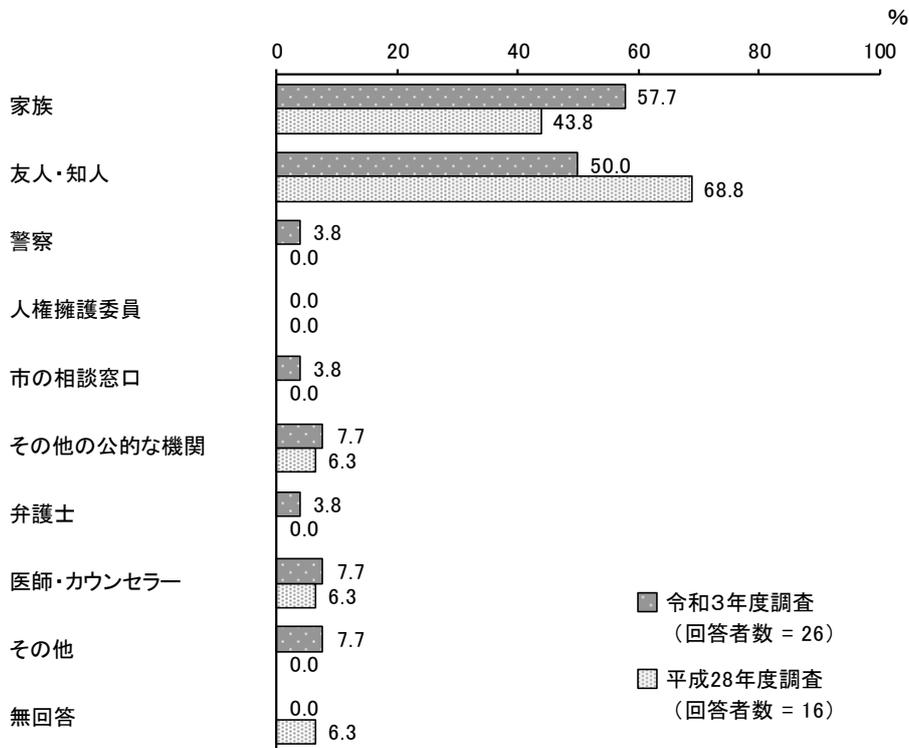
問 20-2 で「相談した」と回答した方におうかがいします。

問 20-2-1 誰（どこ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

「家族」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 50.0%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「家族」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」の割合が減少しています。



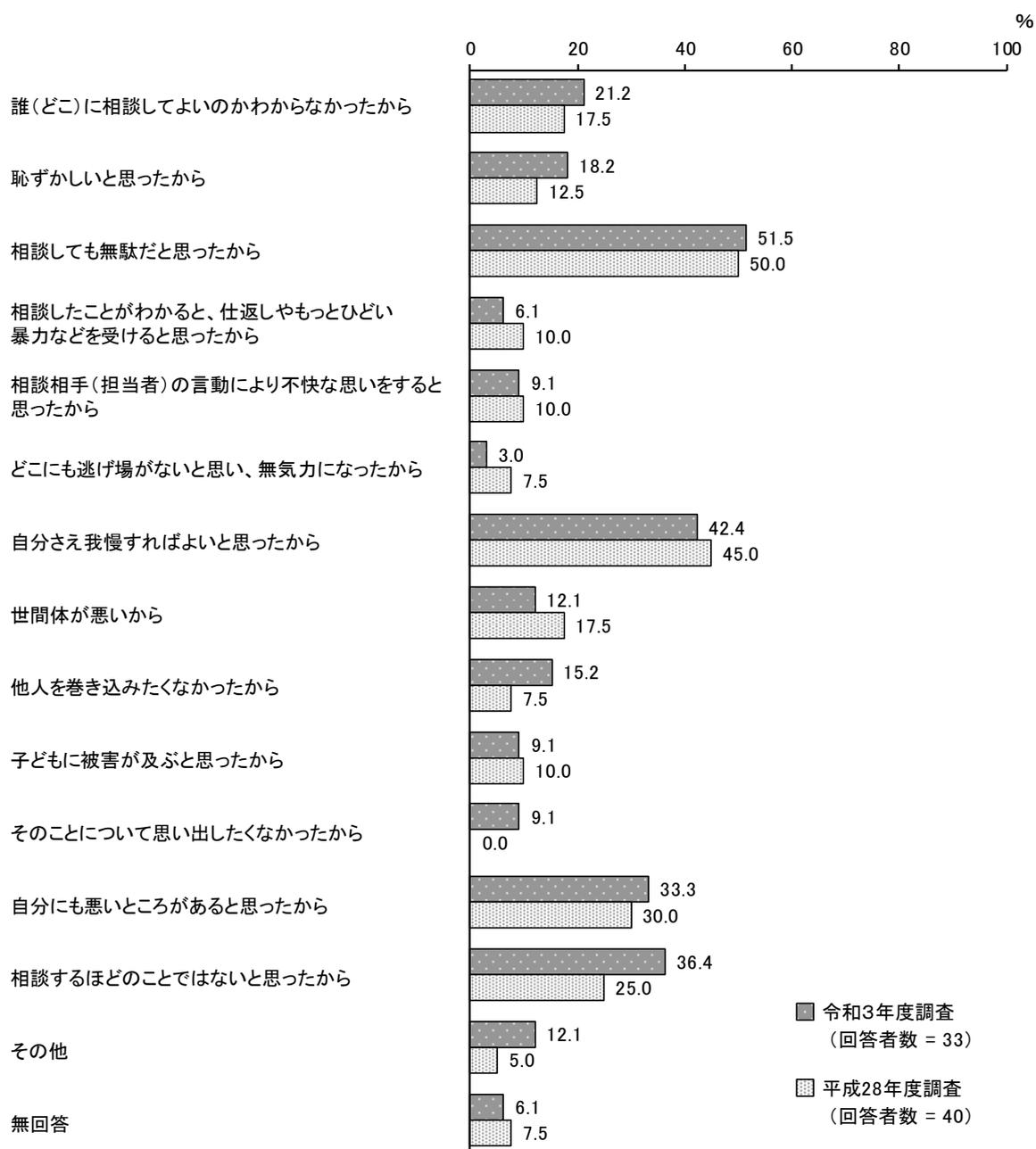
問 20-2 で「相談しなかった」「相談しようとは思わなかった」方におうかがいします。

問 20-3 相談しなかったのはどうしてですか。(〇はいくつでも)

「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればよいと思ったから」の割合が 42.4%、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 36.4%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「恥ずかしいと思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」「そのことについて思い出したくなかったから」「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が増加しています。一方、「世間体が悪いから」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男女とも「相談しても無駄だと思ったから」の割合が最も高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしいと思ったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しやもつとひどい暴力などを受けると思ったから	相談相手(担当者)の言動により不快な思いをすと思ったから	どこにも逃げ場がないと思い、無気力になったから	自分さえ我慢すればよいと思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	子どもに被害が及ぶと思ったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思っただから	その他	無回答
女性	26	19.2	11.5	46.2	7.7	11.5	3.8	38.5	15.4	19.2	3.8	11.5	23.1	34.6	15.4	7.7
男性	7	28.6	42.9	71.4	—	—	—	57.1	—	—	28.6	—	71.4	42.9	—	—

問 21 あなたは、次の言葉について聞いたことがありますか。また意味を知っていますか。下記項目は、それぞれ別の表記をする場合もありますが、それらを含めて教えてください。(〇はそれぞれ1つ) 【新規設問】

『セクシュアル・マイノリティ、性的少数者』『LGBT、LGBTQ等』『カミングアウト』『性自認、性同一性、性別違和』『性的指向』の項目で、「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。一方、『アウティング』『SOGI(ソジ、ソギ)』『アライ(Ally)』の項目で、「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。

- 言葉を聞いているし、意味も知っている
- ▨ 言葉を聞いているが、意味は知らない
- ▩ 言葉を聞いたことがないし、意味も知らない
- 無回答

回答者数 = 911

(1) セクシュアル・マイノリティ、性的少数者

(2) LGBT、LGBTQ等

(3) カミングアウト

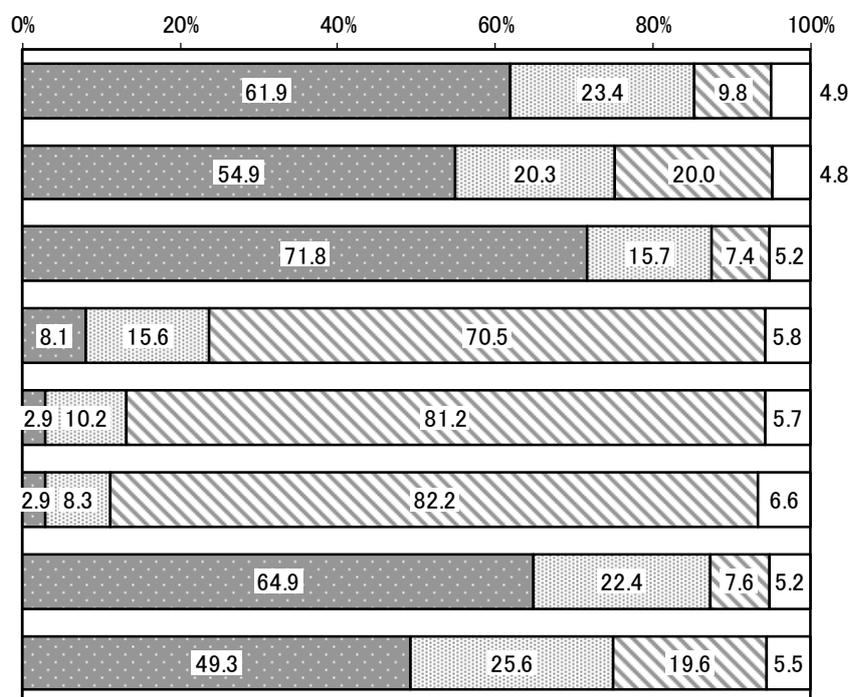
(4) アウティング

(5) SOGI(ソジ、ソギ)

(6) アライ(Ally)

(7) 性自認、性同一性、性別違和

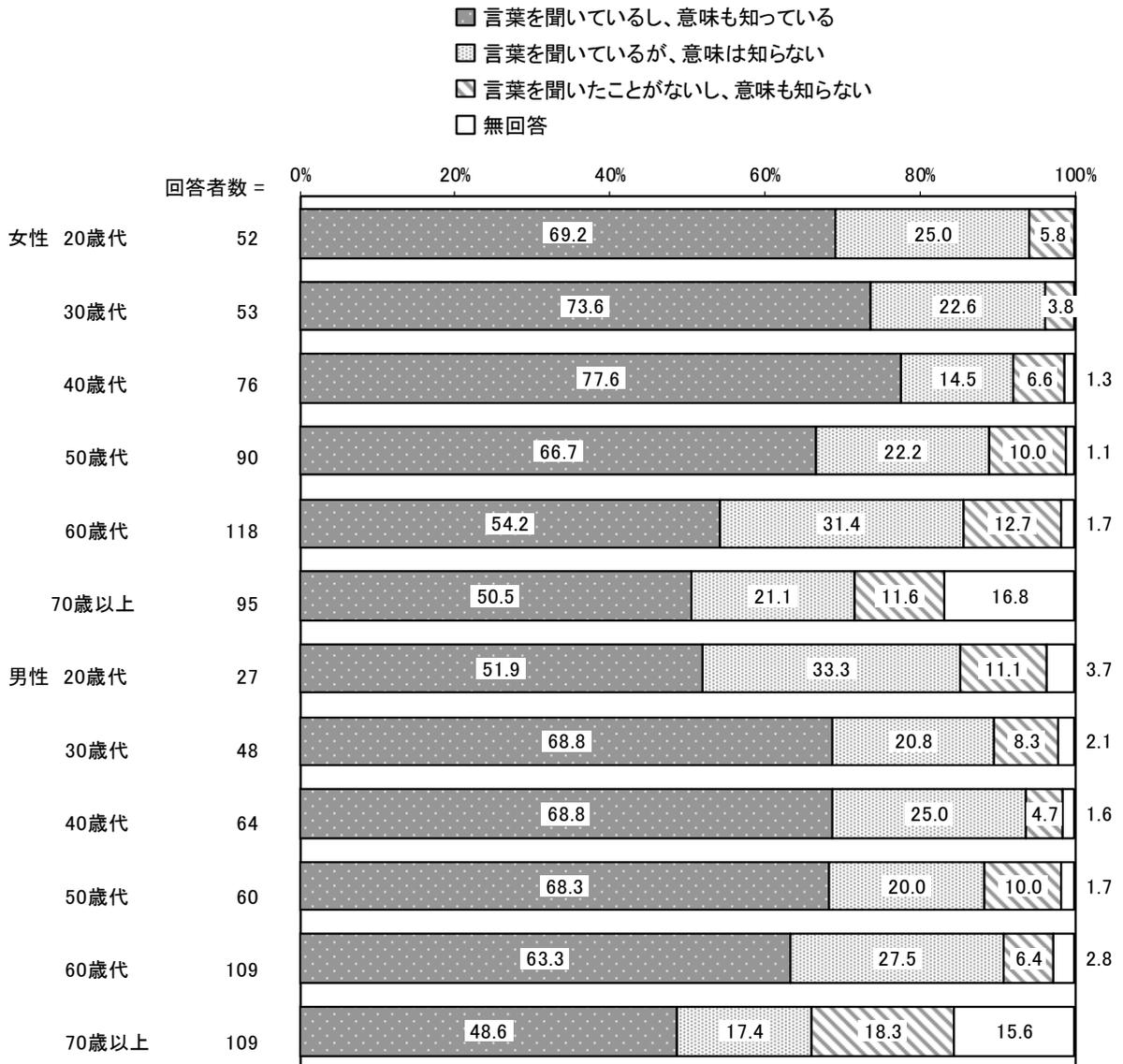
(8) 性的指向



(1) セクシュアル・マイノリティ、性的少数者

【性・年齢別】

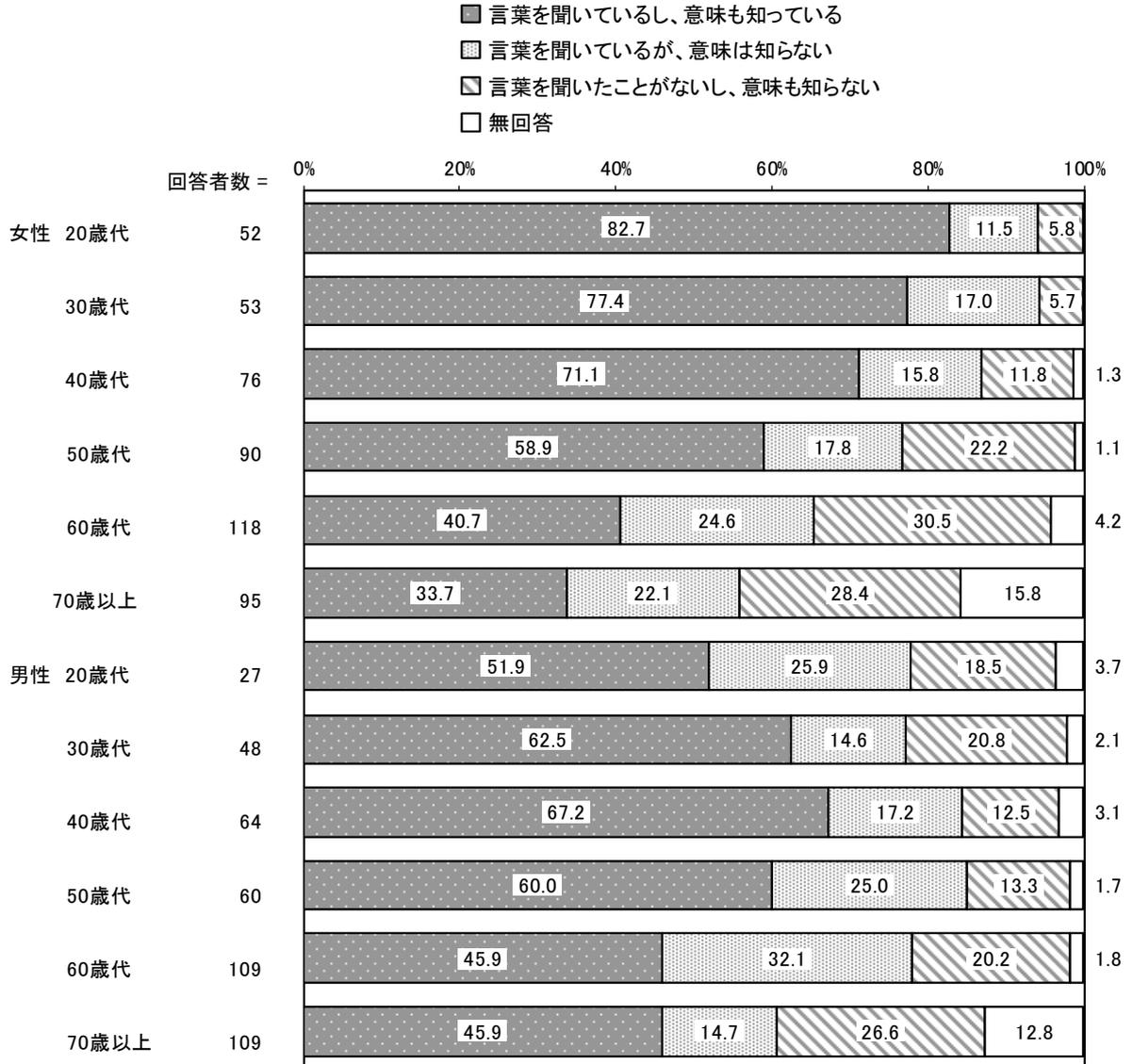
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 30 歳代、女性 40 歳代で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が、女性 60 歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。また、男性 70 歳以上で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



(2) LGBT、LGBTQ等

【性・年齢別】

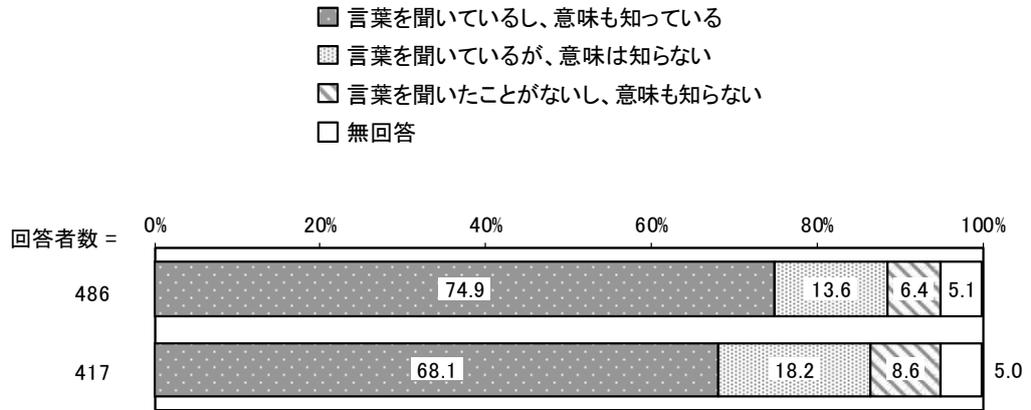
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性で年齢が上がるにつれ「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が低くなっています。また、男性60歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



(3) カミングアウト

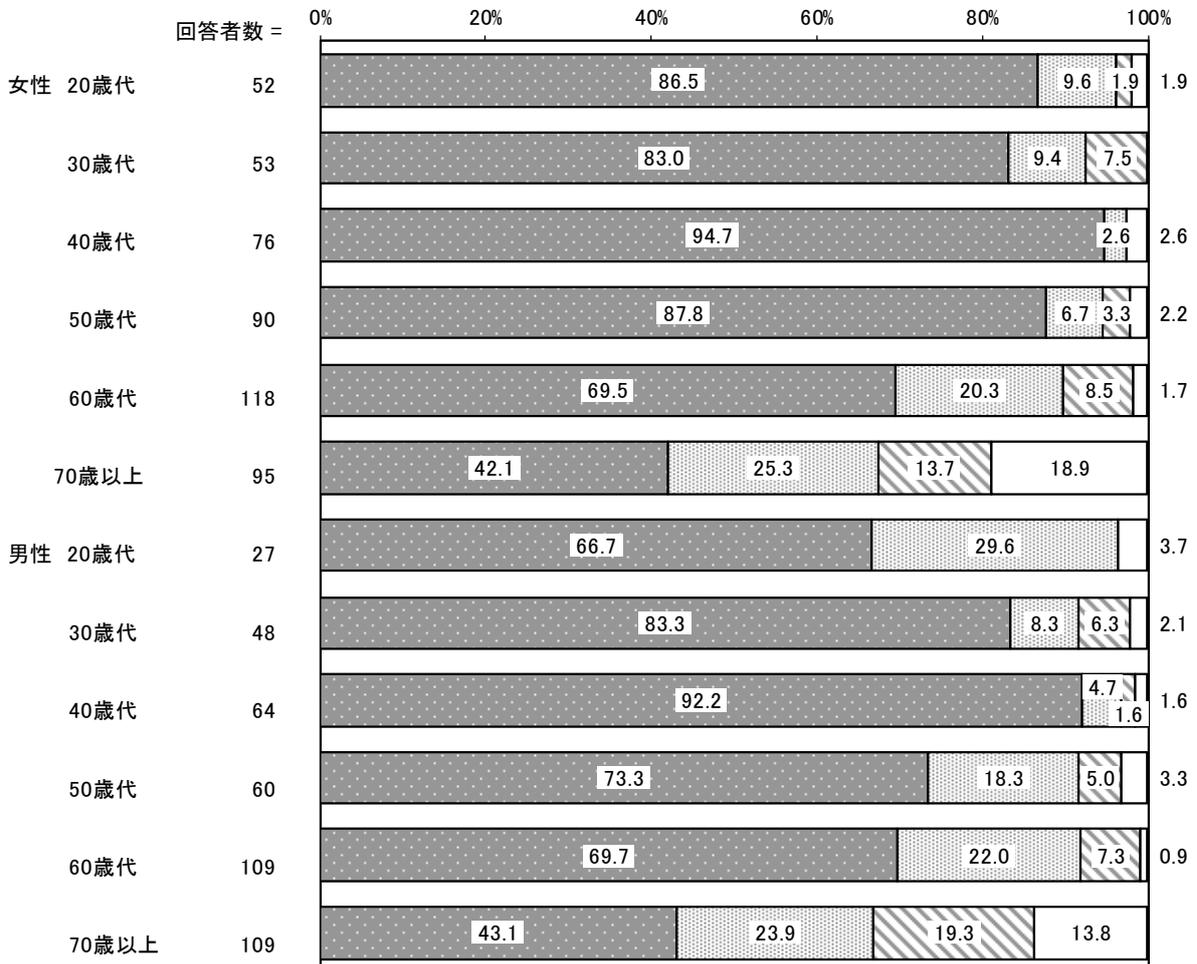
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

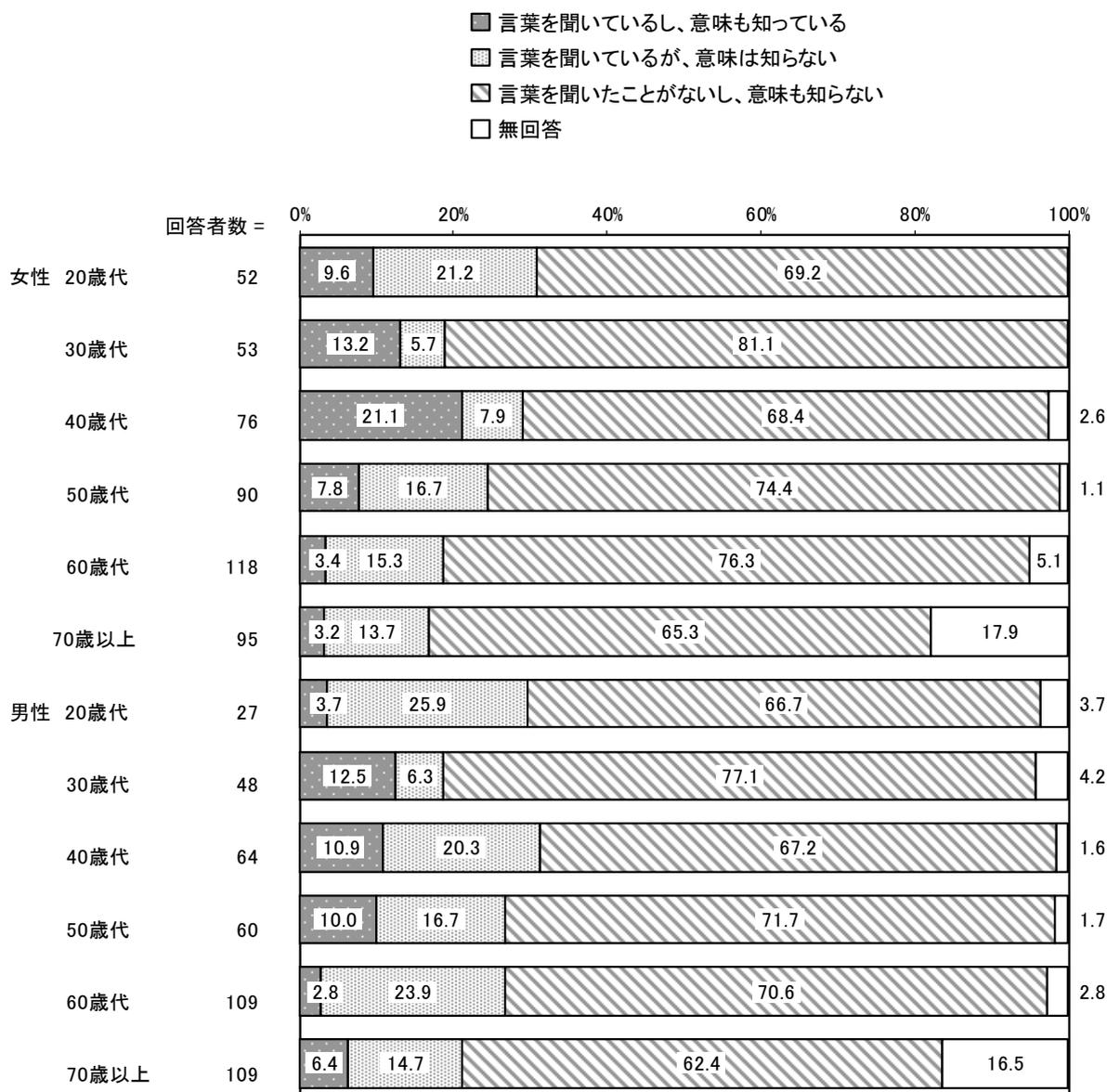
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性40歳代、男性40歳代で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が、男性20歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。また、男性70歳以上で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



(4) アウティング

【性・年齢別】

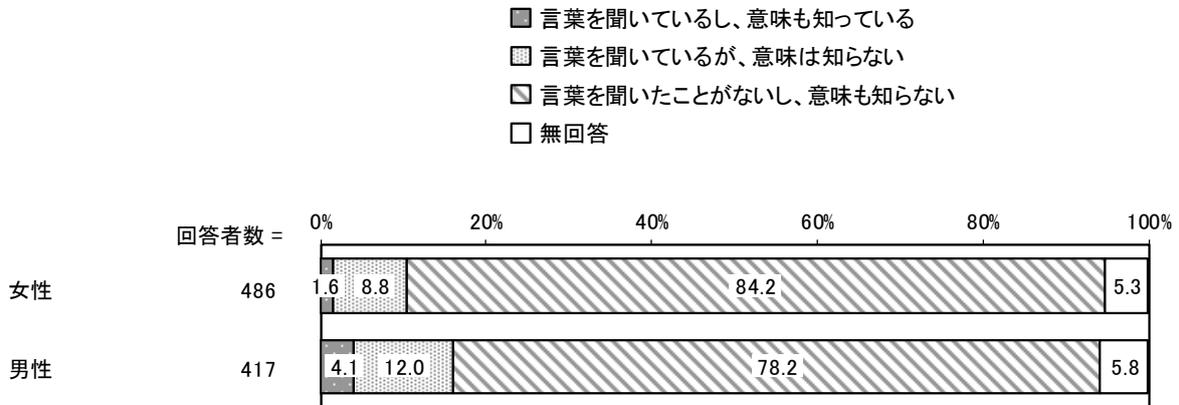
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 40 歳代で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が、男性 20 歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。また、女性 30 歳代で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



(5) SOGI (ソジ、ソギ)

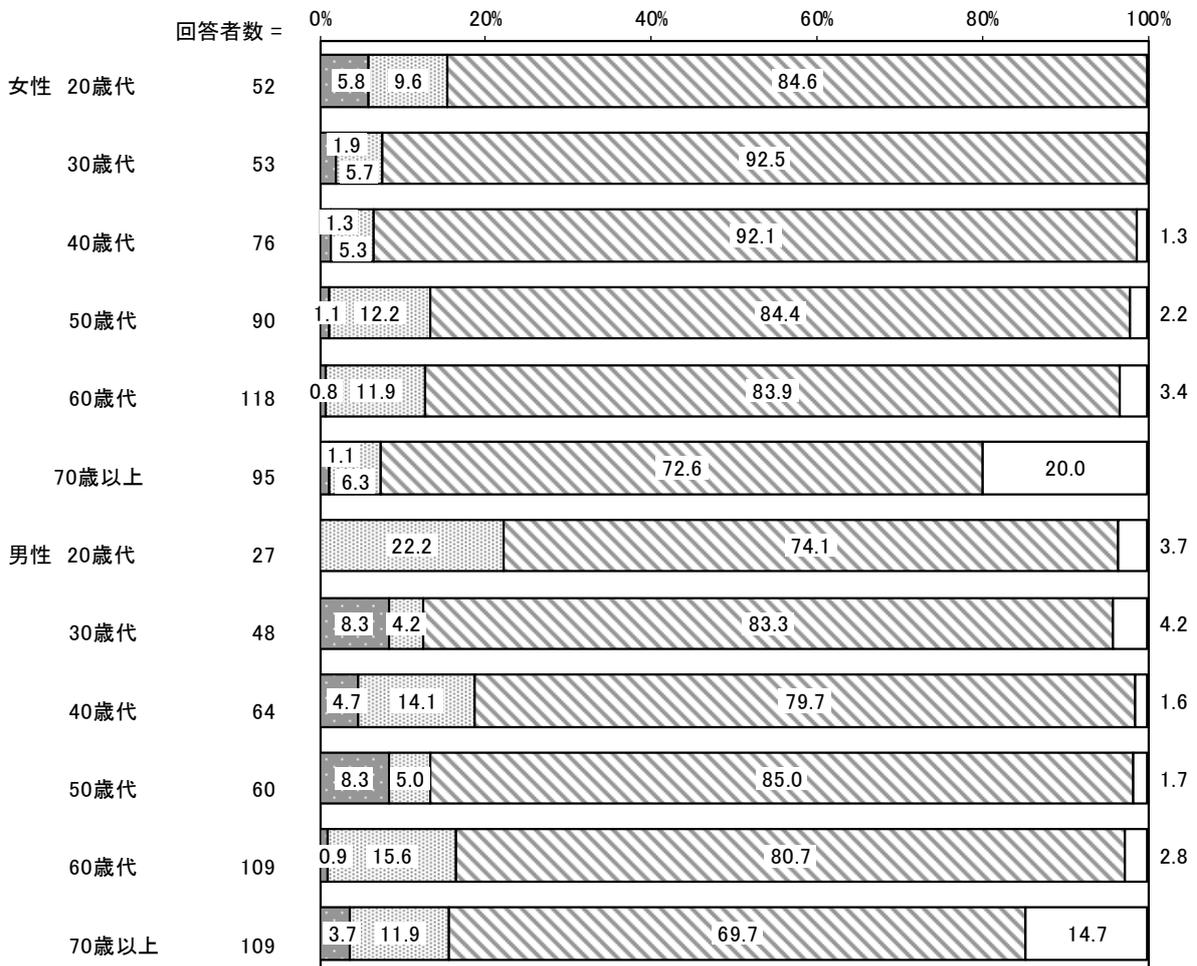
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

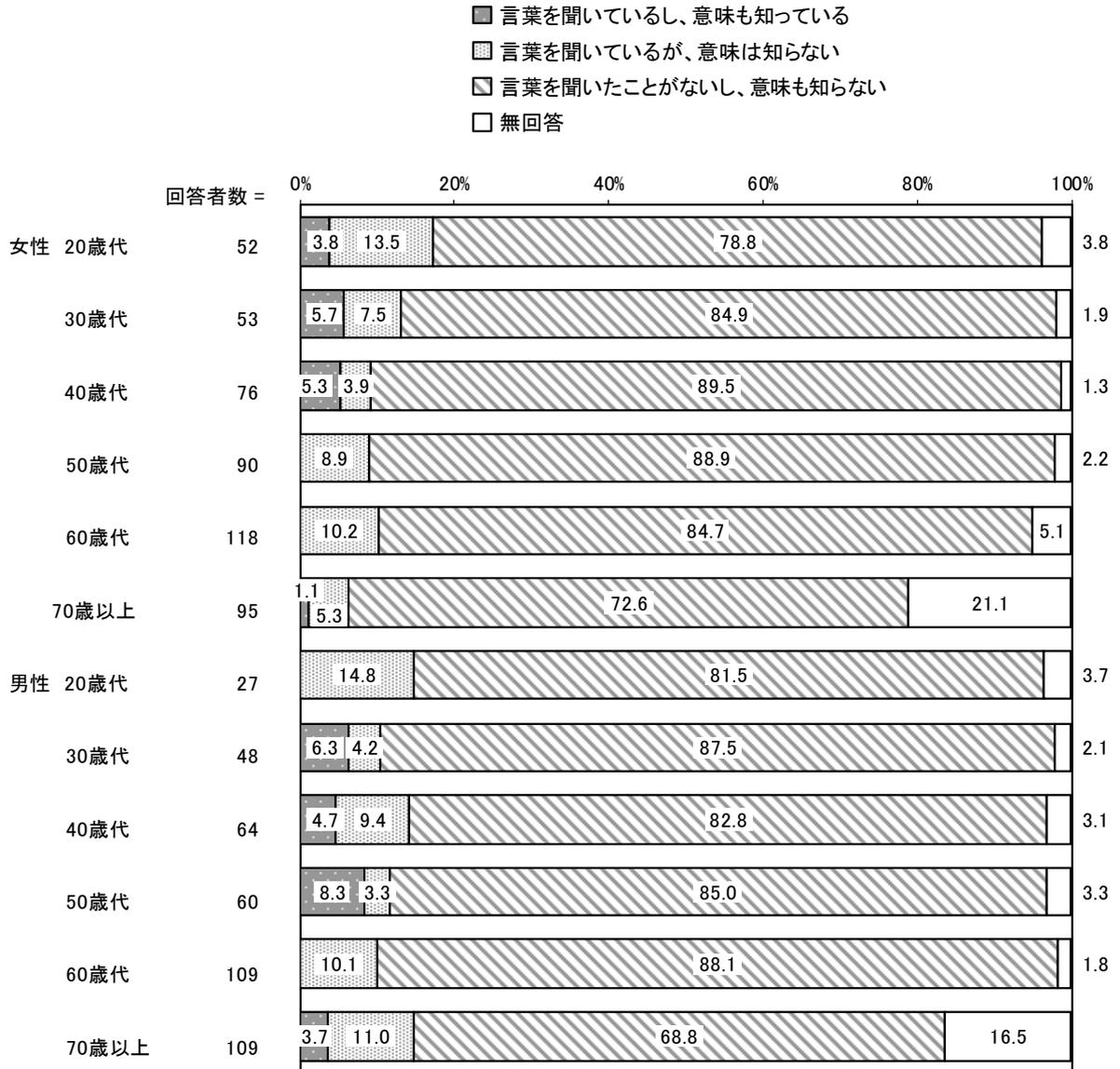
性・年齢別でみると、他に比べ、男性 20 歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない。」の割合が、女性 30 歳代、女性 40 歳代で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



(6) アライ (Ally)

【性・年齢別】

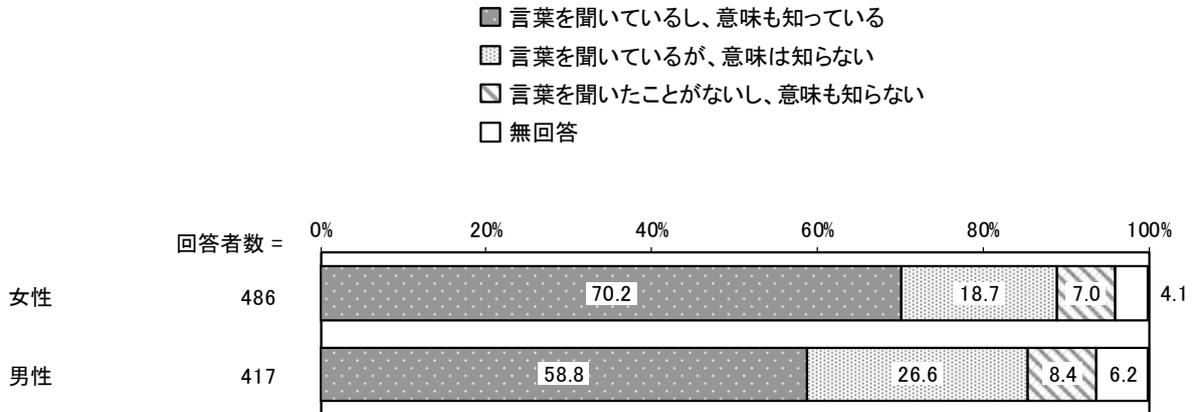
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 20 歳代、男性 20 歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



(7) 性自認、性同一性、性別違和

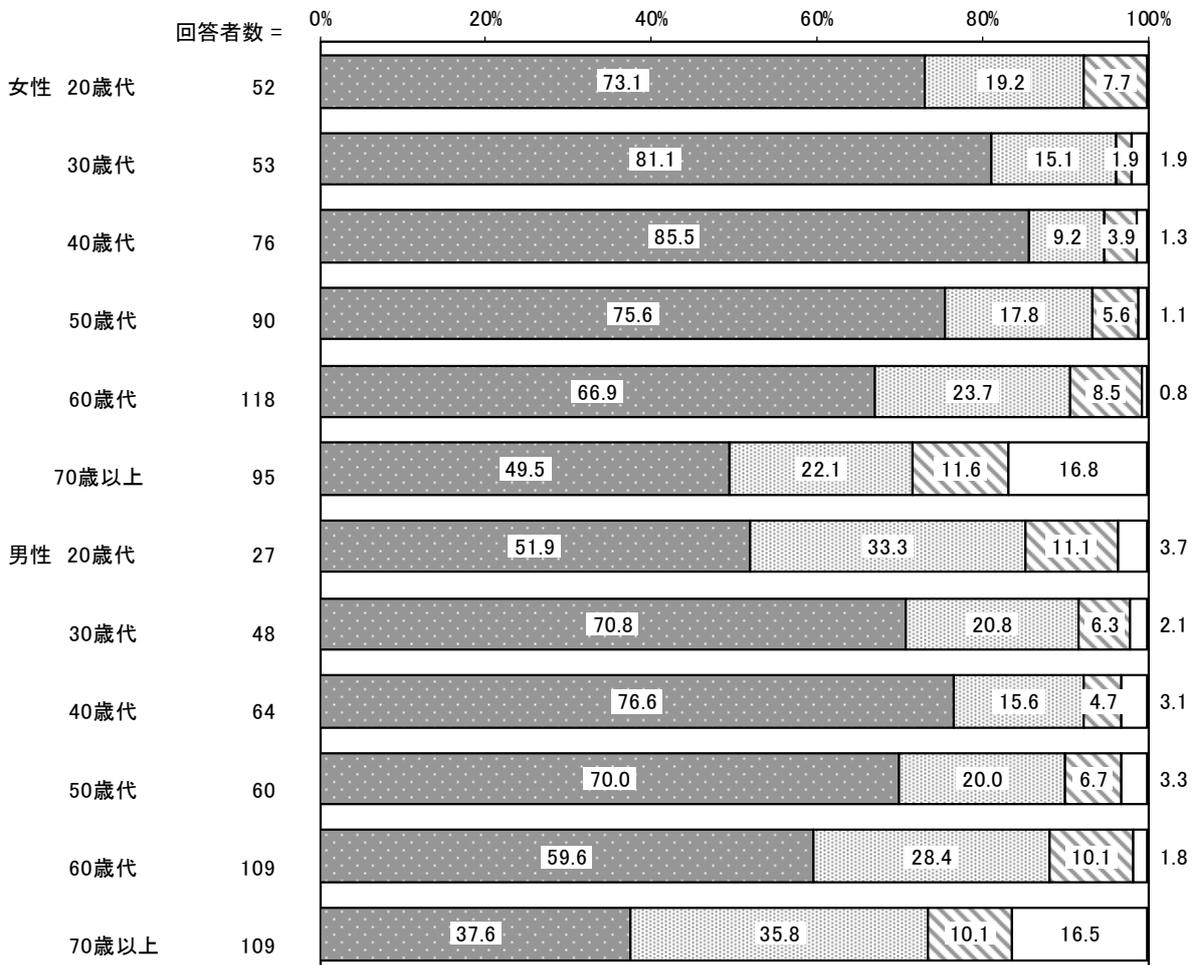
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

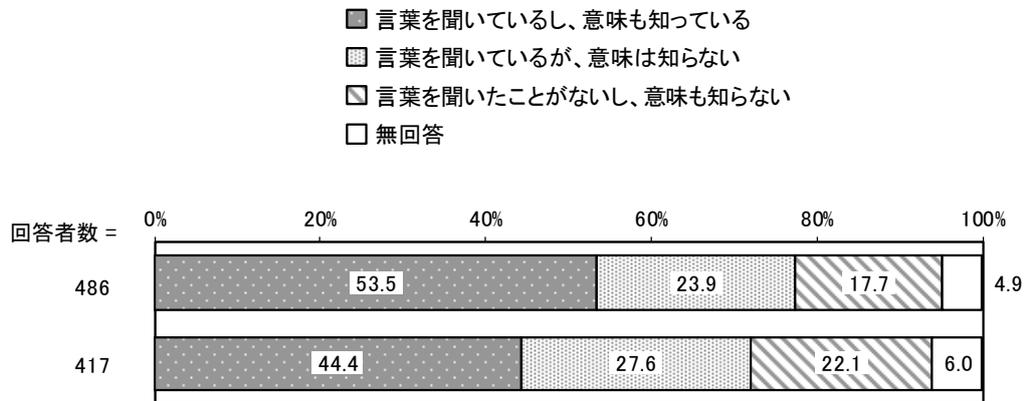
性・年齢別でみると、他に比べ、女性30歳代、女性40歳代で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が、男性70歳以上で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



(8) 性的指向

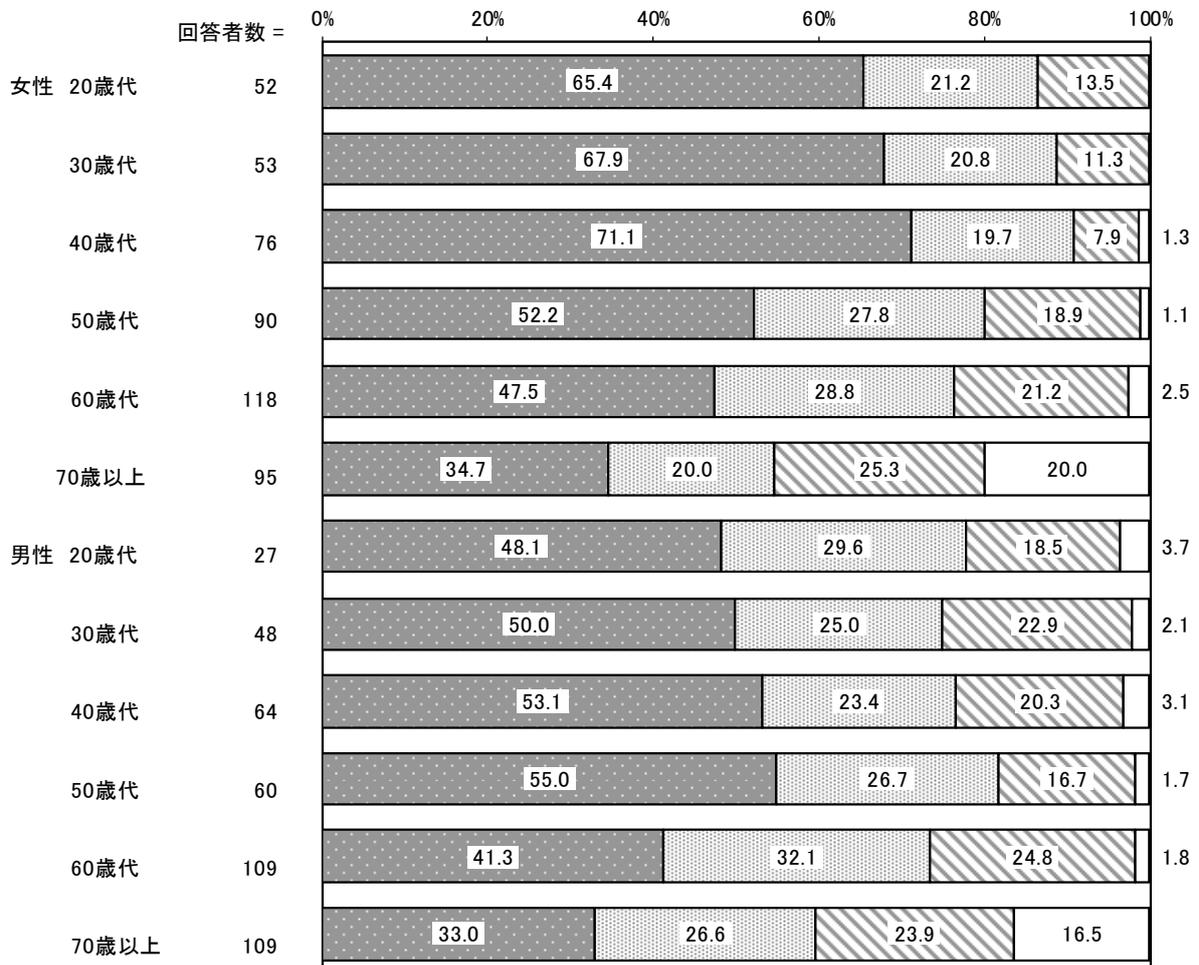
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

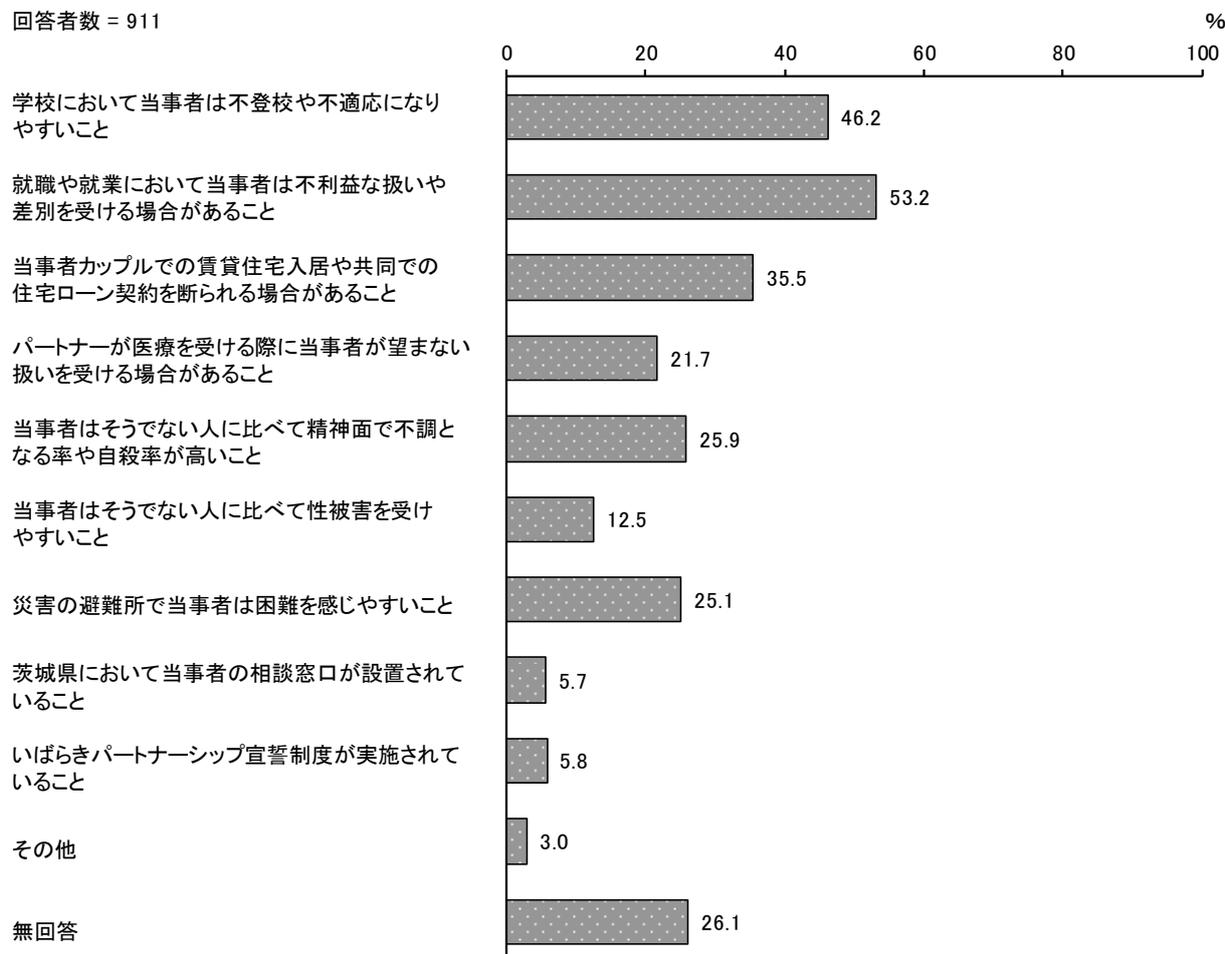
性・年齢別でみると、他に比べ、女性 20 歳代、女性 30 歳代、女性 40 歳代で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が、男性 60 歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。また、女性 70 歳以上で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



問 22 セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の当事者に関連する以下のことについて、知っていたものを選んでください。（○はいくつでも） 【新規設問】

「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」の割合が 53.2%と最も高く、次いで「学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと」の割合が 46.2%、「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」の割合が 35.5%となっています。

回答者数 = 911



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと」「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」「パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること」「当事者はそうでない人比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと」「災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること	パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること	当事者はそうでない人比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	当事者はそうでない人比べて性被害を受けやすいこと	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	茨城県において当事者の相談窓口が設置されていること	いばらきパートナーシップ宣誓制度が実施されていること	その他	無回答
女性	486	50.8	56.8	38.7	24.1	30.9	10.5	29.2	6.2	4.9	3.3	24.5
男性	417	41.0	49.2	31.9	18.2	19.9	14.9	20.4	5.0	6.7	2.6	27.8

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性 20 歳代で「学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと」「当事者はそうでない人比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと」の割合が、女性 30 歳代、女性 40 歳代で「災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと」の割合が高くなっています。また、女性 40 歳代で「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」「パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること	パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること	当事者はそうでない人比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	当事者はそうでない人比べて性被害を受けやすいこと	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	茨城県において当事者の相談窓口が設置されていること	いばらきパートナーシップ宣誓制度が実施されていること	その他	無回答
女性 20 歳代	52	69.2	63.5	42.3	28.8	46.2	19.2	17.3	3.8	3.8	—	11.5
30 歳代	53	62.3	64.2	35.8	24.5	43.4	18.9	41.5	5.7	5.7	1.9	15.1
40 歳代	76	60.5	67.1	48.7	30.3	43.4	17.1	42.1	6.6	7.9	3.9	15.8
50 歳代	90	60.0	63.3	42.2	26.7	30.0	5.6	27.8	4.4	4.4	4.4	20.0
60 歳代	118	39.8	51.7	34.7	22.0	24.6	5.9	27.1	6.8	2.5	3.4	27.1
70 歳以上	95	32.6	41.1	32.6	16.8	14.7	6.3	22.1	8.4	6.3	3.2	45.3
男性 20 歳代	27	44.4	44.4	25.9	18.5	25.9	14.8	14.8	7.4	3.7	3.7	25.9
30 歳代	48	47.9	56.3	35.4	14.6	20.8	12.5	22.9	2.1	16.7	4.2	8.3
40 歳代	64	43.8	53.1	39.1	12.5	17.2	15.6	21.9	3.1	6.3	3.1	20.3
50 歳代	60	51.7	56.7	30.0	25.0	26.7	13.3	26.7	3.3	1.7	5.0	23.3
60 歳代	109	40.4	54.1	33.9	22.0	23.9	20.2	17.4	7.3	7.3	0.9	24.8
70 歳以上	109	30.3	35.8	26.6	15.6	11.9	11.0	19.3	5.5	5.5	1.8	46.8

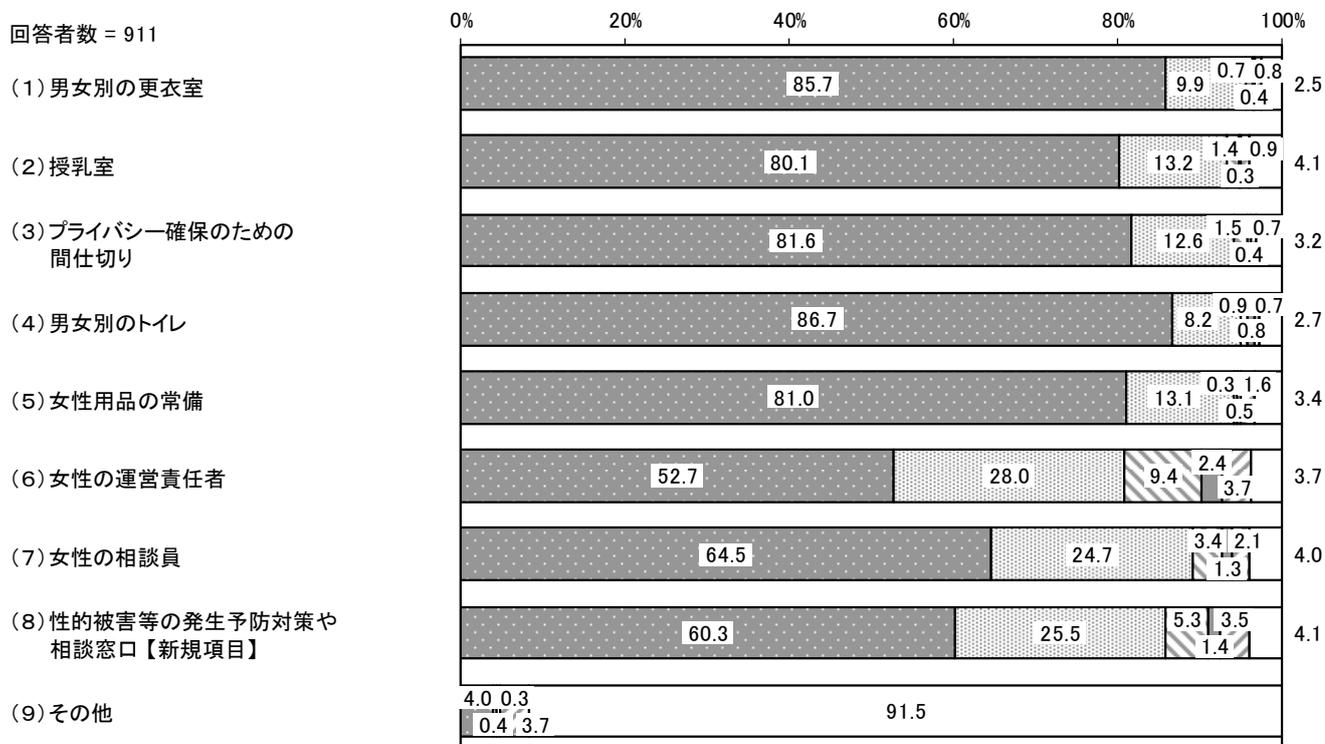
(7) 災害について

問 23 あなたは、災害が起きた時、避難所にはどのようなものが必要だと考えますか。
(○はそれぞれ1つ)

『男女別の更衣室』『授乳室』『プライバシー確保のための間仕切り』『男女別のトイレ』『女性用品の常備』の項目で、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」をあわせた“必要だと思う”の割合が高くなっています。一方、『女性の運営責任者』『女性の相談員』『性的被害等の発生予防対策や相談窓口』の項目では、「どちらかといえばなくてもかまわない」の割合が高くなっています。

■ 必要だと思う
 ■ どちらかといえば必要だと思う
 ■ どちらかといえばなくてもかまわない
 ■ なくてもかまわない
 ■ わからない
 □ 無回答

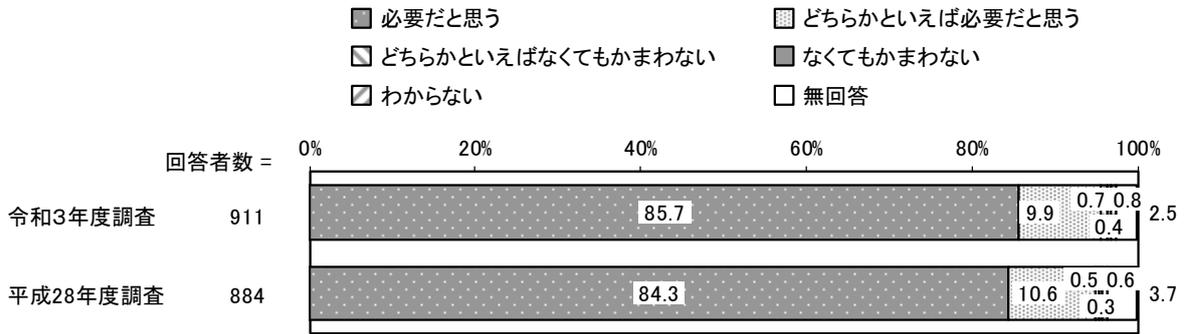
回答者数 = 911



(1) 男女別の更衣室

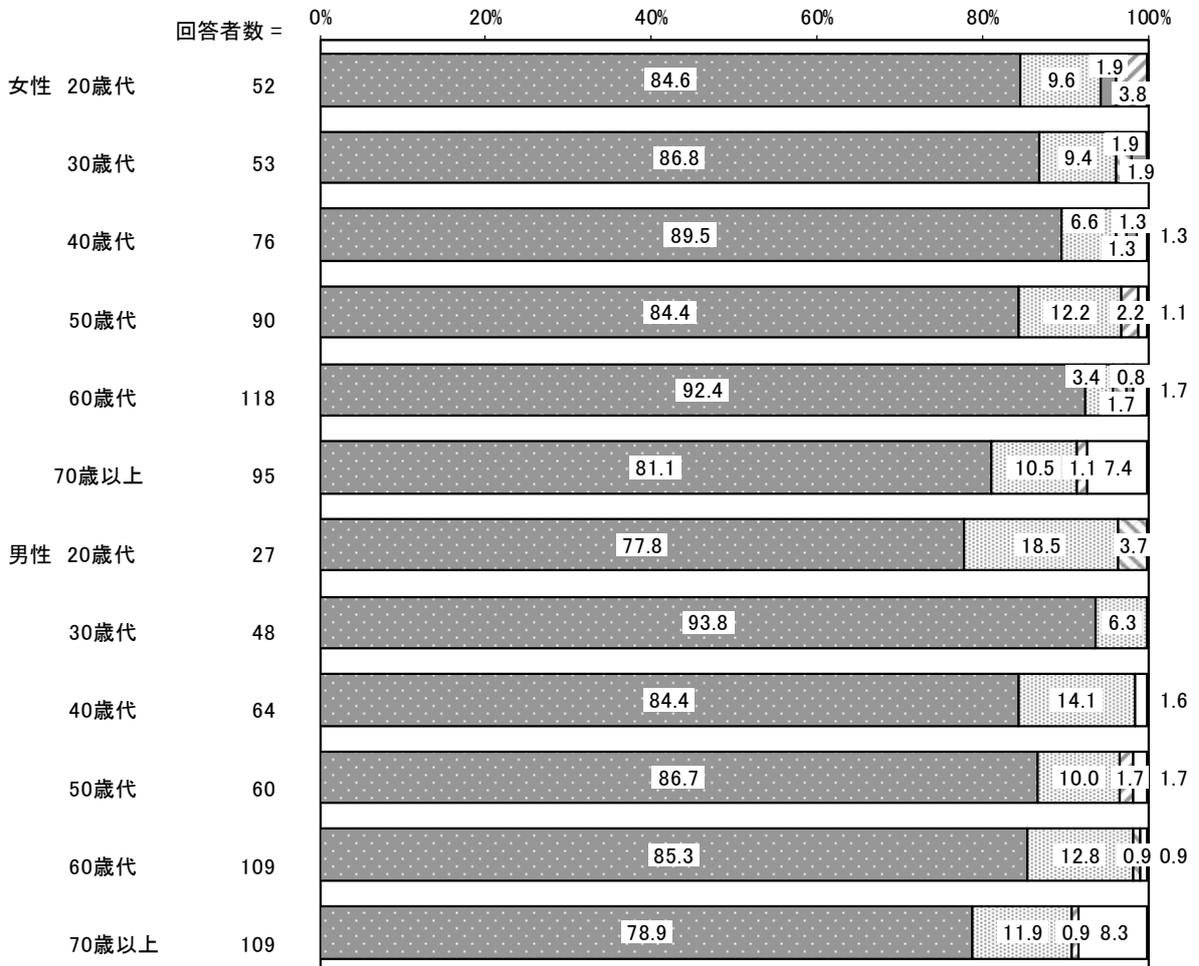
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年齢別】

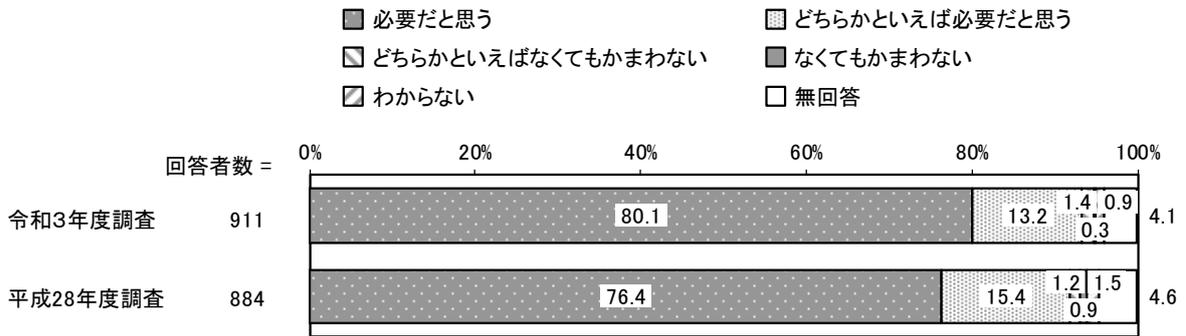
性・年齢別でみると、他に比べ、男性30歳代で“必要だと思う”の割合が高くなっています。



(2) 授乳室

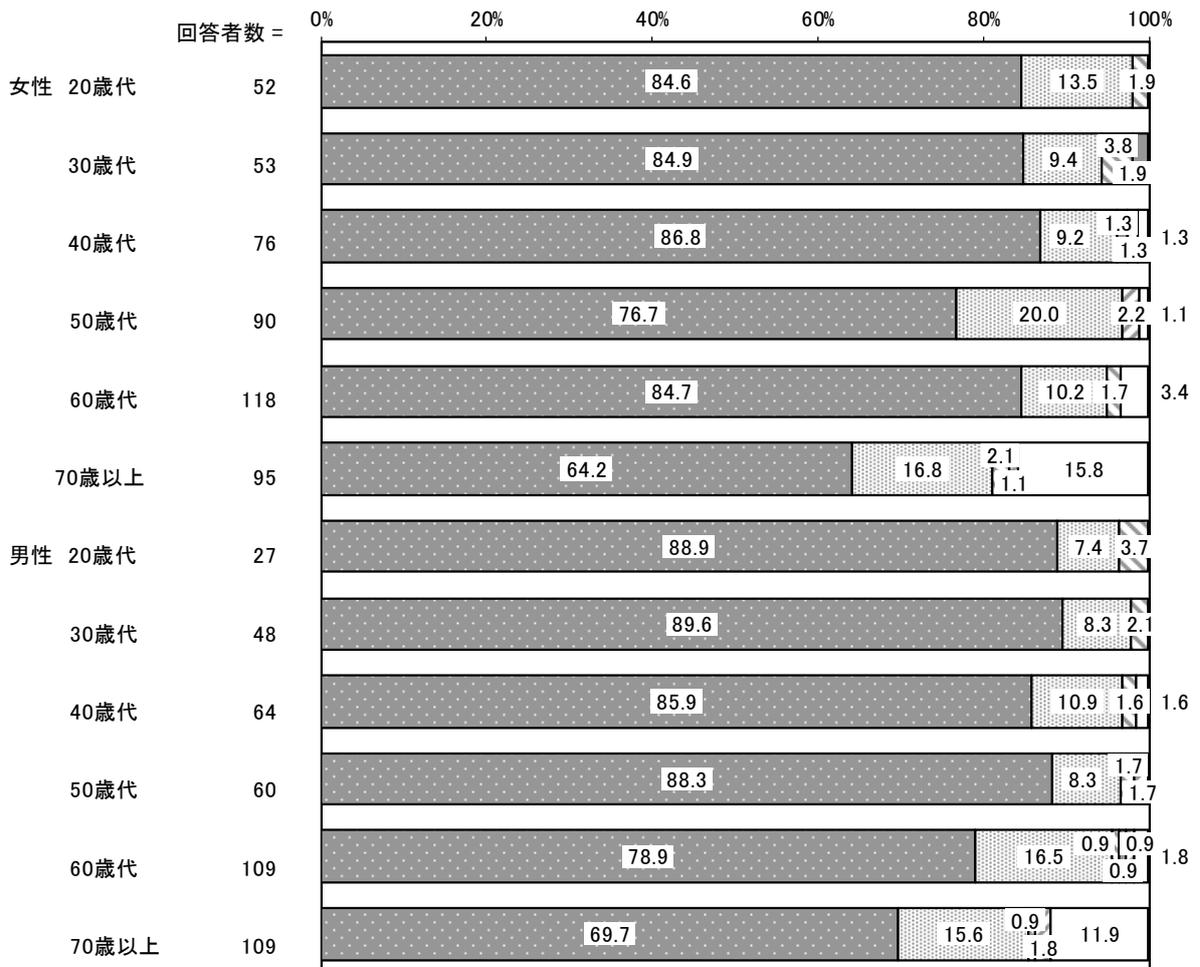
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年齢別】

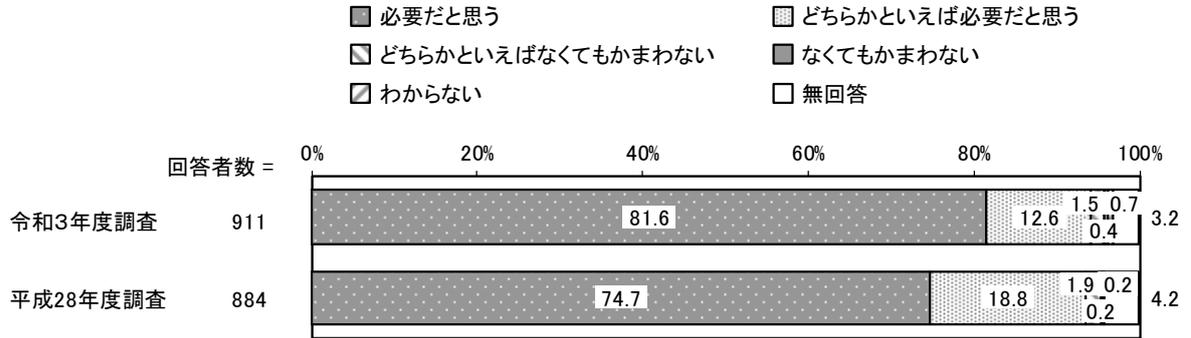
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性30歳代で「どちらかといえばなくてもかまわない」と「なくてもかまわない」をあわせた“なくてもかまわない”の割合が高くなっています。



(3) プライバシー確保のための間仕切り

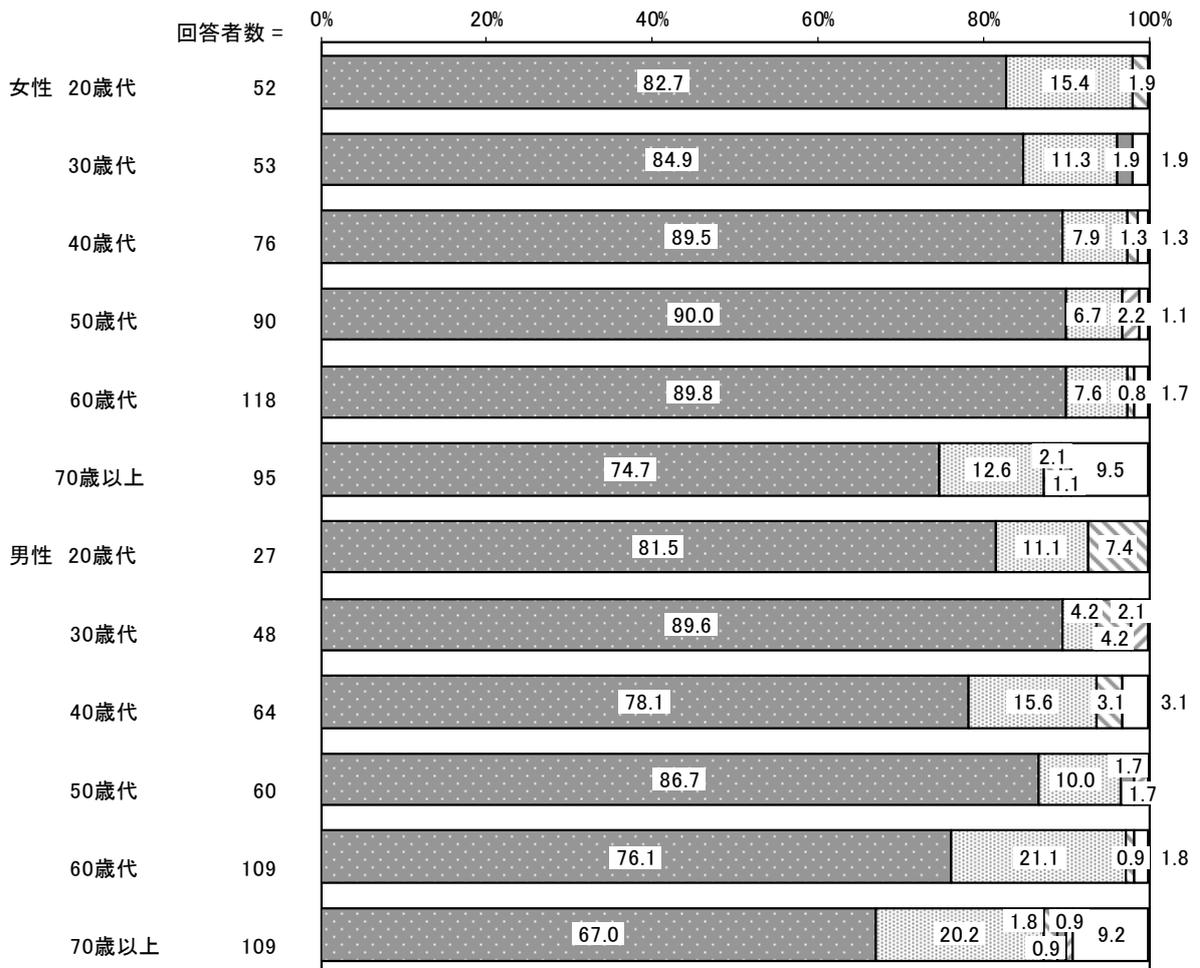
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年齢別】

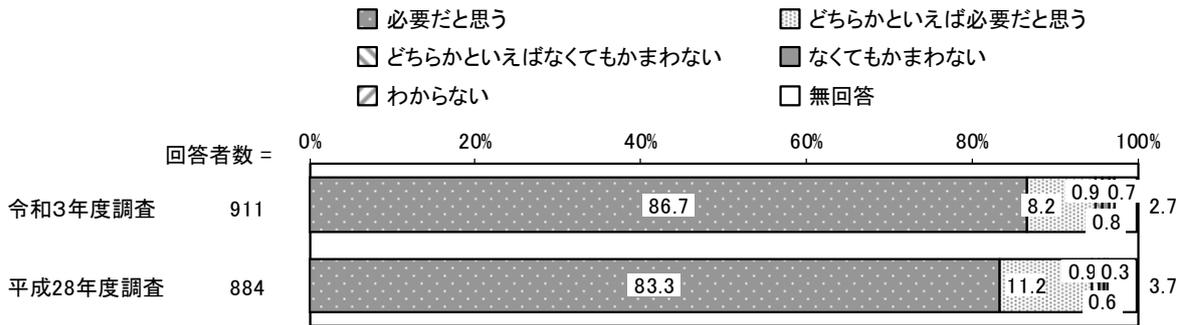
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 20 歳代、女性 30 歳代、女性 40 歳代、女性 50 歳代、女性 60 歳代、男性 60 歳代で“必要だと思う”の割合が高くなっています。



(4) 男女別のトイレ

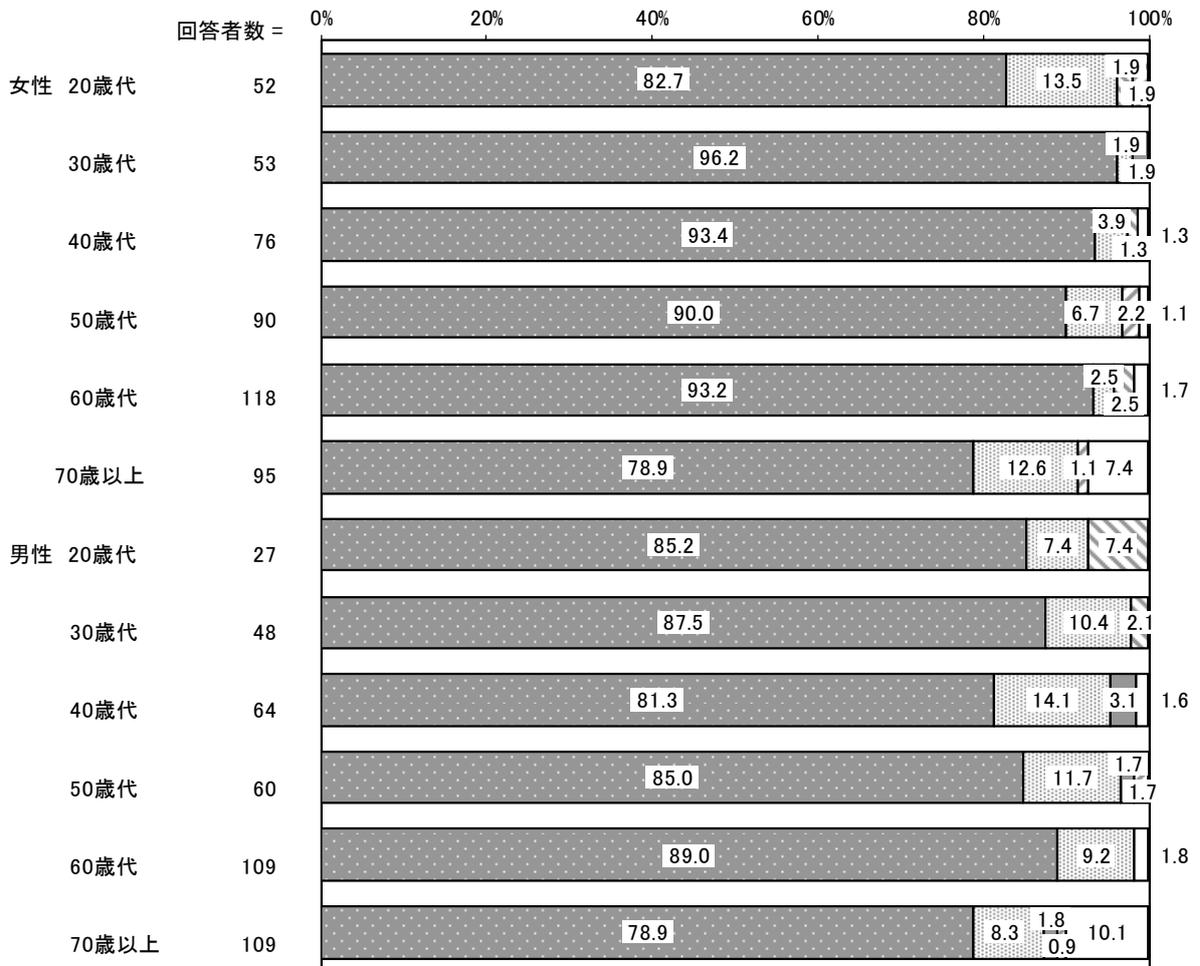
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年齢別】

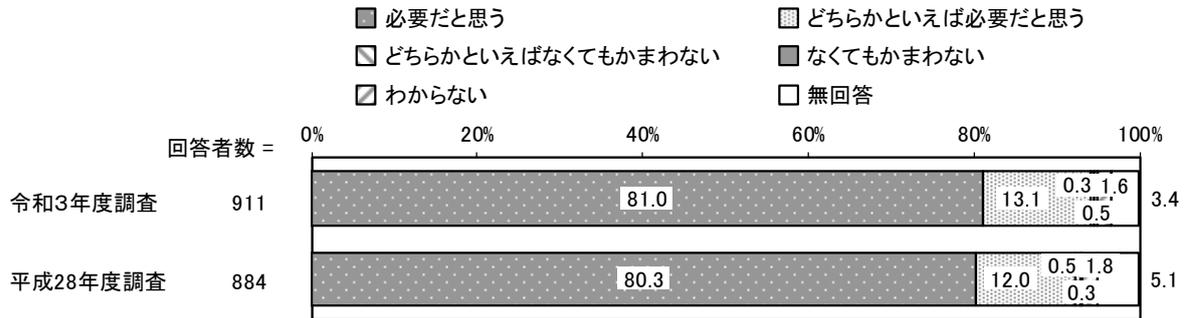
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 70 歳以上で“必要だと思う”の割合が低くなっています。



(5) 女性用品の常備

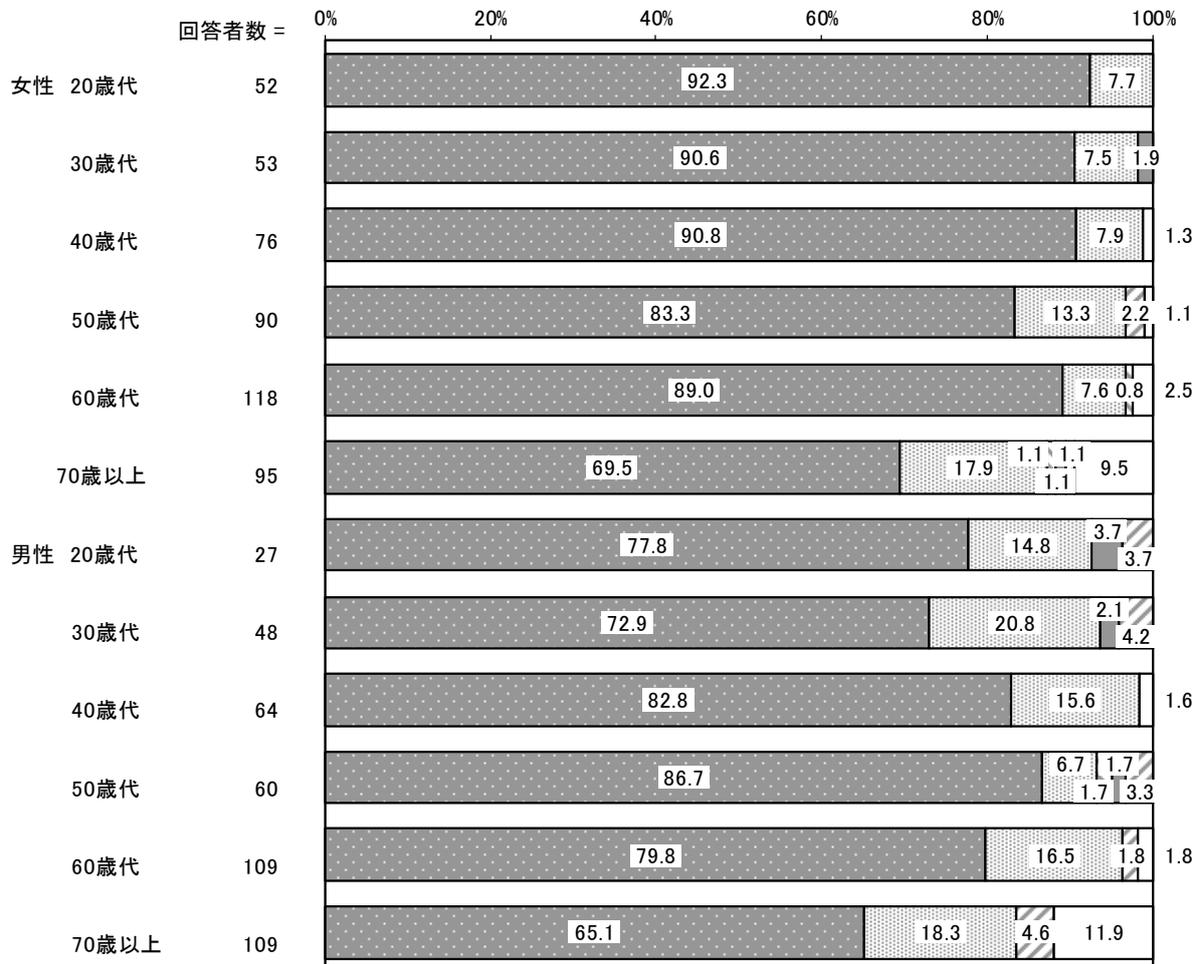
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年齢別】

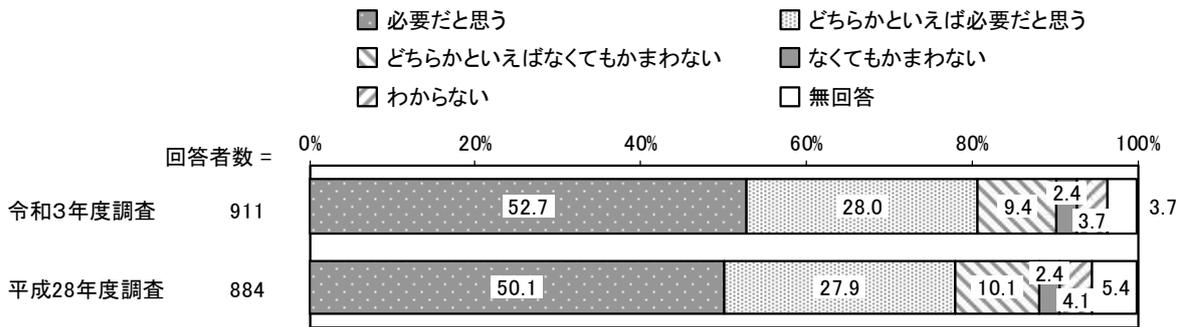
性・年齢別でみると、他に比べ、女性20歳代で“必要だと思う”の割合が高くなっています。



(6) 女性の運営責任者

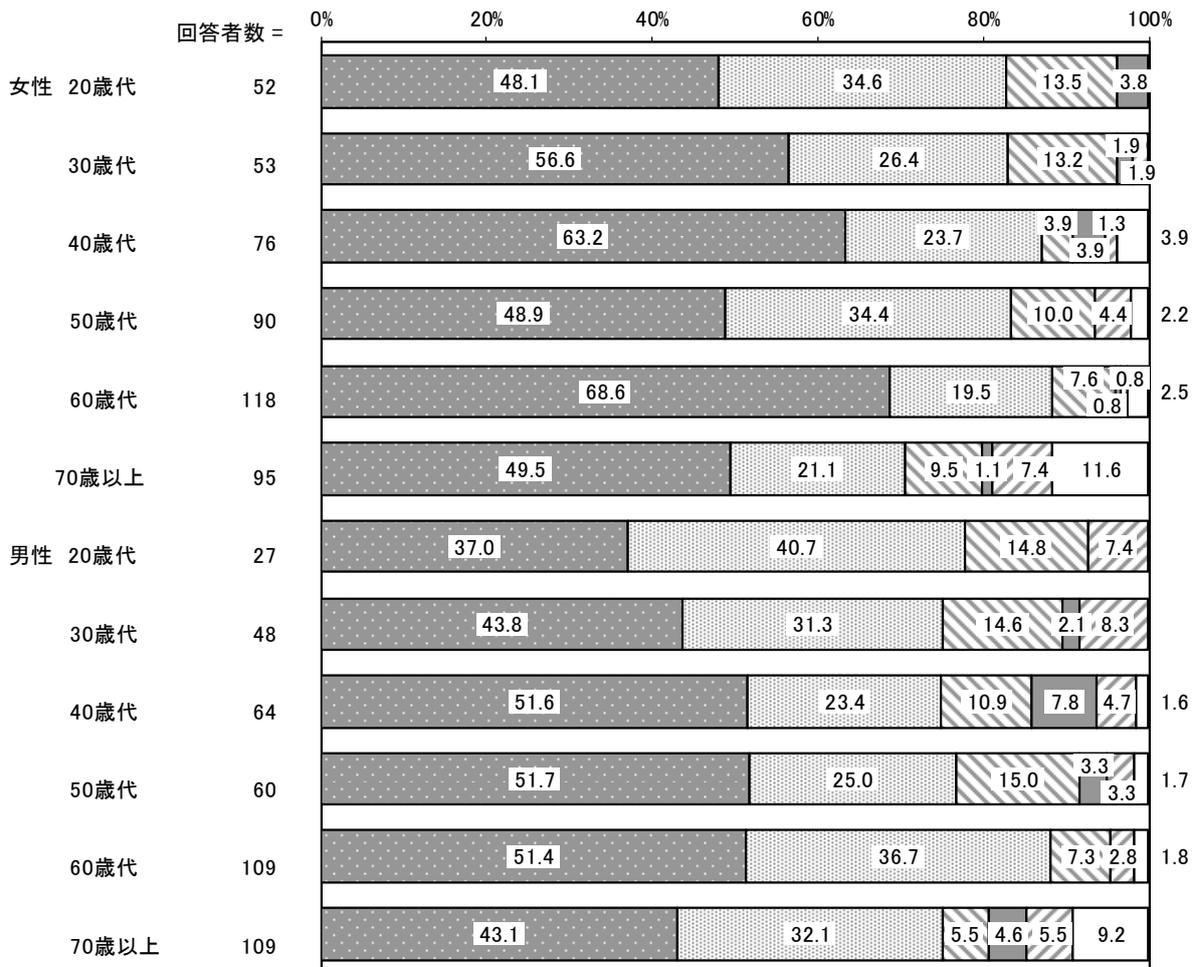
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年齢別】

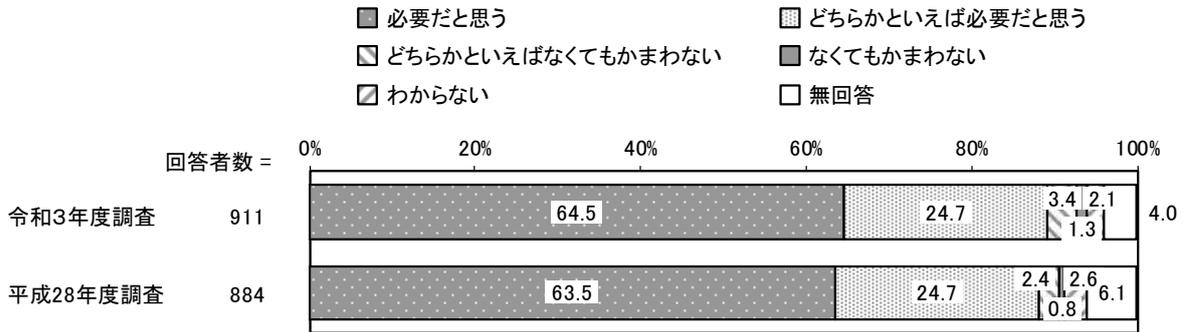
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性60歳代、男性60歳代で“必要だと思う”の割合が、男性40歳代、男性50歳代で“なくてもかまわない”の割合が高くなっています。



(7) 女性の相談員

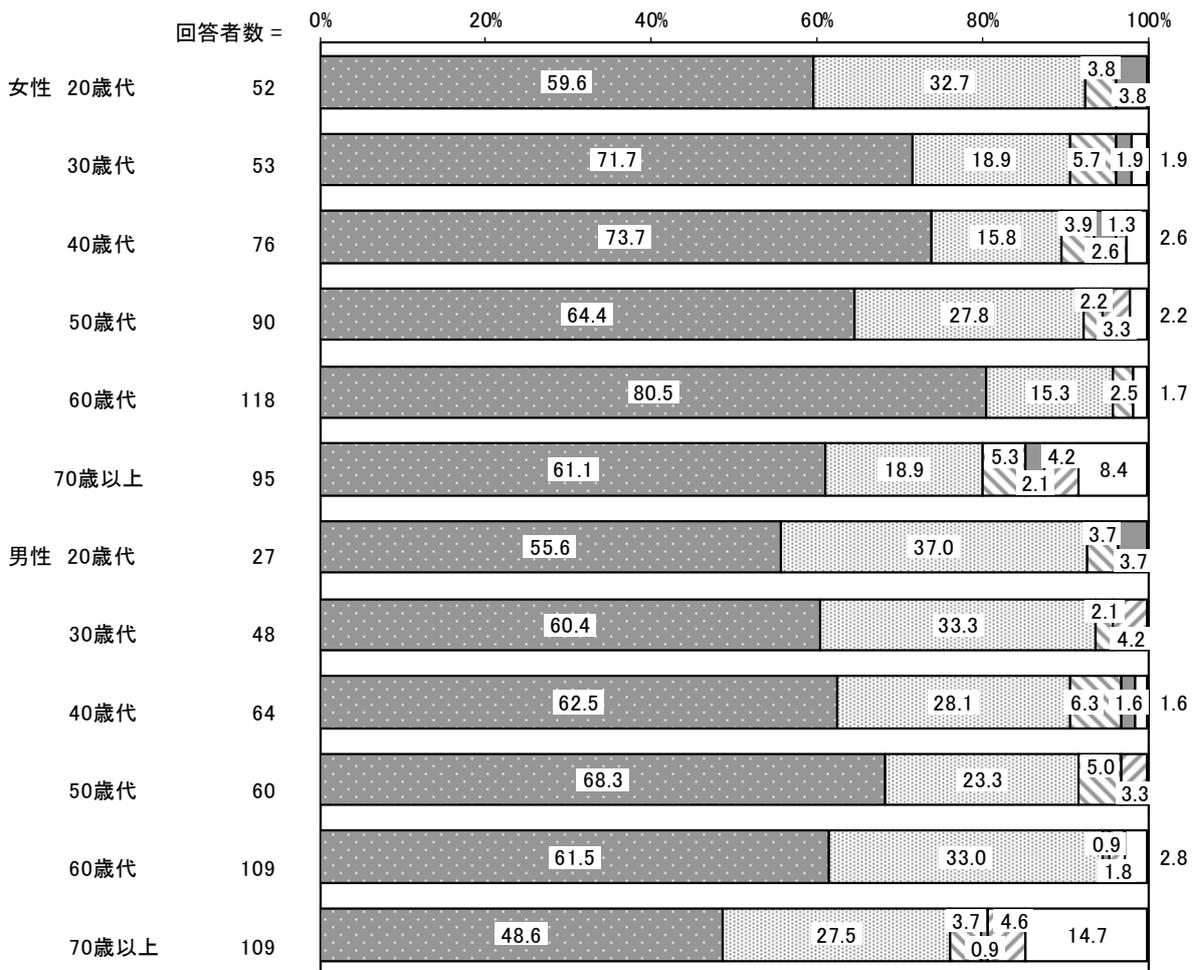
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年齢別】

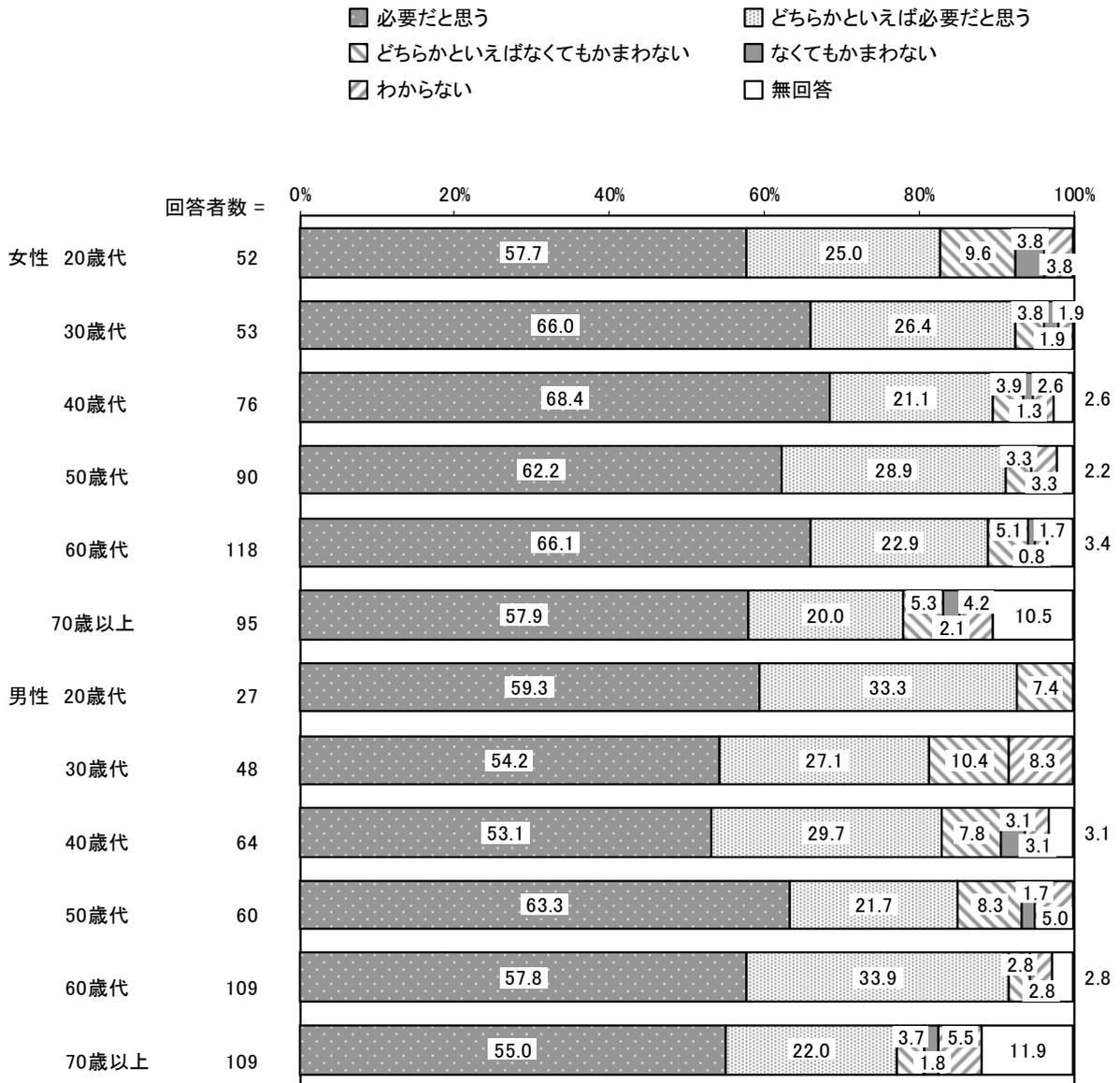
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 60 歳代、男性 60 歳代で“必要だと思う”の割合が、女性 20 歳代、女性 30 歳代、女性 70 歳以上、男性 40 歳代で“なくてもかまわない”の割合が高くなっています。



(8) 性的被害等の発生予防対策や相談窓口

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代、男性 20 歳代、男性 60 歳代で“必要だと思う”の割合が、女性 20 歳代で“なくてもかまわない”の割合が高くなっています。



※前回調査に「性的被害等の発生予防対策や相談窓口」の選択肢はありませんでした。

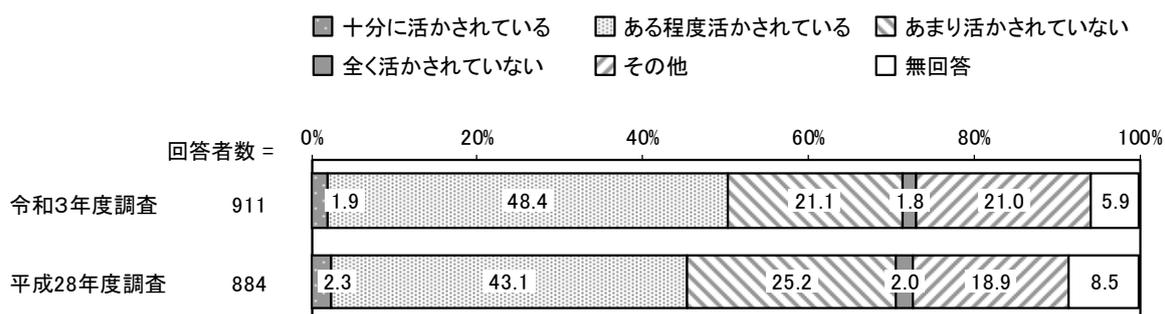
(8) 市政運営について

問 24 あなたは、つくば市の市政運営において、女性の意見や視点が十分に活かされていると思いますか。(〇は1つだけ)

「十分に活かされている」と「ある程度活かされている」をあわせた“活かされている”の割合が 50.3%、「あまり活かされていない」と「全く活かされていない」をあわせた“活かされていない”の割合が 22.9%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

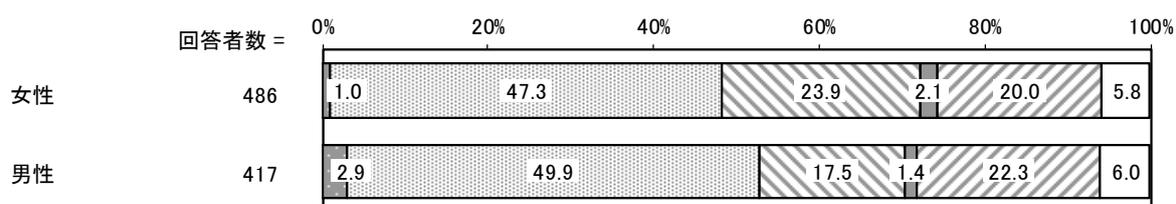


<「その他」意見より>

- ・市政運営の内容がよくわからない。
- ・市政について知識を持っていない。 など

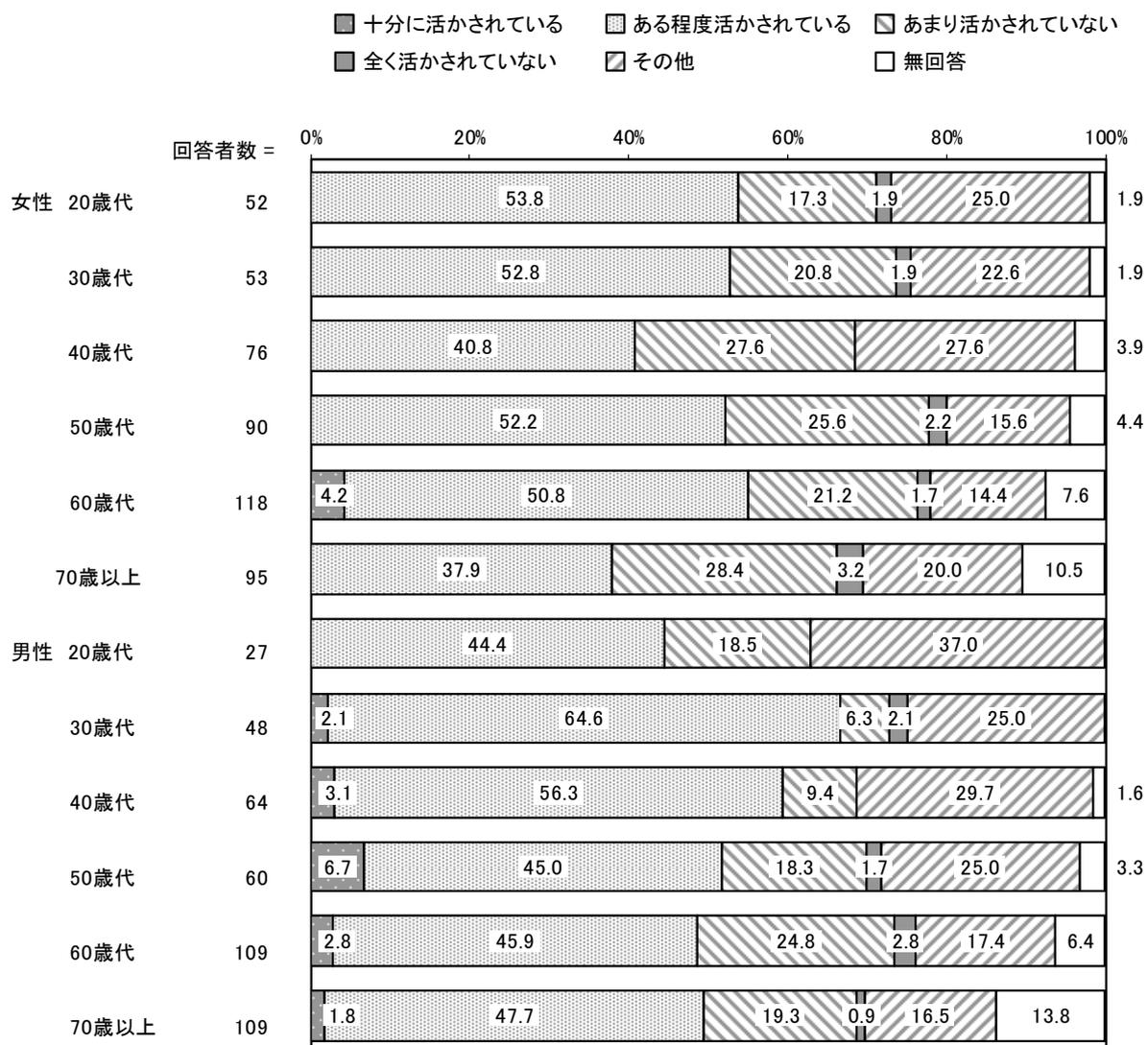
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“活かされていない”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性30歳代で“活かされている”の割合が、男性60歳代で“活かされていない”の割合が高くなっています。



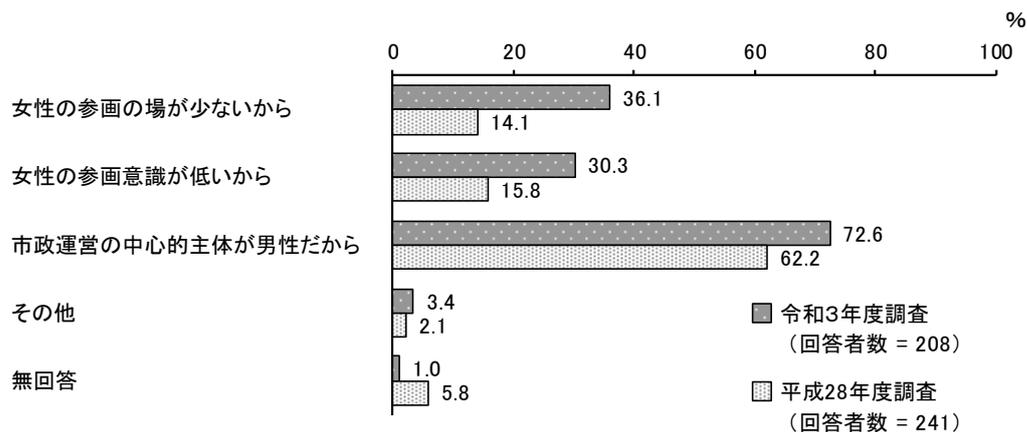
問 24 で「あまり活かされていない」、「全く活かされていない」と回答した方におうかがいします

問 24-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「市政運営の中心的主体が男性だから」の割合が 72.6%と最も高く、次いで「女性の参画の場が少ないから」の割合が 36.1%、「女性の参画意識が低いから」の割合が 30.3%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「女性の参画の場が少ないから」「女性の参画意識が低いから」「市政運営の中心的主体が男性だから」の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性の参画意識が低いから」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「市政運営の中心的主体が男性だから」の割合が高くなっています。

単位：%

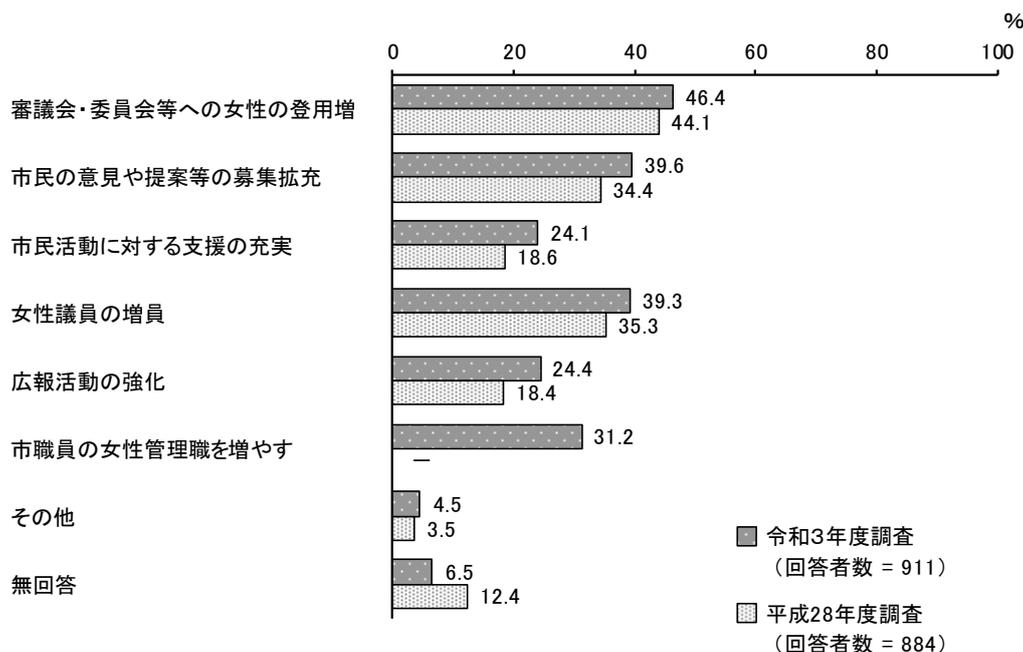
区分	回答者数 (件)	女性の参画の場が少ないから	女性の参画意識が低いから	市政運営の中心的主体が男性だから	その他	無回答
女性	126	34.9	37.3	69.0	4.8	0.8
男性	79	38.0	20.3	77.2	1.3	1.3

問 25 女性の意見や視点をより一層市政に反映させるためには、何が有効だと思いますか。(〇は3つまで)

「審議会・委員会等への女性の登用増」の割合が46.4%と最も高く、次いで「市民の意見や提案等の募集拡充」の割合が39.6%、「女性議員の増員」の割合が39.3%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「市民の意見や提案等の募集拡充」「市民活動に対する支援の充実」「広報活動の強化」の割合が増加しています。



※前回調査に「市職員の女性管理職を増やす」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「市民の意見や提案等の募集拡充」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「広報活動の強化」「市職員の女性管理職を増やす」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	審議会・委員会等への女性の登用増	市民の意見や提案等の募集拡充	市民活動に対する支援の充実	女性議員の増員	広報活動の強化	市職員の女性管理職を増やす	その他	無回答
女性	486	44.9	42.8	22.6	39.1	21.8	27.0	5.1	7.0
男性	417	48.0	36.7	25.9	38.8	27.6	35.7	3.8	5.8

【性・年齢別】

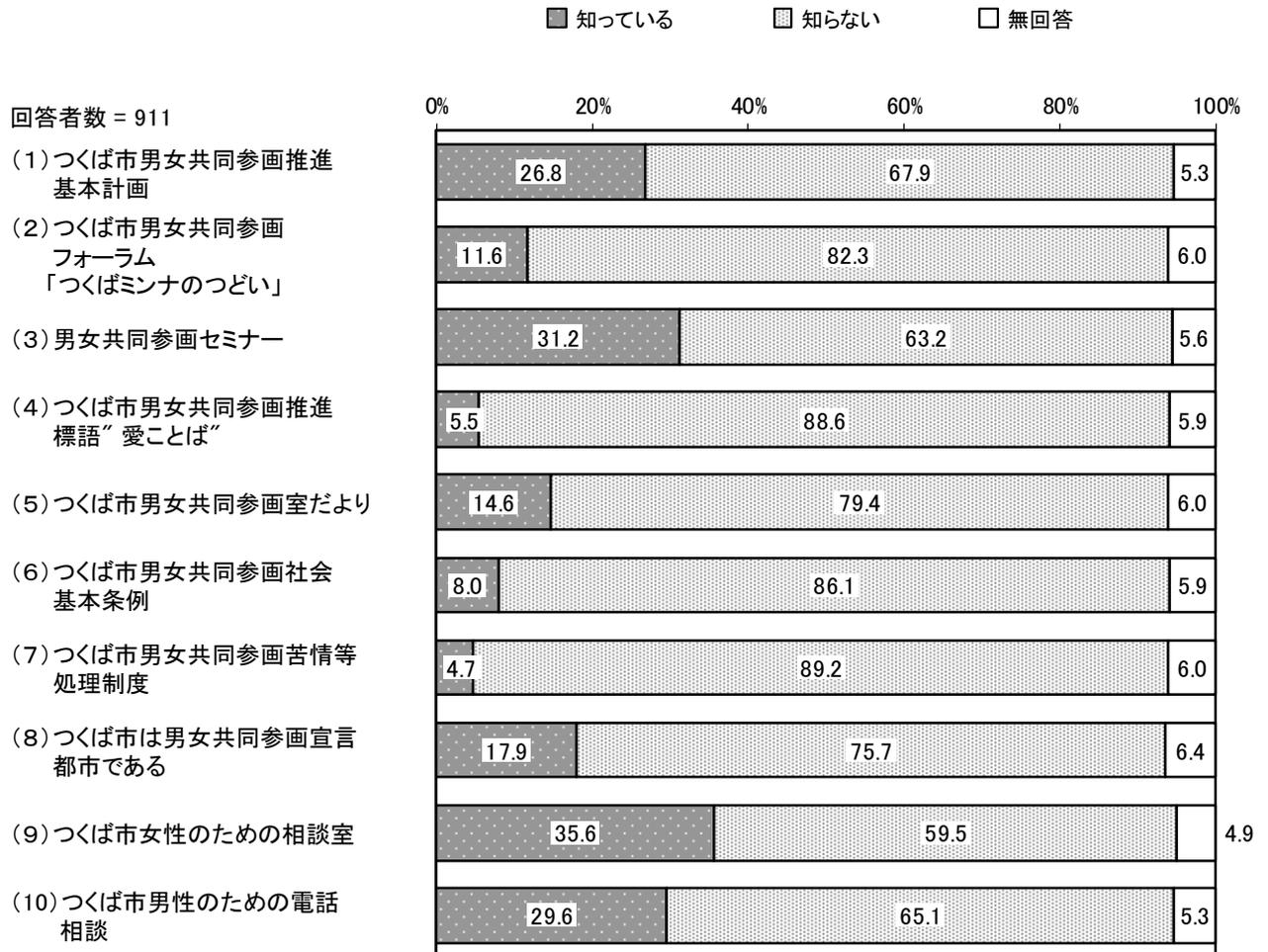
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 50 歳代、男性 60 歳代で「審議会・委員会等への女性の登用増」の割合が高くなっています。また、男性 20 歳代で「市民活動に対する支援の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	審議会・委員会等への 女性の登用増	市民の意見や提案 等の募集拡充	市民活動に対する 支援の充実	女性議員の増員	広報活動の強化	市職員の女性管理 職を増やす	その他	無回答
女性 20 歳代	52	32.7	51.9	17.3	38.5	19.2	36.5	5.8	1.9
30 歳代	53	50.9	52.8	13.2	41.5	18.9	22.6	7.5	1.9
40 歳代	76	44.7	36.8	21.1	46.1	18.4	35.5	3.9	7.9
50 歳代	90	45.6	47.8	11.1	50.0	16.7	25.6	4.4	4.4
60 歳代	118	51.7	46.6	27.1	32.2	25.4	28.8	3.4	5.1
70 歳以上	95	40.0	27.4	37.9	31.6	28.4	16.8	5.3	16.8
男性 20 歳代	27	22.2	40.7	40.7	37.0	33.3	33.3	—	7.4
30 歳代	48	35.4	29.2	33.3	45.8	33.3	35.4	10.4	—
40 歳代	64	39.1	39.1	14.1	39.1	18.8	35.9	7.8	6.3
50 歳代	60	56.7	35.0	18.3	53.3	20.0	43.3	—	6.7
60 歳代	109	56.0	41.3	29.4	38.5	24.8	35.8	1.8	1.8
70 歳以上	109	52.3	33.9	26.6	28.4	35.8	32.1	3.7	11.0

問 26 市では、女性の地位向上や男女共同参画の推進のために、さまざまな事業や啓発活動を行っています。あなたは、次の取組について知っていますか。
(○はそれぞれ1つ)

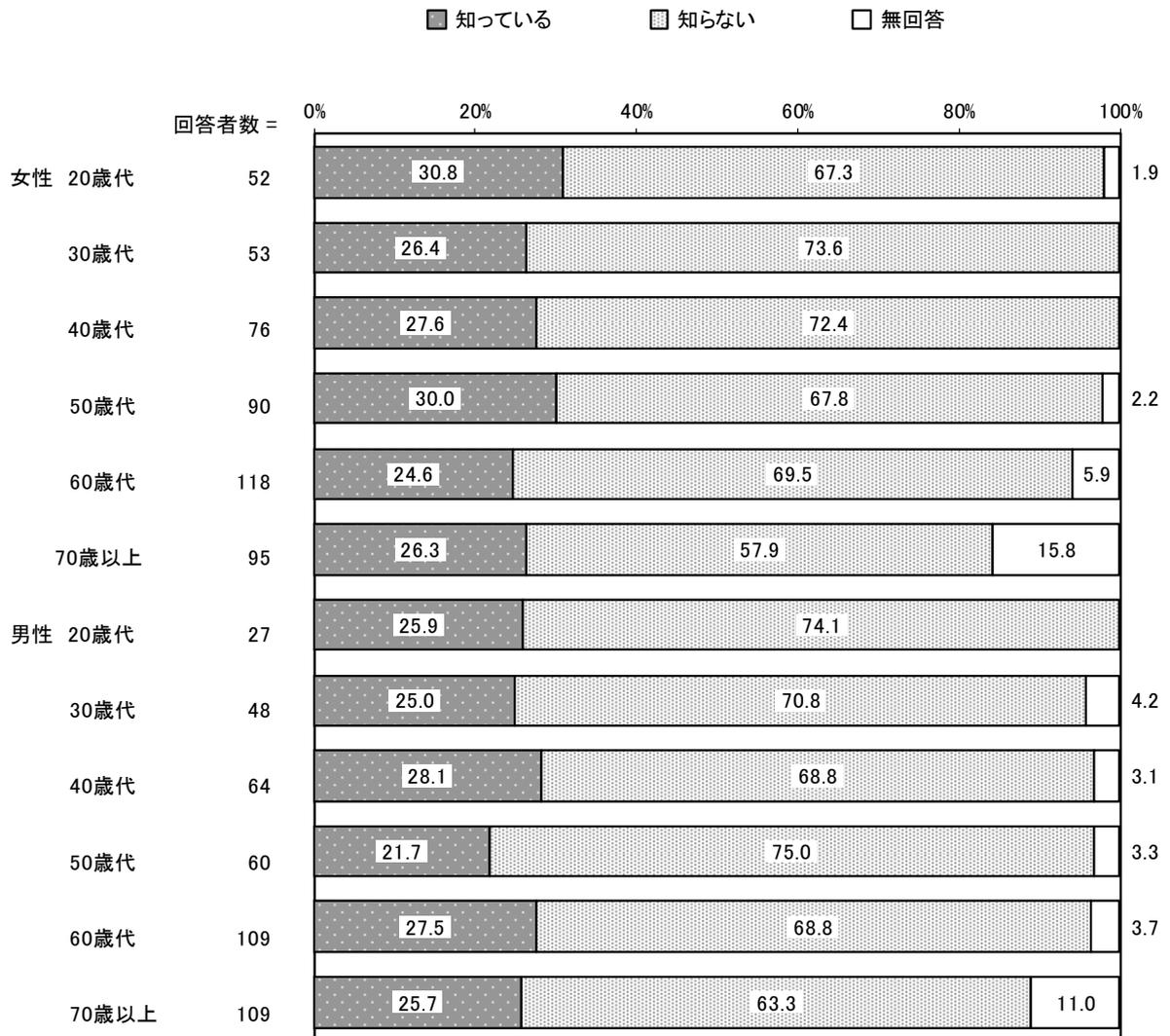
『つくば市男女共同参画推進基本計画』『男女共同参画セミナー』『つくば市女性のための相談室』『つくば市男性のための電話相談』の項目で、「知っている」の割合が高くなっています。



(1) つくば市男女共同参画推進基本計画

【性・年齢別】

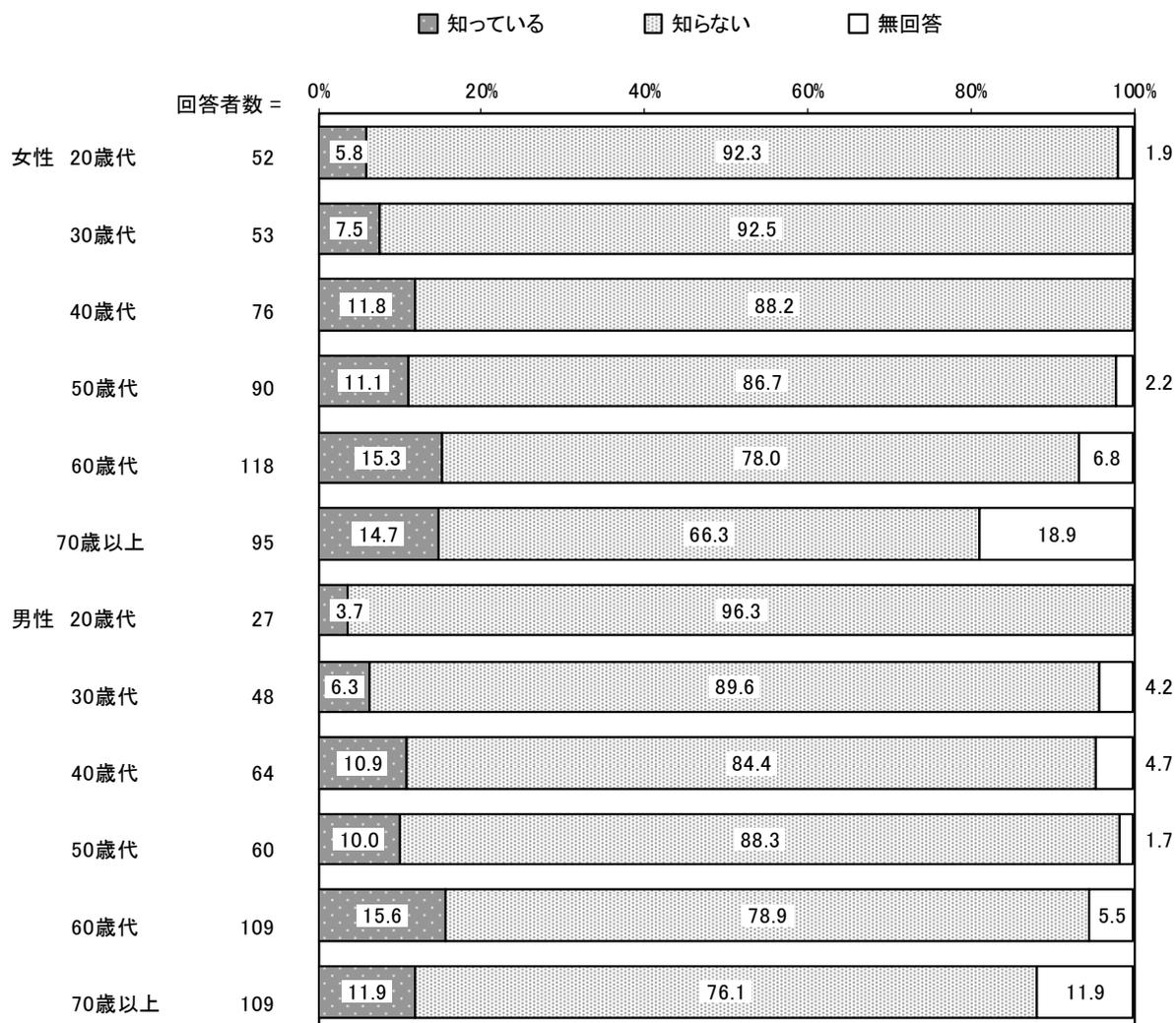
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性20歳代、女性50歳代で「知っている」の割合が、男性20歳代、男性50歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(2) つくば市男女共同参画フォーラム「つくばミンナのつどい」

【性・年齢別】

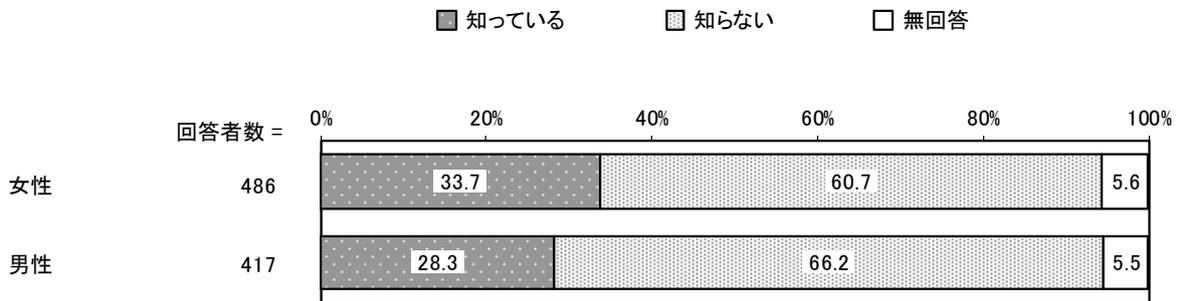
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性60歳代、女性70歳以上、男性60歳代で「知っている」の割合が、男性20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(3) 男女共同参画セミナー

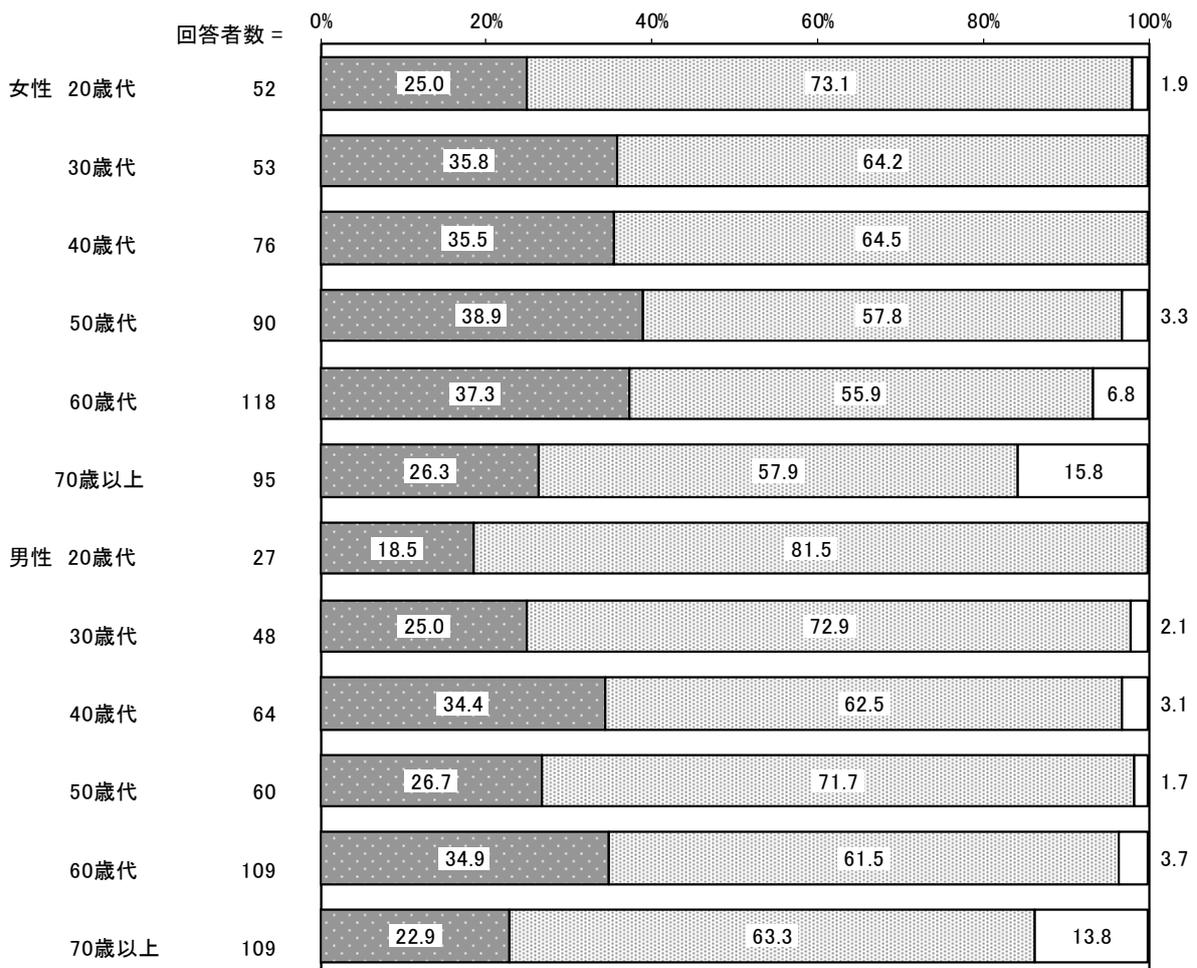
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

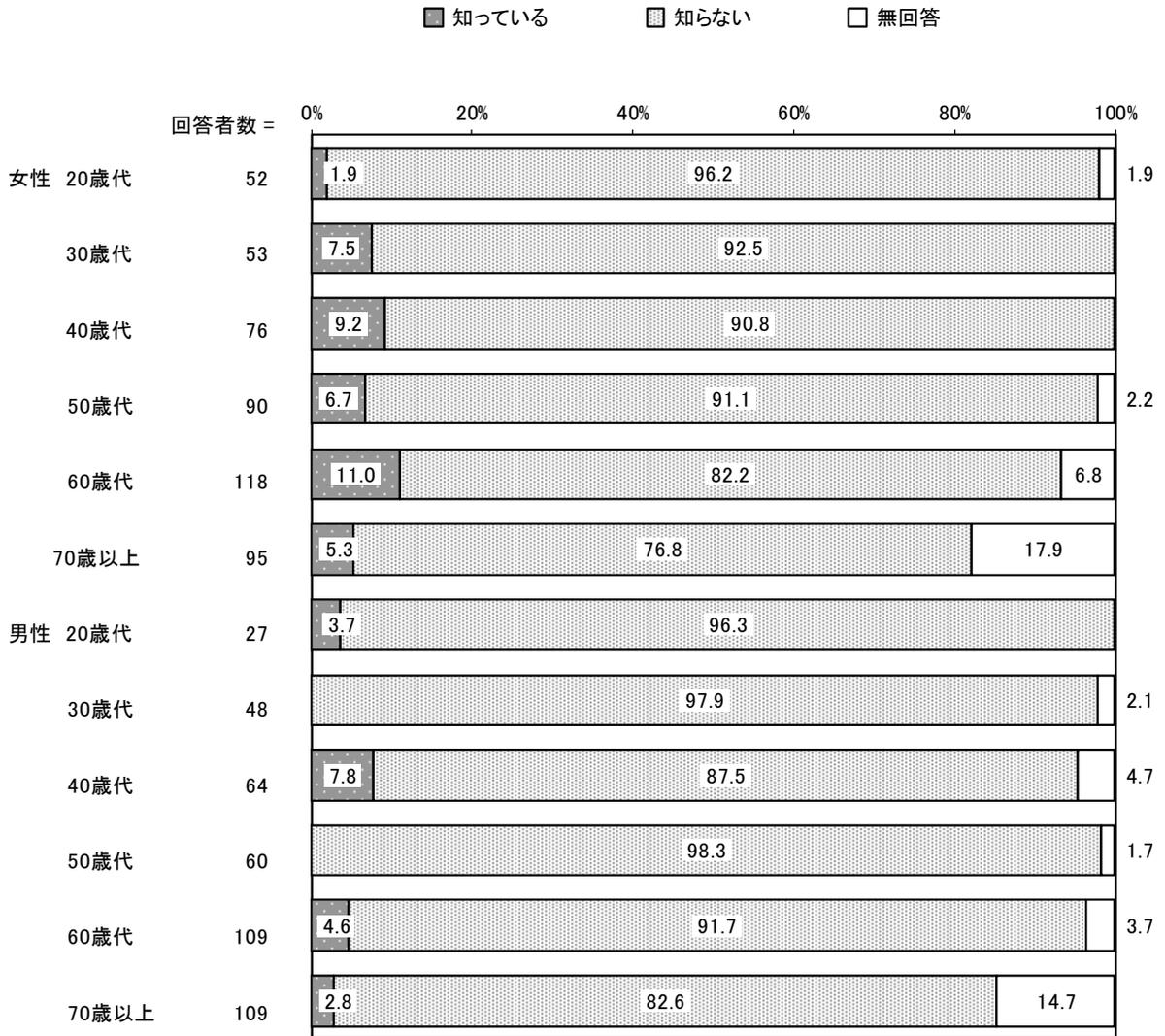
性・年齢別でみると、他に比べ、女性50歳代、女性60歳代で「知っている」の割合が、男性20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(4) つくば市男女共同参画推進標語 “愛ことば”

【性・年齢別】

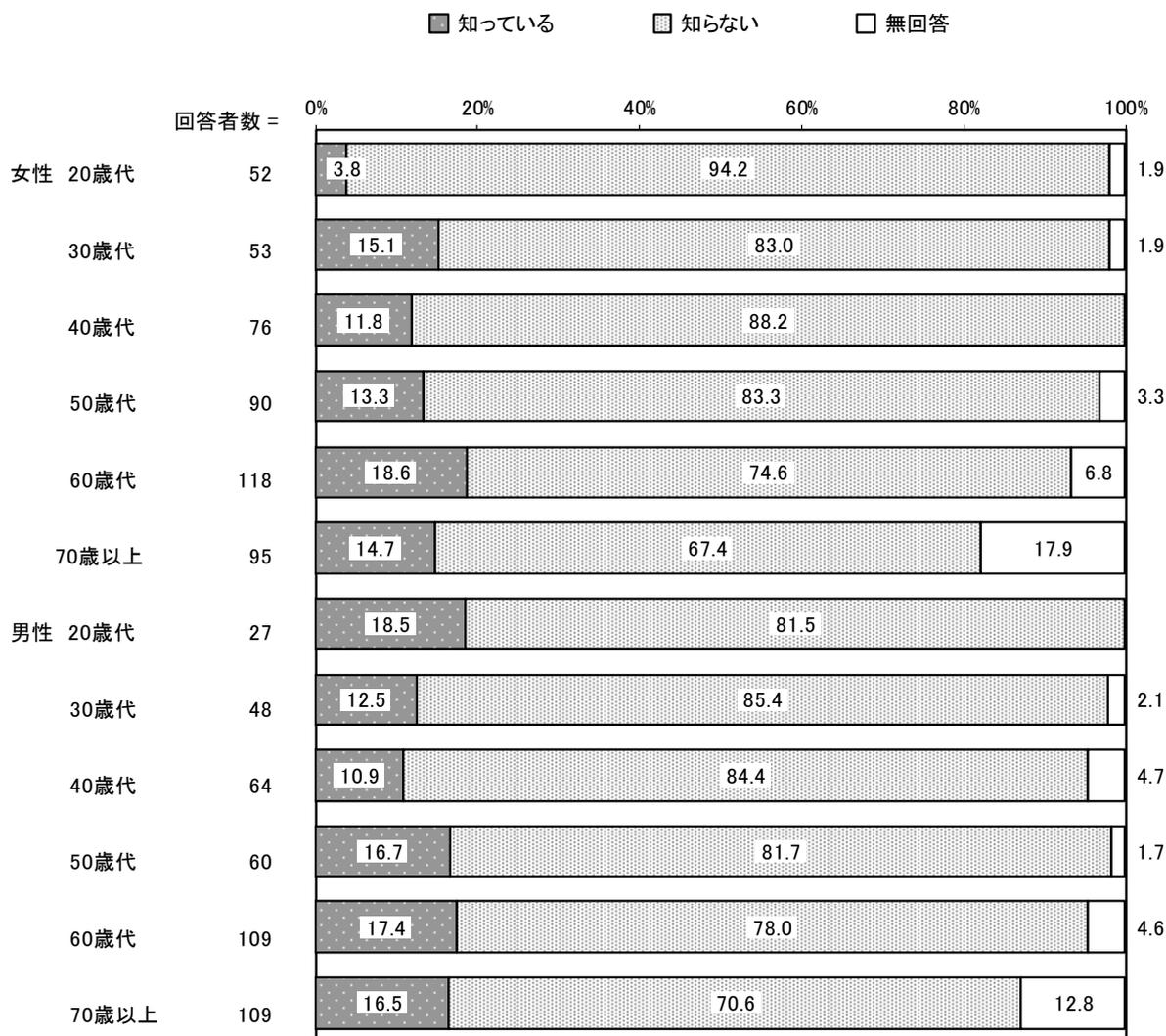
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性60歳代で「知っている」の割合が、女性20歳代、男性20歳代、男性30歳代、男性50歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(5) つくば市男女共同参画室だより

【性・年齢別】

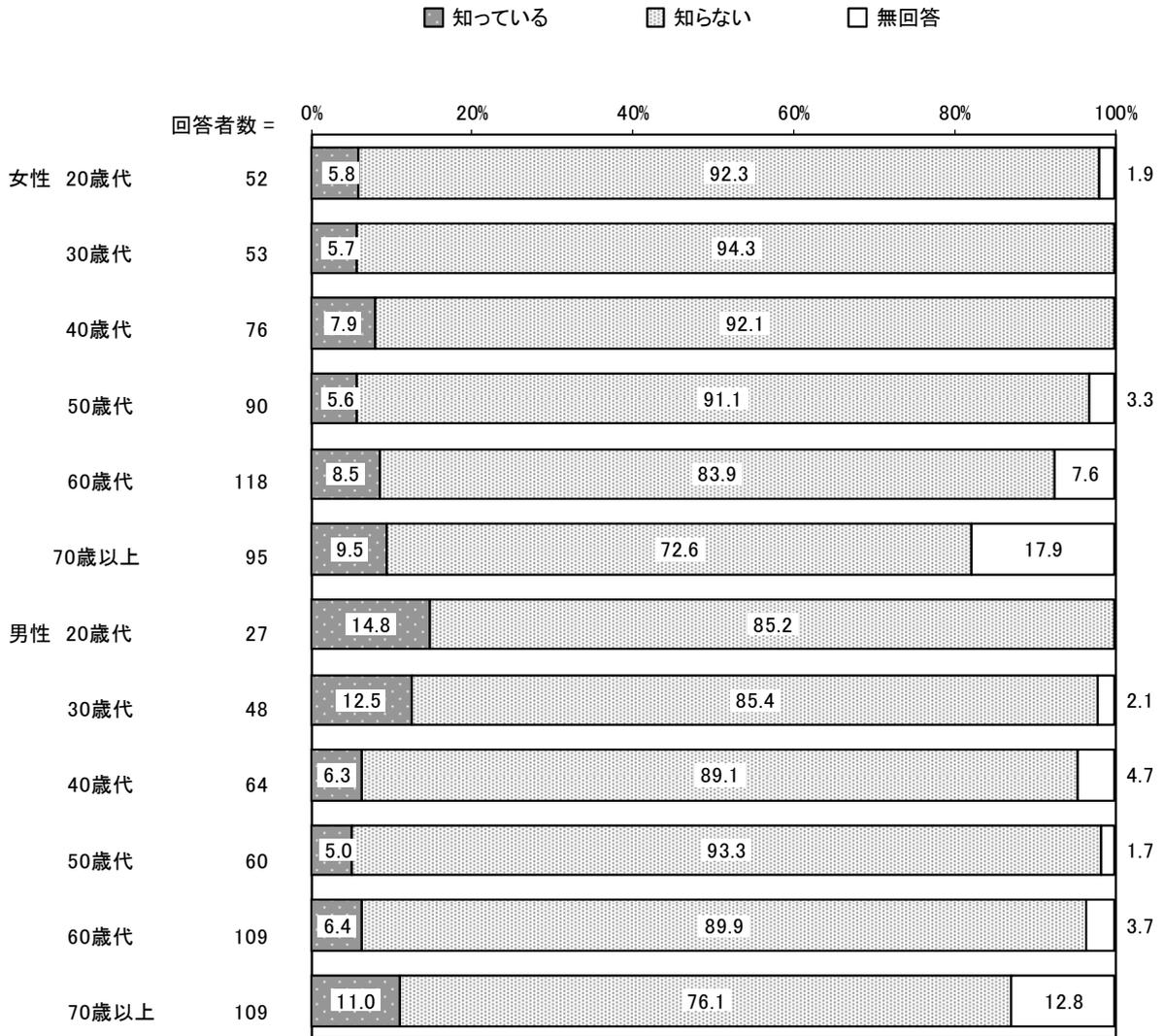
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性60歳代、男性20歳代で「知っている」の割合が、女性20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(6) つくば市男女共同参画社会基本条例

【性・年齢別】

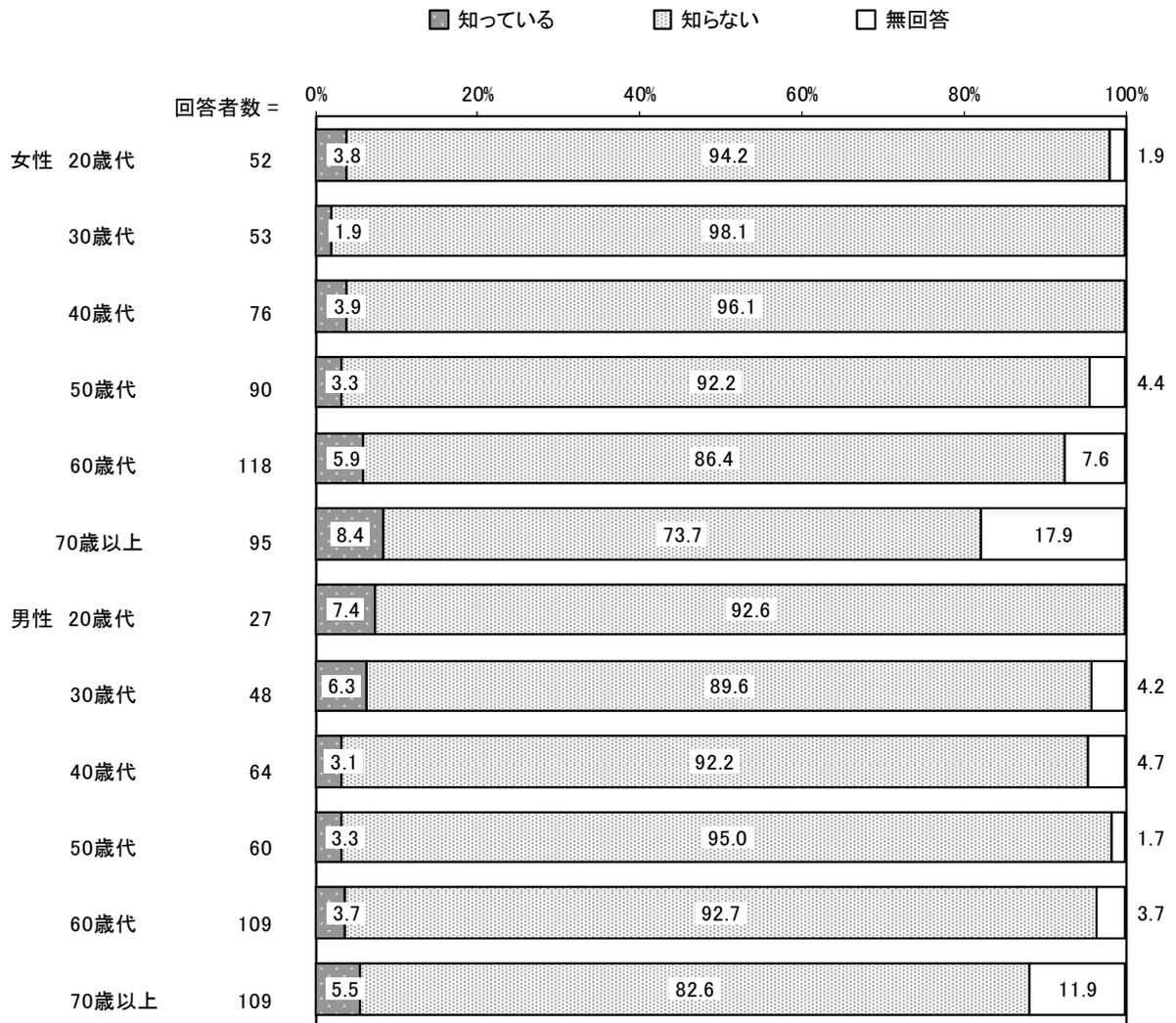
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性20歳代で「知っている」の割合が、女性30歳代、男性50歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(7) つくば市男女共同参画苦情等処理制度

【性・年齢別】

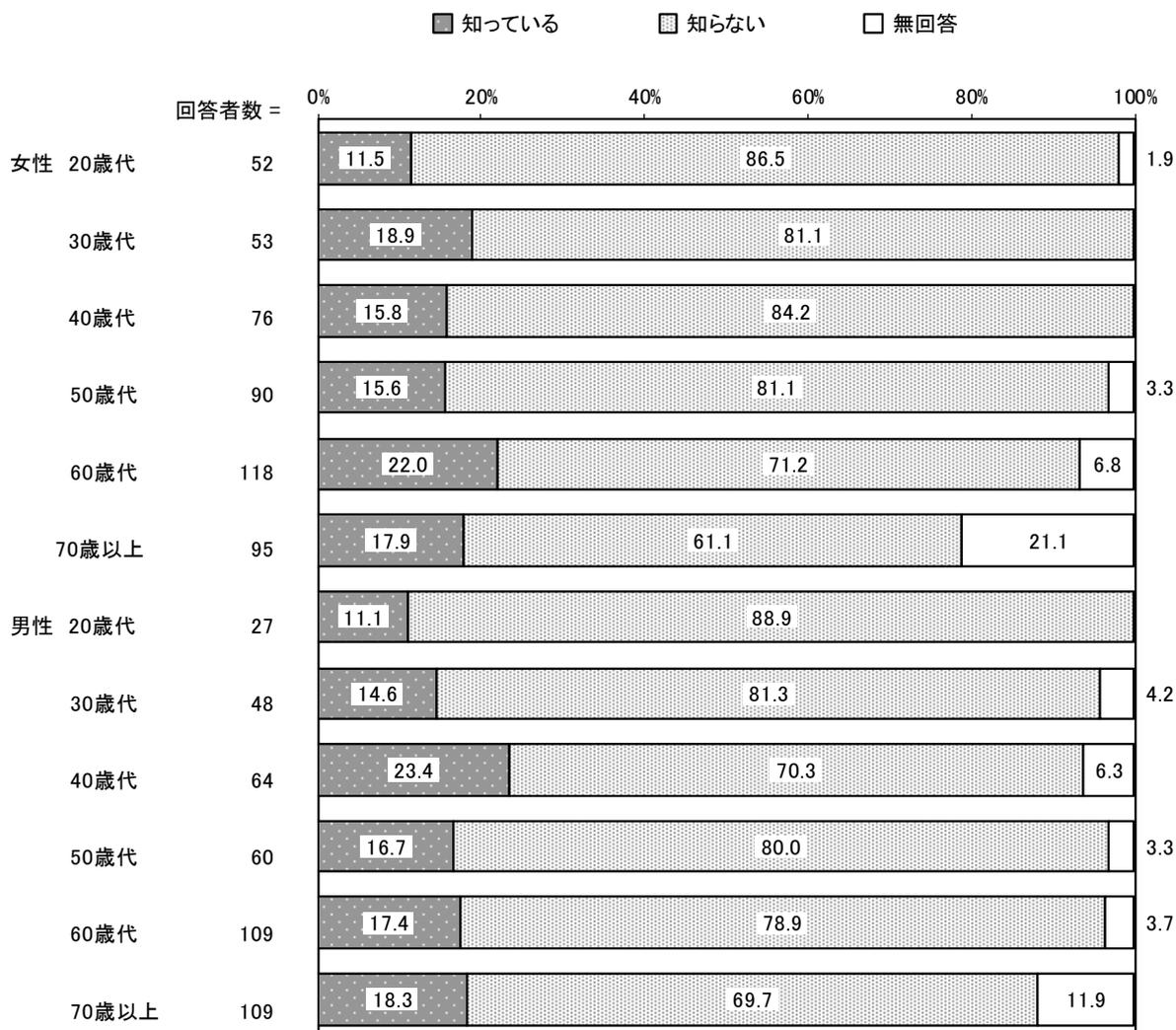
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性70歳以上、男性20歳代で「知っている」の割合が、女性40歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(8) つくば市は男女共同参画宣言都市である

【性・年齢別】

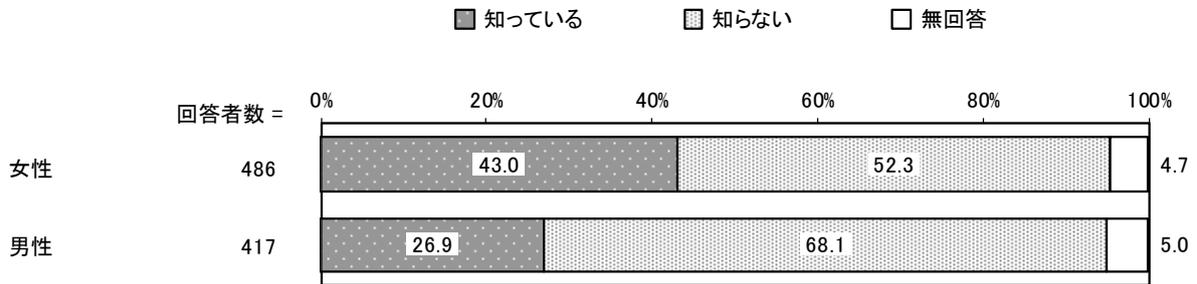
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性60歳代、男性40歳代で「知っている」の割合が、男性20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(9) つくば市女性のための相談室

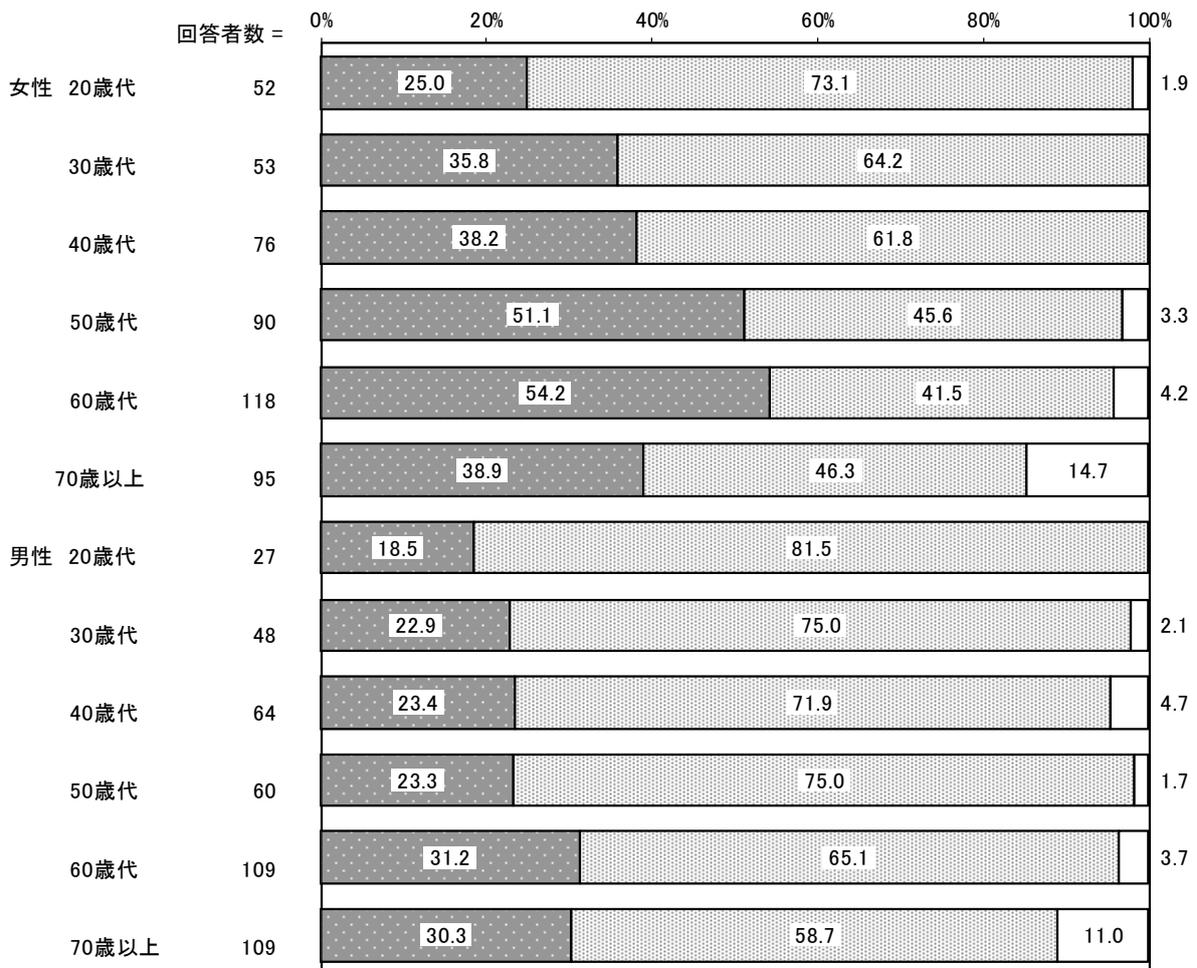
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



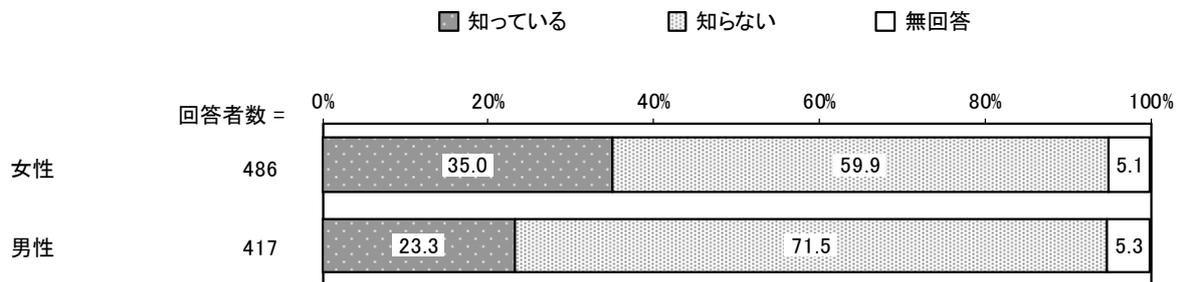
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性50歳代、女性60歳代で「知っている」の割合が、男性20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



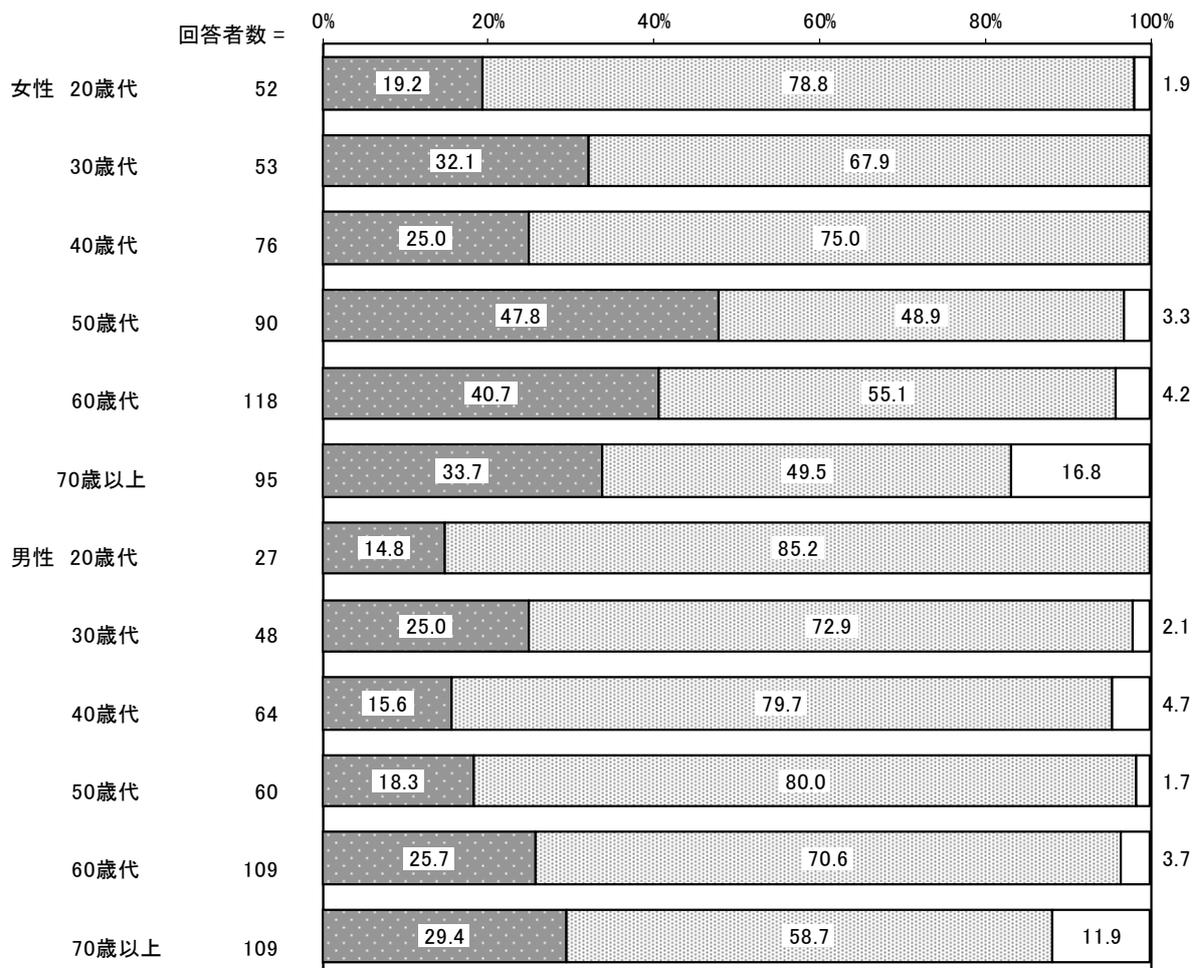
(10) つくば市男性のための電話相談

性別で見ると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代、女性 60 歳代で「知っている」の割合が、男性 20 歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

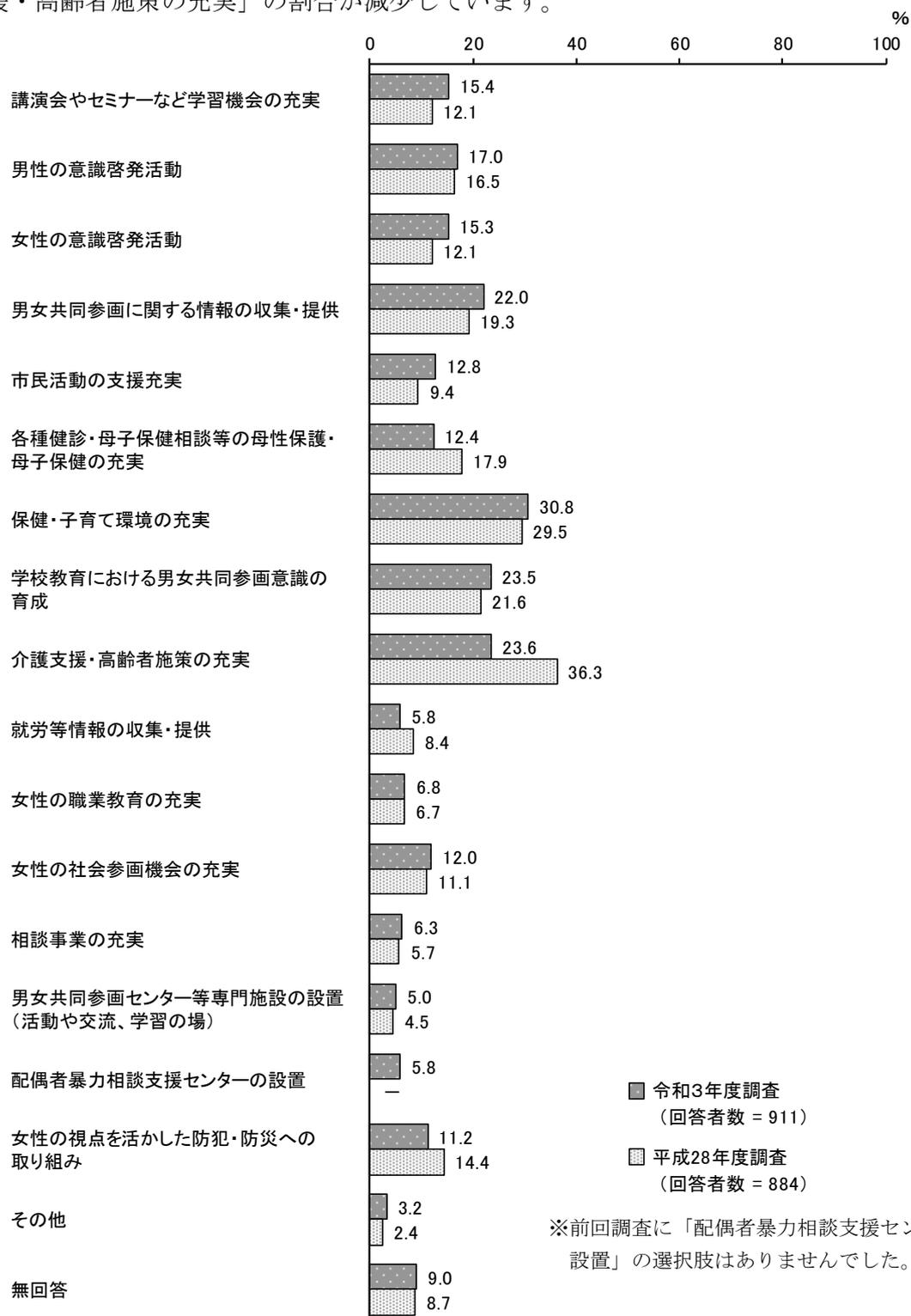


問 27 男女共同参画社会の実現に向けて、市としてどのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は3つまで)

「保健・子育て環境の充実」の割合が30.8%と最も高く、次いで「介護支援・高齢者施策の充実」の割合が23.6%、「学校教育における男女共同参画意識の育成」の割合が23.5%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「各種健診・母子保健相談等の母性保護・母子保健の充実」「介護支援・高齢者施策の充実」の割合が減少しています。



※前回調査に「配偶者暴力相談支援センターの設置」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「介護支援・高齢者施策の充実」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「男女共同参画に関する情報の収集・提供」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	講演会やセミナーなど学習機会の充実	男性の意識啓発活動	女性の意識啓発活動	男女共同参画に関する情報の収集・提供	市民活動の支援充実	各種健診・母子保健相談等の母子保健・母子保健の充実	保健・子育て環境の充実	学校教育における男女共同参画意識の育成	介護支援・高齢者施策の充実
女性	486	13.8	16.7	15.4	16.7	10.9	13.2	31.7	21.8	28.0
男性	417	17.5	16.8	14.9	28.5	15.3	11.8	30.0	25.4	18.7

区分	就労等情報の収集・提供	女性の職業教育の充実	女性の社会参画機会の充実	相談事業の充実	男女共同参画センター等専門施設の設定(活動や交流)	配偶者暴力相談支援センターの設置	女性の視点を活かした防犯・防災への取り組み	その他	無回答
女性	6.6	8.0	10.7	7.8	3.9	6.6	11.9	3.5	9.7
男性	4.8	5.3	13.7	4.6	6.2	4.8	10.6	2.9	8.2

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性50歳代で「男性の意識啓発活動」の割合が、女性70歳以上で「介護支援・高齢者施策の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	講演会やセミナーなど 学習機会の充実	男性の意識啓発活動	女性の意識啓発活動	男女共同参画に関する 情報の収集・提供	市民活動の支援充実	各種健診・母子保健相 談等の母子保護・母子 保健の充実	保健・子育て環境の充 実	学校教育における男女 共同参画意識の育成	介護支援・高齢者施策 の充実
女性 20歳代	52	7.7	13.5	13.5	15.4	—	28.8	48.1	17.3	21.2
30歳代	53	13.2	18.9	18.9	17.0	3.8	20.8	52.8	22.6	13.2
40歳代	76	3.9	19.7	14.5	13.2	11.8	14.5	44.7	22.4	27.6
50歳代	90	13.3	22.2	20.0	13.3	8.9	7.8	24.4	21.1	31.1
60歳代	118	19.5	13.6	11.0	22.0	17.8	11.9	32.2	24.6	28.8
70歳以上	95	18.9	13.7	16.8	16.8	13.7	5.3	6.3	21.1	36.8
男性 20歳代	27	3.7	11.1	7.4	18.5	18.5	25.9	51.9	11.1	14.8
30歳代	48	16.7	12.5	4.2	31.3	18.8	14.6	50.0	22.9	14.6
40歳代	64	17.2	12.5	10.9	28.1	9.4	7.8	26.6	32.8	14.1
50歳代	60	15.0	30.0	23.3	26.7	10.0	16.7	28.3	30.0	15.0
60歳代	109	17.4	19.3	16.5	25.7	16.5	8.3	29.4	26.6	17.4
70歳以上	109	22.9	12.8	17.4	33.9	18.3	10.1	19.3	22.0	27.5

区分	就労等情報の収集・提 供	女性の職業教育の充実	女性の社会参画機会の 充実	相談事業の充実	男女共同参画センタ― 等専門施設の設置(活 動や交流、学習の場)	配偶者暴力相談支援セ ンタ―の設置	女性の視点を活かした 防犯・防災への取り組 み	その他	無回答
女性 20歳代	3.8	9.6	11.5	9.6	5.8	5.8	15.4	1.9	5.8
30歳代	7.5	13.2	9.4	9.4	3.8	5.7	15.1	1.9	3.8
40歳代	10.5	9.2	7.9	3.9	2.6	14.5	9.2	3.9	5.3
50歳代	10.0	10.0	12.2	4.4	3.3	4.4	14.4	6.7	7.8
60歳代	5.9	6.8	11.9	10.2	4.2	3.4	11.9	2.5	10.2
70歳以上	2.1	3.2	10.5	9.5	4.2	7.4	8.4	2.1	20.0
男性 20歳代	18.5	—	7.4	3.7	3.7	7.4	14.8	3.7	11.1
30歳代	8.3	2.1	8.3	10.4	2.1	10.4	12.5	4.2	—
40歳代	4.7	7.8	9.4	1.6	6.3	6.3	12.5	7.8	9.4
50歳代	6.7	6.7	16.7	3.3	5.0	3.3	10.0	1.7	3.3
60歳代	1.8	6.4	18.3	3.7	10.1	5.5	9.2	0.9	9.2
70歳以上	1.8	4.6	13.8	5.5	5.5	0.9	9.2	1.8	11.9

(9) その他について

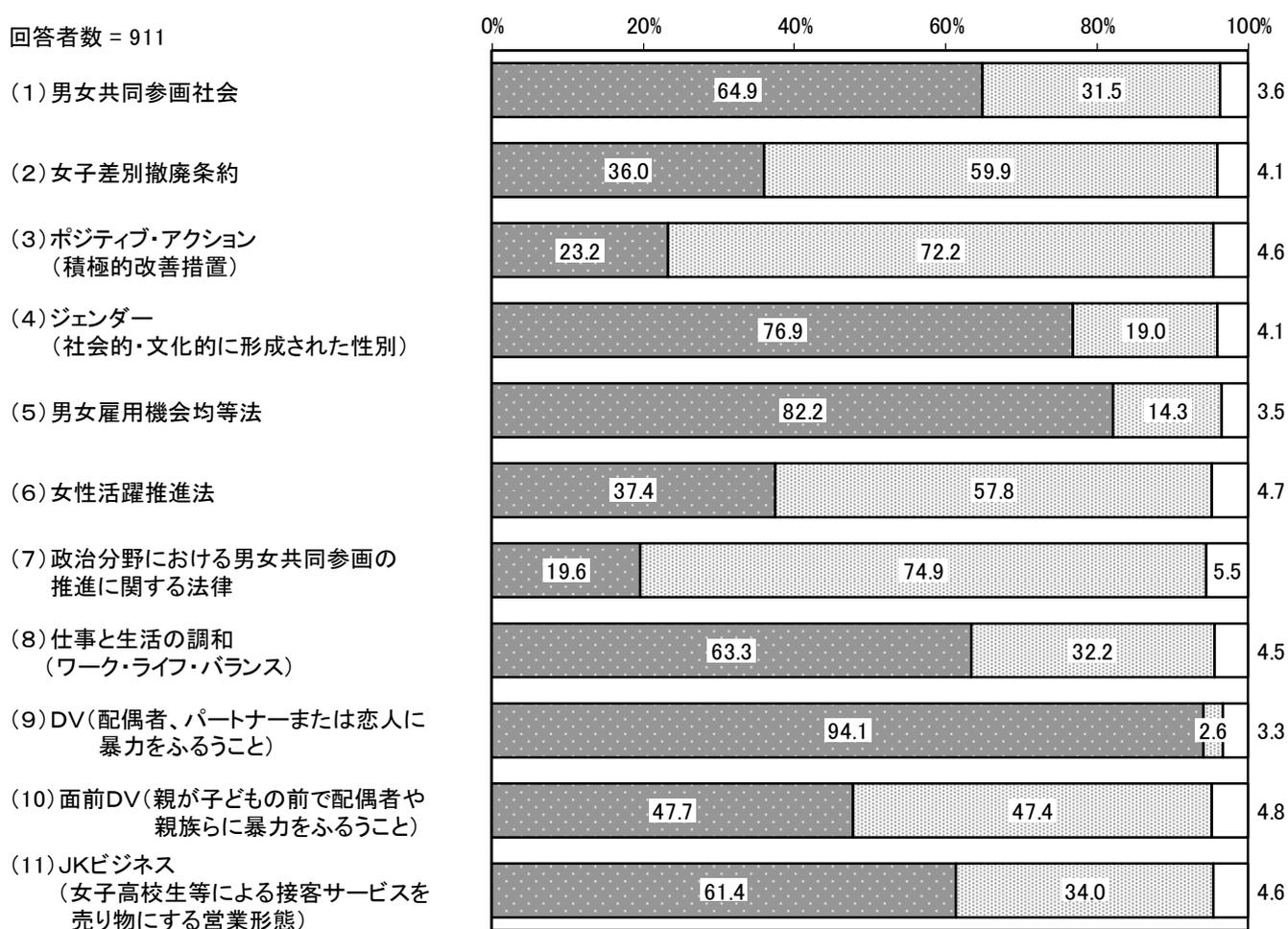
問 28 あなたは、次の用語について知っていましたか。(〇はそれぞれ1つ)

【新規設問】

『男女共同参画社会』『ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）』『男女雇用機会均等法』『仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）』『DV（配偶者、パートナーまたは恋人に暴力をふるうこと）』の項目で「知っている」の割合が高くなっています。

■ 知っている ▨ 知らない □ 無回答

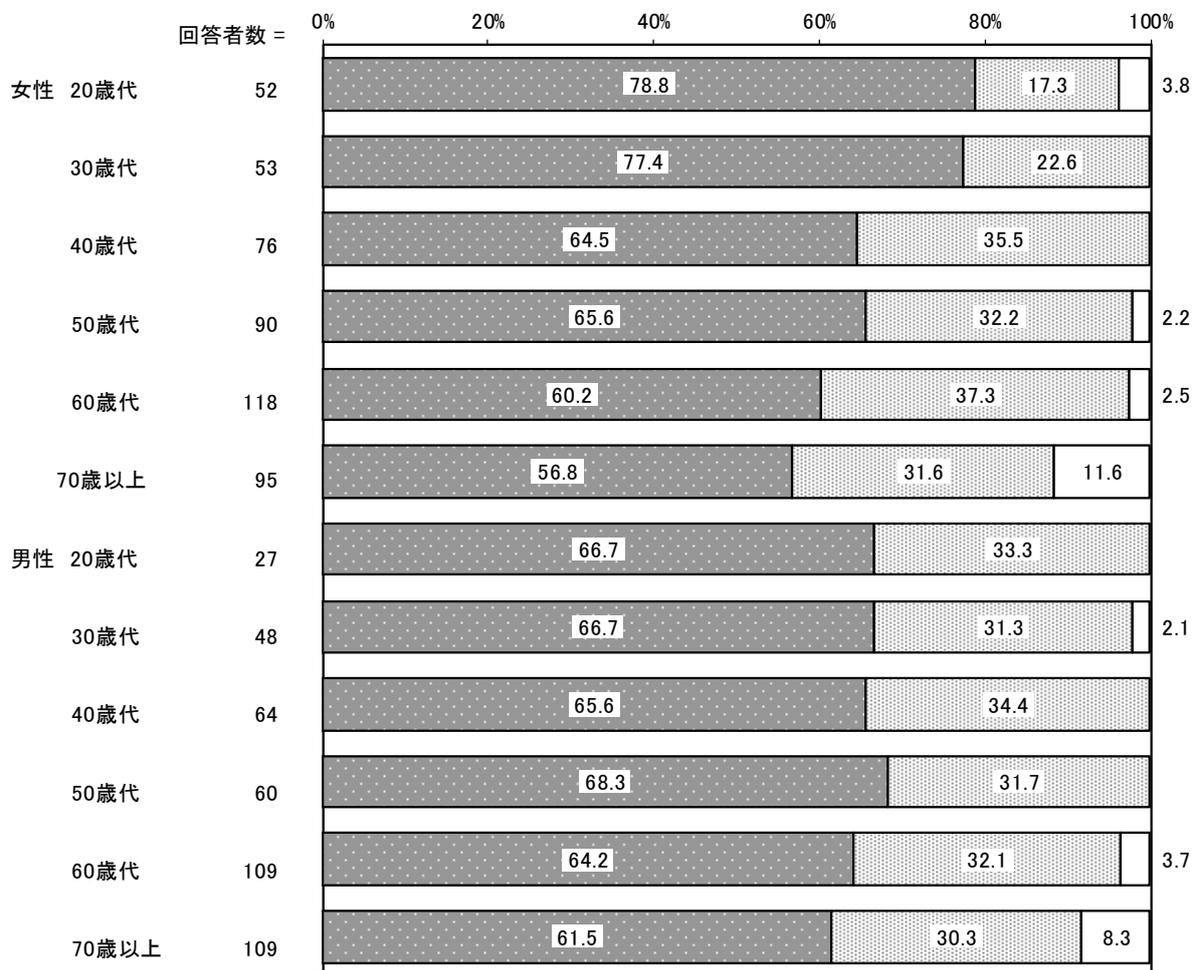
回答者数 = 911



(1) 男女共同参画社会

【性・年齢別】

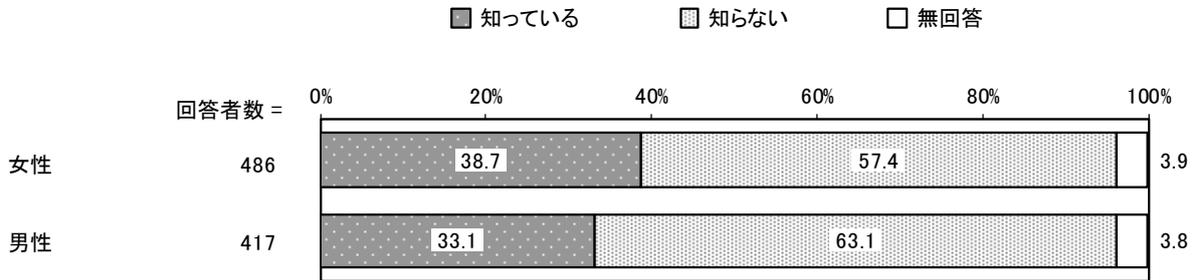
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性20歳代、女性30歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(2) 女子差別撤廃条約

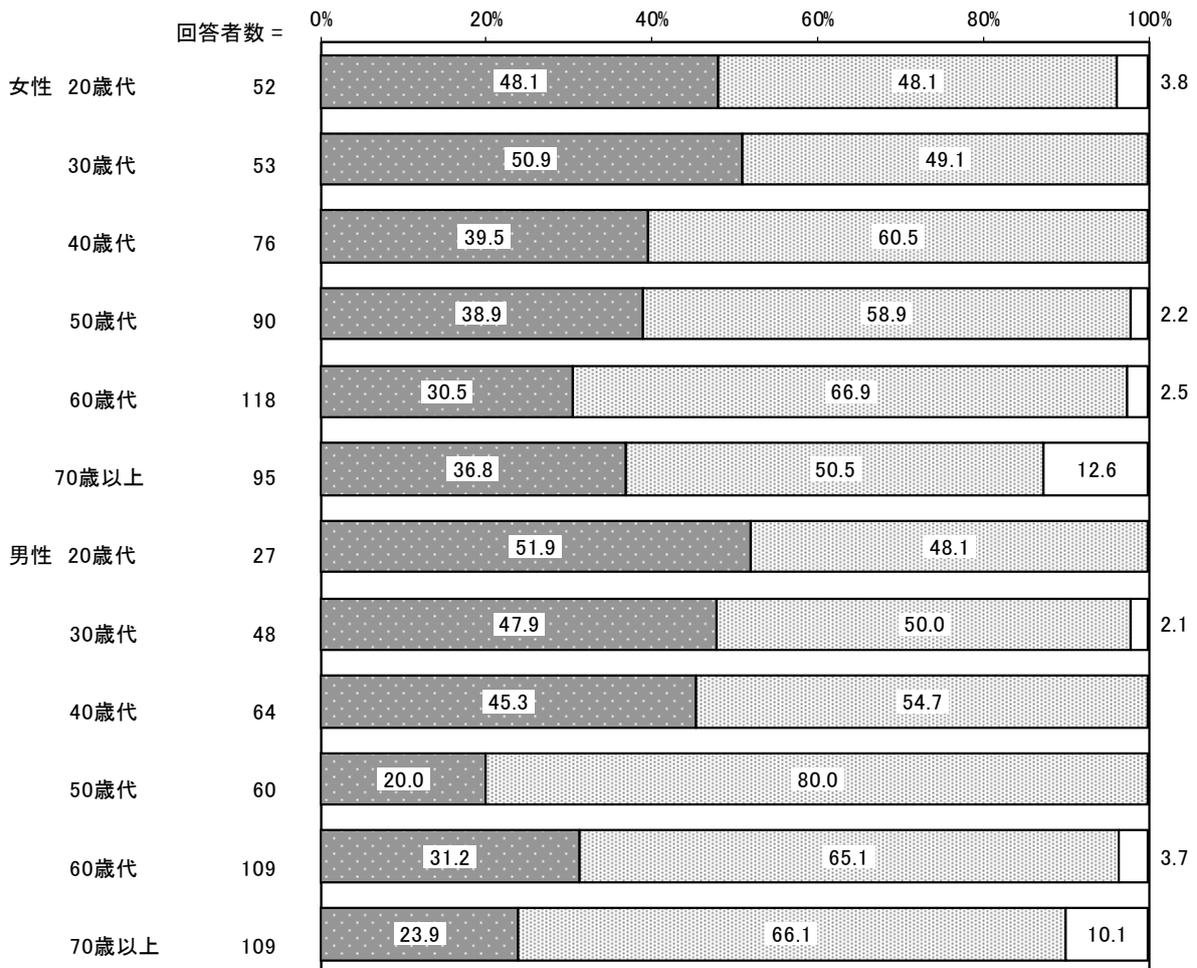
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

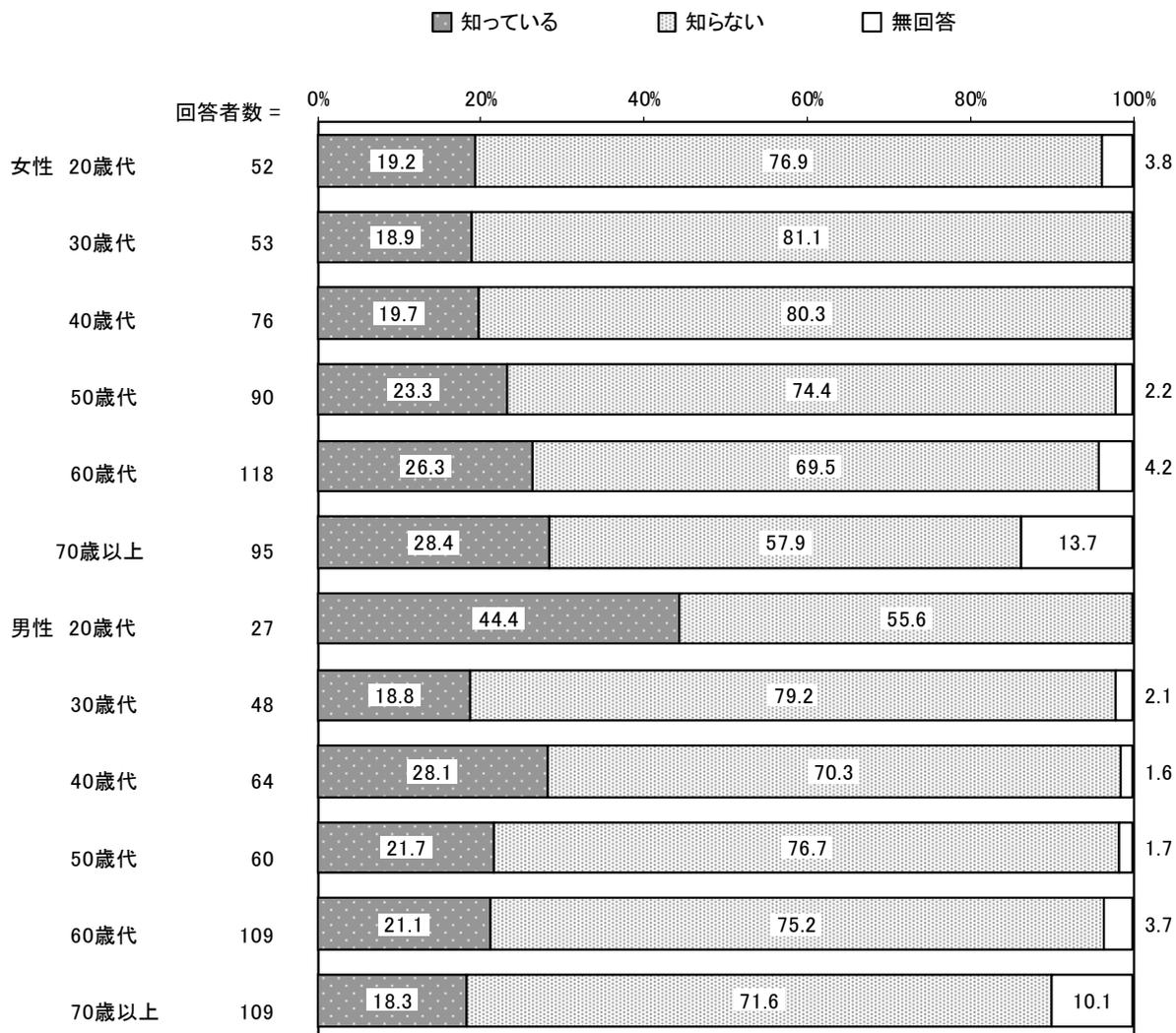
性・年齢別でみると、他に比べ、女性20歳代、女性30歳代、男性20歳代、男性30歳代、男性40歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(3) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)

【性・年齢別】

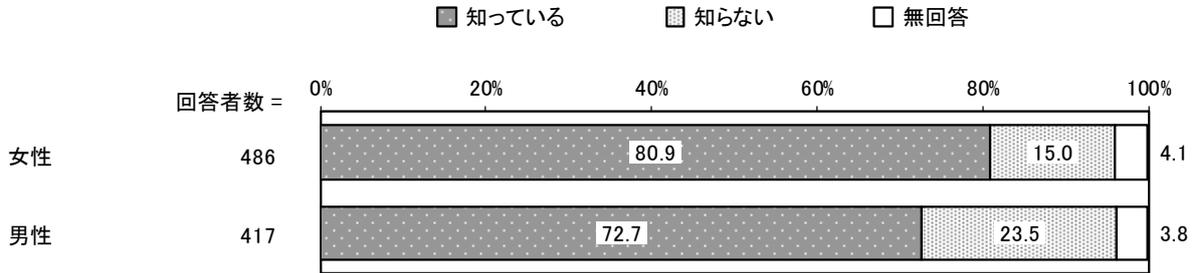
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 20 歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(4) ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

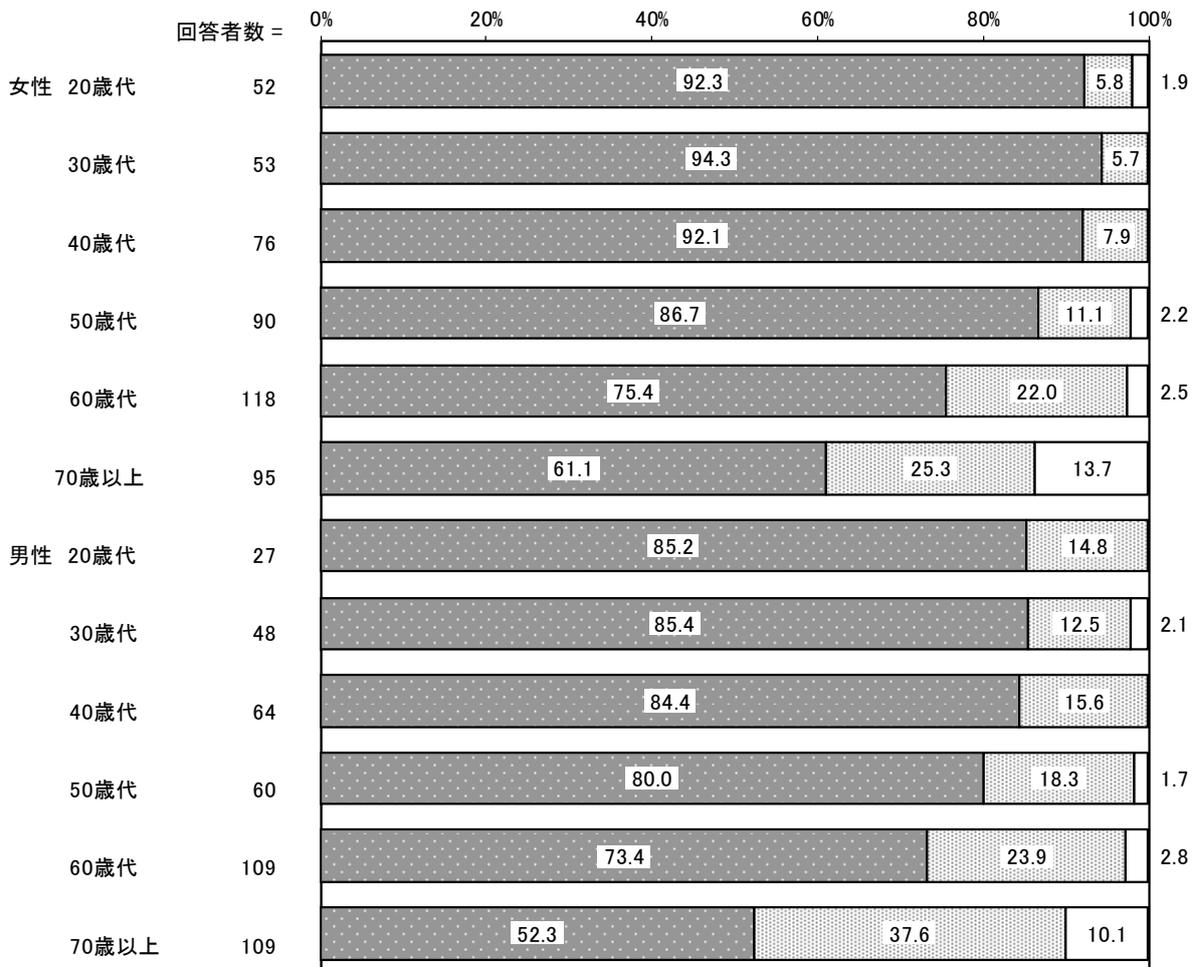
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

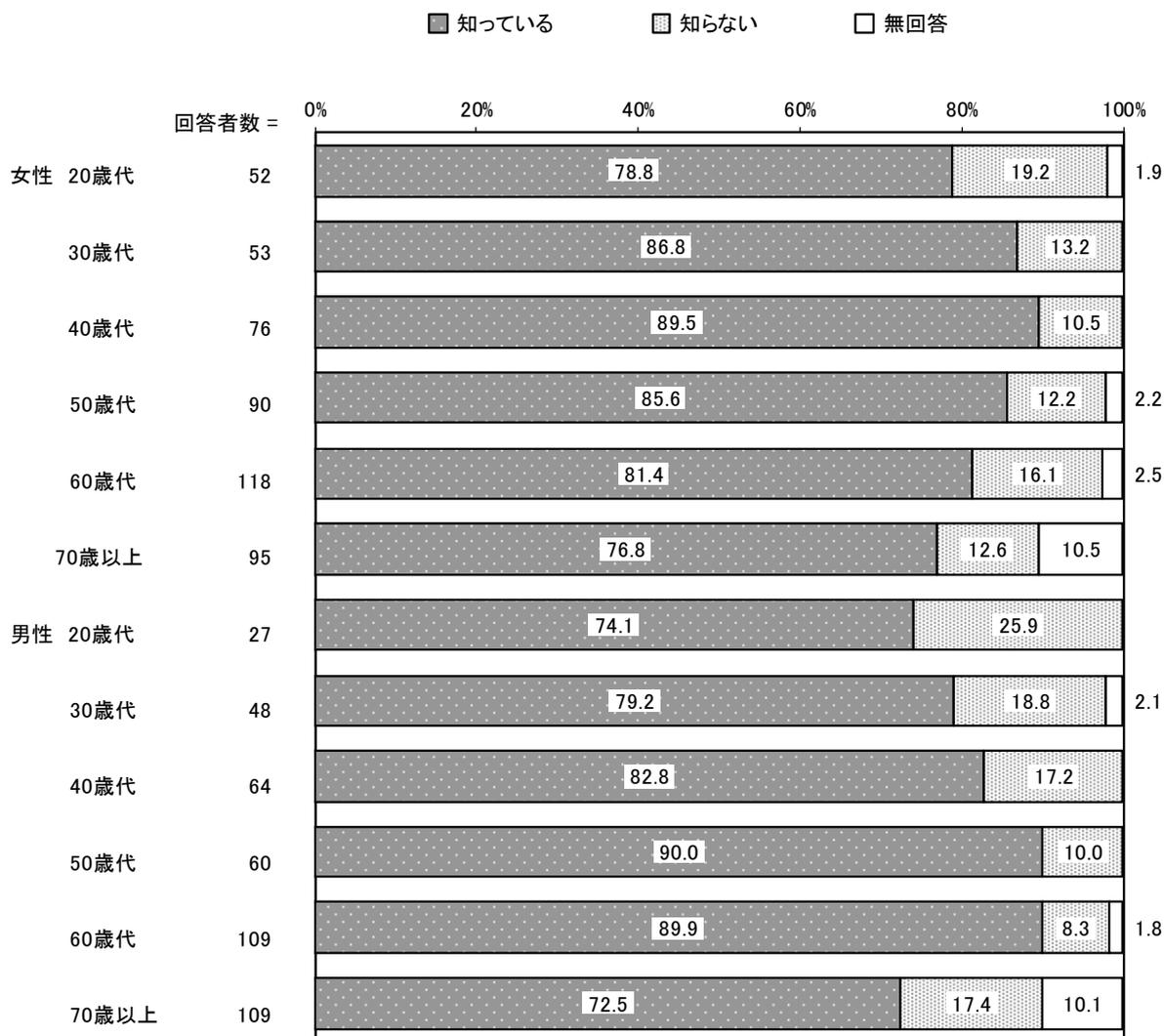
性・年齢別でみると、女性で年齢がさがるにつれ「知っている」の割合が高くなっています。



(5) 男女雇用機会均等法

【性・年齢別】

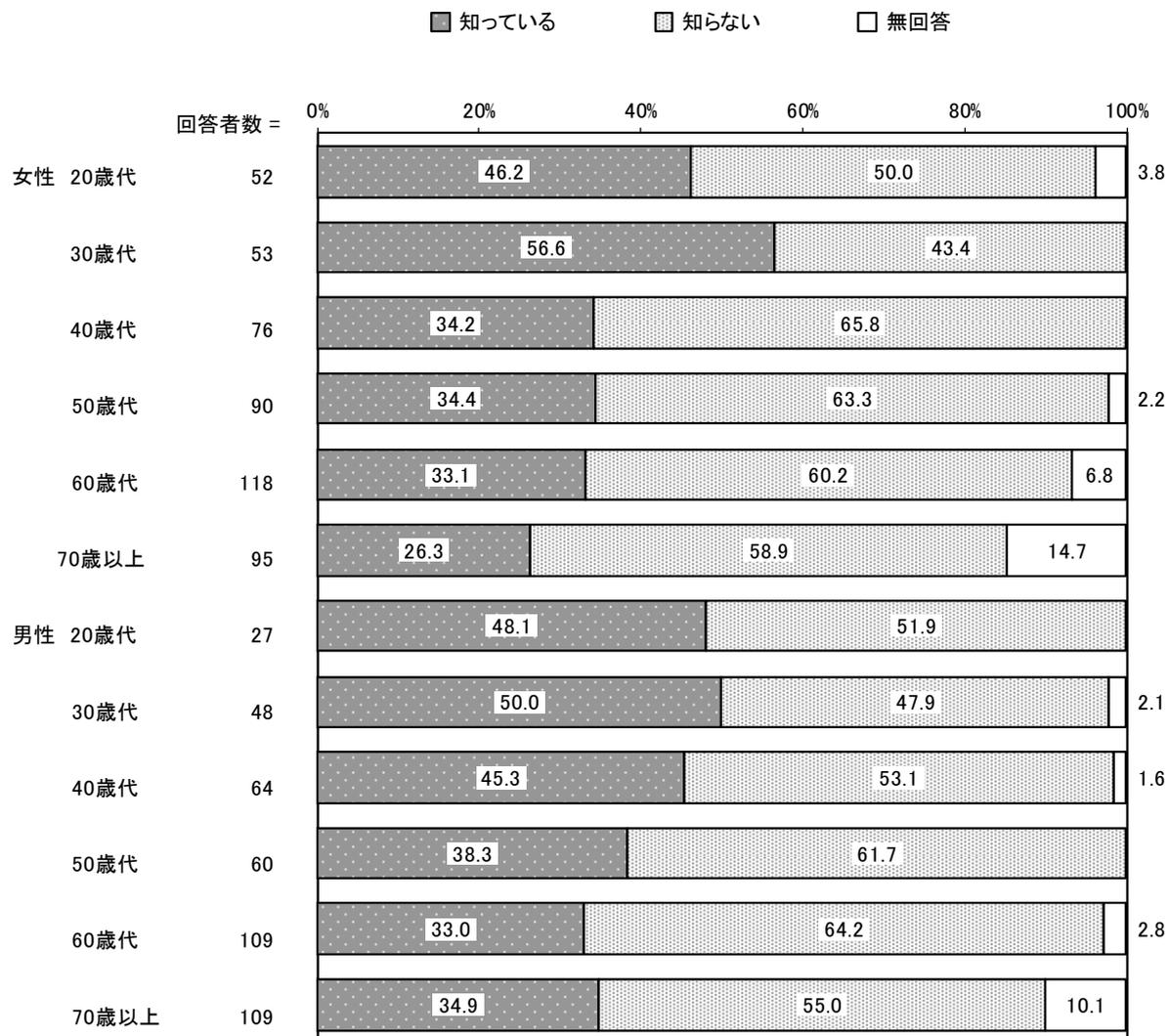
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性40歳代、男性50歳代、男性60歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(6) 女性活躍推進法

【性・年齢別】

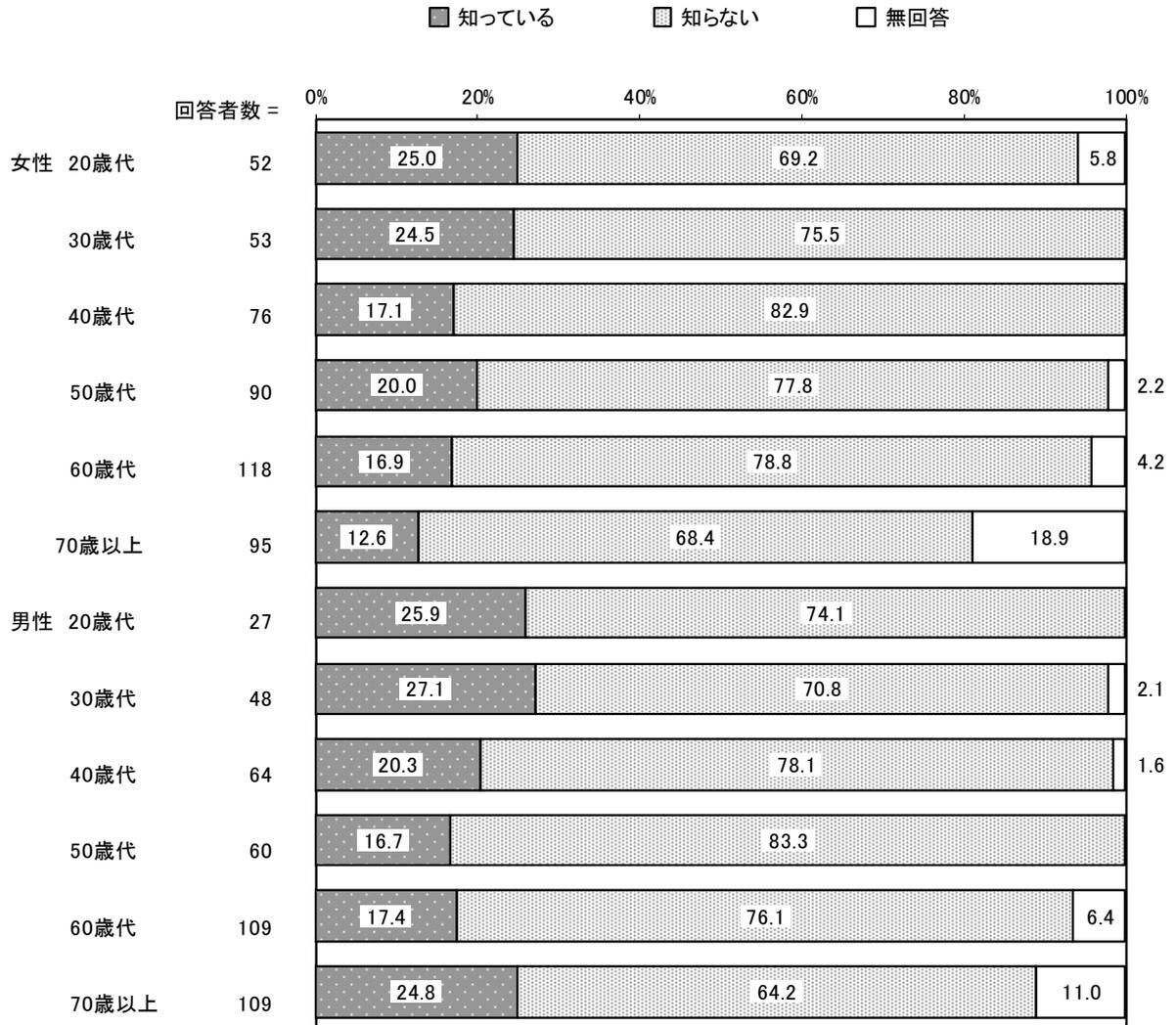
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性30歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(7) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

【性・年齢別】

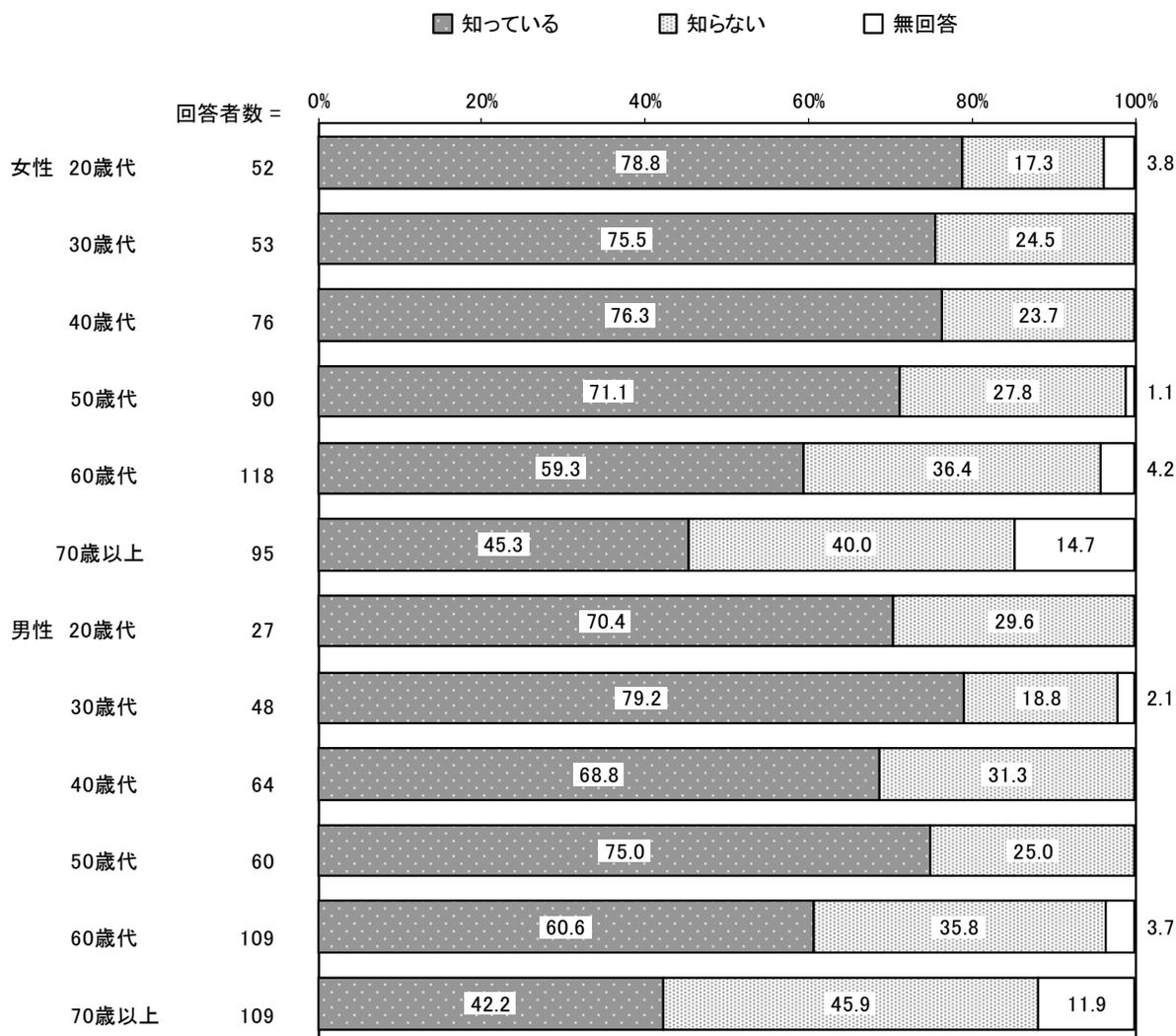
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性20歳代、女性30歳代、男性20歳代、男性30歳代、男性70歳以上で「知っている」の割合が、女性40歳代、男性50歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(8) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)

【性・年齢別】

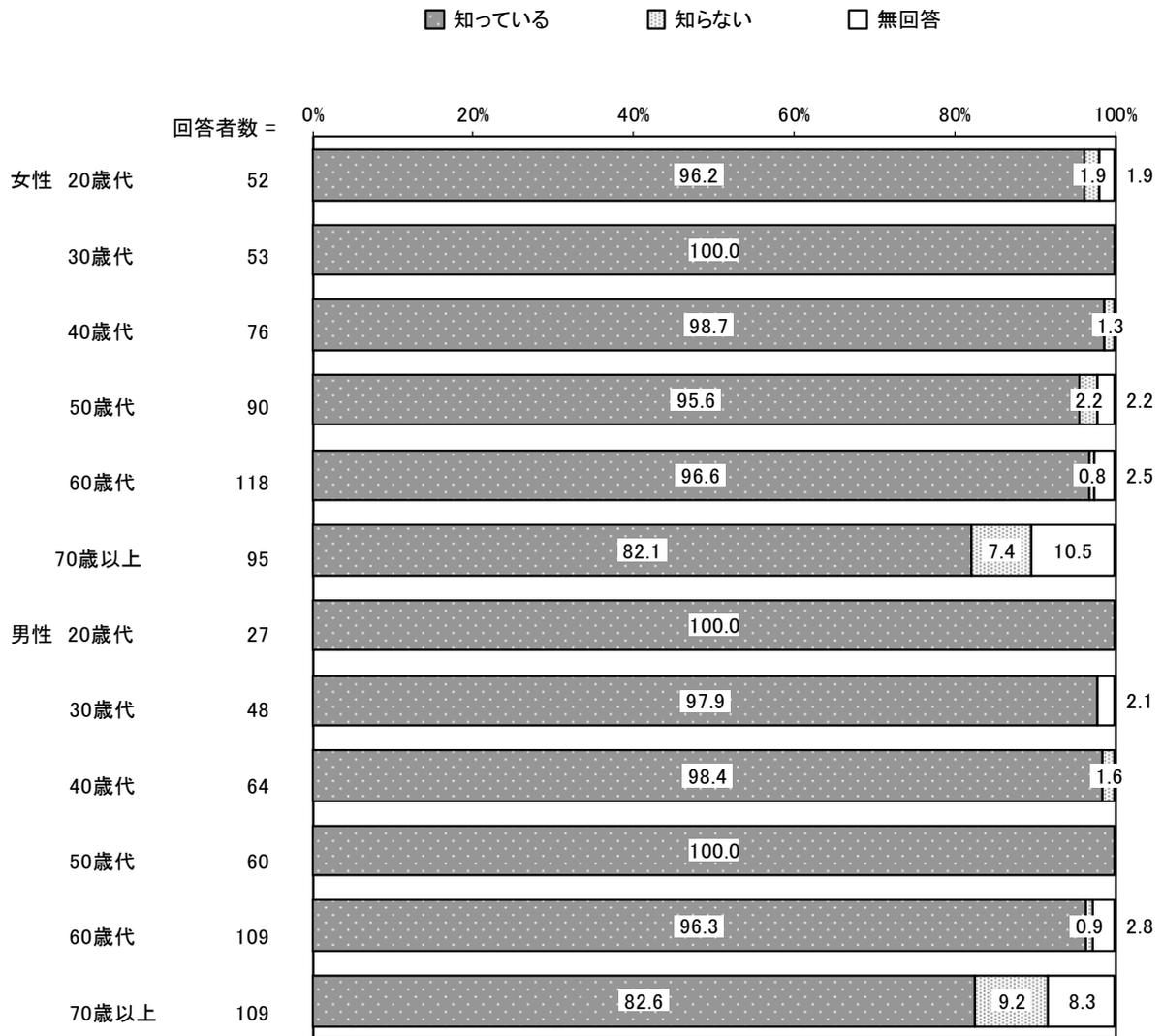
性・年齢別でみると、女性で年齢がさがるにつれ「知っている」の割合が高くなっています。また、男性70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。



(9) DV (配偶者、パートナーまたは恋人に暴力をふるうこと)

【性・年齢別】

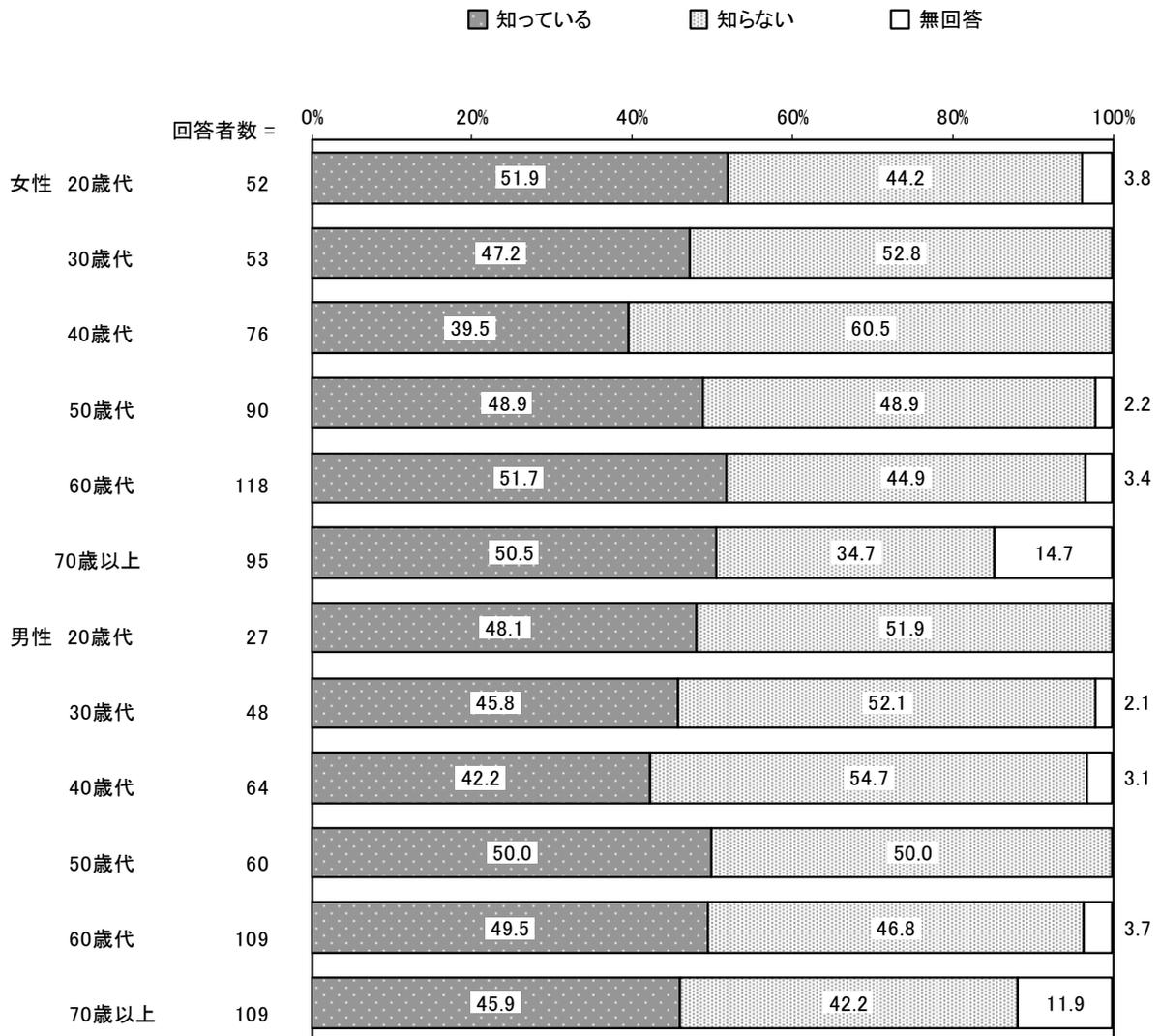
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性30歳代、男性20歳代、男性50歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(10) 面前DV（親が子どもの前で配偶者や親族らに暴力をふるうこと）

【性・年齢別】

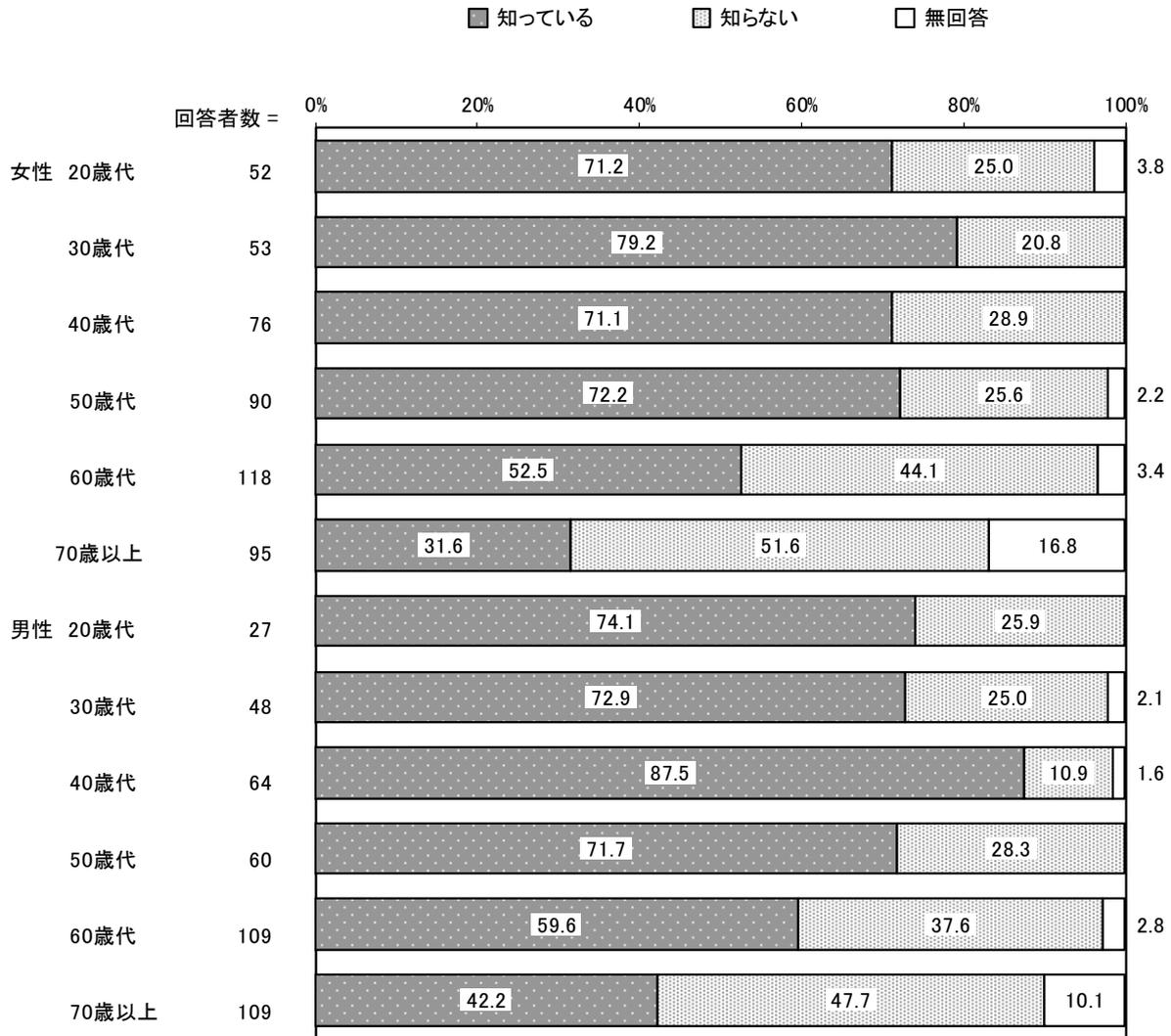
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性20歳代、女性60歳代、女性70歳以上、男性50歳代で「知っている」の割合が、女性40歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(11) JKビジネス（女子高校生等による接客サービスを売り物にする営業形態）

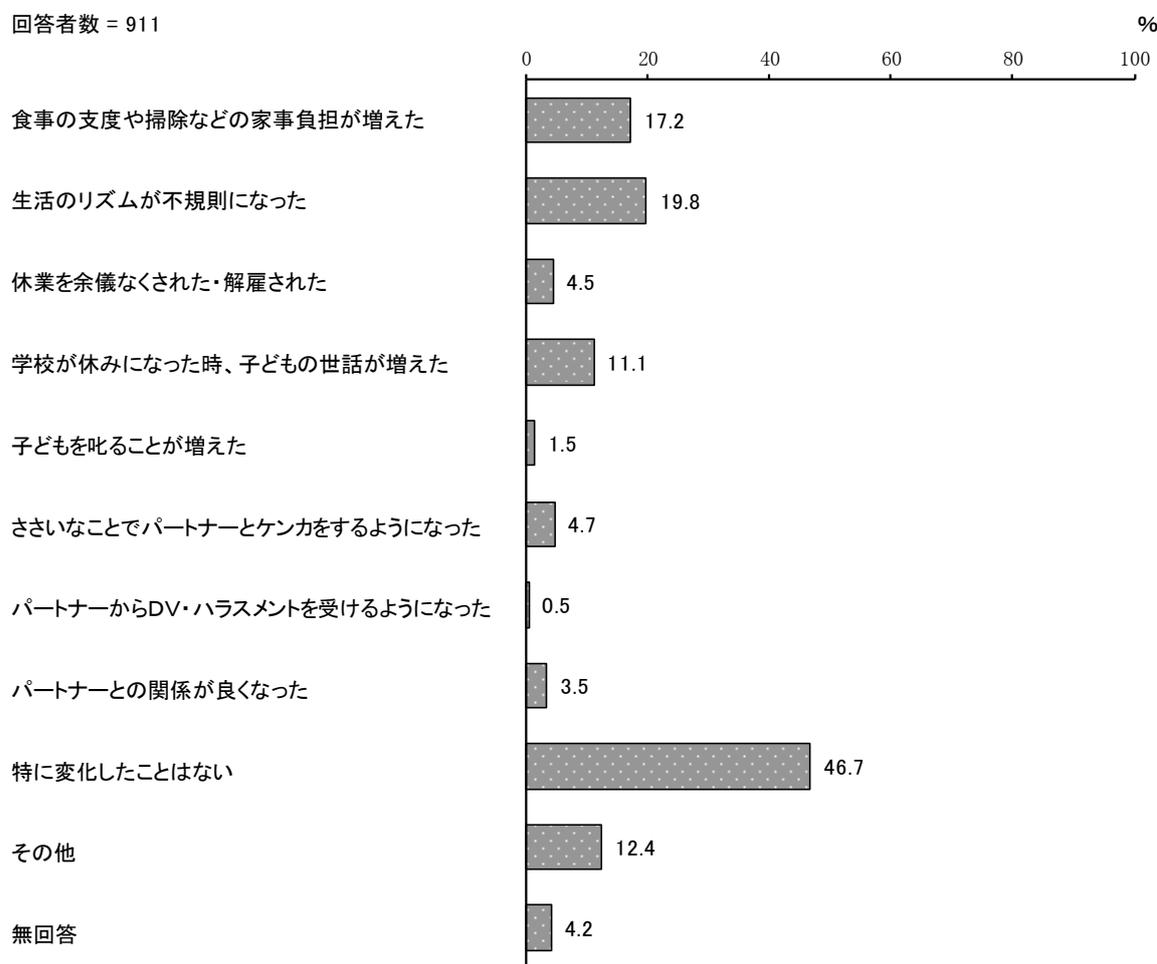
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性40歳代で「知っている」の割合が、女性70歳以上、男性70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。



問 29 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化がありましたか。(〇は3つまで) 【新規設問】

「特に変化したことはない」の割合が46.7%と最も高く、次いで「生活のリズムが不規則になった」の割合が19.8%、「食事の支度や掃除などの家事負担が増えた」の割合が17.2%となっています。



< 「その他」意見より >

- ・外出する機会、外食の機会が少なくなった。
- ・旅行に行けなくなった。
- ・運動不足で体重が増えた、体力が落ちた。
- ・気軽に友人と会えなくなった。
- ・何ごとにも敏感になりがちで、気持が不安定になった。 など

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「食事の支度や掃除などの家事負担が増えた」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「特に変化したことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	生活のリズムが不規則になった	休業を余儀なくされた・解雇された	学校が休みになった時、子どもの世話が増えた	子どもを叱ることが増えた	ささいなことでパートナーとケンカをするようになった	パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった	パートナーとの関係が悪くなった	特に変化したことはない	その他	無回答
女性	486	23.7	17.7	5.3	13.2	2.1	4.3	0.2	2.9	43.6	15.0	3.7
男性	417	9.8	22.3	3.6	8.6	0.7	5.0	1.0	3.8	50.4	9.6	4.6

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性30歳代で「食事の支度や掃除などの家事負担が増えた」の割合が、男性70歳以上で「生活のリズムが不規則になった」の割合が高くなっています。また、男性20歳代で「休業を余儀なくされた・解雇された」の割合が高くなっています。

単位：％

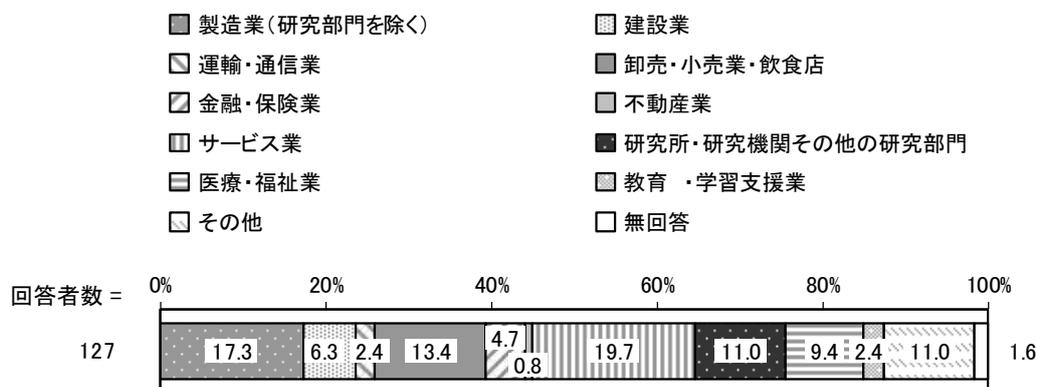
区分	回答者数(件)	食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	生活のリズムが不規則になった	休業を余儀なくされた・解雇された	学校が休みになった時、子どもの世話が増えた	子どもを叱ることが増えた	ささいなことでパートナーとケンカをするようになった	パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった	パートナーとの関係が悪くなった	特に変化したことはない	その他	無回答
女性 20歳代	52	5.8	19.2	3.8	—	—	—	—	—	59.6	15.4	3.8
30歳代	53	32.1	9.4	9.4	24.5	9.4	1.9	—	1.9	41.5	7.5	3.8
40歳代	76	35.5	23.7	1.3	42.1	5.3	1.3	—	6.6	23.7	13.2	2.6
50歳代	90	23.3	15.6	11.1	13.3	1.1	4.4	—	5.6	51.1	11.1	1.1
60歳代	118	22.9	16.9	5.9	2.5	—	8.5	0.8	0.8	42.4	20.3	4.2
70歳以上	95	20.0	20.0	1.1	3.2	—	4.2	—	2.1	46.3	17.9	6.3
男性 20歳代	27	3.7	22.2	25.9	—	3.7	3.7	—	7.4	48.1	11.1	—
30歳代	48	8.3	12.5	6.3	20.8	—	6.3	2.1	8.3	50.0	8.3	—
40歳代	64	15.6	17.2	—	21.9	3.1	7.8	1.6	3.1	43.8	7.8	6.3
50歳代	60	3.3	18.3	1.7	10.0	—	5.0	—	5.0	56.7	10.0	1.7
60歳代	109	11.9	24.8	2.8	4.6	—	3.7	0.9	1.8	54.1	7.3	3.7
70歳以上	109	10.1	29.4	0.9	0.9	—	4.6	0.9	2.8	47.7	12.8	9.2

2 事業所

(1) 回答者属性

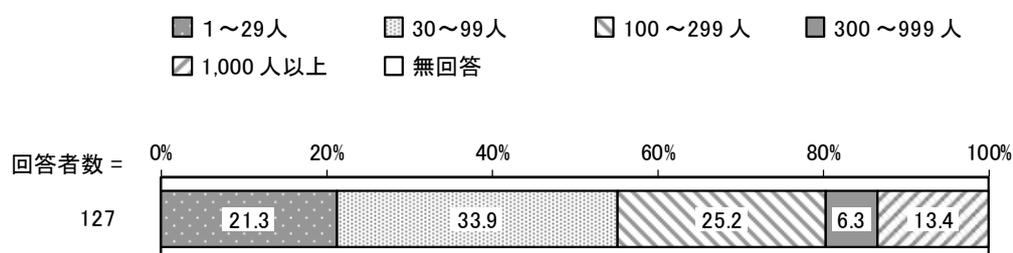
F 1 業種は次のうちどれになりますか。

「サービス業」の割合が19.7%と最も高く、次いで「製造業(研究部門を除く)」の割合が17.3%、「卸売・小売業・飲食店」の割合が13.4%となっています。



F 2 従業員規模は次のうちどれになりますか。

「30～99人」の割合が33.9%と最も高く、次いで「100～299人」の割合が25.2%、「1～29人」の割合が21.3%となっています。



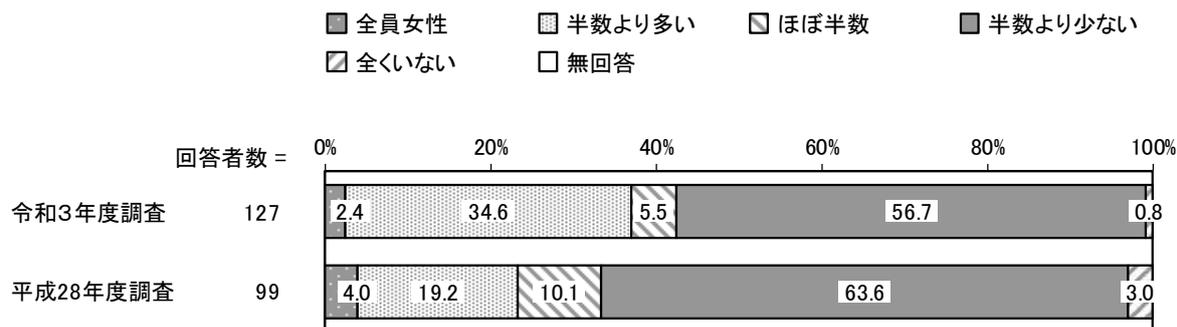
(2) 雇用や職場環境について

問1 従業員のうち、女性はどのくらいいますか。

「半数より少ない」の割合が56.7%と最も高く、次いで「半数より多い」の割合が34.6%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「半数より多い」の割合が増加しています。一方、「半数より少ない」の割合が減少しています。

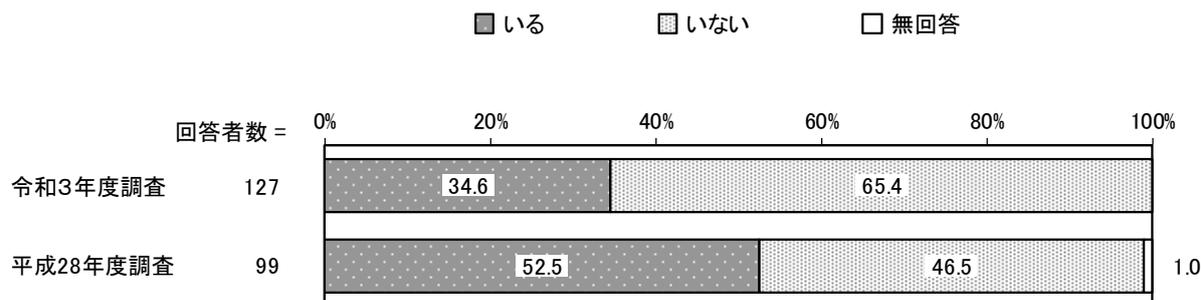


問2 女性の役員はいますか。

「いる」の割合が34.6%、「いない」の割合が65.4%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「いる」の割合が減少しています。

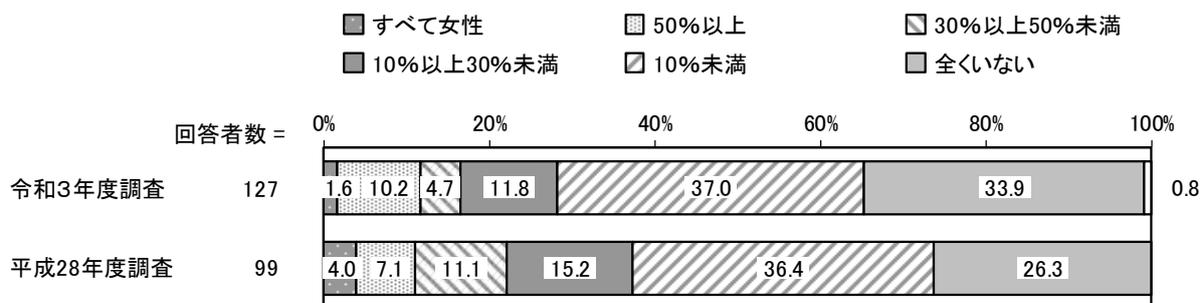


問3 管理職の中で女性が占める割合はどのくらいですか。

「10%未満」の割合が37.0%と最も高く、次いで「全くいない」の割合が33.9%、「10%以上30%未満」の割合が11.8%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「全くいない」の割合が増加しています。一方、「30%以上50%未満」の割合が減少しています。

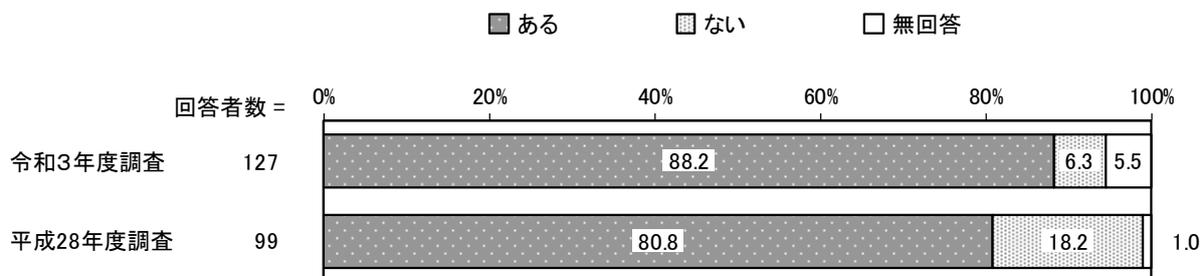


問4 今後、女性を管理職として登用するつもりはありますか。

「ある」の割合が88.2%、「ない」の割合が6.3%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「ある」の割合が増加しています。一方、「ない」の割合が減少しています。



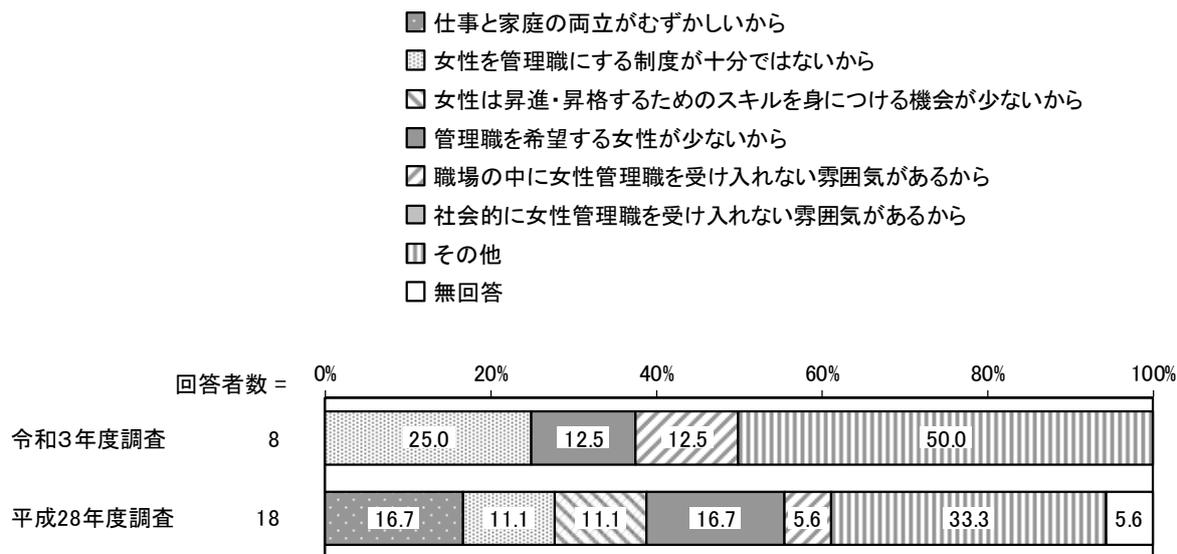
問4で「ない」と回答した方にお伺いします。

問4-1 それはなぜですか。最も大きな理由を1つだけ選んでください。

「女性を管理職にする制度が十分ではないから」の割合が25.0%と最も高く、次いで「管理職を希望する女性が少ないから」「職場の中に女性管理職を受け入れない雰囲気があるから」の割合が12.5%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査との比較は、有効回答が少ないため参考とします。

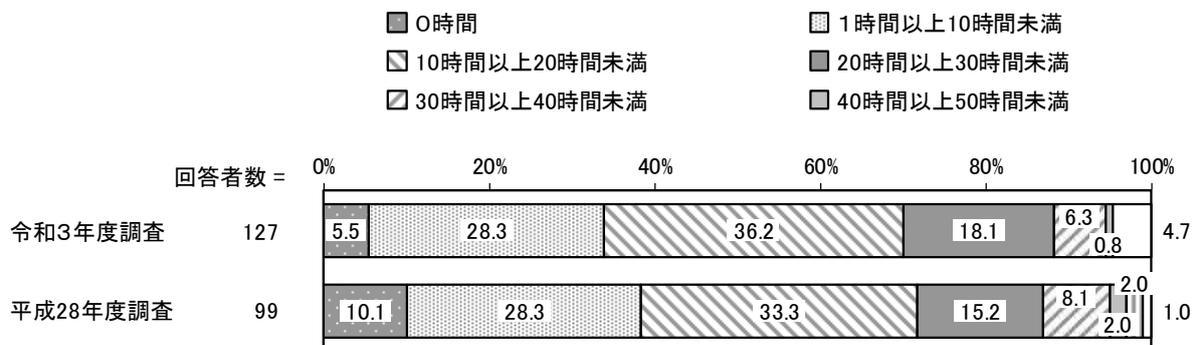


問5 社員の1人当たりの1ヶ月の平均残業時間はどの程度ですか。

「10 時間以上 20 時間未満」の割合が 36.2%と最も高く、次いで「1 時間以上 10 時間未満」の割合が 28.3%、「20 時間以上 30 時間未満」の割合が 18.1%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

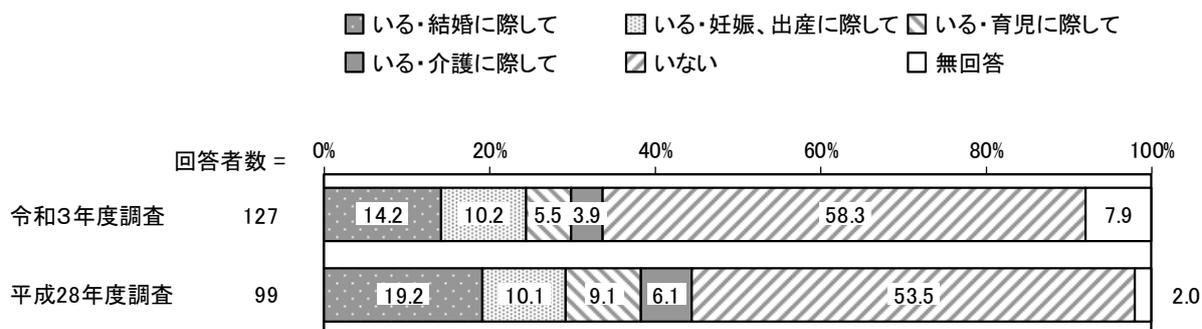


問6 結婚、出産、育児、または介護に際して退職した従業員はいますか。また、いる場合はどのケースが最も多いですか。

「いない」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「いる・結婚に際して」の割合が 14.2%、「いる・妊娠、出産に際して」の割合が 10.2%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「いる・結婚に際して」の割合が減少しています。



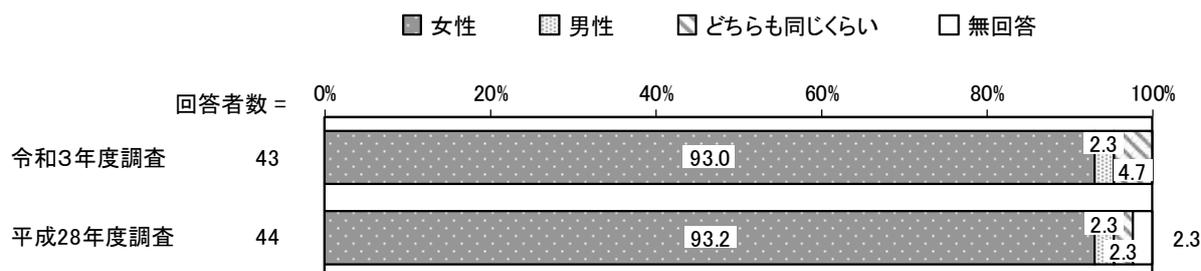
問6で「いる・結婚に際して」、「いる・妊娠、出産に際して」、「いる・育児に際して」、「いる・介護に際して」と回答した方にお伺いします。

問6-1 退職した従業員の性別は、男女どちらが多いですか。

「女性」の割合が93.0%と最も高くなっています。

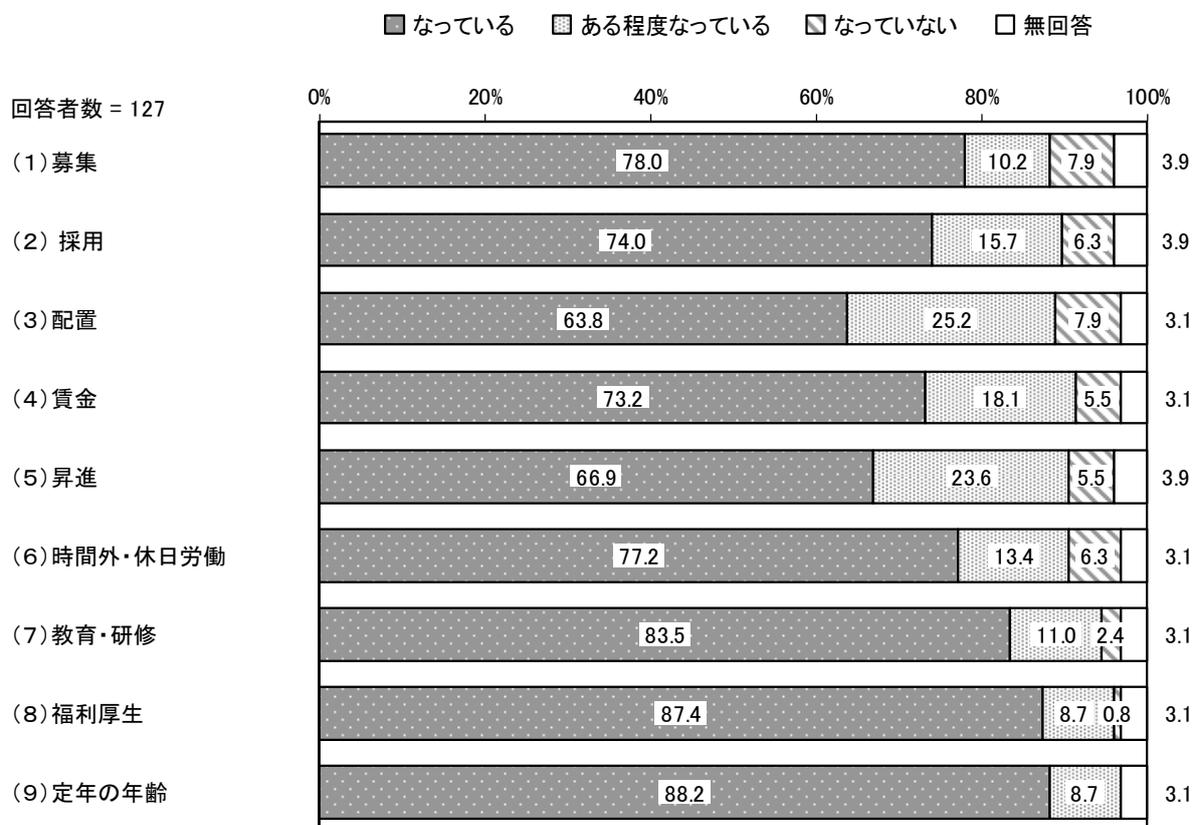
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問7 以下のような項目で、男女の取扱状況は均等になっていますか。それぞれ1つずつ選んでください。

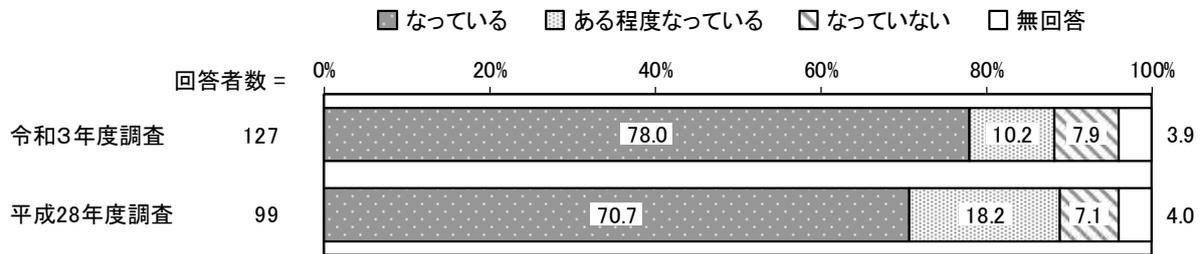
『(1) 募集』『(3) 配置』で「なっていない」の割合が高くなっています。



(1) 募集

【経年比較】

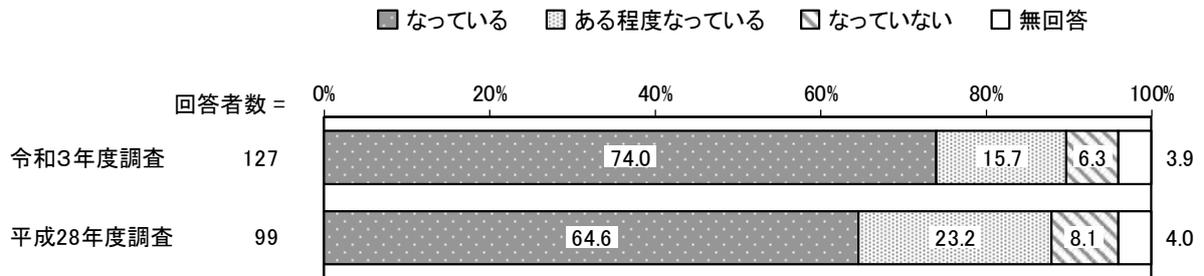
平成 28 年度調査と比較すると、「なっている」の割合が増加しています。一方、「ある程度なっている」の割合が減少しています。



(2) 採用

【経年比較】

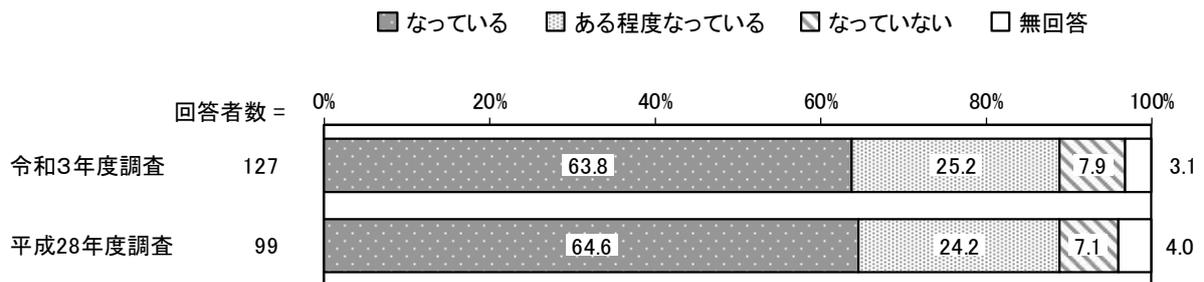
平成 28 年度調査と比較すると、「なっている」の割合が増加しています。一方、「ある程度なっている」の割合が減少しています。



(3) 配置

【経年比較】

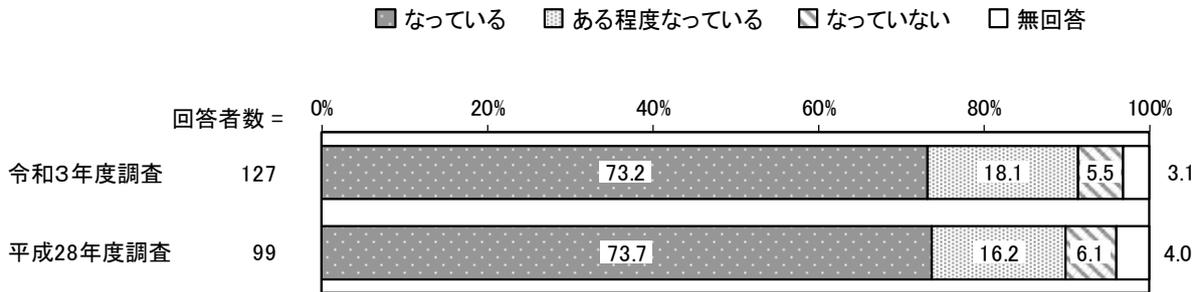
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(4) 賃金

【経年比較】

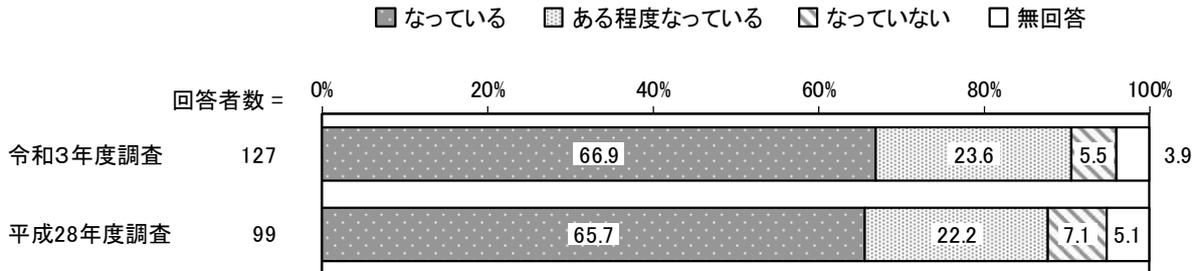
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(5) 昇進

【経年比較】

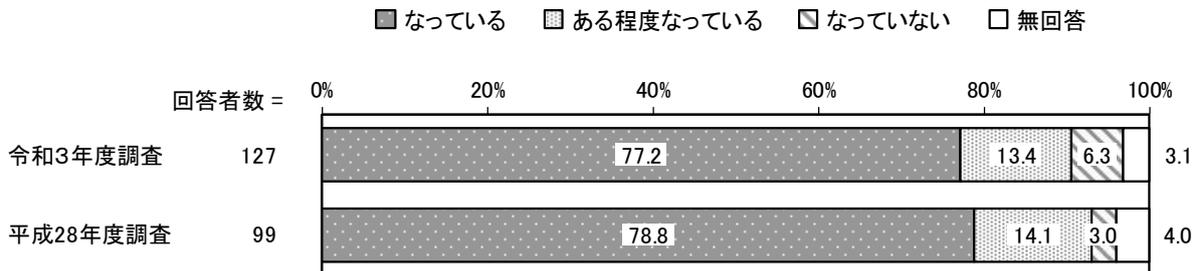
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(6) 時間外・休日労働

【経年比較】

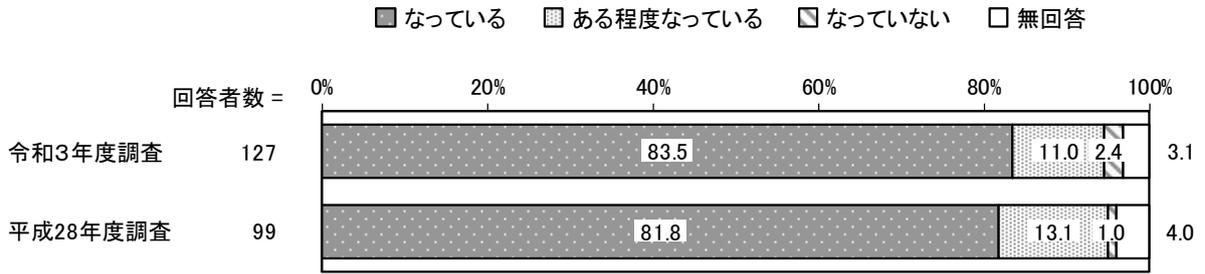
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(7) 教育・研修

【経年比較】

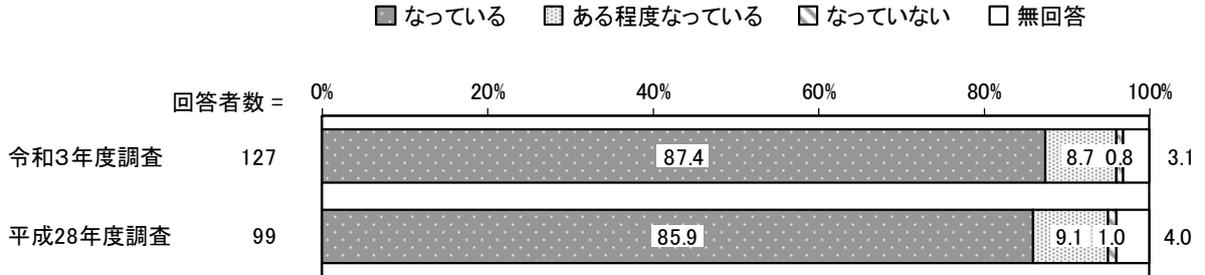
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(8) 福利厚生

【経年比較】

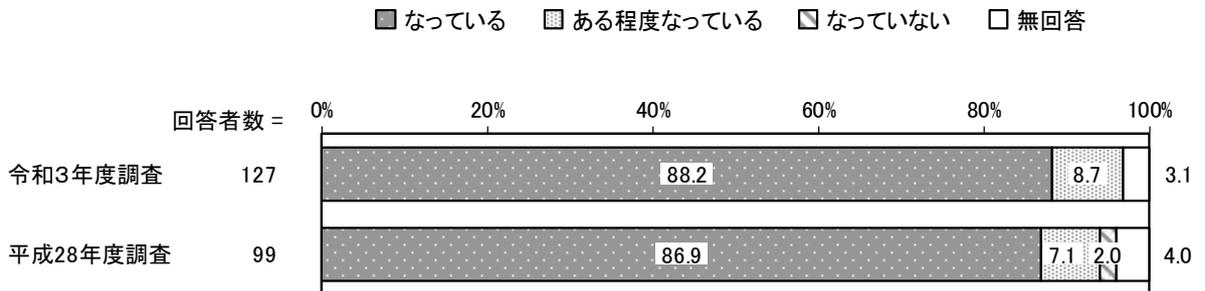
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(9) 定年の年齢

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

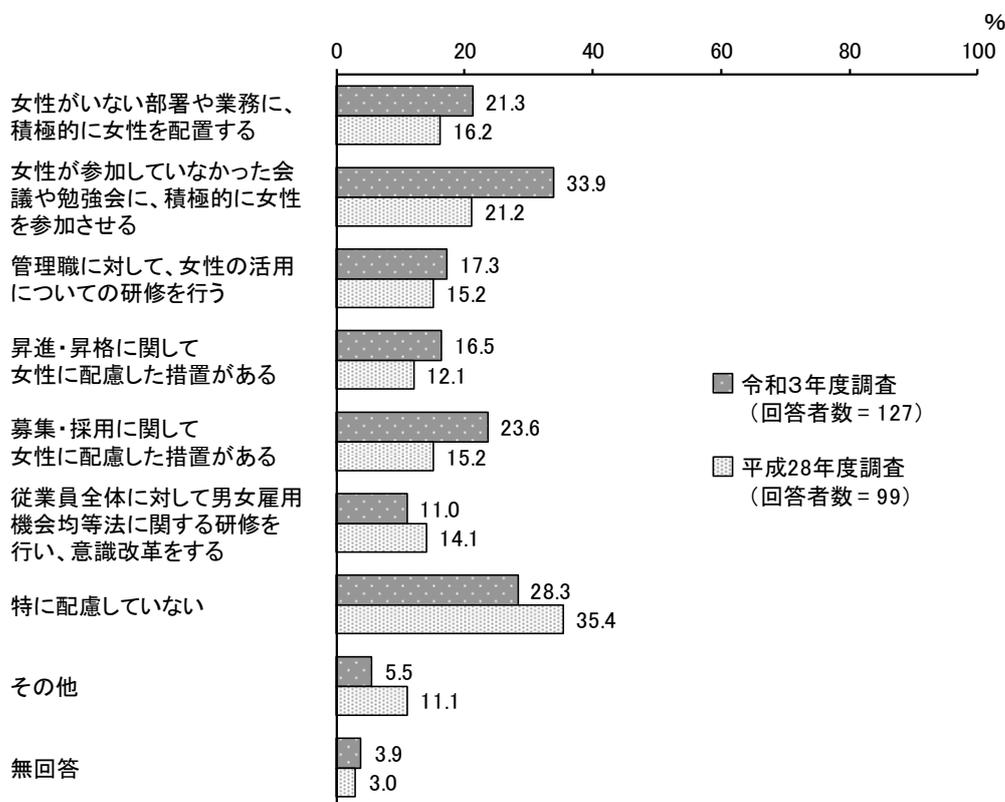


問8 貴事業所では、男女雇用機会均等法に定められているポジティブアクション（男女間の格差を解消し、女性労働者の能力発揮促進のために企業が積極的に取り組むこと）について、何らかの措置をしていますか。あてはまるもの全てを選んでください。

「女性が参加していなかった会議や勉強会に、積極的に女性を参加させる」の割合が33.9%と最も高く、次いで「特に配慮していない」の割合が28.3%、「募集・採用に関して女性に配慮した措置がある」の割合が23.6%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「女性がいない部署や業務に、積極的に女性を配置する」「女性が参加していなかった会議や勉強会に、積極的に女性を参加させる」「募集・採用に関して女性に配慮した措置がある」の割合が増加しています。一方、「特に配慮していない」の割合が減少しています。



<「その他」意見より>

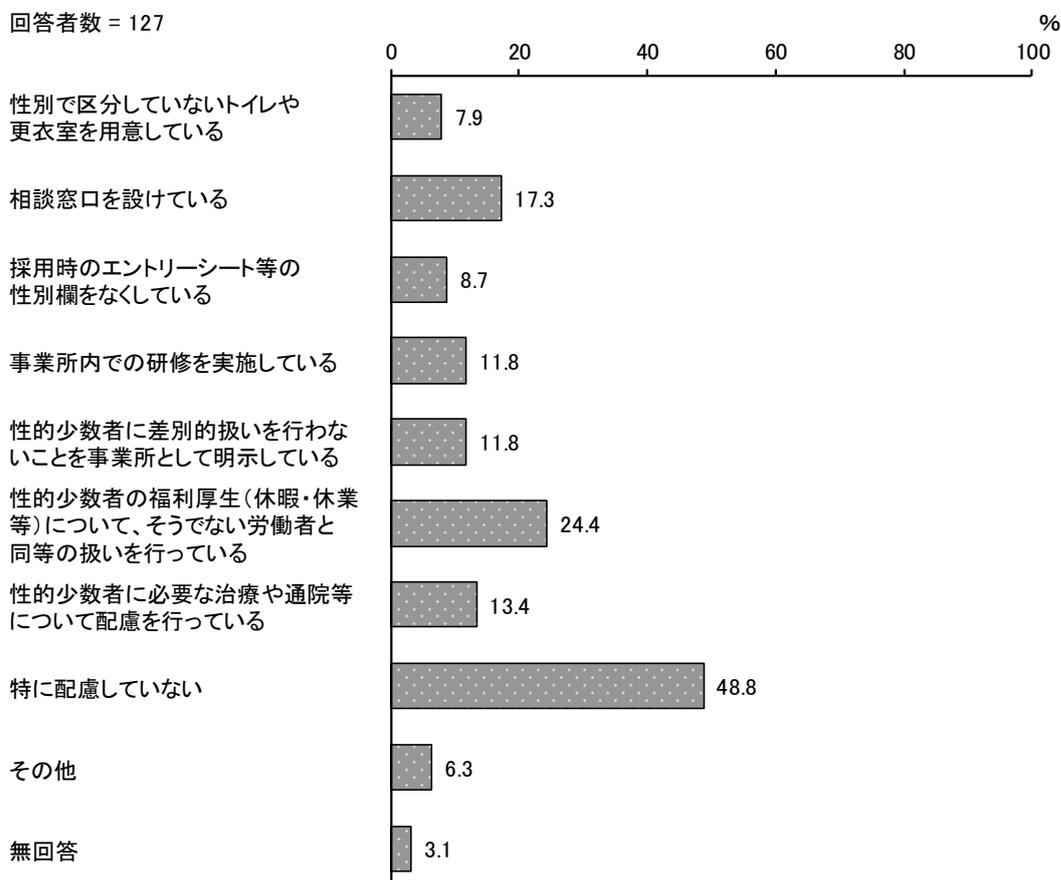
- ・常に配慮されている
- ・男女間で全く差は無い。
- ・ハラスメント教育の実施。
- ・面談等を実施している。

問9 貴事業所では、性的少数者に配慮した取組を行っていますか。
あてはまるもの全て選んでください。

【新規設問】

「特に配慮していない」の割合が48.8%と最も高く、次いで「性的少数者の福利厚生（休暇・休業等）について、そうでない労働者と同等の扱いを行っている」の割合が24.4%、「相談窓口を設けている」の割合が17.3%となっています。

回答者数 = 127



< 「その他」意見より >

- ・採用面接時、特に注意することなどをすべて聞き、できる限り配慮する。
- ・現在、性的少数者の報告はないが、あった場合でも同等に扱う、又は配慮をする。
- ・性的少数者がいないので取組は行っていない

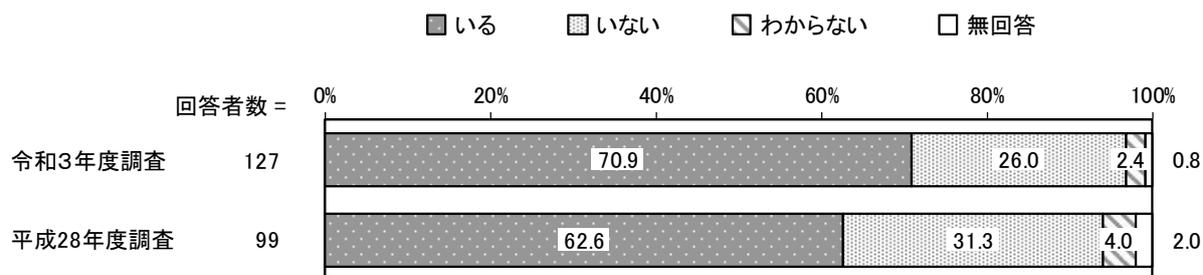
(3) 育児休業制度について

問 10 貴事業所には、育児休業制度の利用対象になる方はいますか。

「いる」の割合が70.9%と最も高く、次いで「いない」の割合が26.0%となっています。

【経年比較】

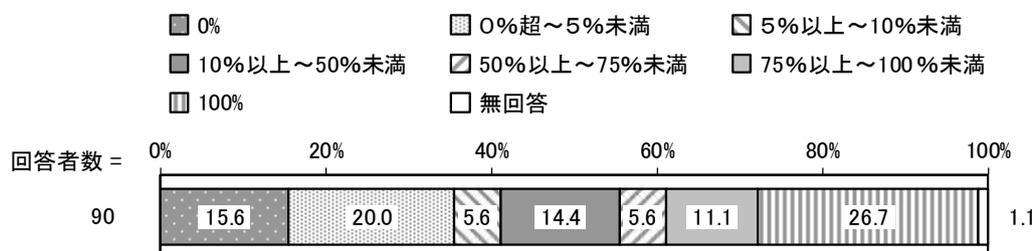
平成28年度調査と比較すると、「いる」の割合が増加しています。一方、「いない」の割合が減少しています。



問 10 で「いる」と回答した方にお伺いします。

問 10-1 貴事務所の令和2年度の育児休業の取得率をお答えください。

「100%」の割合が26.7%と最も高く、次いで「0%超～5%未満」の割合が20.0%、「0%」の割合が15.6%となっています。



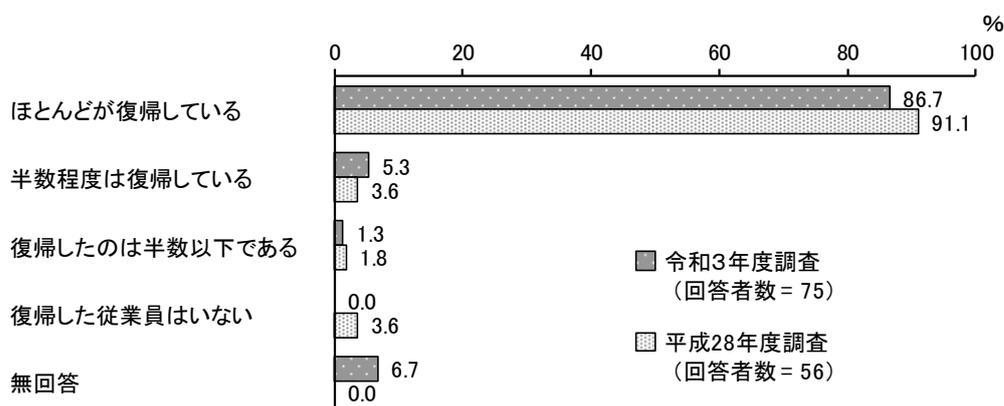
問 10-1 で選択肢の「0%超～100%」を選択した方にお伺いします。

問 10-2 育児休業制度を利用したあと、職場復帰した従業員はいますか。
あてはまるもの全てを選んでください。

「ほとんどが復帰している」の割合が 86.7%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



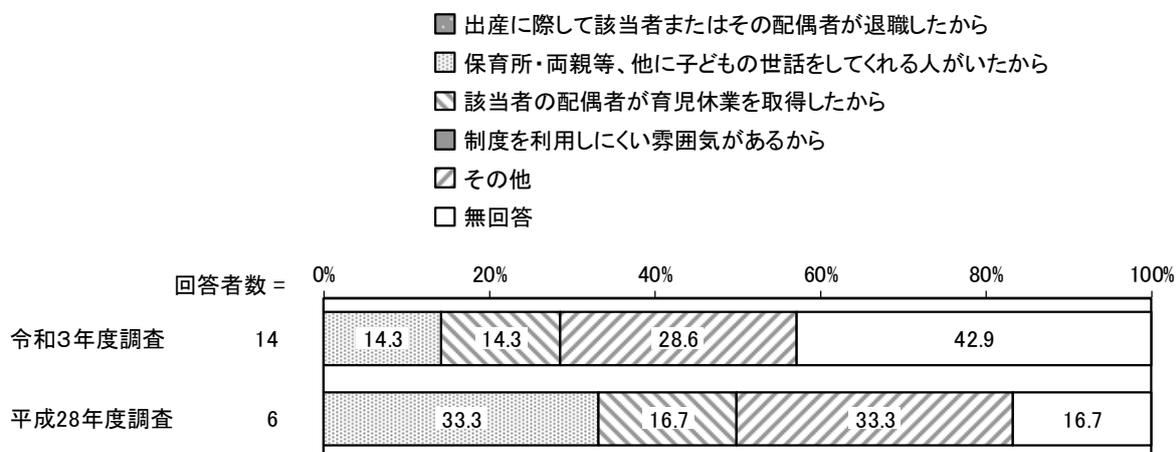
問 10-1 で「0%」と回答した方にお伺いします。

問 10-3 育児休業制度を利用した従業員がいないのは、なぜだと思われますか。

「保育所・両親等、他に子どもの世話をしてくれる人がいたから」、「該当者の配偶者が育児休業を取得したから」の割合が 14.3%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査との比較は、有効回答が少ないため参考とします。



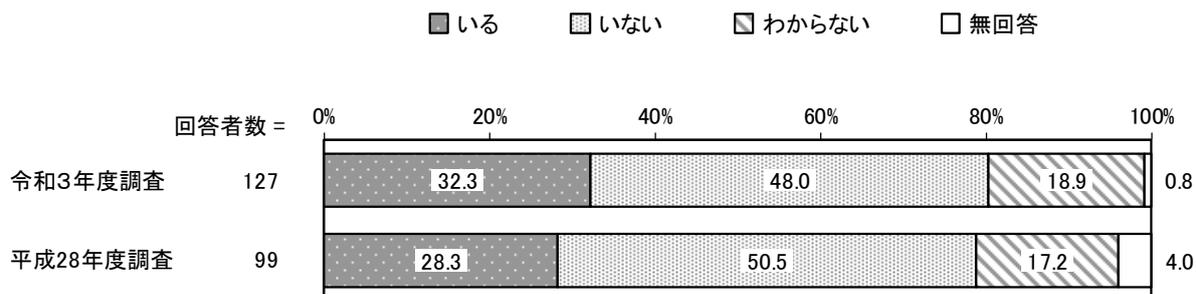
(4) 介護休業制度について

問 11 貴事業所には、介護休業制度の利用対象になる方はいますか。

「いない」の割合が48.0%と最も高く、次いで「いる」の割合が32.3%、「わからない」の割合が18.9%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



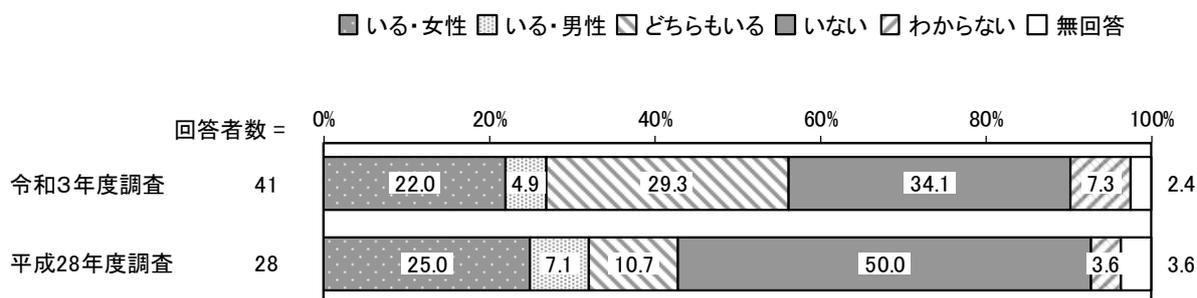
問 11 で「いる」と回答した方にお伺いします。

問 11-1 過去5年間に、介護休業制度を利用した従業員はいますか。

「いない」の割合が34.1%と最も高く、次いで「どちらもいる」の割合が29.3%、「いる・女性」の割合が22.0%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「どちらもいる」の割合が増加しています。一方、「いない」の割合が減少しています。



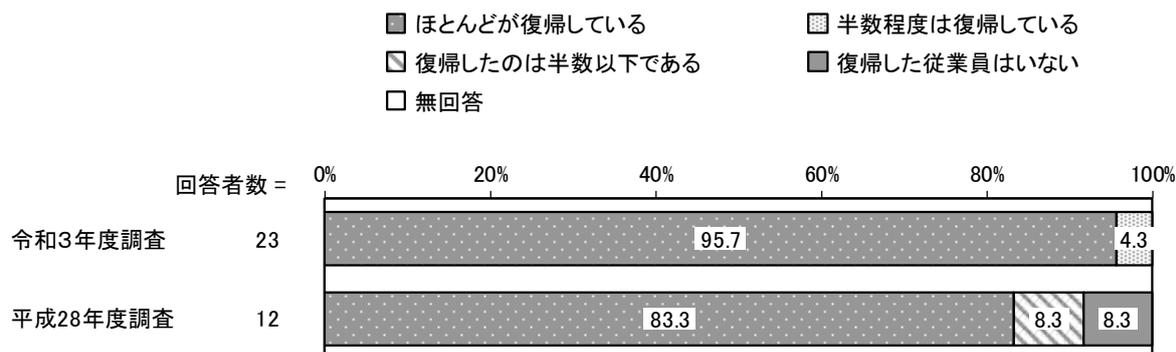
問 11-1 で「いる・女性」「いる・男性」「3. どちらもいる」と回答した方にお伺いします。

問 11-2 介護休業制度を利用したあと、職場復帰した従業員はいますか。

「ほとんどが復帰している」の割合が 95.7%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「ほとんどが復帰している」の割合が増加しています。一方、「復帰したのは半数以下である」「復帰した従業員はいない」の割合が減少しています。



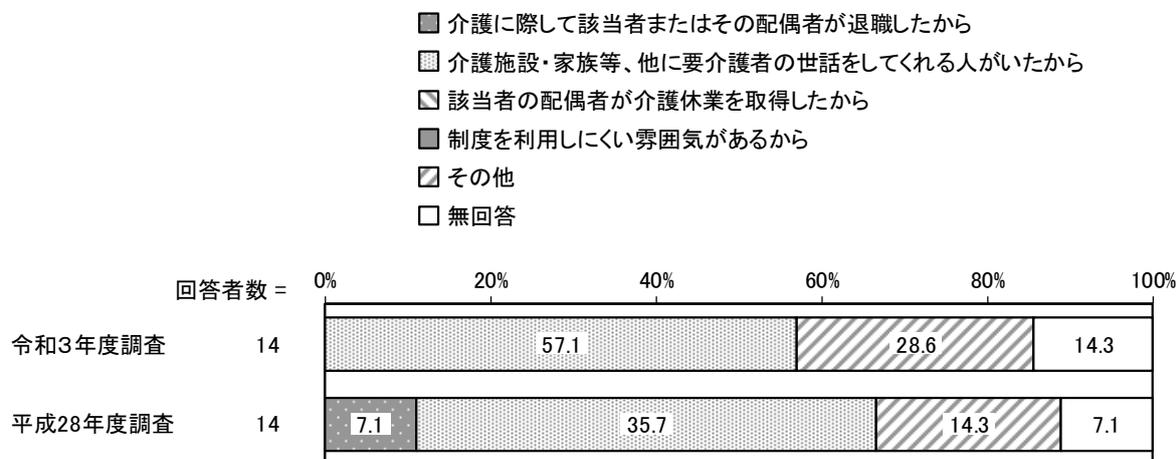
問 11-1 で「いない」と回答した方にお伺いします。

問 11-3 介護休業制度を利用した従業員がいないのは、なぜだと思われますか

「介護施設・家族等、他に要介護者の世話をしてくれる人がいたから」の割合が 57.1%と最も高くなっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「介護施設・家族等、他に要介護者の世話をしてくれる人がいたから」の割合が増加しています。一方、「介護に際して該当者またはその配偶者が退職したから」の割合が減少しています。

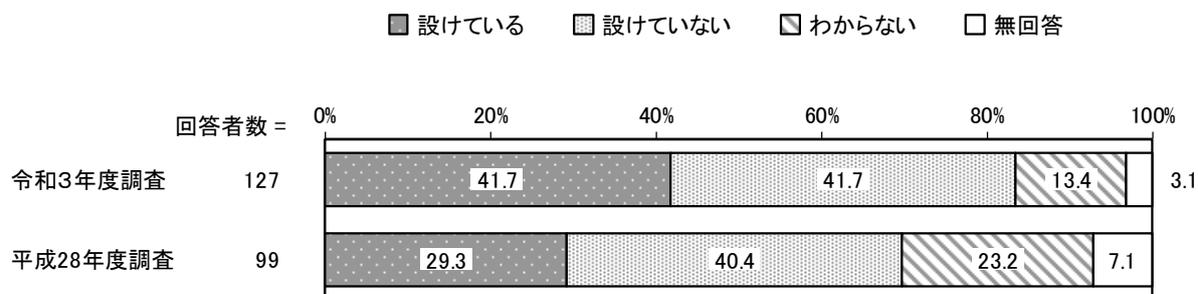


問 12 貴事業所では、出産・育児・介護等を理由に退職した社員を再度雇用する制度を設けていますか。

「設けている」、「設けていない」の割合が41.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が13.4%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「設けている」の割合が増加しています。



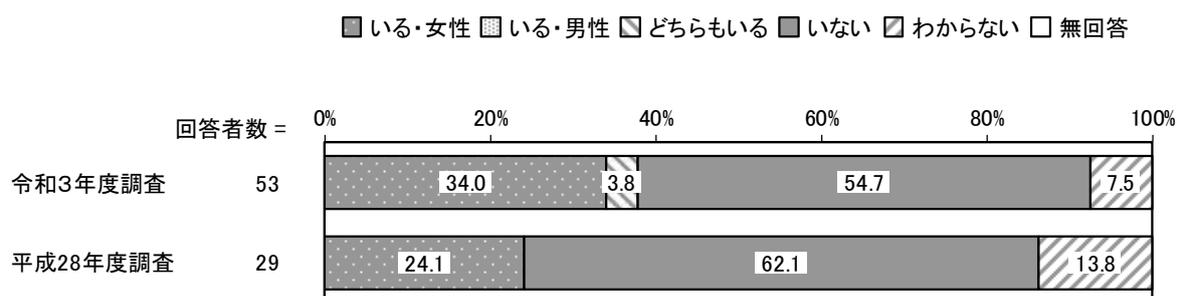
問12で「設けている」と回答した方にお伺いします。

問 12-1 過去5年間に、制度を利用した従業員はいますか。

「いない」の割合が54.7%と最も高く、次いで「いる・女性」の割合が34.0%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「いる・女性」の割合が増加しています。一方、「いない」「わからない」の割合が減少しています。



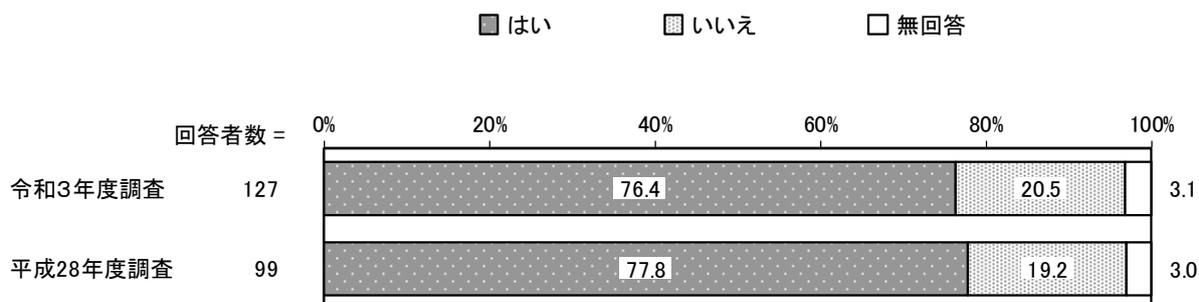
(5) 非正規雇用について

問 13 貴事業所では非正規雇用の社員・従業員等を雇用していますか。

「はい」の割合が76.4%、「いいえ」の割合が20.5%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



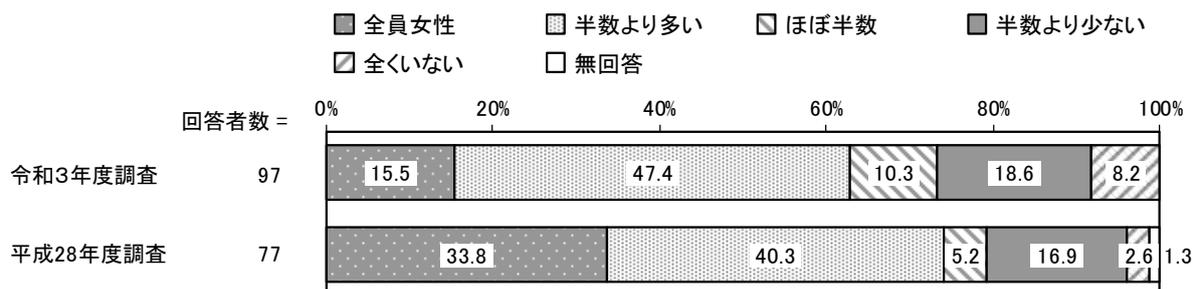
問 13 で「はい」と回答した方にお伺いします。

問 13-1 非正規雇用全体のうち、女性はどのくらいいますか。

「半数より多い」の割合が47.4%と最も高く、次いで「半数より少ない」の割合が18.6%、「全員女性」の割合が15.5%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「半数より多い」「ほぼ半数」「全くいない」の割合が増加しています。一方、「全員女性」の割合が減少しています。

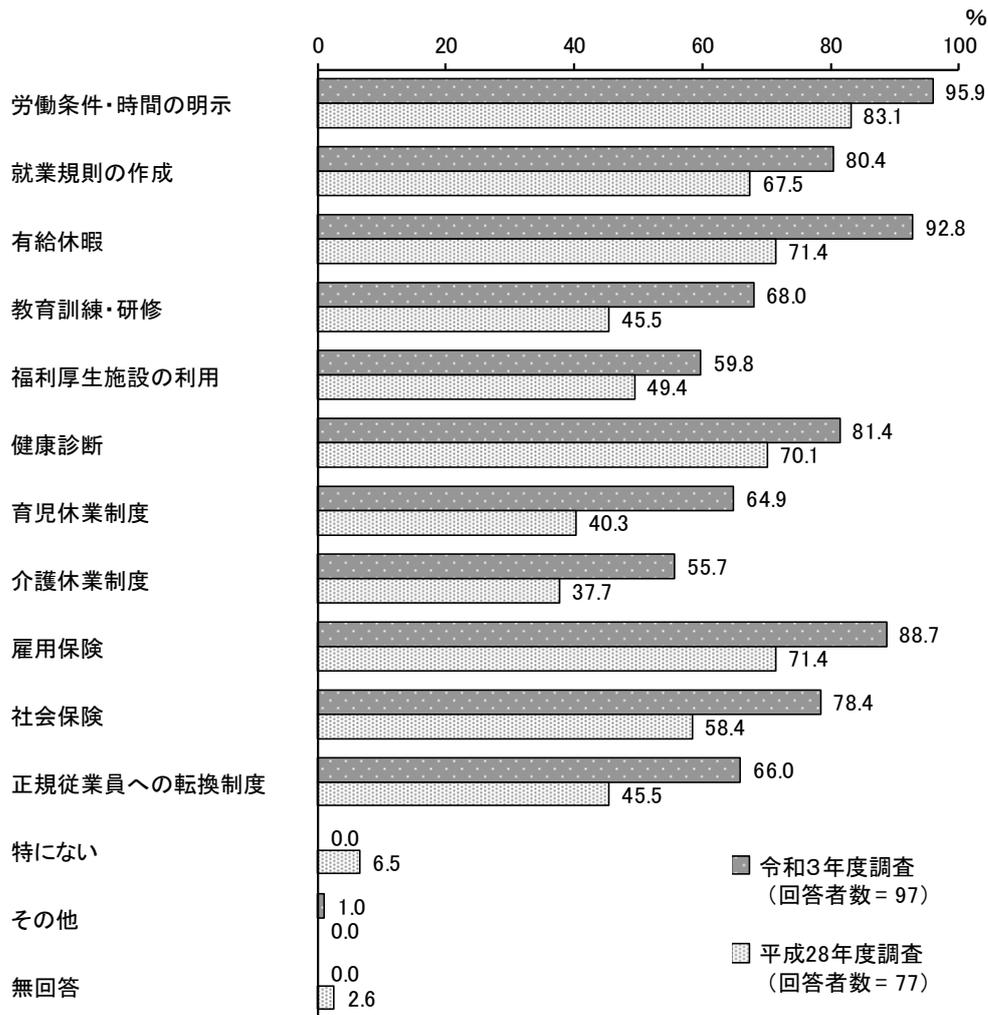


問 13-2 非正規雇用に対して、実施している制度や保証しているもの全て選んでください。

「労働条件・時間の明示」の割合が95.9%と最も高く、次いで「有給休暇」の割合が92.8%、「雇用保険」の割合が88.7%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「特にない」の割合が減少し、「その他」を除くすべての項目の割合が増加しています。



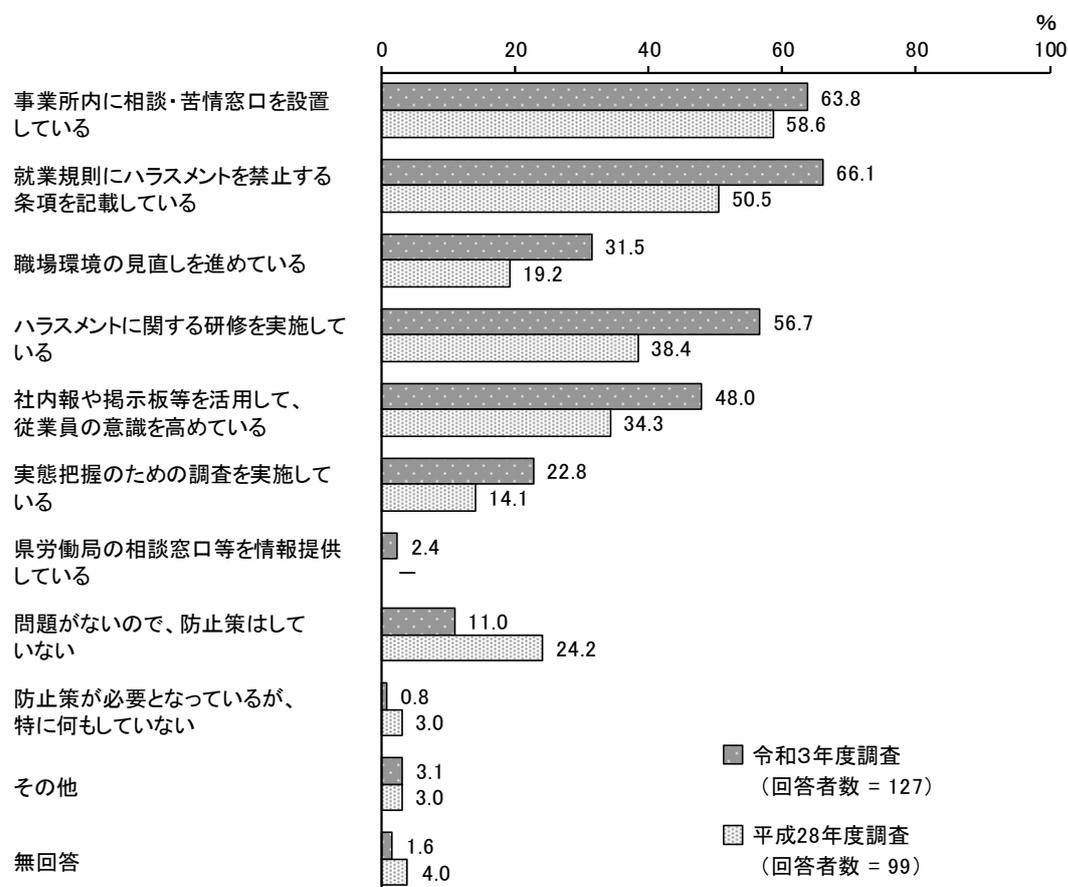
(6) ハラスメントについて

問 14 セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント等のハラスメントを防止するために、取り組んでいることはありますか。あてはまるもの全てを選んでください。

「就業規則にハラスメントを禁止する条項を記載している」の割合が 66.1%と最も高く、次いで「事業所内に相談・苦情窓口を設置している」の割合が 63.8%、「ハラスメントに関する研修を実施している」の割合が 56.7%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「問題がないので、防止策はしていない」、「防止策が必要となっているが、特に何もしていない」の割合が減少し、その他の項目の割合が増加しています。



※前回は「県労働局の相談窓口等を情報提供している」の選択肢がありませんでした。

＜「その他」意見より＞

- ・会社全体で人権について教育を実施している。
- ・別機関の相談窓口がある。
- ・面談、配置、事業所の異動。
- ・年度内に規則を改正する予定。

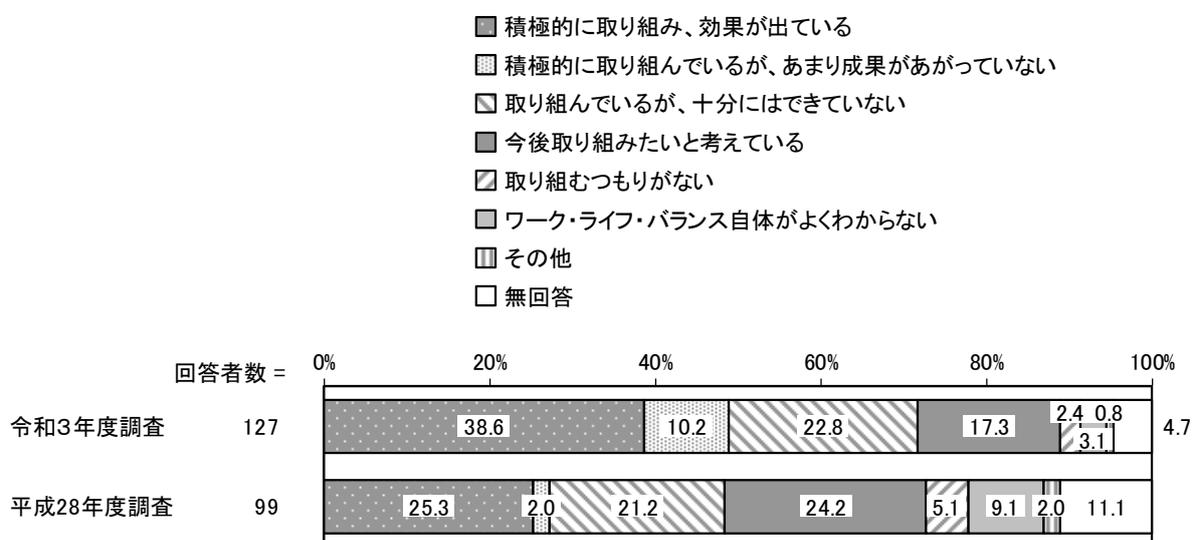
(7) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問 15 現在、貴事業所ではワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に関する取り組みを行っていますか。この中から1つだけ選んでください。

「積極的に取り組み、効果が出ている」の割合が 38.6%と最も高く、次いで「取り組んでいるが、十分にはできていない」の割合が 22.8%、「今後取り組みたいと考えている」の割合が 17.3%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「積極的に取り組み、効果が出ている」「積極的に取り組んでいるが、あまり成果があがっていない」の割合が増加しています。一方、「今後取り組みたいと考えている」「ワーク・ライフ・バランス自体がよくわからない」の割合が減少しています。



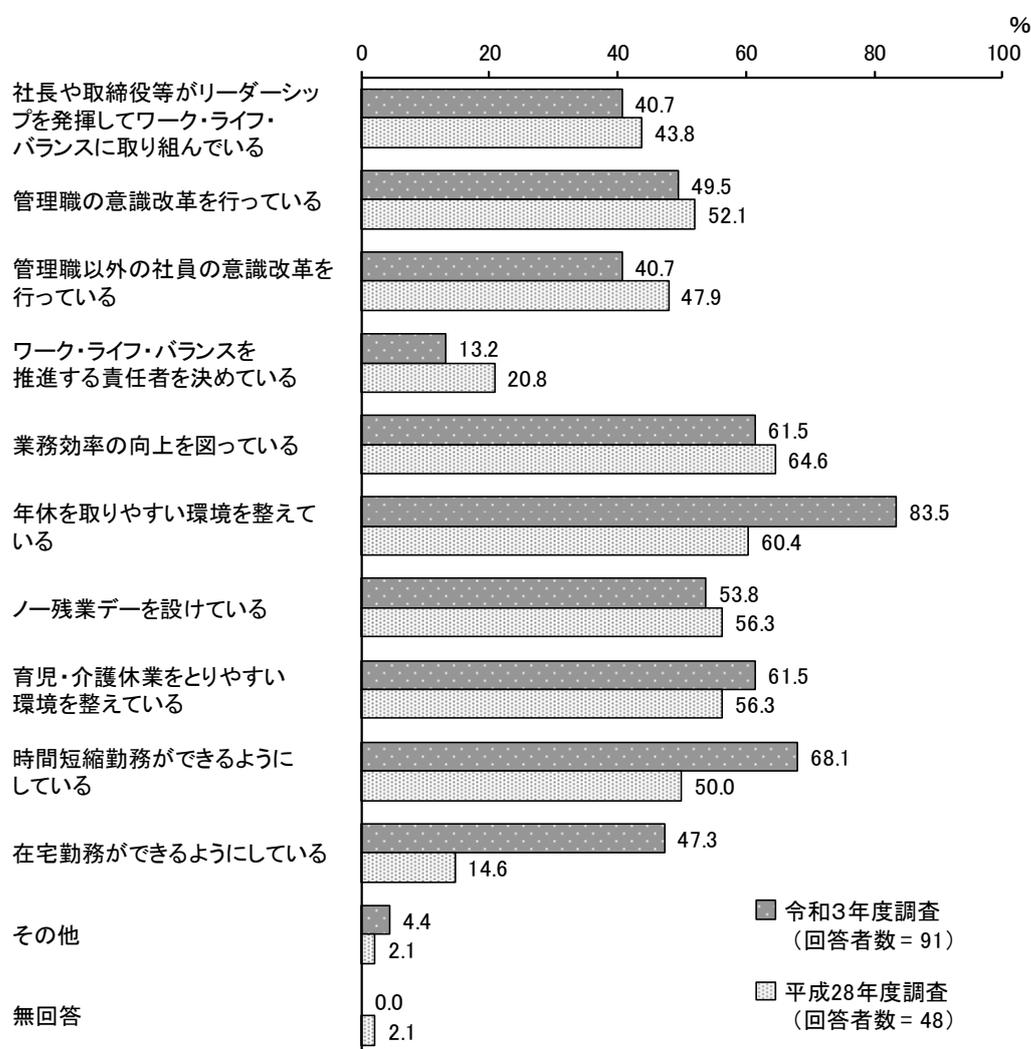
問 15 で「積極的に取り組み、効果が出ている」「積極的に取り組んでいるが、あまり成果があがっていない」「取り組んでいるが、十分にはできていない」と回答した方にお伺いします。

問 15-1 現在、ワーク・ライフ・バランスに関して行っている取り組みはどのようなものですか。あてはまるもの全てを選んでください。

「年休を取りやすい環境を整えている」の割合が 83.5%と最も高く、次いで「時間短縮勤務ができるようにしている」の割合が 68.1%、「業務効率の向上を図っている」、「育児・介護休業をとりやすい環境を整えている」の割合が 61.5%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「年休を取りやすい環境を整えている」「育児・介護休業をとりやすい環境を整えている」「時間短縮勤務ができるようにしている」「在宅勤務ができるようにしている」の割合が増加しています。一方、「管理職以外の社員の意識改革を行っている」「ワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決めている」の割合が減少しています。



【ワーク・ライフ・バランスの取組状況別】

ワーク・ライフ・バランスの取組状況別でみると、他に比べ、積極的に取り組み、効果が出ている事業所で「業務効率の向上を図っている」「ノー残業デーを設けている」以外のすべての取組の割合が高く、行っている取り組みが多くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	社長や取締役等がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる	管理職の意識改革を行っている	管理職以外の社員の意識改革を行っている	ワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決めている	業務効率の向上を図っている	年休を取りやすい環境を整えている	ノー残業デーを設けている	育児・介護休業をとりやすい環境を整えている	時間短縮勤務ができるようにしている	在宅勤務ができるようにしている	その他	無回答
積極的に取り組み、効果が出ている	49	57.1	59.2	53.1	18.4	63.3	87.8	53.1	67.3	75.5	61.2	4.1	—
積極的に取り組んでいるが、あまり成果があがっていない	13	38.5	38.5	15.4	15.4	61.5	76.9	53.8	53.8	69.2	53.8	—	—
取り組んでいるが、十分にはできていない	29	13.8	37.9	31.0	3.4	58.6	79.3	55.2	55.2	55.2	20.7	6.9	—

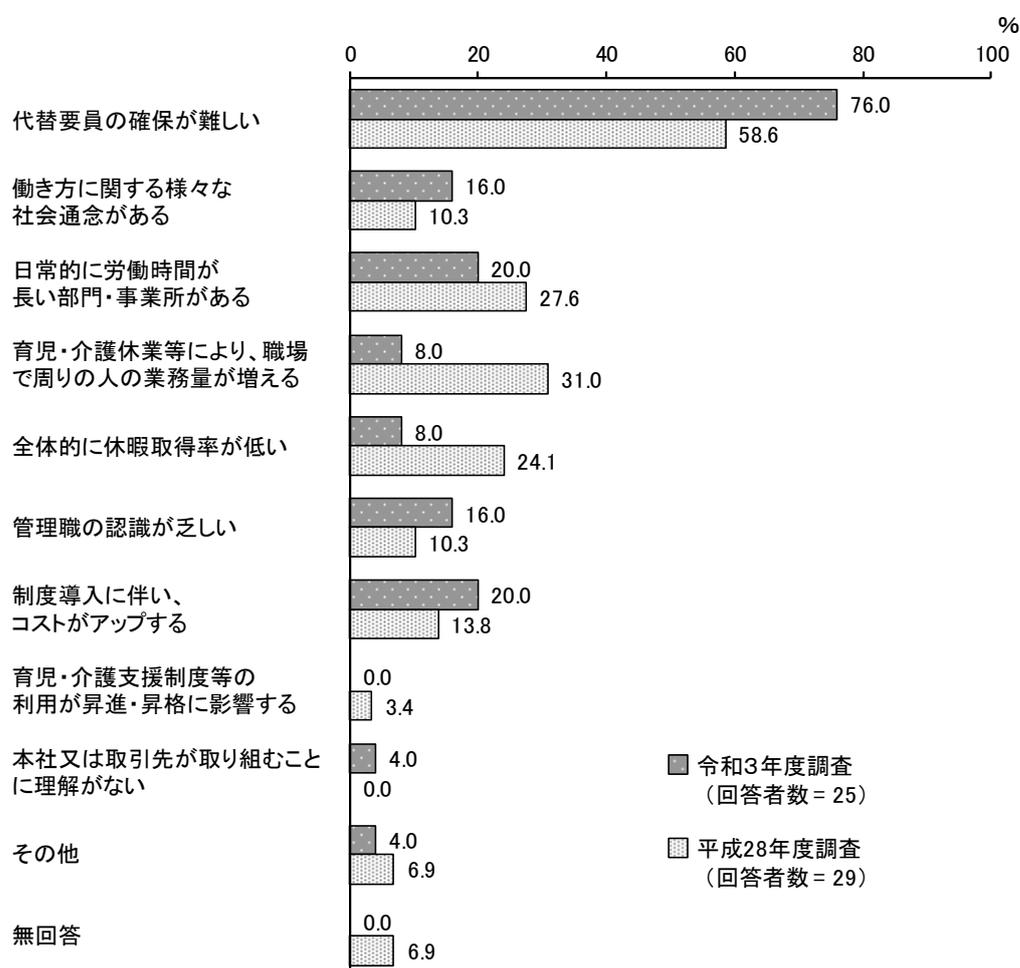
問 15 で「今後取り組みたいと考えている」「取り組むつもりがない」と回答した方にお伺いします。

問 15-2 貴事業所においてワーク・ライフ・バランスに取り組むうえでの課題は何ですか。あてはまるもの全てを選んでください。

「代替要員の確保が難しい」の割合が 76.0%と最も高く、次いで「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」、「制度導入に伴い、コストがアップする」の割合が 20.0%となっています。

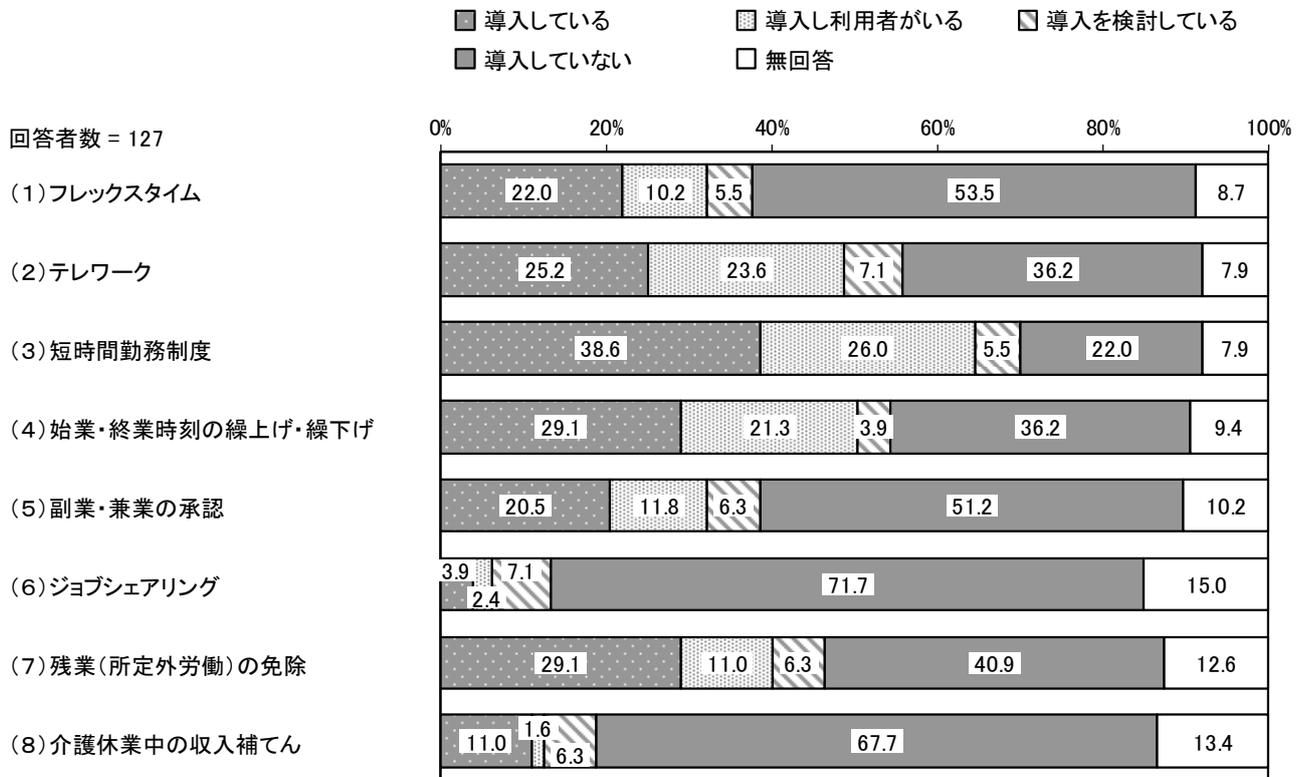
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「代替要員の確保が難しい」「働き方に関する様々な社会通念がある」「管理職の認識が乏しい」「制度導入に伴い、コストがアップする」の割合が増加しています。一方、「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」「育児・介護休業等により、職場で周りの人の業務量が増える」「全体的に休暇取得率が低い」の割合が減少しています。



問 16 柔軟な働き方の選択肢を増やす取組の導入状況について、あてはまるものを全てを選んでください。 【新規設問】

『(3) 短時間勤務制度』で「導入している」の割合が、『(6) ジョブシェアリング』『(8) 介護休業中の収入補てん』で「導入していない」の割合が高くなっています。

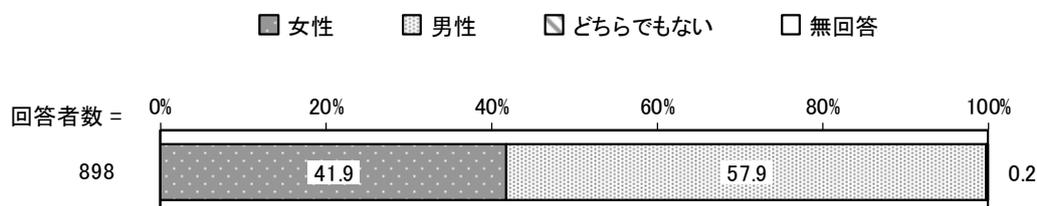


3 職員

(1) 回答者属性

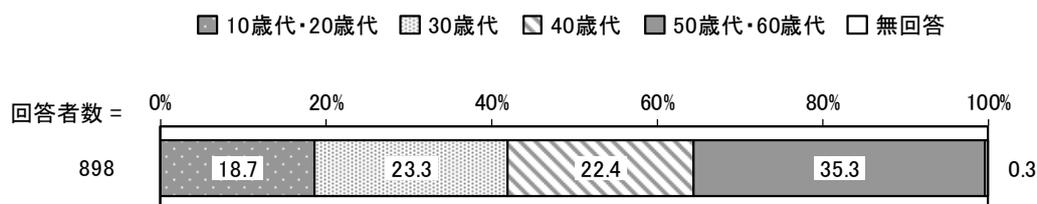
F 1 あなたの性別はどちらですか。

「女性」の割合が41.9%、「男性」の割合が57.9%となっています。



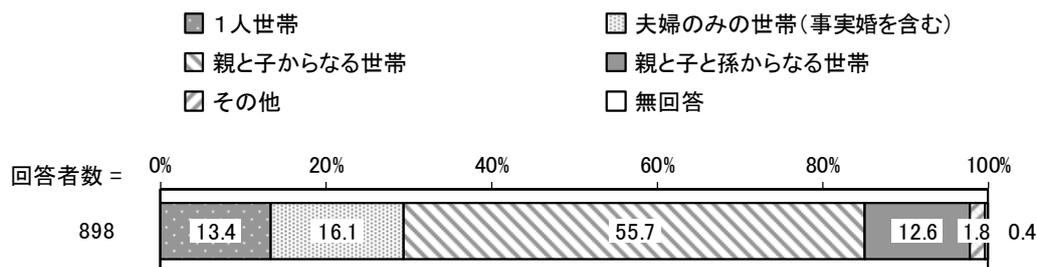
F 2 あなたは何歳代ですか。

「50歳代・60歳代」の割合が35.3%と最も高く、次いで「30歳代」の割合が23.3%、「40歳代」の割合が22.4%となっています。



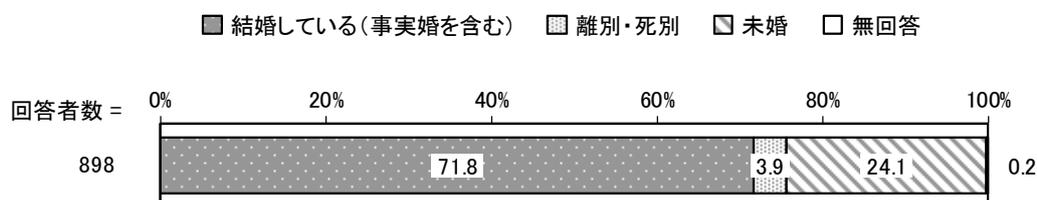
F 3 あなたの世帯状況は次のどれですか。

「親と子からなる世帯」の割合が55.7%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯(事実婚を含む)」の割合が16.1%、「1人世帯」の割合が13.4%となっています。



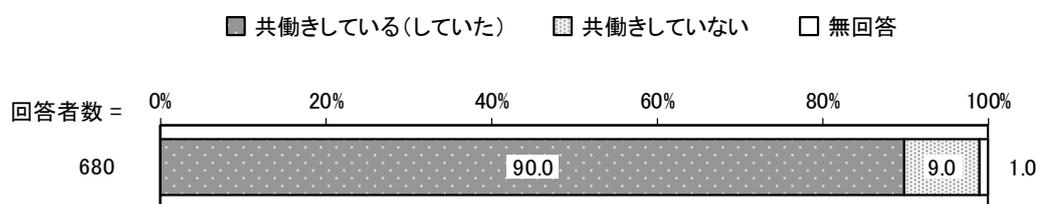
F 4 あなたは、結婚されていますか。

「結婚している(事実婚を含む)」の割合が71.8%と最も高く、次いで「未婚」の割合が24.1%となっています。



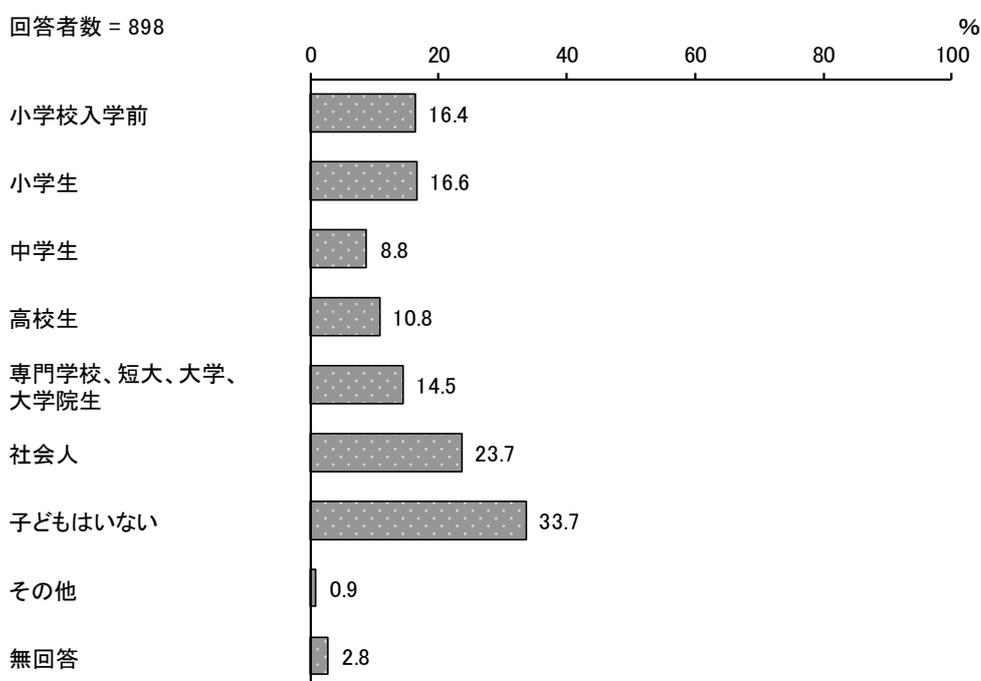
F 4-1 あなたとあなたの配偶者またはパートナーは共働きをしていますか（していましたか）。

「共働きしている（していた）」の割合が90.0%、「共働きしていない」の割合が9.0%となっています。



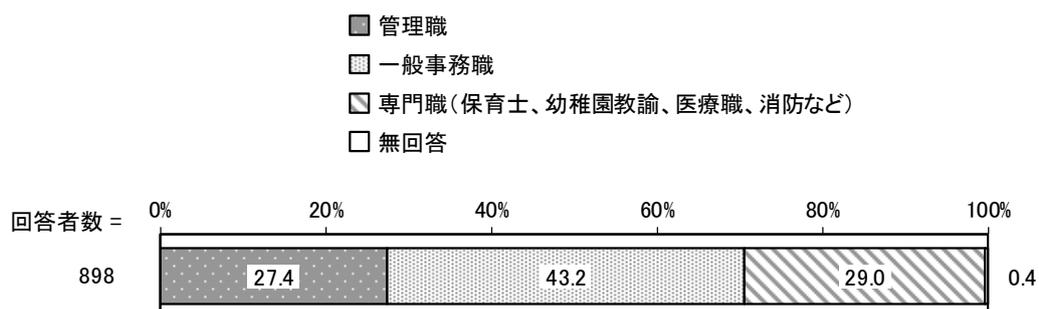
F 5 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。該当するもの全てを選んでください。

「子どもはいない」の割合が33.7%と最も高く、次いで「社会人」の割合が23.7%、「小学生」の割合が16.6%となっています。



F 6 あなたの職種は次のどれですか。

「一般事務職」の割合が43.2%と最も高く、次いで「専門職（保育士、幼稚園教諭、医療職、消防など）」の割合が29.0%、「管理職」の割合が27.4%となっています。



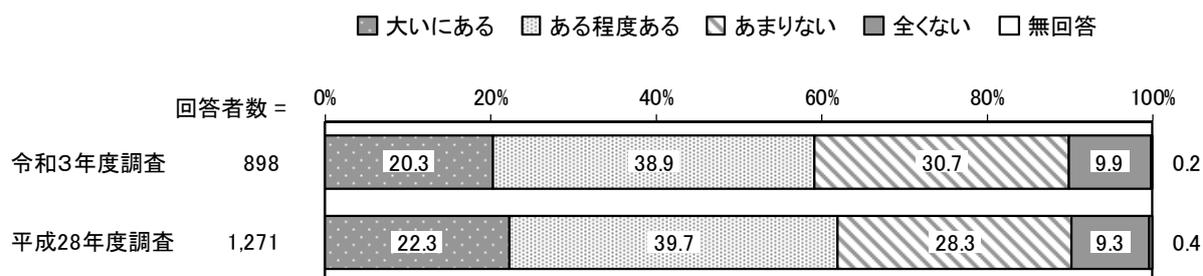
(2) 庁内での状況について

問1 あなたの業務は、男女共同参画に関係があると思いますか。

「大いにある」と「ある程度ある」をあわせた“ある”の割合が59.2%、「あまりない」と「全くない」をあわせた“ない”の割合が40.6%となっています。

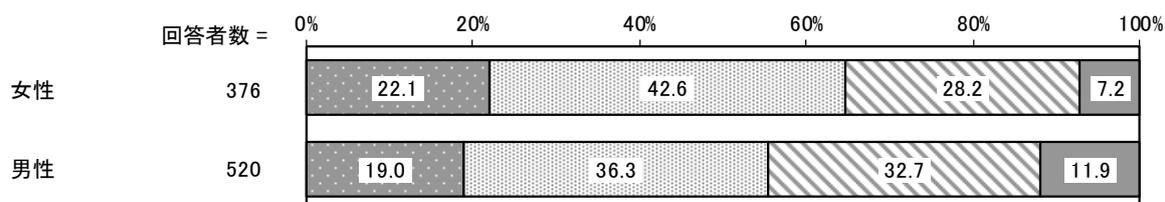
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



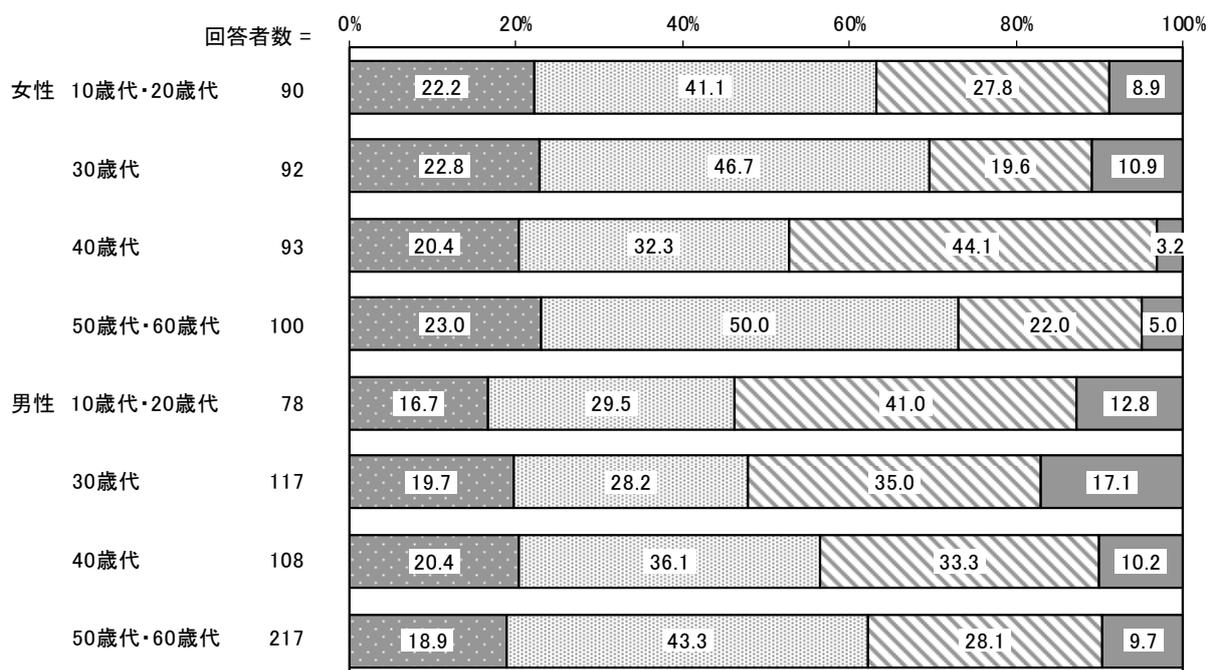
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“ある”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性30歳代、女性50歳代・60歳代で“ある”の割合が高くなっています。

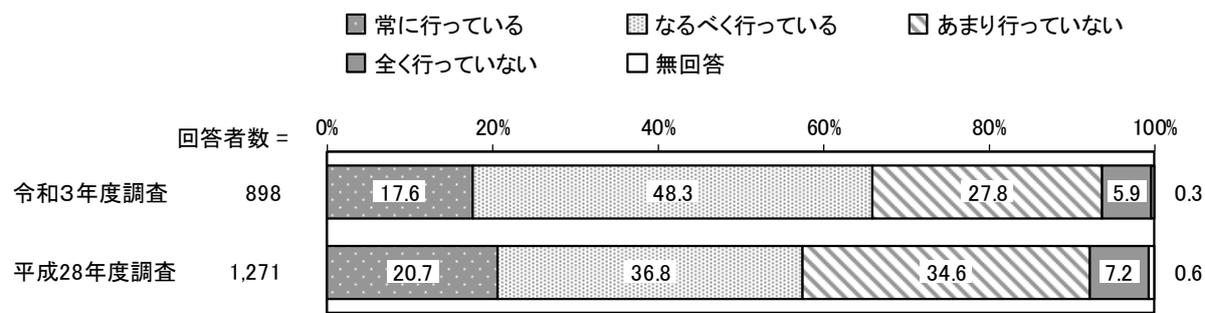


問2 あなたが事業や業務を行う際、男女共同参画の視点をもって行っていますか。

「常に行っている」と「なるべく行っている」をあわせた“行っている”の割合が65.9%、「あまり行っていない」と「全く行っていない」をあわせた“行っていない”の割合が33.7%となっています。

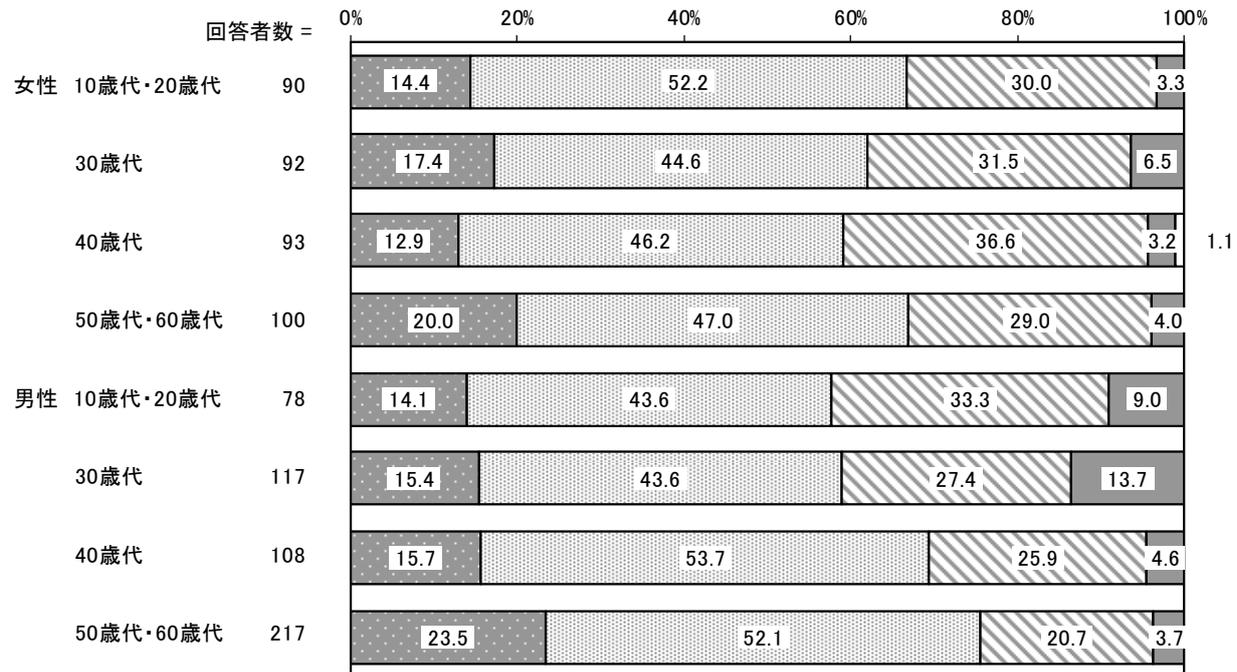
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“行っている”の割合が増加しています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性50歳代・60歳代で“行っている”の割合が高くなっています。

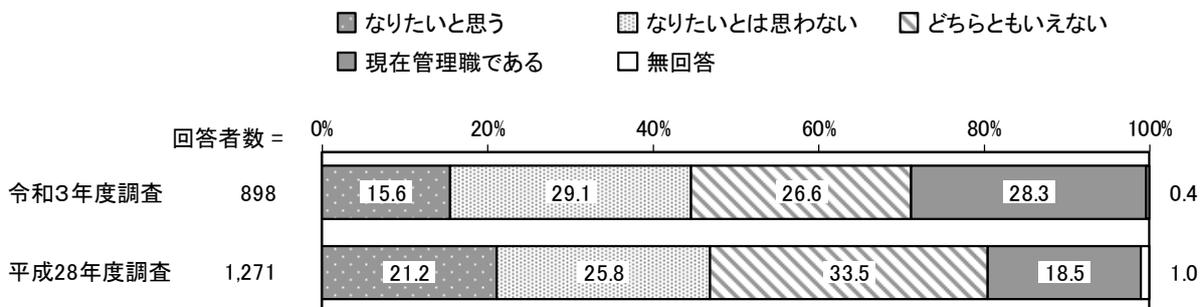


問3 あなたは、管理職になりたいと思いますか。

「なりたいとは思わない」の割合が29.1%と最も高く、次いで「現在管理職である」の割合が28.3%、「どちらともいえない」の割合が26.6%となっています。

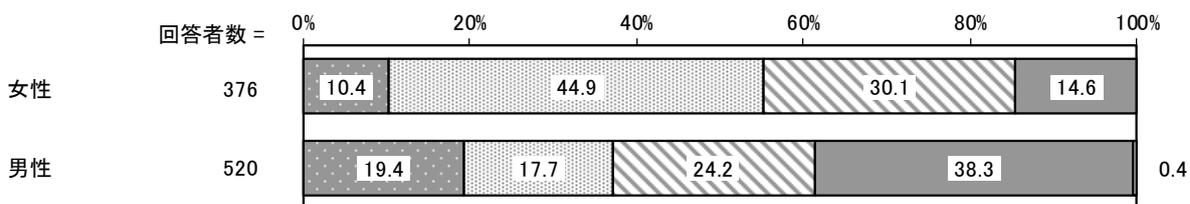
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「現在管理職である」の割合が増加しています。



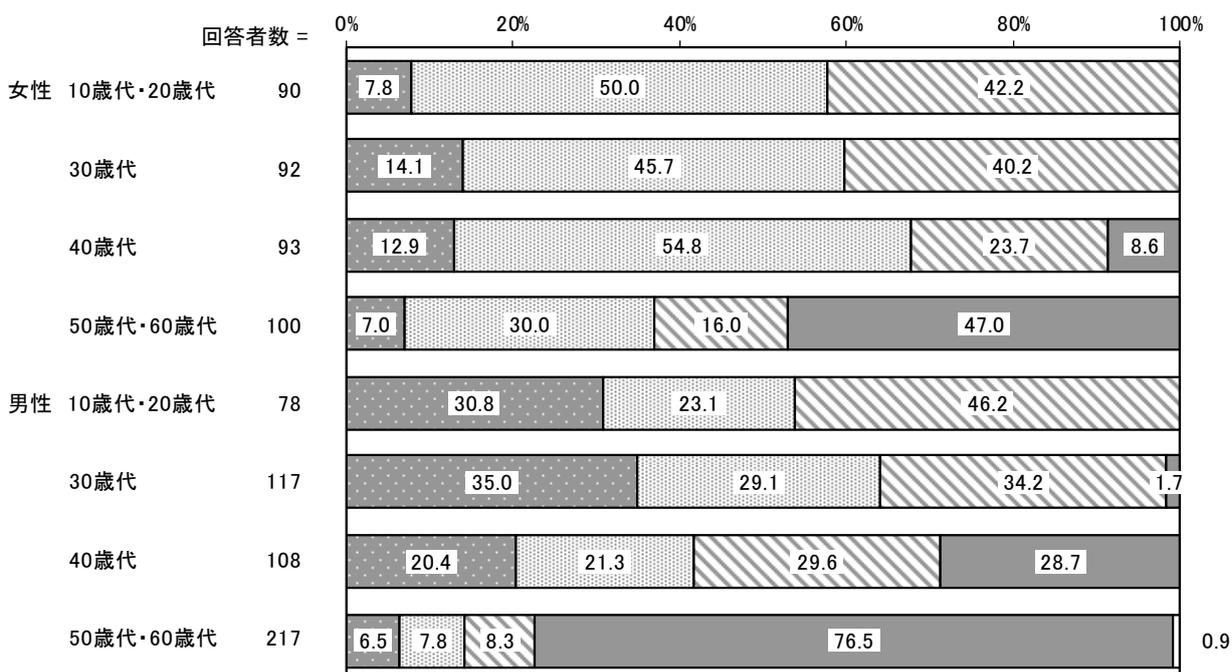
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「なりたいとは思わない」「どちらともいえない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「なりたいと思う」「現在管理職である」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性50歳代・60歳代で「現在管理職である」の割合が高くなっています。



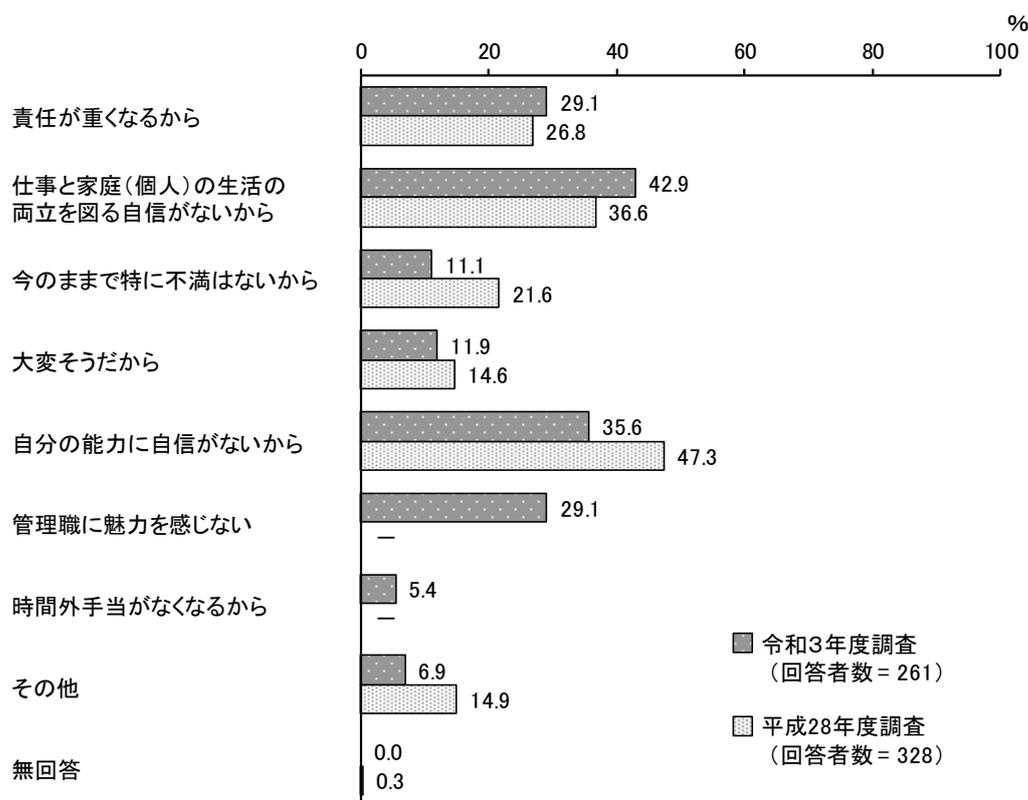
問3で「なりたいとは思わない」を選択した方にうかがいます。

問4 それはなぜですか。2つ以内で選んでください。

「仕事と家庭（個人）の生活の両立を図る自信がないから」の割合が42.9%と最も高く、次いで「自分の能力に自信がないから」の割合が35.6%、「責任が重くなるから」、「管理職に魅力を感じない」の割合が29.1%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「仕事と家庭（個人）の生活の両立を図る自信がないから」の割合が増加しています。一方、「自分の能力に自信がないから」「その他」の割合が減少しています。



※前回は「管理職に魅力を感じない」と「時間外手当がなくなるから」の選択肢はありませんでした。

<「その他」意見より>

- ・現状の職務を続けたいから。
- ・プライベートの時間と仕事は完全に切り離したいから。
- ・体調に支障を来す恐れがあるから。 など

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「仕事と家庭（個人）の生活の両立を図る自信がないから」「今のままで特に不満はないから」「自分の能力に自信がないから」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「大変そうだから」「管理職に魅力を感じない」「その他」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	責任が重くなるから	仕事と家庭（個人）の生活の両立を図る自信がないから	今のままで特に不満はないから	大変そうだから	自分の能力に自信がないから	管理職に魅力を感じない	時間外手当がなくなるから	その他	無回答
女性	169	27.8	53.8	13.6	7.1	39.1	23.1	3.6	4.7	—
男性	92	31.5	22.8	6.5	20.7	29.3	40.2	8.7	10.9	—

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性 50 歳代・60 歳代で「今のままで特に不満はないから」の割合が高くなっています。また、男性 10 歳代・20 歳代で「管理職に魅力を感じない」の割合が、男性 40 歳代で「大変そうだから」の割合が高くなっています。

単位：％

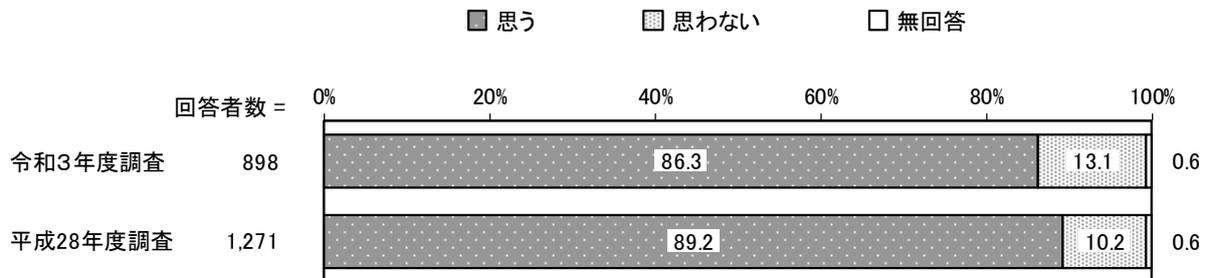
区分	回答者数（件）	責任が重くなるから	仕事と家庭（個人）の生活の両立を図る自信がないから	今のままで特に不満はないから	大変そうだから	自分の能力に自信がないから	管理職に魅力を感じない	時間外手当がなくなるから	その他	無回答
女性 10 歳代・20 歳代	45	40.0	46.7	4.4	15.6	37.8	24.4	8.9	—	—
30 歳代	42	33.3	59.5	4.8	4.8	47.6	16.7	2.4	7.1	—
40 歳代	51	17.6	58.8	15.7	5.9	41.2	29.4	2.0	3.9	—
50 歳代・60 歳代	30	16.7	46.7	36.7	—	26.7	20.0	—	10.0	—
男性 10 歳代・20 歳代	18	38.9	27.8	5.6	11.1	44.4	55.6	—	5.6	—
30 歳代	34	38.2	23.5	11.8	17.6	23.5	44.1	20.6	5.9	—
40 歳代	23	26.1	26.1	—	39.1	26.1	17.4	4.3	17.4	—
50 歳代・60 歳代	17	17.6	11.8	5.9	11.8	29.4	47.1	—	17.6	—

問5 あなたは、つくば市役所において、今後女性が管理職に就く機会が増えると思いますか。

「思う」の割合が86.3%、「思わない」の割合が13.1%となっています。

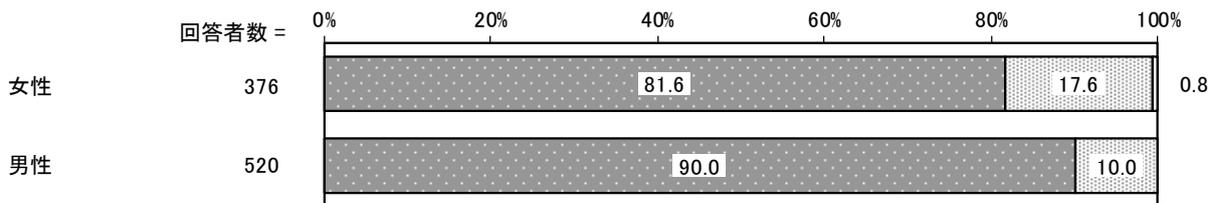
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



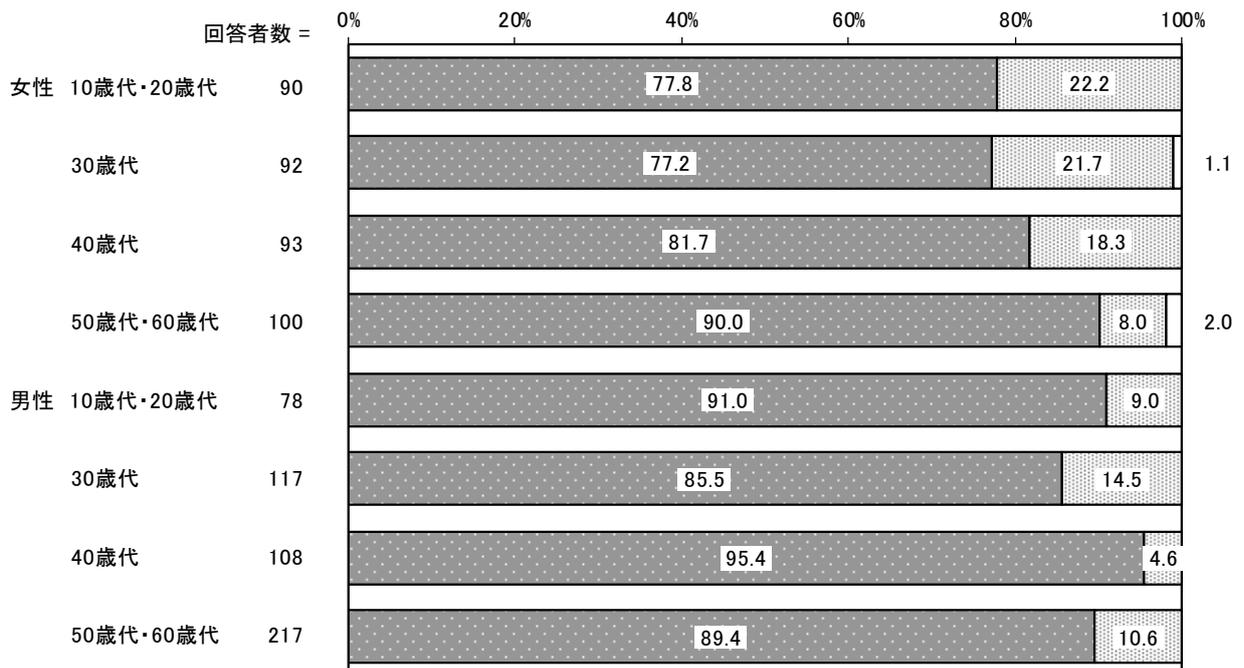
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「思わない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性40歳代で「思う」の割合が高くなっています。

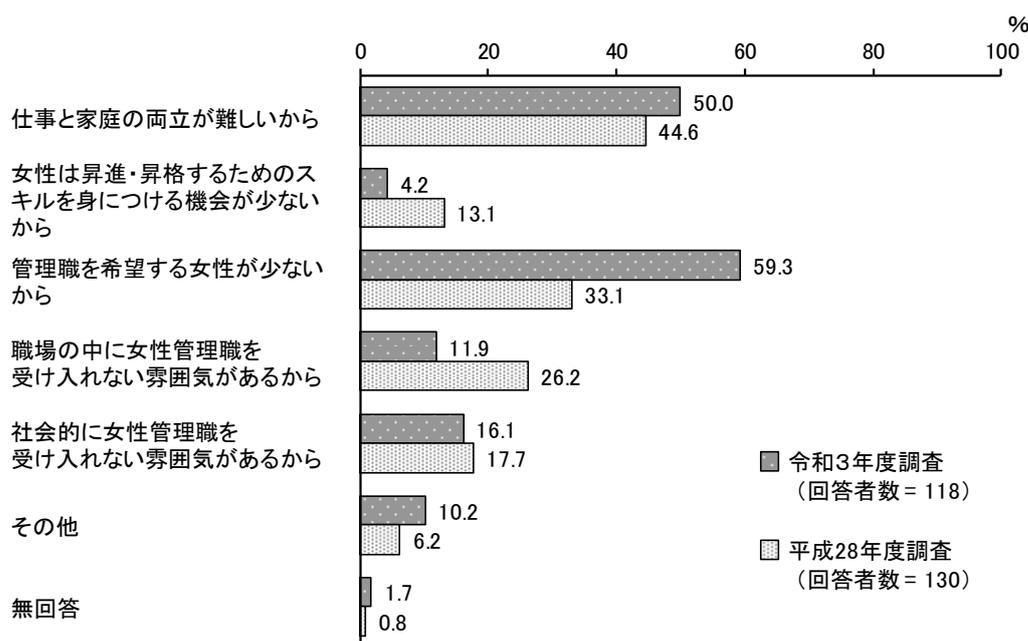


問6 女性管理職が増えないと思うのはなぜですか。2つ以内で選んでください。

「管理職を希望する女性が少ないから」の割合が59.3%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が難しいから」の割合が50.0%、「社会的に女性管理職を受け入れない雰囲気があるから」の割合が16.1%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「仕事と家庭の両立が難しいから」「管理職を希望する女性が少ないから」の割合が増加しています。一方、「女性は昇進・昇格するためのスキルを身につける機会が少ないから」「職場の中に女性管理職を受け入れない雰囲気があるから」の割合が減少しています。



※前回は「女性を管理職にする制度が十分ではないから」の選択肢がありました。

<「その他」意見より>

- ・管理職になるのに性別は関係ないと思うから。
- ・家事や育児との両立が難しいから。
- ・子育ては職場を離れる時間が長く、管理職として職務や役割を果たせないから。
- ・現状は男性管理職が多く、女性が参入するのはとても時間がかかりそうだから。 など

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「仕事と家庭の両立が難しいから」「職場の中に女性管理職を受け入れない雰囲気があるから」「社会的に女性管理職を受け入れない雰囲気があるから」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「その他」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事と家庭の両立が 難しいから	女性は昇進・昇格する ためのスキルを身につ ける機会が少ないから	管理職を希望する 女性が少ないから	職場の中に女性管理職 を受け入れない雰囲気 があるから	社会的に女性管理職を 受け入れない雰囲気 があるから	その他	無回答
女性	66	54.5	6.1	51.5	15.2	22.7	4.5	—
男性	52	44.2	1.9	69.2	7.7	7.7	17.3	3.8

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性 50 歳代・60 歳代で「管理職を希望する女性が少ないから」の割合が高くなっています。

単位：％

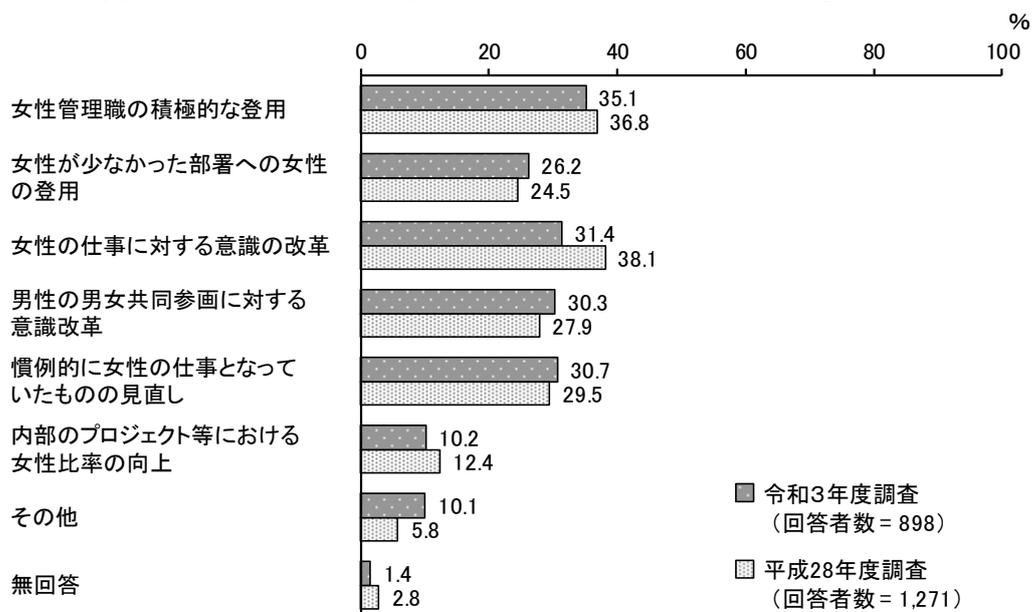
区分	回答者数 (件)	仕事と家庭の両立が 難しいから	女性は昇進・昇格する ためのスキルを身につ ける機会が少ないから	管理職を希望する 女性が少ないから	職場の中に女性管理職 を受け入れない雰囲気 があるから	社会的に女性管理職を 受け入れない雰囲気 があるから	その他	無回答
女性 10 歳代・20 歳代	20	50.0	10.0	45.0	10.0	25.0	10.0	—
30 歳代	20	55.0	5.0	40.0	25.0	20.0	5.0	—
40 歳代	17	52.9	5.9	70.6	11.8	11.8	—	—
50 歳代・60 歳代	8	62.5	—	50.0	12.5	50.0	—	—
男性 10 歳代・20 歳代	7	71.4	—	42.9	14.3	14.3	42.9	—
30 歳代	17	35.3	—	52.9	11.8	17.6	17.6	5.9
40 歳代	5	80.0	—	40.0	20.0	—	20.0	—
50 歳代・60 歳代	23	34.8	4.3	95.7	—	—	8.7	4.3

問7 今後、女性が一層職場で活躍するためにはどのようなことが必要だと思いますか。2つ以内で選んでください。

「女性管理職の積極的な登用」の割合が35.1%と最も高く、次いで「女性の仕事に対する意識の改革」の割合が31.4%、「慣例的に女性の仕事となっていたものの見直し」の割合が30.7%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「女性の仕事に対する意識の改革」の割合が減少しています。



<「その他」意見より>

- ・男女問わずワーク・ライフ・バランスをとりやすい環境、仕事量。
- ・男女問わず、家庭か仕事どちらかを選ばなければならない状況が変わること。
- ・男女関係なく相応しい者が登用されるべき。
- ・家庭内での女性のさまざまな負担の軽減。 など

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男性の男女共同参画に対する意識改革」「慣例的に女性の仕事となっていたものの見直し」の割合が、女性に比べ、男性で「女性が少なかった部署への女性の登用」「女性の仕事に対する意識の改革」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	女性が少なかった部署への女性の登用	女性の仕事に対する意識の改革	男性の男女共同参画に対する意識改革	慣例的に女性の仕事となっていたものの見直し	内部のプロジェクト等における女性比率の向上	その他	無回答	
女性	376	33.0	14.4	25.8	37.2	37.2	12.0	11.2	1.9
男性	520	36.7	34.8	35.6	25.4	26.2	9.0	9.4	0.8

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性 40 歳代で「男性の男女共同参画に対する意識改革」の割合が、女性 10 歳代・20 歳代で「慣例的に女性の仕事となっていたものの見直し」の割合が高くなっています。また、男性 50 歳代・60 歳代で「女性の仕事に対する意識の改革」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	女性が少なかった部署への女性の登用	女性の仕事に対する意識の改革	男性の男女共同参画に対する意識改革	慣例的に女性の仕事となっていたものの見直し	内部のプロジェクト等における女性比率の向上	その他	無回答	
女性 10 歳代・20 歳代	90	26.7	22.2	16.7	25.6	52.2	12.2	8.9	3.3
30 歳代	92	30.4	12.0	26.1	37.0	43.5	10.9	12.0	1.1
40 歳代	93	26.9	14.0	21.5	46.2	23.7	12.9	18.3	3.2
50 歳代・60 歳代	100	47.0	10.0	37.0	39.0	31.0	12.0	6.0	—
男性 10 歳代・20 歳代	78	33.3	38.5	20.5	20.5	39.7	11.5	9.0	—
30 歳代	117	20.5	31.6	29.1	31.6	35.9	6.8	18.8	0.9
40 歳代	108	39.8	32.4	33.3	29.6	22.2	11.1	10.2	0.9
50 歳代・60 歳代	217	45.2	36.4	45.6	21.7	18.0	8.3	4.1	0.9

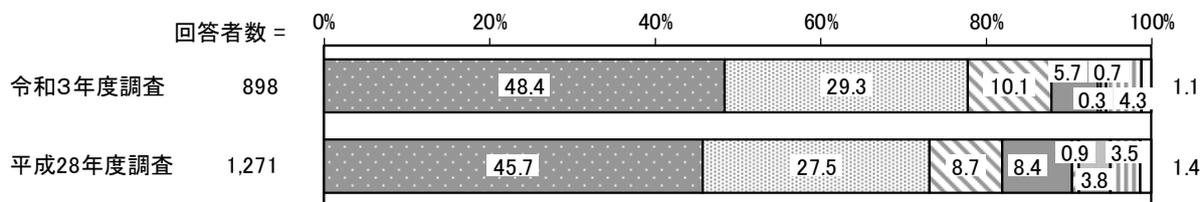
問8 育児休業制度や介護休業制度を利用することに対して、あなたの職場ではどのような雰囲気がありますか。次の中から1つ選んでください。

「仕事の引き継ぎさえすれば問題ない」の割合が48.4%と最も高く、次いで「上司や同僚に多少遠慮は感じるが、問題ない」の割合が29.3%、「仕事が忙しく、利用しにくい」の割合が10.1%となっています。

【経年比較】

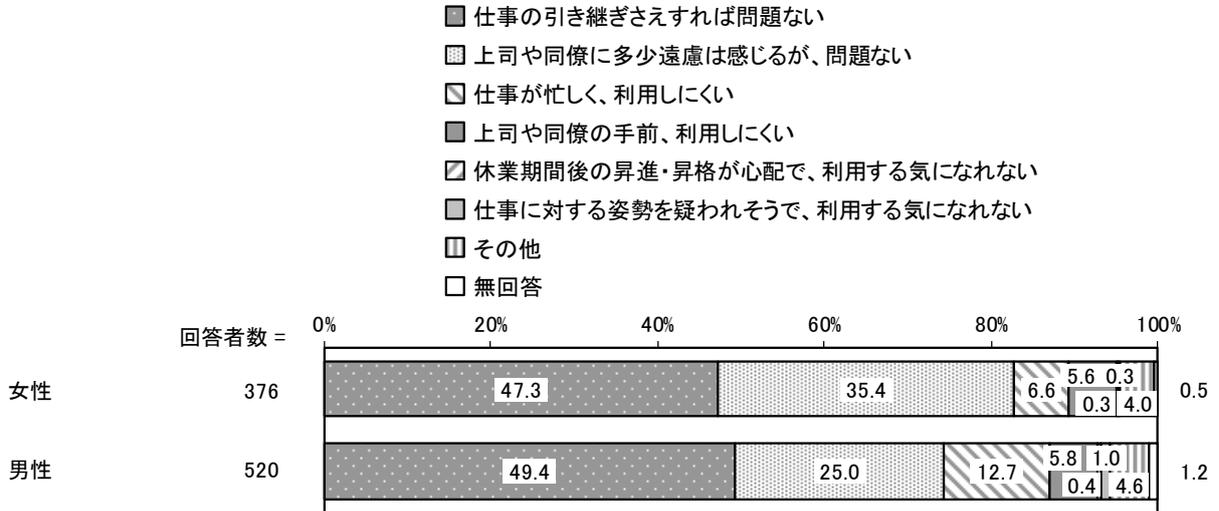
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

- 仕事の引き継ぎさえすれば問題ない
- 上司や同僚に多少遠慮は感じるが、問題ない
- 仕事が忙しく、利用しにくい
- 上司や同僚の手前、利用しにくい
- 休業期間後の昇進・昇格が心配で、利用する気になれない
- 仕事に対する姿勢を疑われそうで、利用する気になれない
- その他
- 無回答



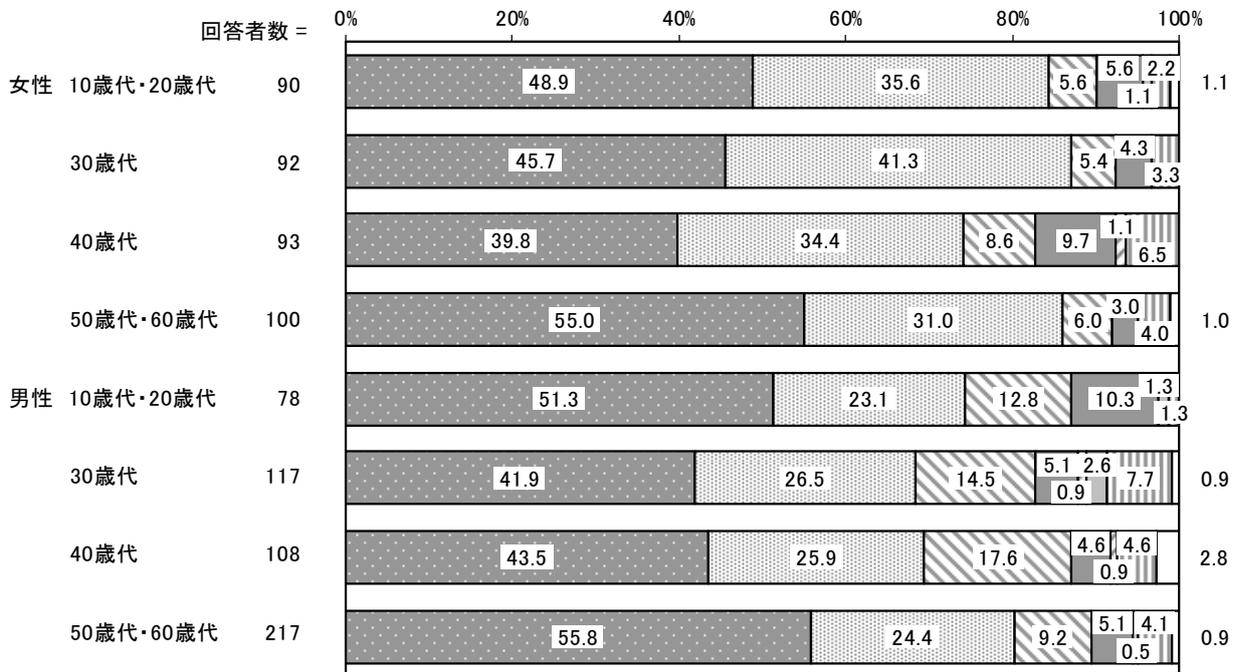
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「上司や同僚に多少遠慮は感じるが、問題ない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事が忙しく、利用しにくい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性 30 歳代で「上司や同僚に多少遠慮は感じるが、問題ない」の割合が高くなっています。

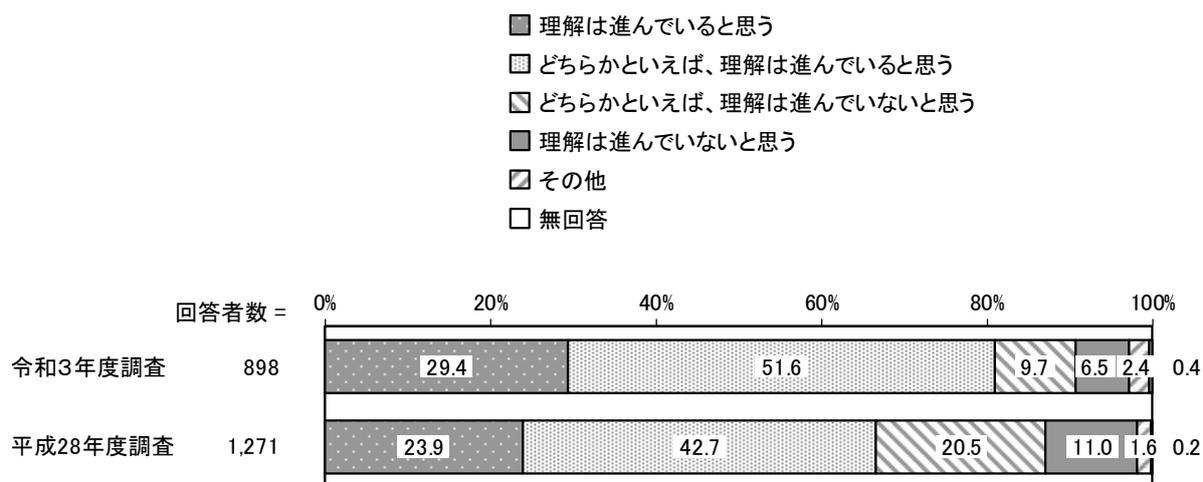


問9 ワーク・ライフ・バランスに対する理解について、あなたの職場ではどのような雰囲気がありますか。次の中から1つ選んでください。

「理解は進んでいると思う」と「どちらかといえば、理解は進んでいると思う」をあわせた“理解は進んでいると思う”の割合が81.0%、「どちらかといえば、理解は進んでいないと思う」と「理解は進んでいないと思う」をあわせた“理解は進んでいないと思う”の割合が16.2%、「その他」の割合が2.4%となっています。

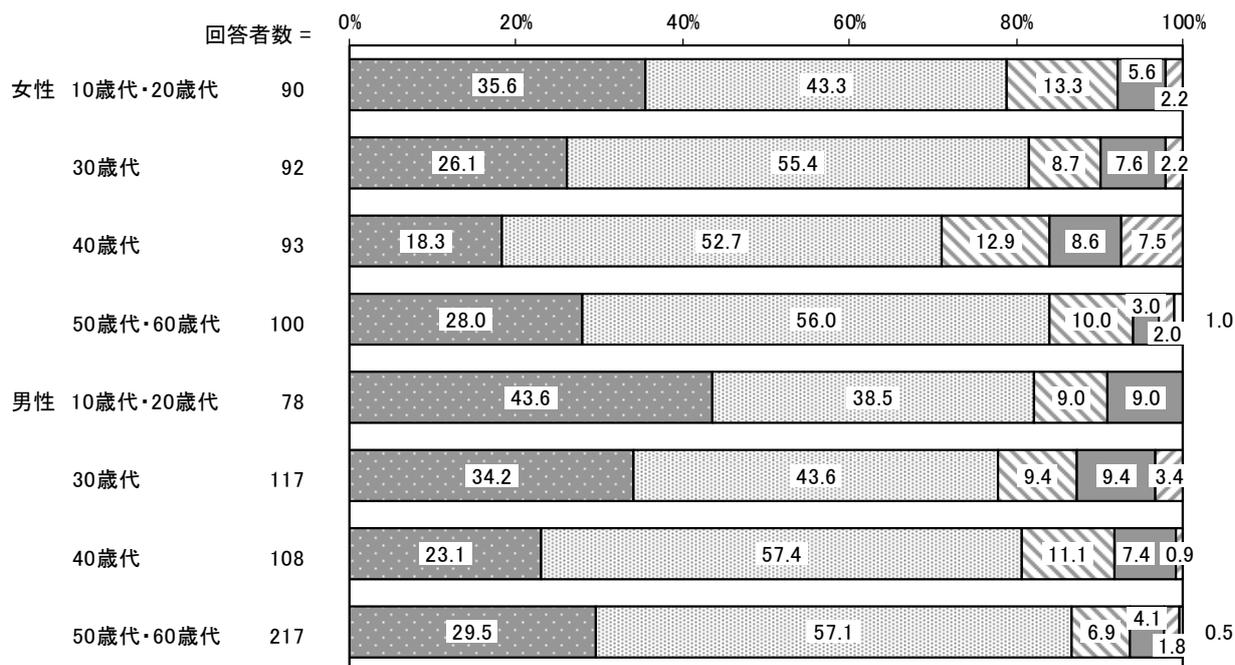
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“理解は進んでいると思う”の割合が増加しています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性40歳代で“理解は進んでいないと思う”の割合が高くなっています。

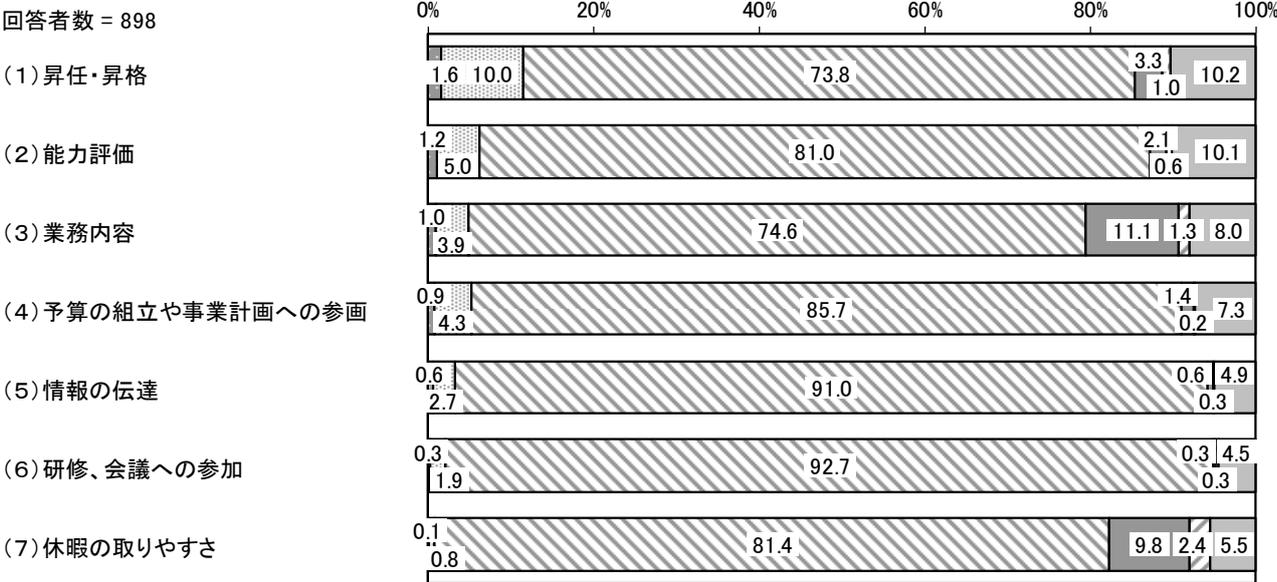


問 10 あなたの職場において、次のようなことで性別によって格差や優遇があると思いますか。それぞれ1つずつ選んでください。

『(1) 昇任・昇格』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。一方、『(3) 業務内容』『(7) 休暇の取りやすさ』で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

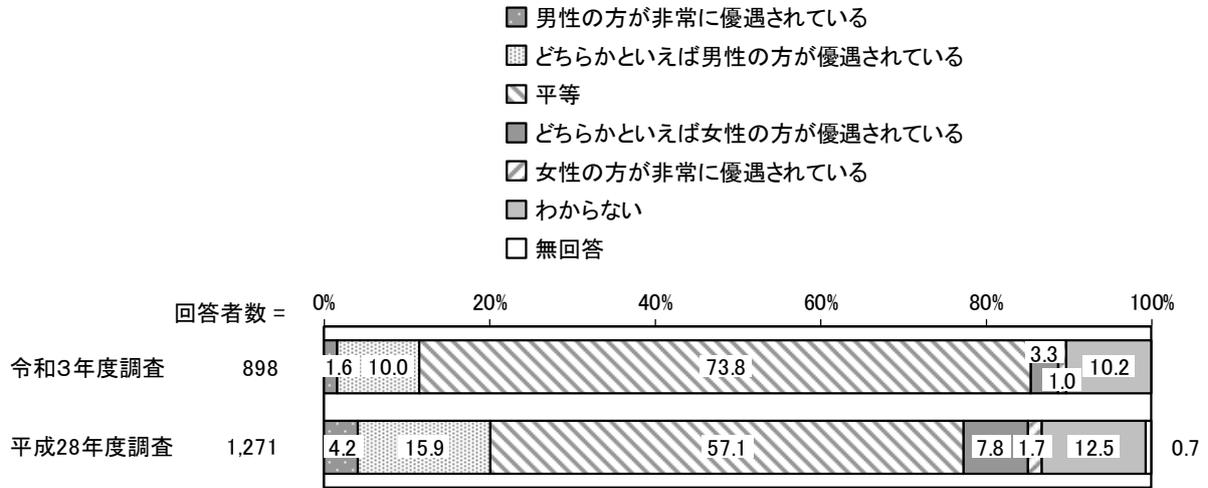
回答者数 = 898



(1) 昇任・昇格

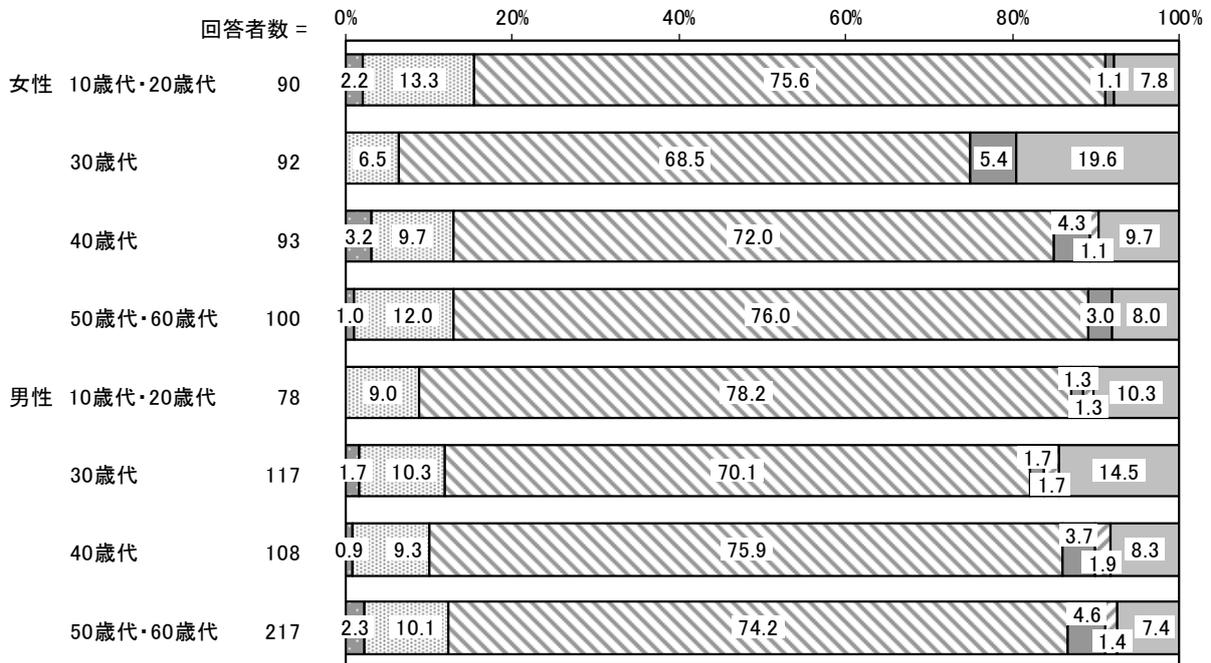
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が減少しています。一方、「平等」の割合が増加しています。



【性・年齢別】

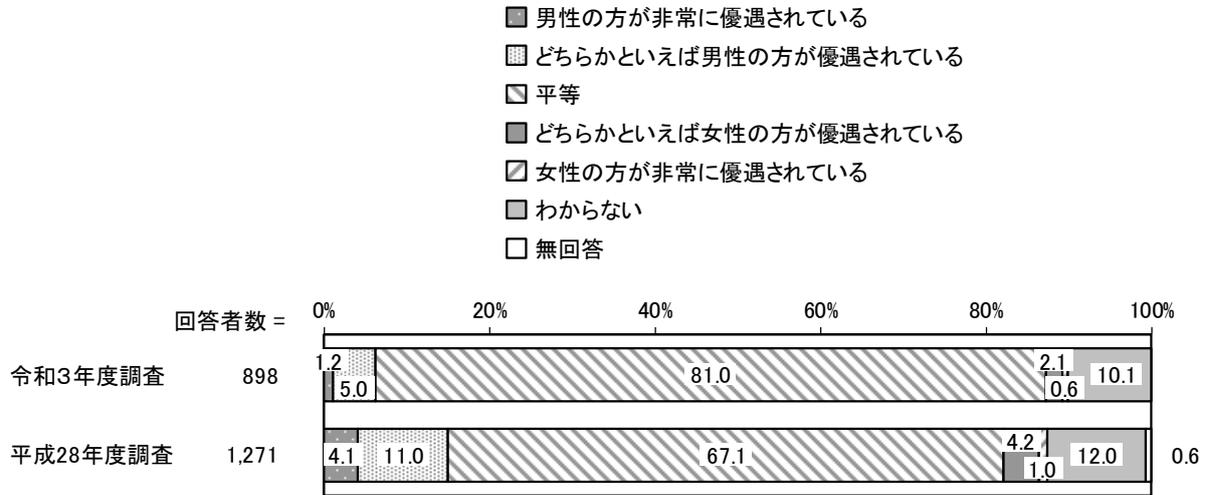
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性30歳代で「分からない」の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。



(2) 能力評価

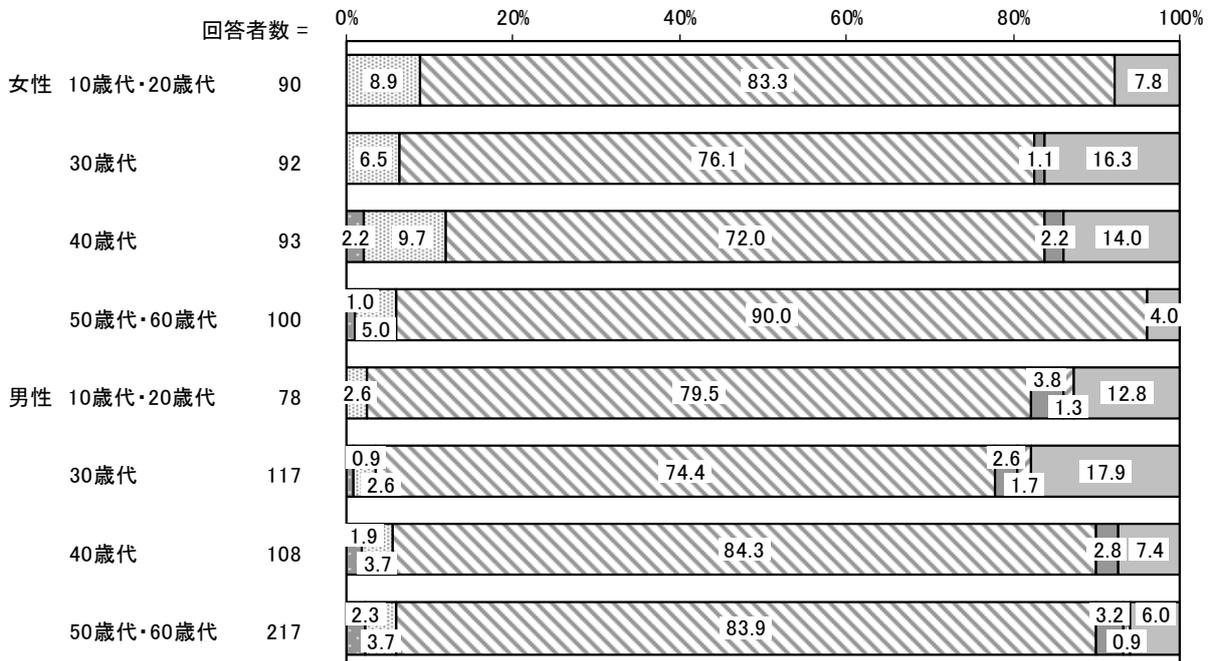
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が減少しています。一方、「平等」の割合が増加しています。



【性・年齢別】

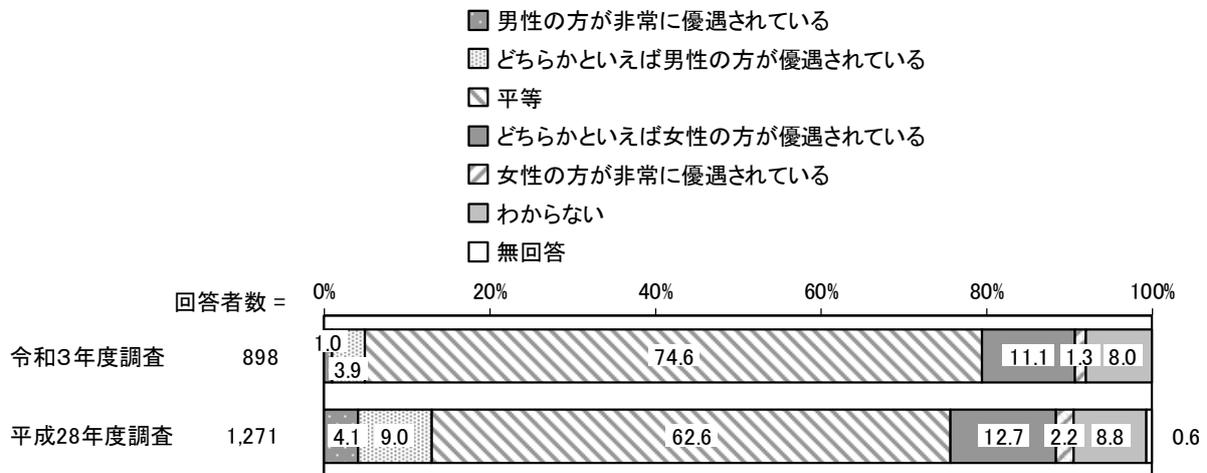
性・年齢別でみると、他に比べ、女性50歳代・60歳代で「平等」の割合が高くなっています。



(3) 業務内容

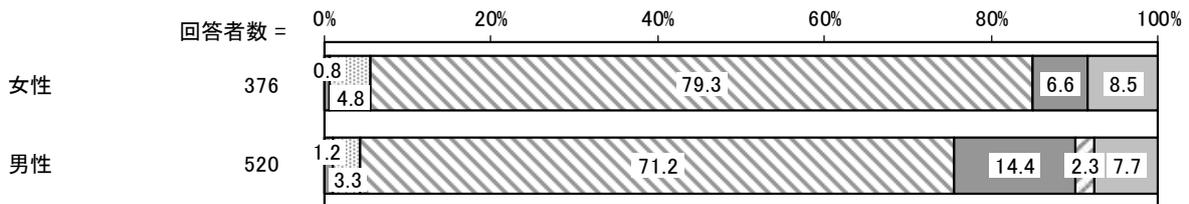
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が減少しています。一方、「平等」の割合が増加しています。



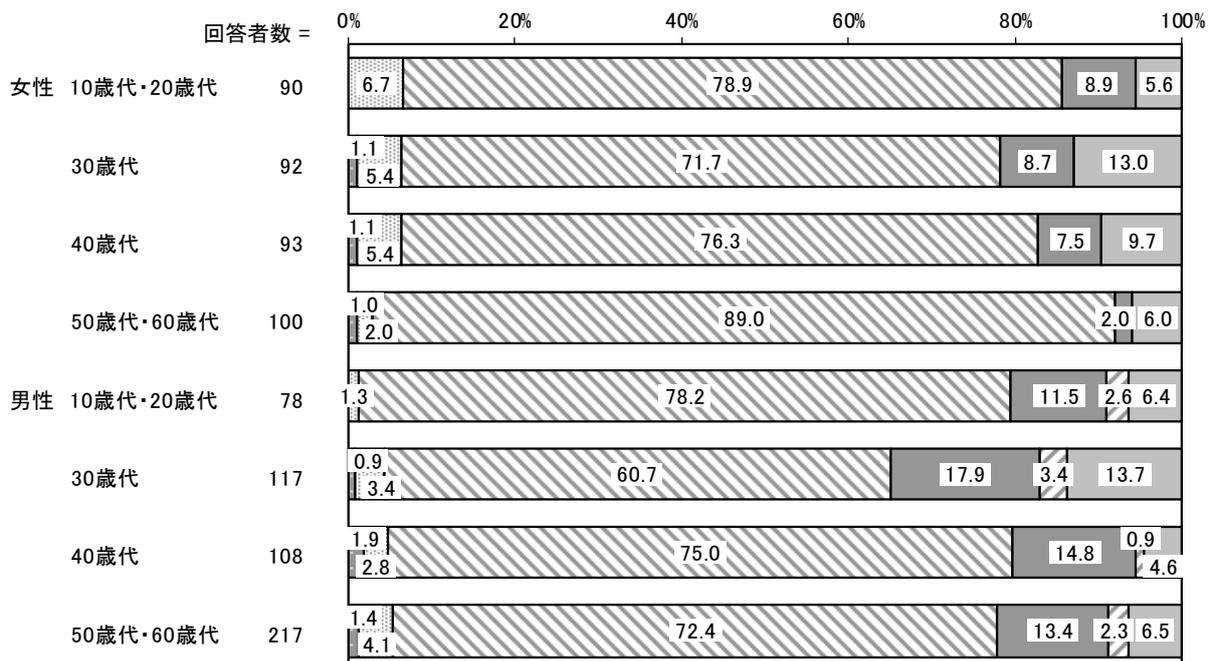
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「平等」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

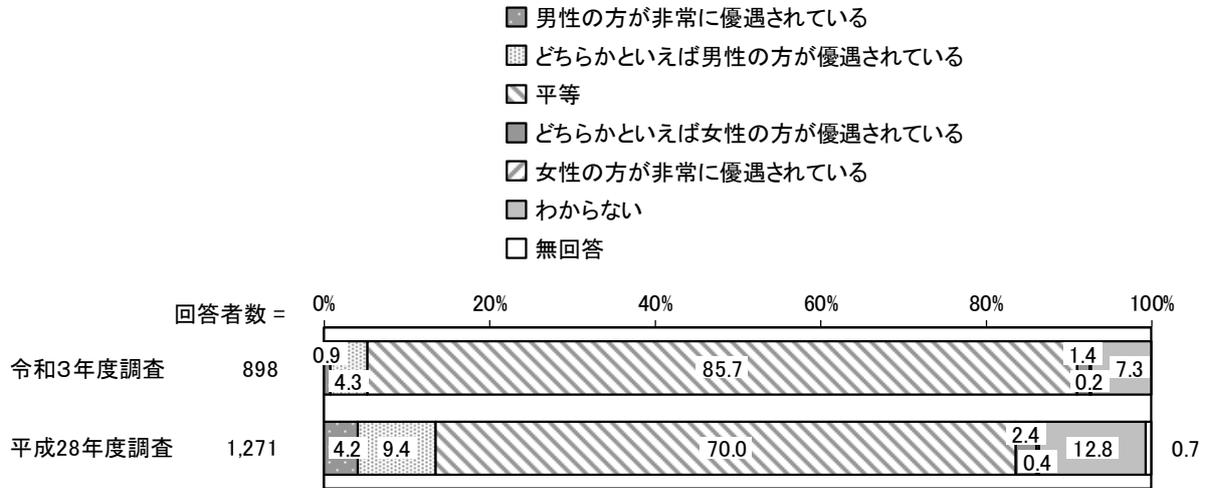
性・年齢別でみると、他に比べ、男性30歳代で「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



(4) 予算の組立や事業計画への参画

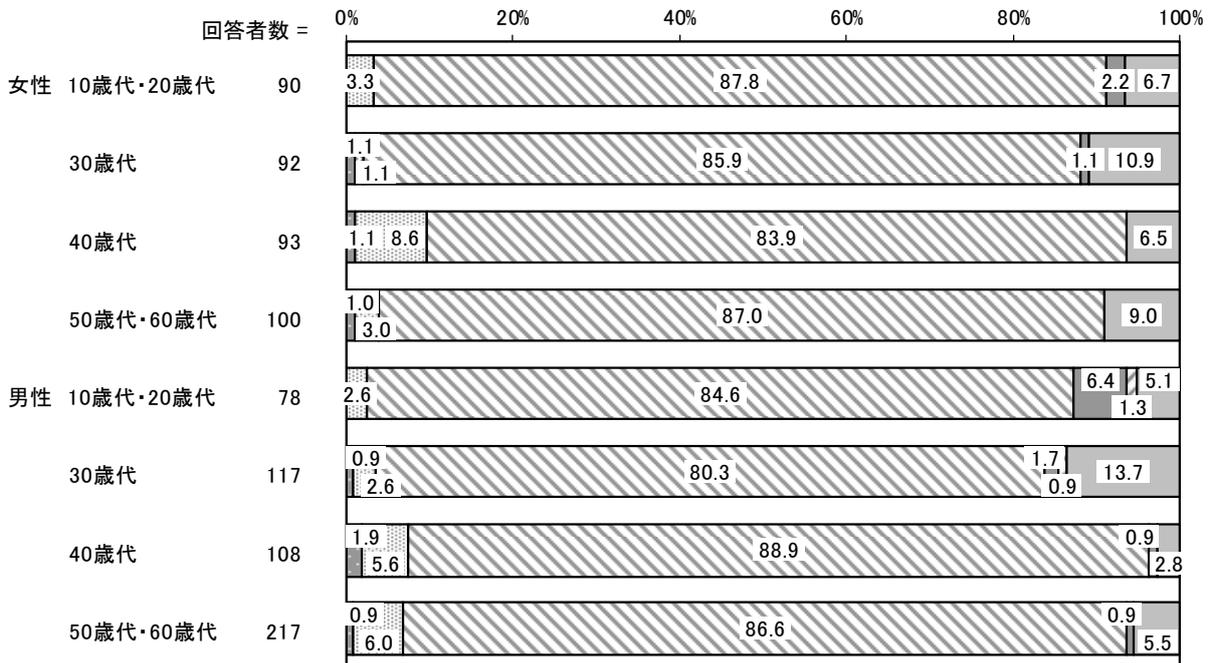
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。一方、「平等」の割合が増加しています。



【性・年齢別】

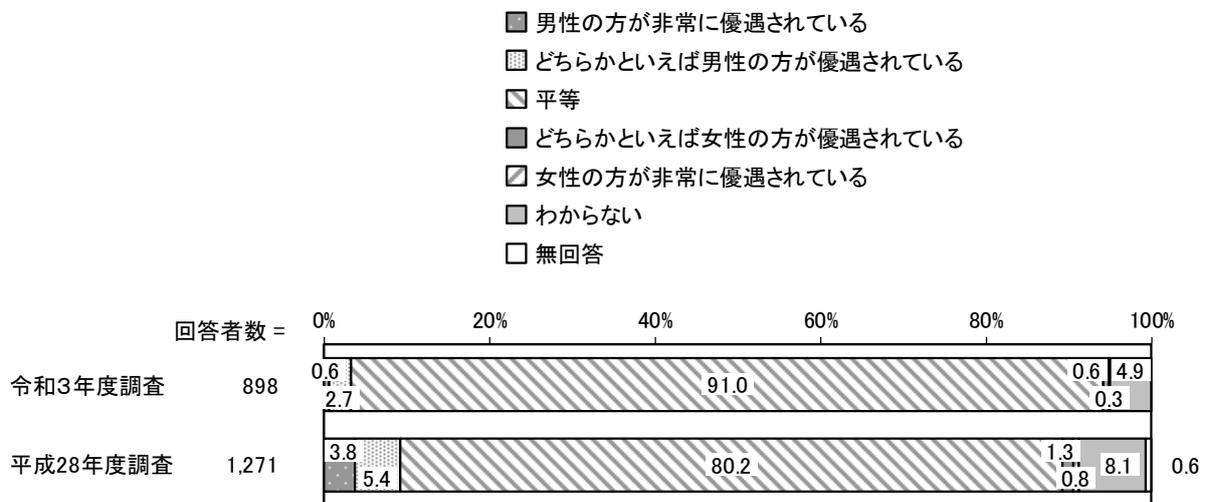
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性40歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が、男性30歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



(5) 情報の伝達

【経年比較】

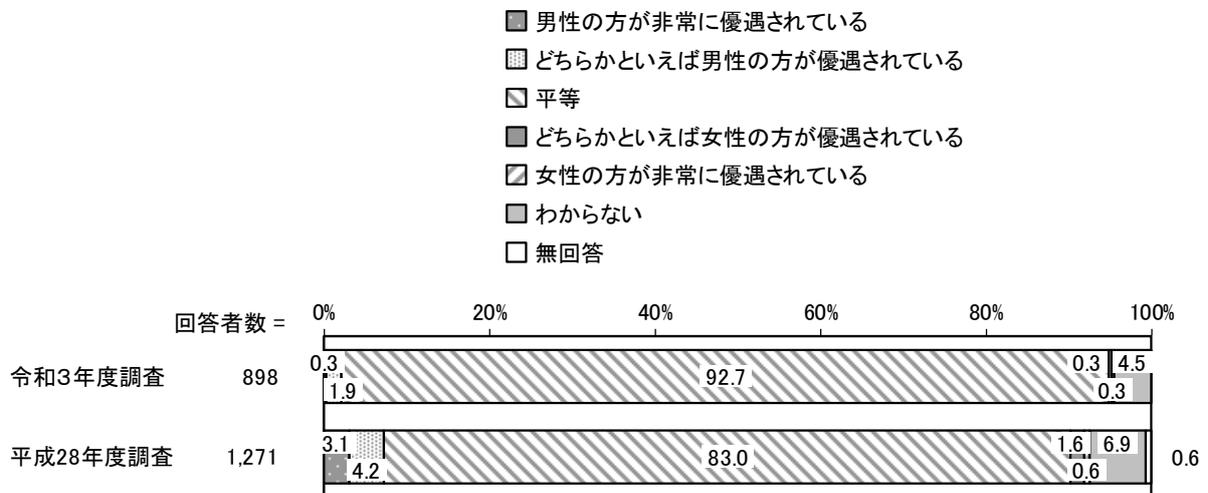
平成 28 年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。一方、「平等」の割合が増加しています。



(6) 研修、会議への参加

【経年比較】

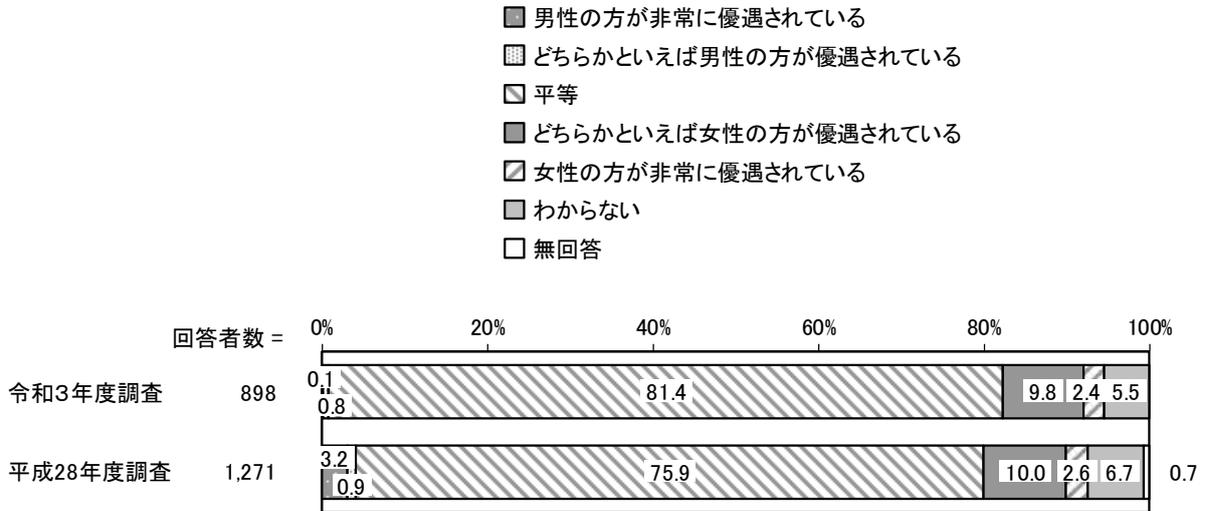
平成 28 年度調査と比較すると、「平等」の割合が増加しています。



(7) 休暇の取りやすさ

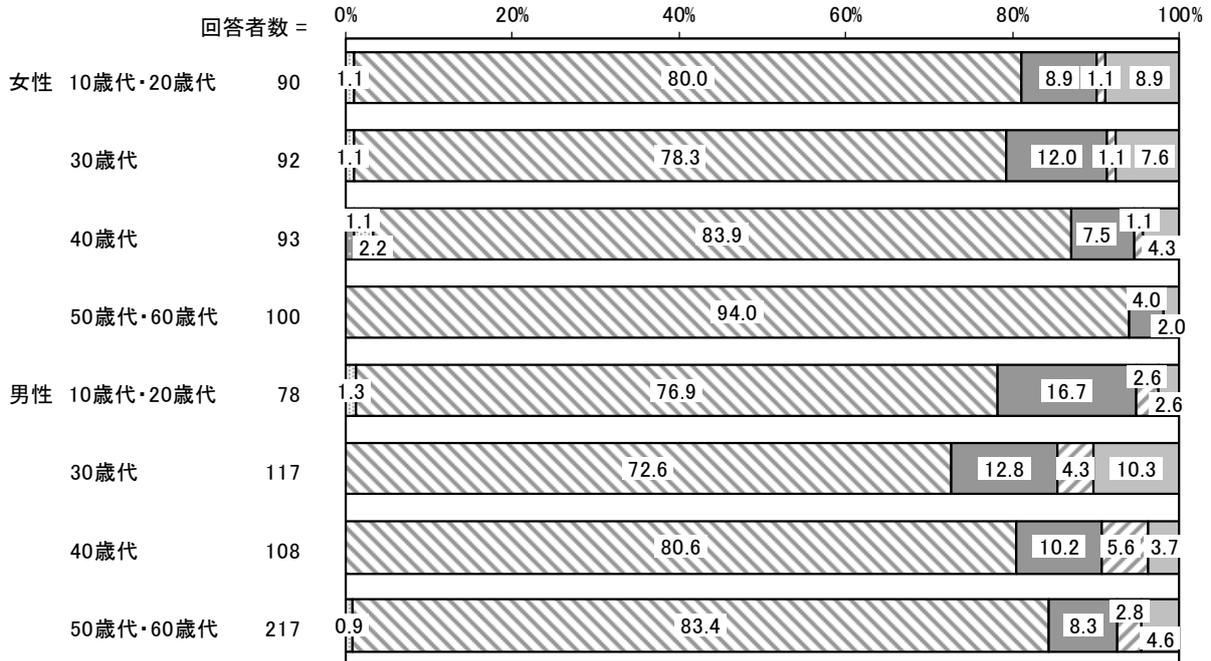
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「平等」の割合が増加しています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性50歳代・60歳代で「平等」の割合が高くなっています。

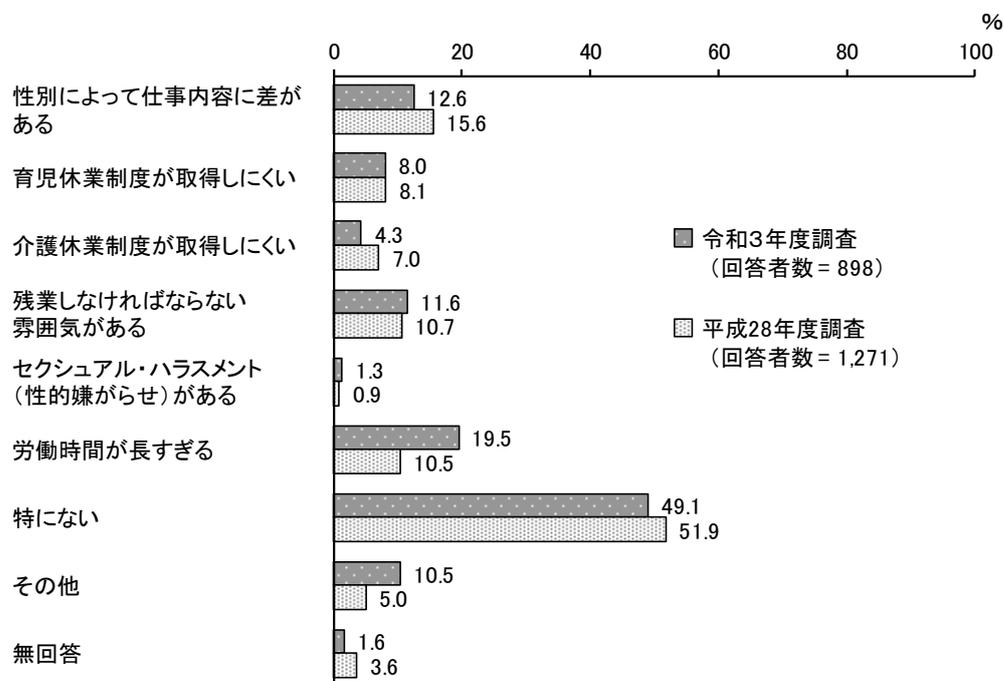


問 11 男女ともにより仕事のしやすい環境を整えるために、あなたの職場において弊害となっている点は何ですか。2つ以内で選んでください。

「特にない」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「労働時間が長すぎる」の割合が 19.5%、「性別によって仕事内容に差がある」の割合が 12.6%となっています。

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「労働時間が長すぎる」「その他」の割合が増加しています。



※前回は「性別によって昇任・昇格に差がある」「研修・教育の機会が男女均等でない」「結婚後の旧姓の使用を認められない」「男女が互いに助け合う雰囲気がない」の選択肢がありました。

<「その他」意見より>

- ・時間外申請をさせない雰囲気がある。
- ・仕事量や内容に比べ職員数が少ない。
- ・業務多忙なのに管理職の理解がない。 など

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「残業しなければならぬ雰囲気がある」「特にない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「性別によって仕事内容に差がある」「育児休業制度が取得しにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	性別によって仕事 内容に差がある	育児休業制度が取得 しにくい	介護休業制度が取得 しにくい	残業しなければなら ぬ雰囲気がある	セクシュアル・ハラ メント(性的嫌が らせ)がある	労働時間が長すぎる	特にない	その他	無回答
女性	376	6.4	4.5	4.3	14.4	0.8	17.3	52.9	12.0	2.7
男性	520	17.1	10.6	4.4	9.6	1.7	21.2	46.5	9.4	0.4

【性・年齢別】

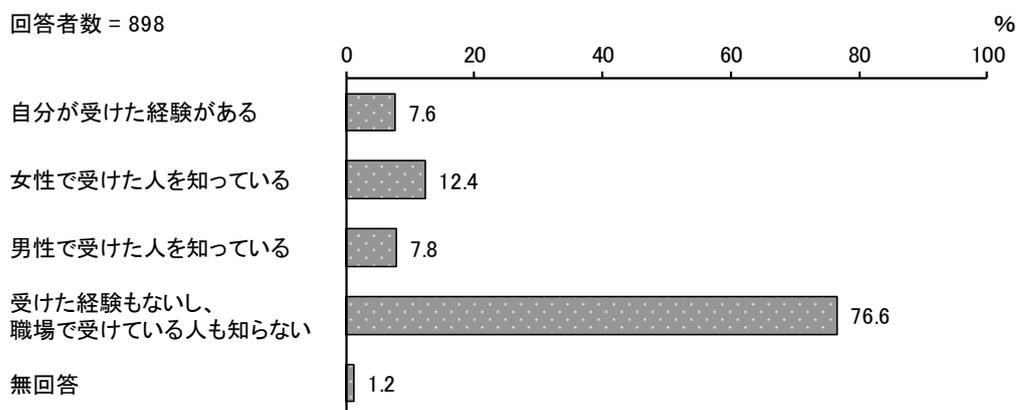
性・年齢別でみると、他に比べ、女性50歳代・60歳代で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	性別によって仕事 内容に差がある	育児休業制度が取得 しにくい	介護休業制度が取得 しにくい	残業しなければなら ぬ雰囲気がある	セクシュアル・ハラ メント(性的嫌が らせ)がある	労働時間が長すぎる	特にない	その他	無回答
女性 10歳代・20歳代	90	7.8	10.0	1.1	16.7	1.1	13.3	53.3	10.0	3.3
30歳代	92	8.7	3.3	2.2	17.4	—	25.0	45.7	14.1	2.2
40歳代	93	4.3	2.2	5.4	12.9	1.1	17.2	51.6	16.1	1.1
50歳代・60歳代	100	5.0	3.0	8.0	10.0	1.0	13.0	61.0	8.0	4.0
男性 10歳代・20歳代	78	11.5	15.4	2.6	12.8	2.6	26.9	42.3	12.8	1.3
30歳代	117	19.7	17.9	1.7	10.3	3.4	25.6	35.9	12.0	—
40歳代	108	15.7	4.6	2.8	13.0	2.8	22.2	49.1	12.0	0.9
50歳代・60歳代	217	18.4	7.8	7.4	6.5	—	16.1	52.5	5.5	—

問 12 この1年間に、職場で性別を理由としたハラスメントを受けた経験、または、職場で経験した人を知っていますか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。 【新規設問】

「受けた経験もないし、職場で受けている人も知らない」の割合が76.6%と最も高く、次いで「女性で受けた人を知っている」の割合が12.4%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性で受けた人を知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「男性で受けた人を知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自分が受けた経験がある	女性で受けた人を知っている	男性で受けた人を知っている	受けた経験もないし、職場で受けている人も知らない	無回答
女性	376	8.8	16.5	4.5	73.9	1.1
男性	520	6.7	9.4	10.2	78.8	1.0

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性10歳代・20歳代で「女性で受けた人を知っている」の割合が高くなっています。

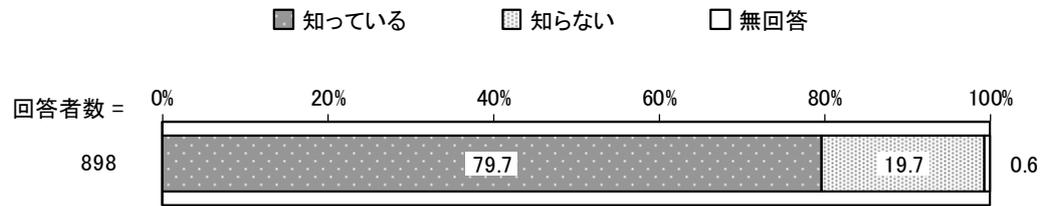
単位：%

区分	回答者数(件)	自分が受けた経験がある	女性で受けた人を知っている	男性で受けた人を知っている	受けた経験もないし、職場で受けている人も知らない	無回答
女性 10歳代・20歳代	90	12.2	21.1	5.6	67.8	—
30歳代	92	6.5	15.2	4.3	79.3	—
40歳代	93	5.4	10.8	5.4	82.8	—
50歳代・60歳代	100	11.0	19.0	3.0	66.0	4.0
男性 10歳代・20歳代	78	5.1	9.0	9.0	83.3	1.3
30歳代	117	12.0	11.1	8.5	78.6	—
40歳代	108	7.4	8.3	11.1	76.9	1.9
50歳代・60歳代	217	4.1	9.2	11.1	78.3	0.9

問 13 ハラスメントに対して相談窓口があることを知っていますか。

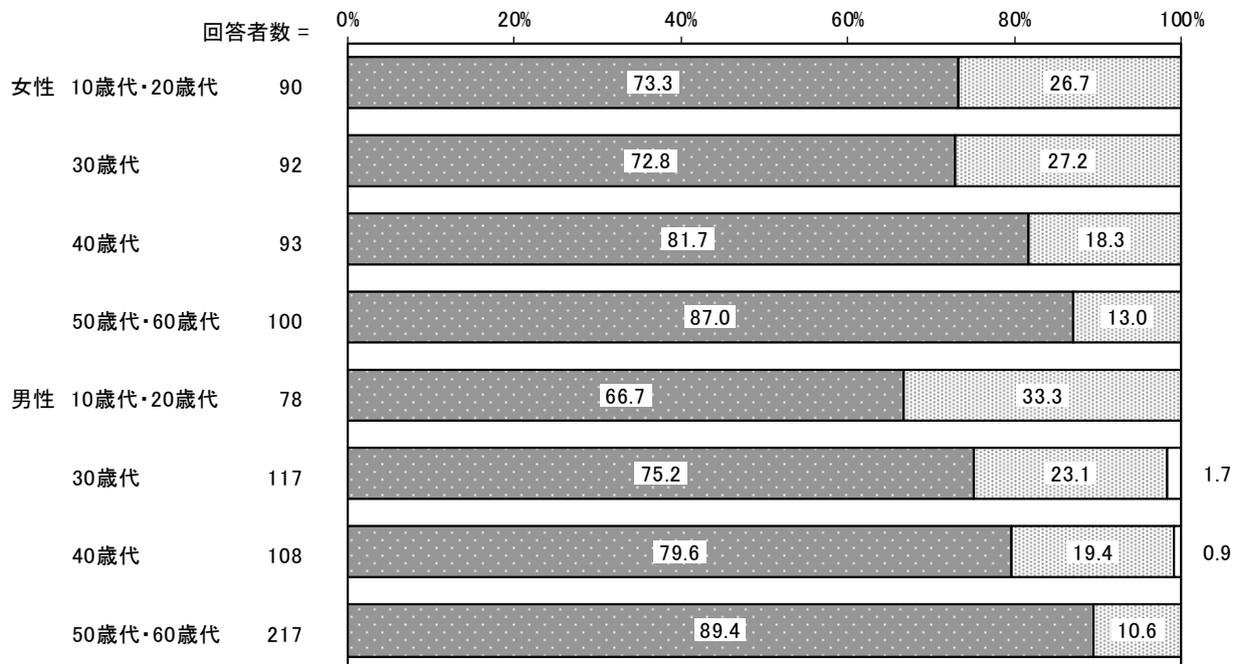
【新規設問】

「知っている」の割合が79.7%、「知らない」の割合が19.7%となっています。



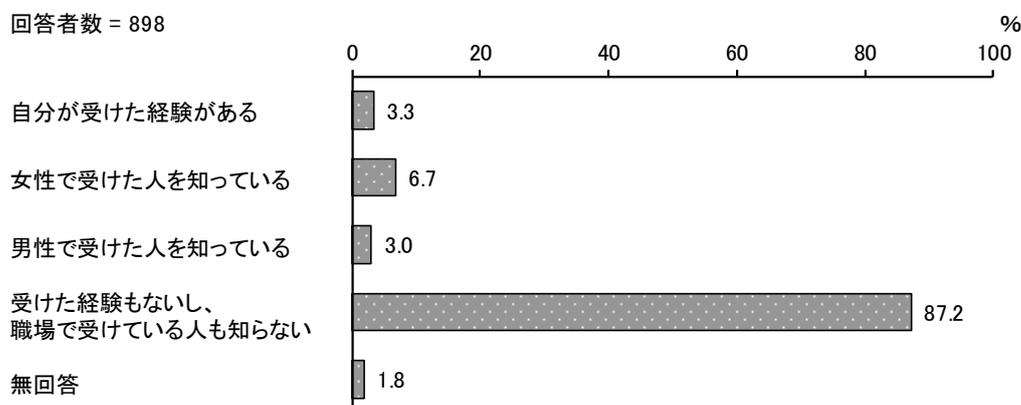
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性10歳代・20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



問 14 この1年間に、職場で妊娠、出産、育児、介護を理由としたハラスメントを受けた経験、または、職場で経験した人を知っていますか。あてはまるものにもいくつかでもチェックをつけてください。 【新規設問】

「受けた経験もないし、職場で受けている人も知らない」の割合が87.2%と最も高くなっています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「女性で受けた人を知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「受けた経験もないし、職場で受けている人も知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自分を受けた経験がある	女性で受けた人を知っている	男性で受けた人を知っている	受けた経験もないし、職場で受けている人も知らない	無回答
女性	376	5.9	9.8	2.9	82.4	1.3
男性	520	1.5	4.4	3.1	91.0	1.7

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性10歳代・20歳代、女性30歳代で「女性で受けた人を知っている」の割合が高くなっています。

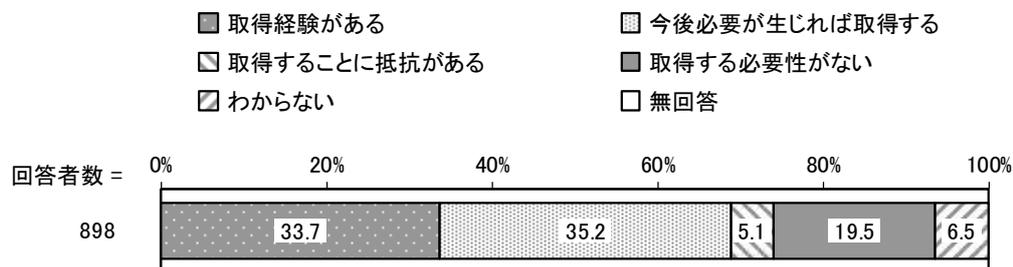
単位：%

区分	回答者数(件)	自分が受けた経験がある	女性で受けた人を知っている	男性で受けた人を知っている	受けた経験もないし、職場で受けていない人も知らない	無回答
女性 10歳代・20歳代	90	5.6	13.3	5.6	80.0	—
30歳代	92	4.3	13.0	2.2	80.4	1.1
40歳代	93	5.4	6.5	3.2	87.1	1.1
50歳代・60歳代	100	8.0	7.0	1.0	82.0	3.0
男性 10歳代・20歳代	78	—	5.1	2.6	92.3	1.3
30歳代	117	4.3	7.7	4.3	87.2	0.9
40歳代	108	1.9	2.8	3.7	90.7	2.8
50歳代・60歳代	217	0.5	3.2	2.3	92.6	1.8

問 15 出産・育児に関する休暇等や介護休暇は男女とも取得できる制度ですが、あなたの取得経験や意向はどのようなものですか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んでください。 【新規設問】

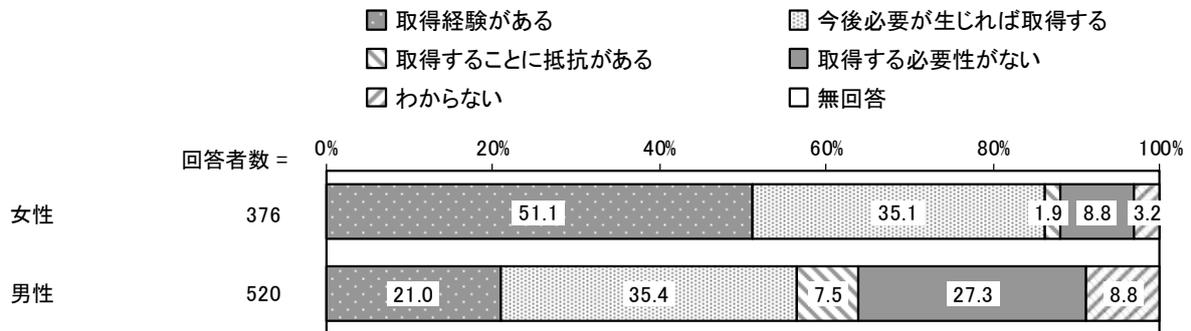
(1) 出産・育児に関する休暇等

「今後必要が生じれば取得する」の割合が35.2%と最も高く、次いで「取得経験がある」の割合が33.7%、「取得する必要性がない」の割合が19.5%となっています。



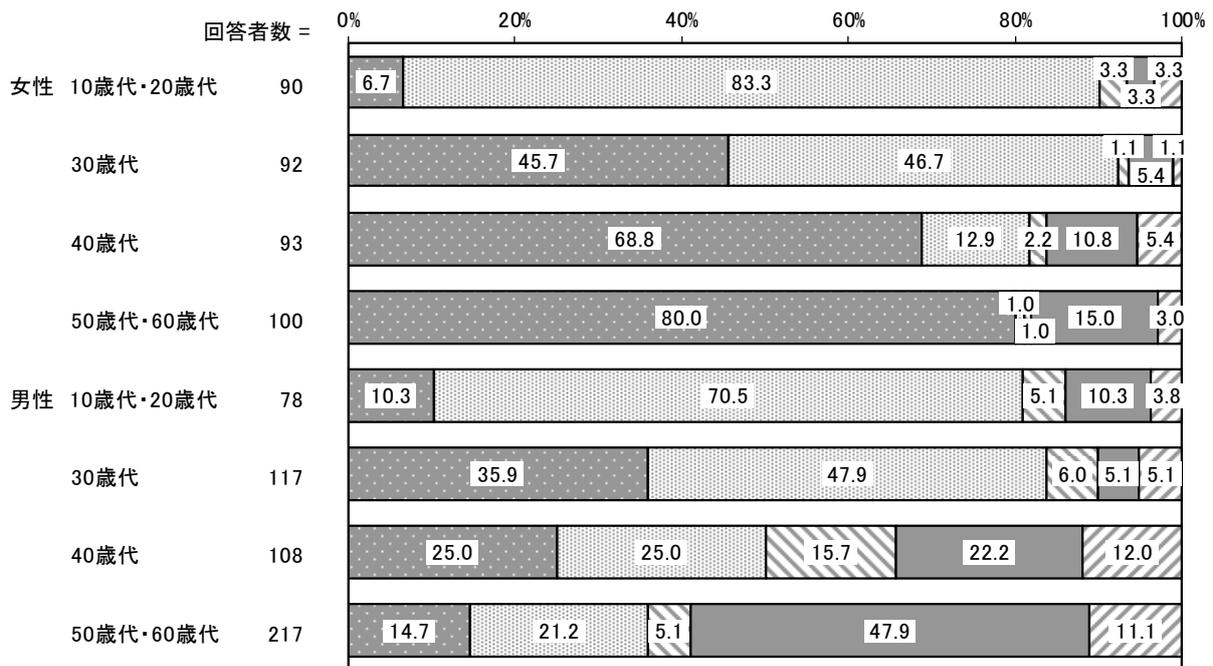
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「取得経験がある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「取得する必要がない」の割合が高くなっています。



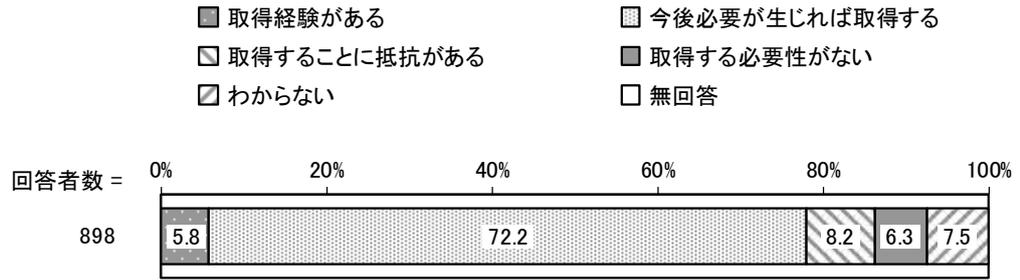
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性 50 歳代・60 歳代で「取得経験がある」の割合が、女性 10 歳代・20 歳代で「今後必要が生じれば取得する」の割合が高くなっています。また、男性 50 歳代・60 歳代で「取得する必要がない」の割合が高くなっています。



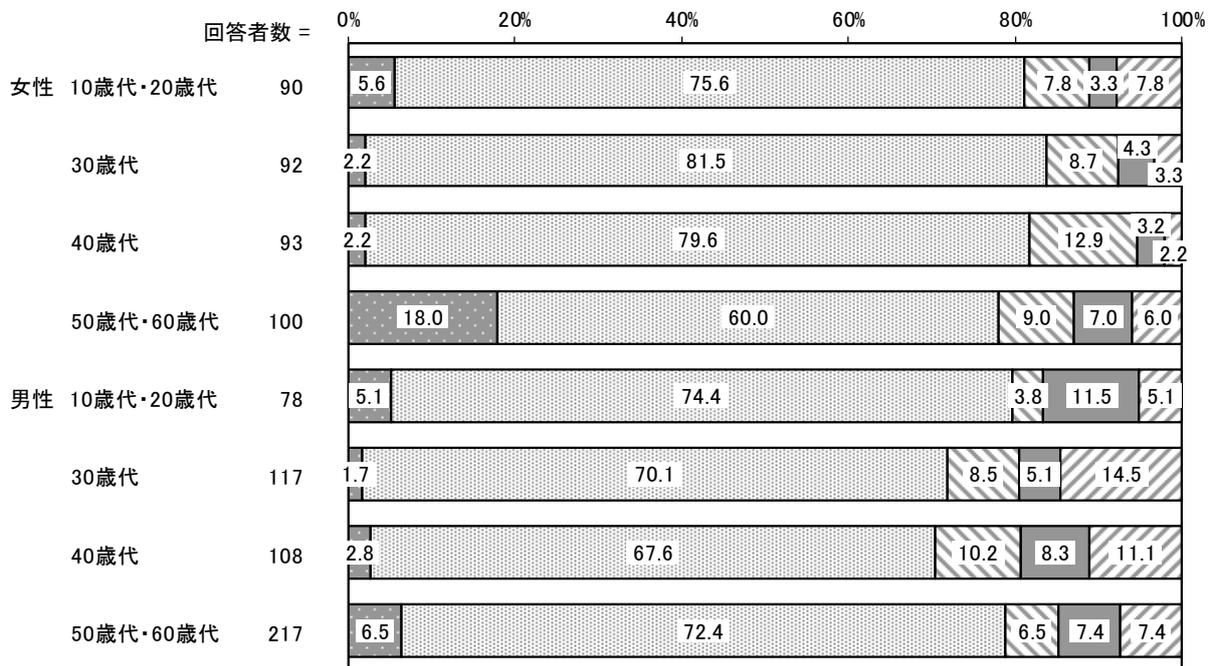
(2) 介護休暇

「今後必要が生じれば取得する」の割合が72.2%と最も高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性50歳代・60歳代で「取得経験がある」の割合が高くなっています。



問 16 あなたは、次の言葉を聞いたことがありますか。また意味を知っていますか。下記項目は、それぞれ別の表記をする場合もありますがそれらを含めて教えてください。(〇はそれぞれ1つ) 【新規設問】

『(3) カミングアウト』で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が、『(5) SOGI (ソジ・ソギ)』『(6) アライ (Allly)』で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。また、『(8) 性的指向』で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。

- 言葉を聞いているし、意味も知っている
- ▨ 言葉を聞いているが、意味は知らない
- ▧ 言葉を聞いたことがないし、意味も知らない
- 無回答

回答者数 = 898

(1) セクシュアル・マイノリティ、性的少数者

(2) LGBT、LGBTQ等

(3) カミングアウト

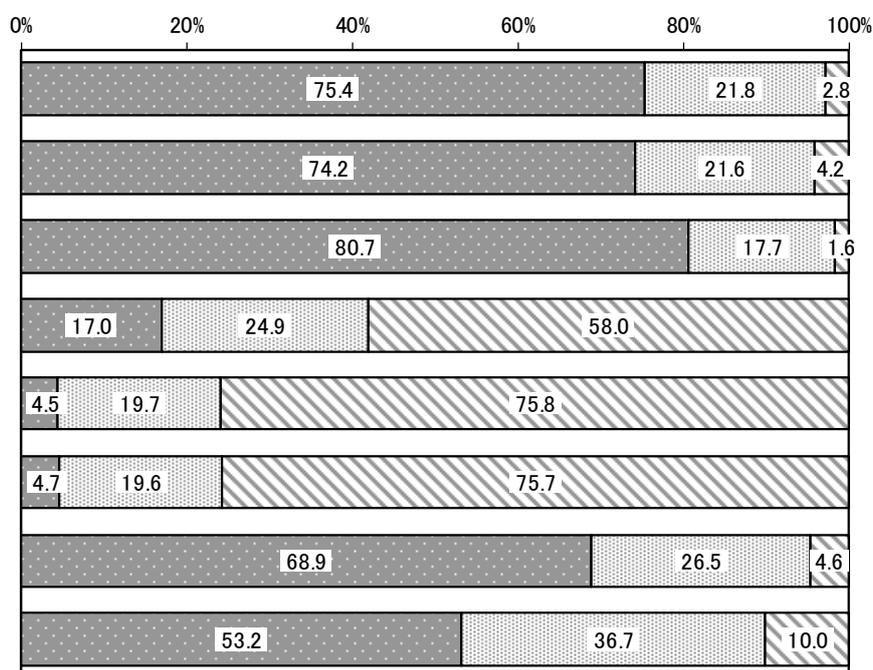
(4) アウティング

(5) SOGI(ソジ・ソギ)

(6) アライ(Ally)

(7) 性自認、性同一性、性別違和

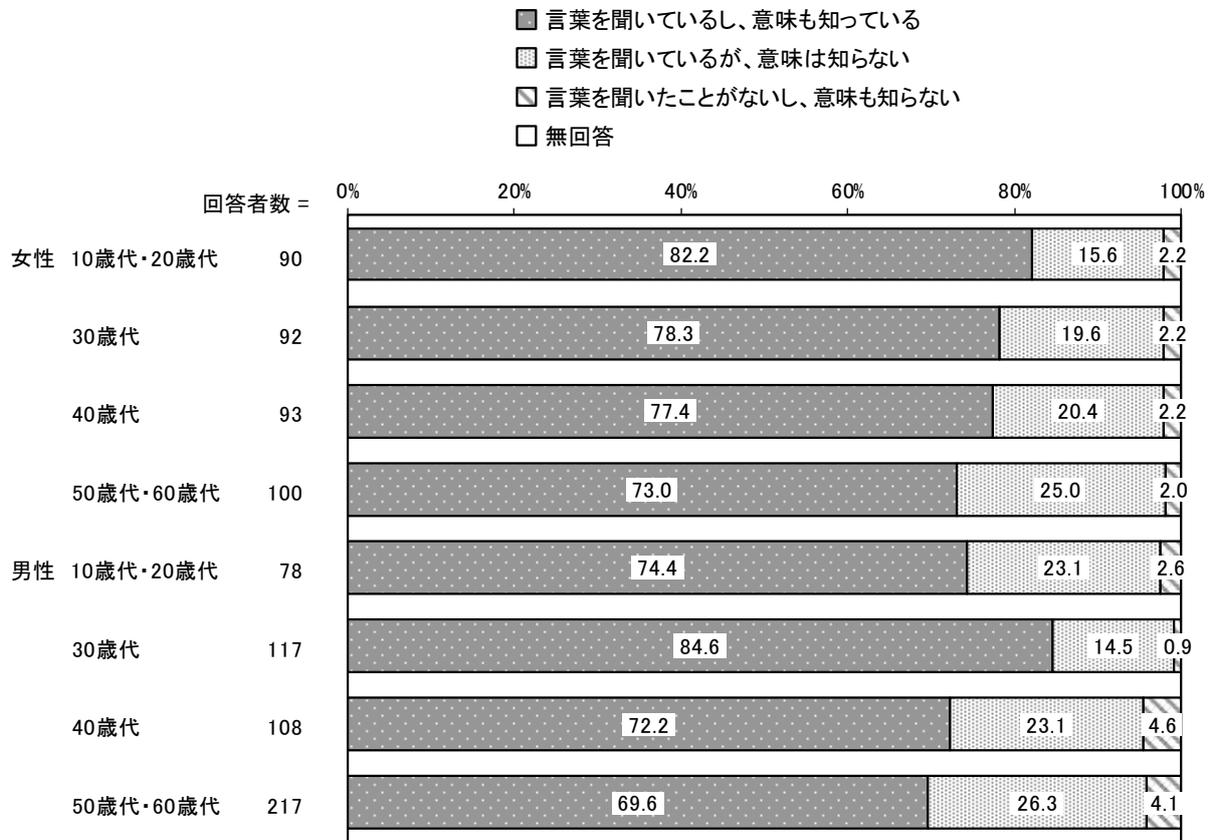
(8) 性的指向



(1) セクシュアル・マイノリティ、性的少数者

【性・年齢別】

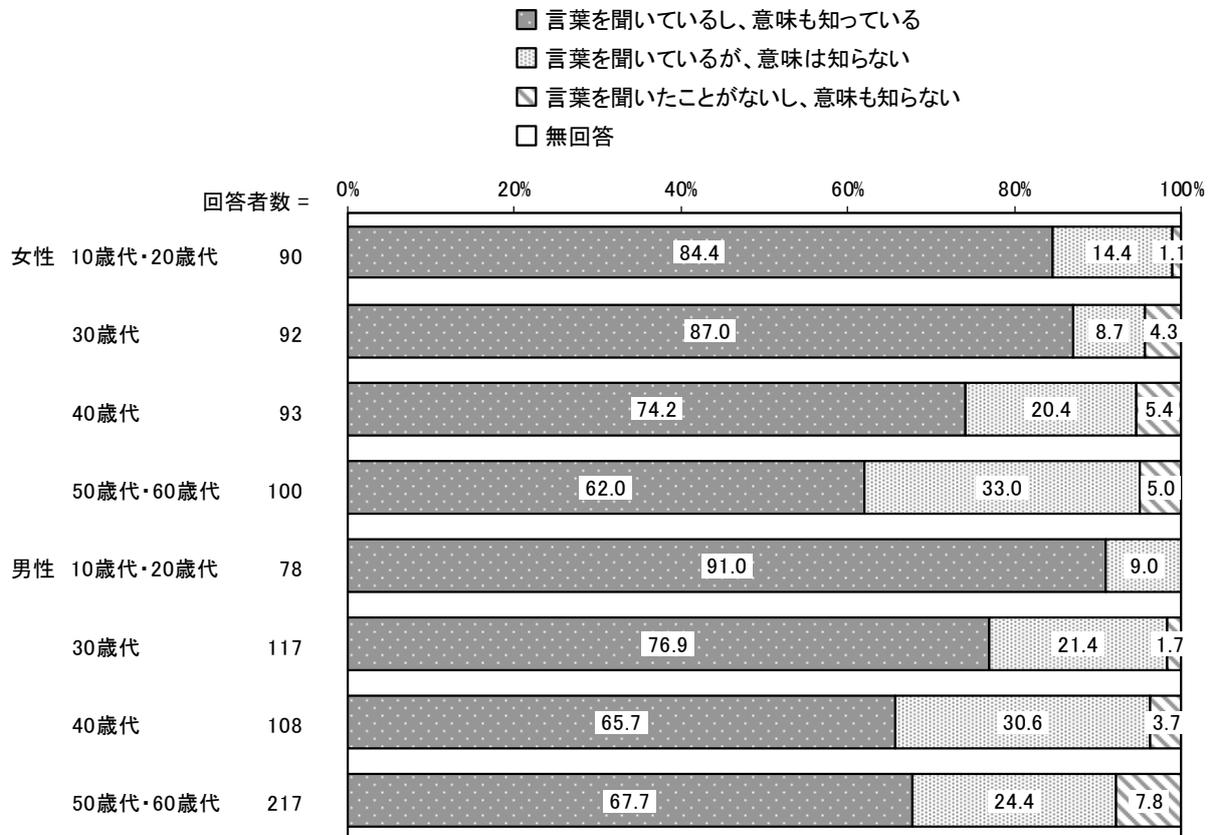
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 30 歳代で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。



(2) LGBT、LGBTQ等

【性・年齢別】

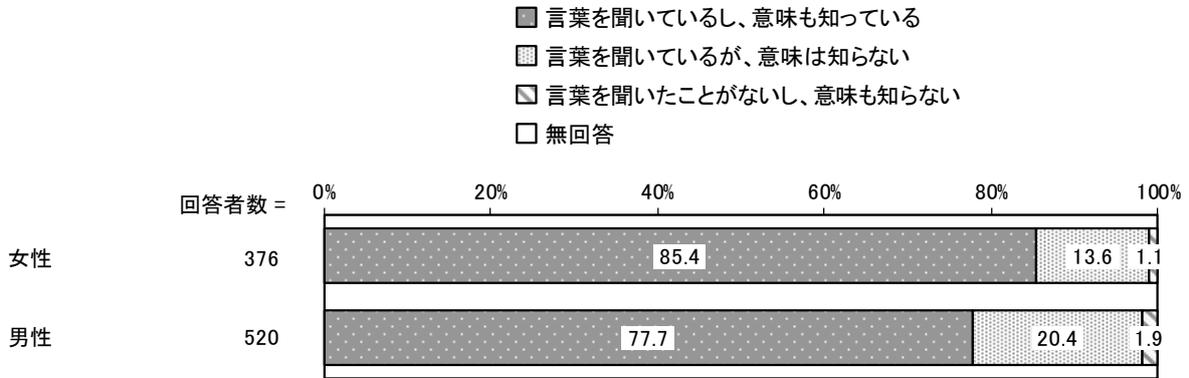
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性10歳代・20歳代で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。



(3) カミングアウト

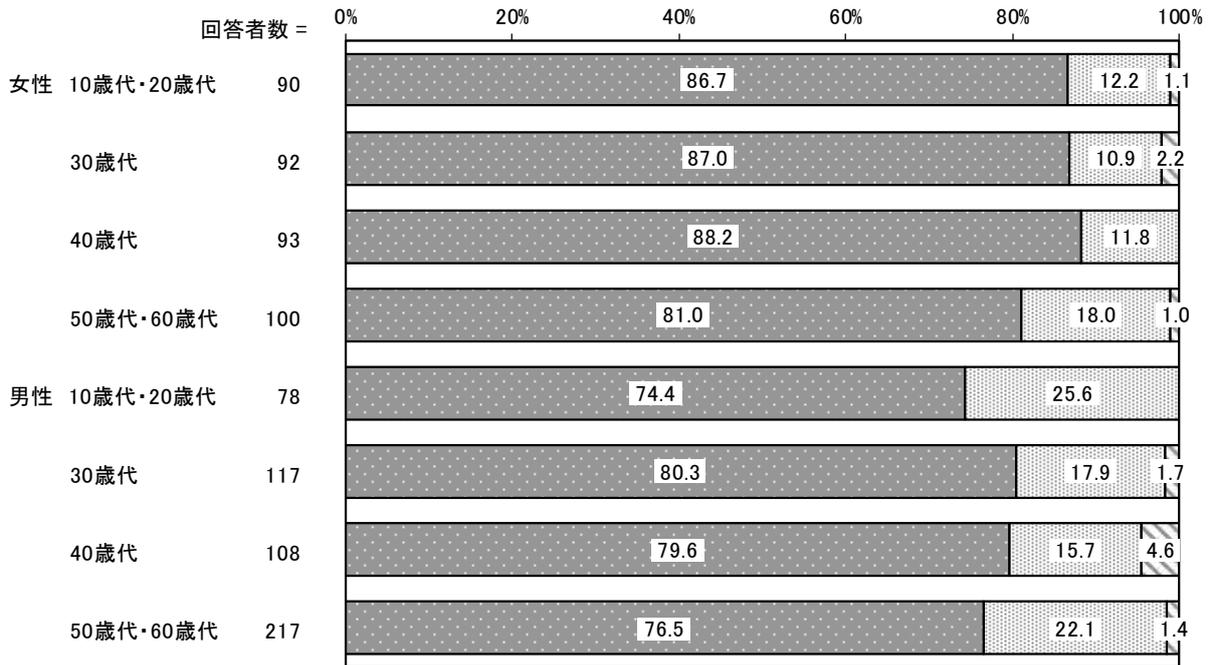
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

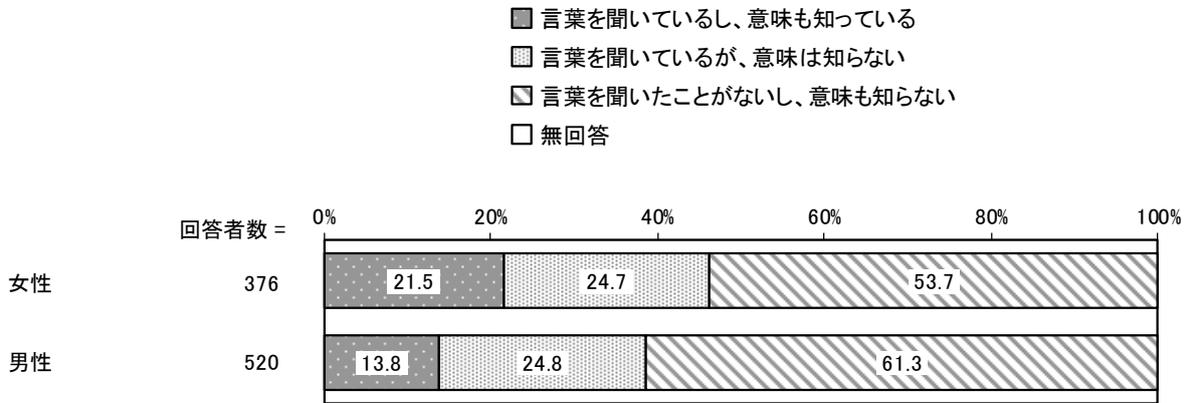
性・年齢別でみると、他に比べ、男性10歳代・20歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



(4) アウティング

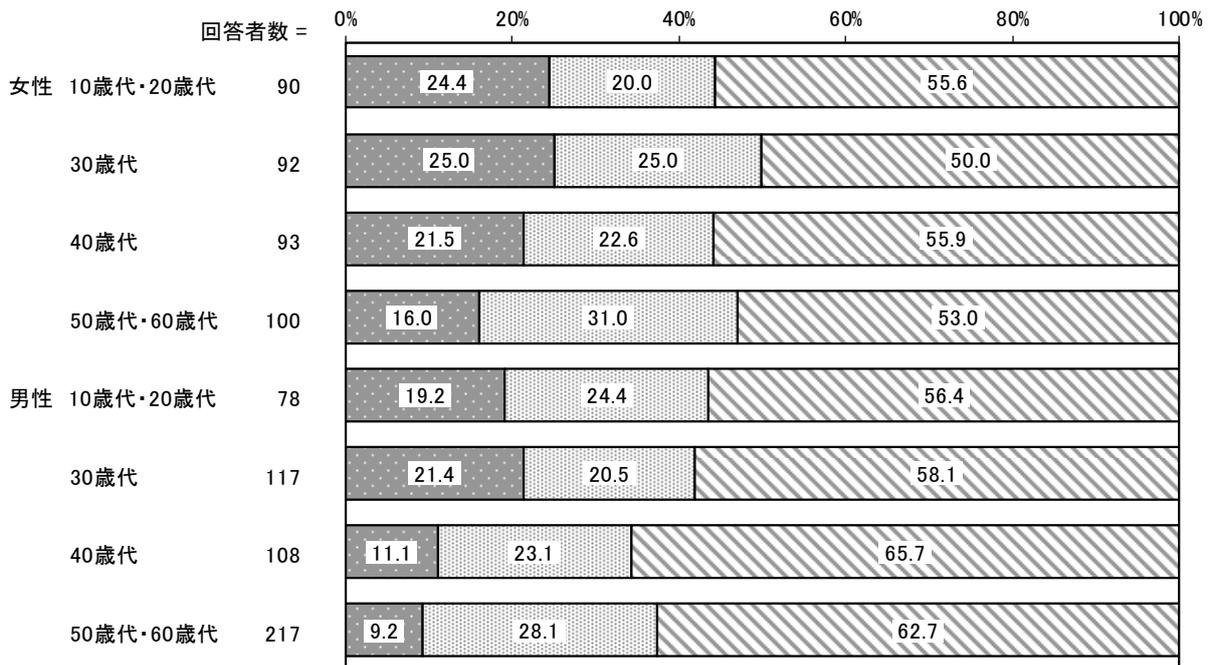
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

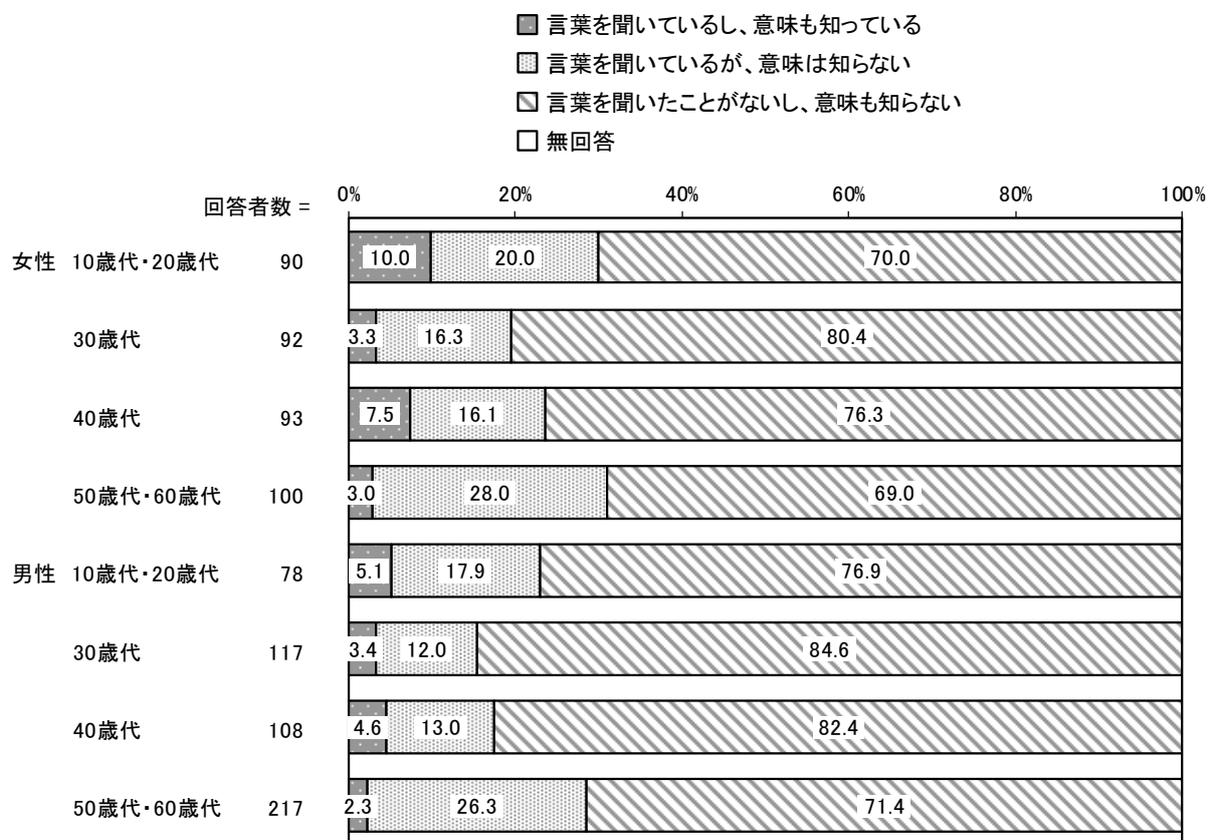
性・年齢別でみると、他に比べ、男性40歳代、男性50歳代・60歳代で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



(5) SOGI (ソジ・ソギ)

【性・年齢別】

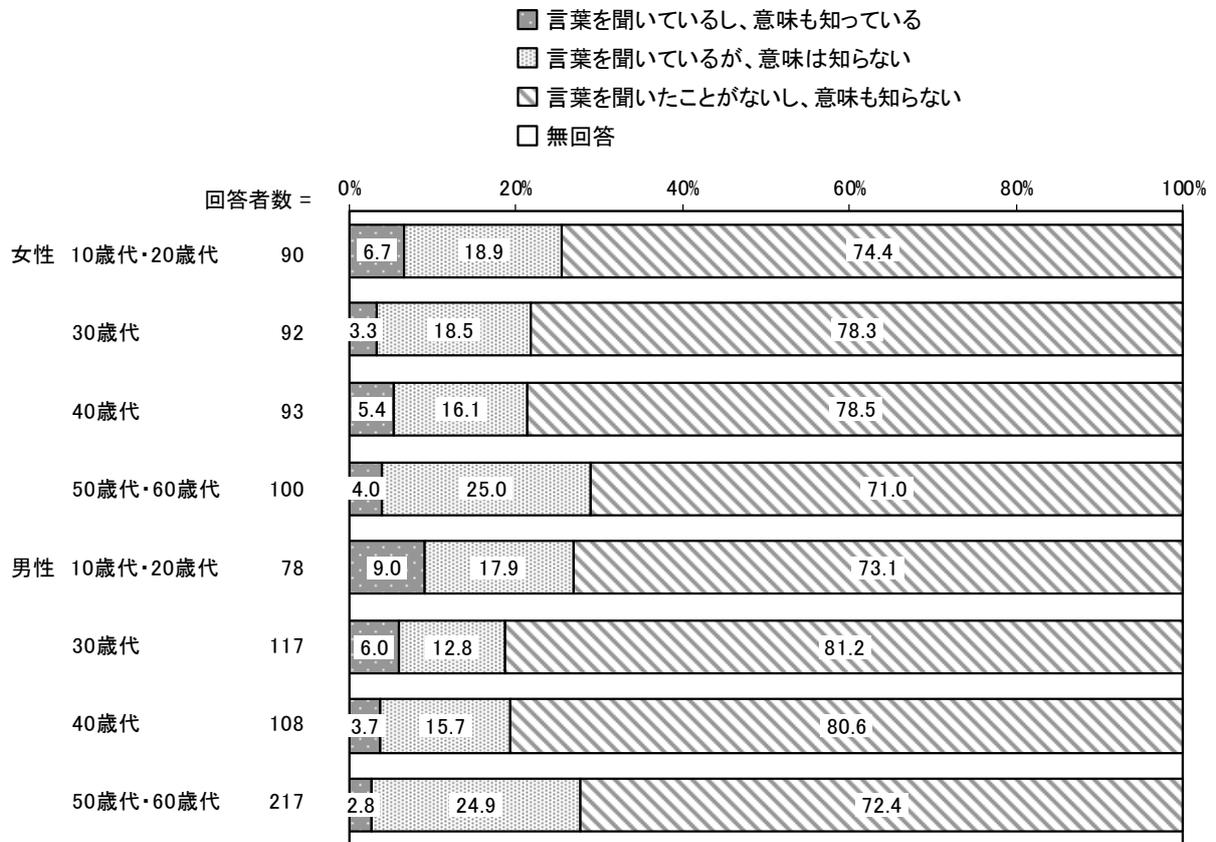
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性女性ともに50歳代・60歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



(6) アライ (Ally)

【性・年齢別】

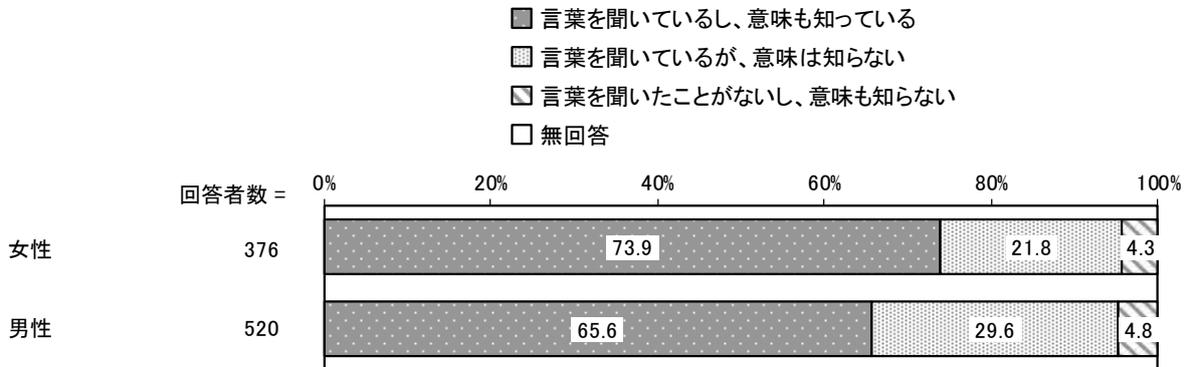
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性女性ともに50歳代・60歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



(7) 性自認、性同一性、性別違和

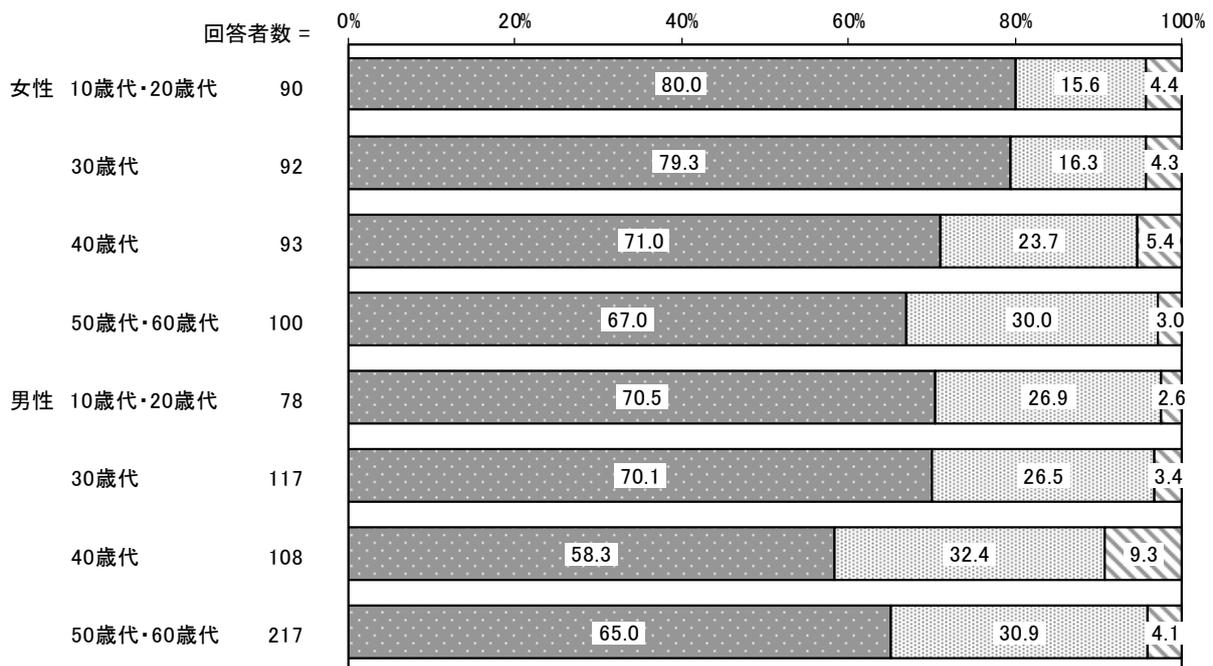
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いているし、意味も知っている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

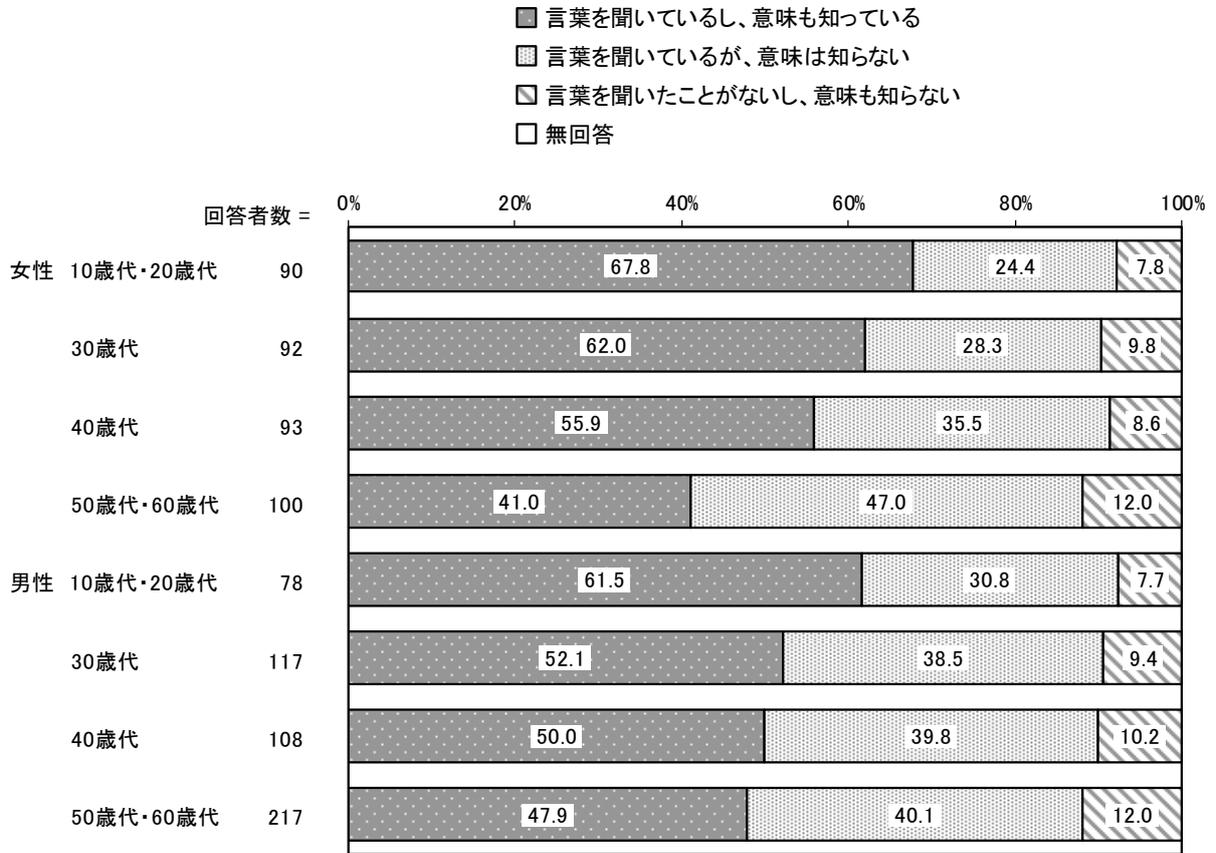
性・年齢別でみると、他に比べ、男性 40 歳代で「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の割合が高くなっています。



(8) 性的指向

【性・年齢別】

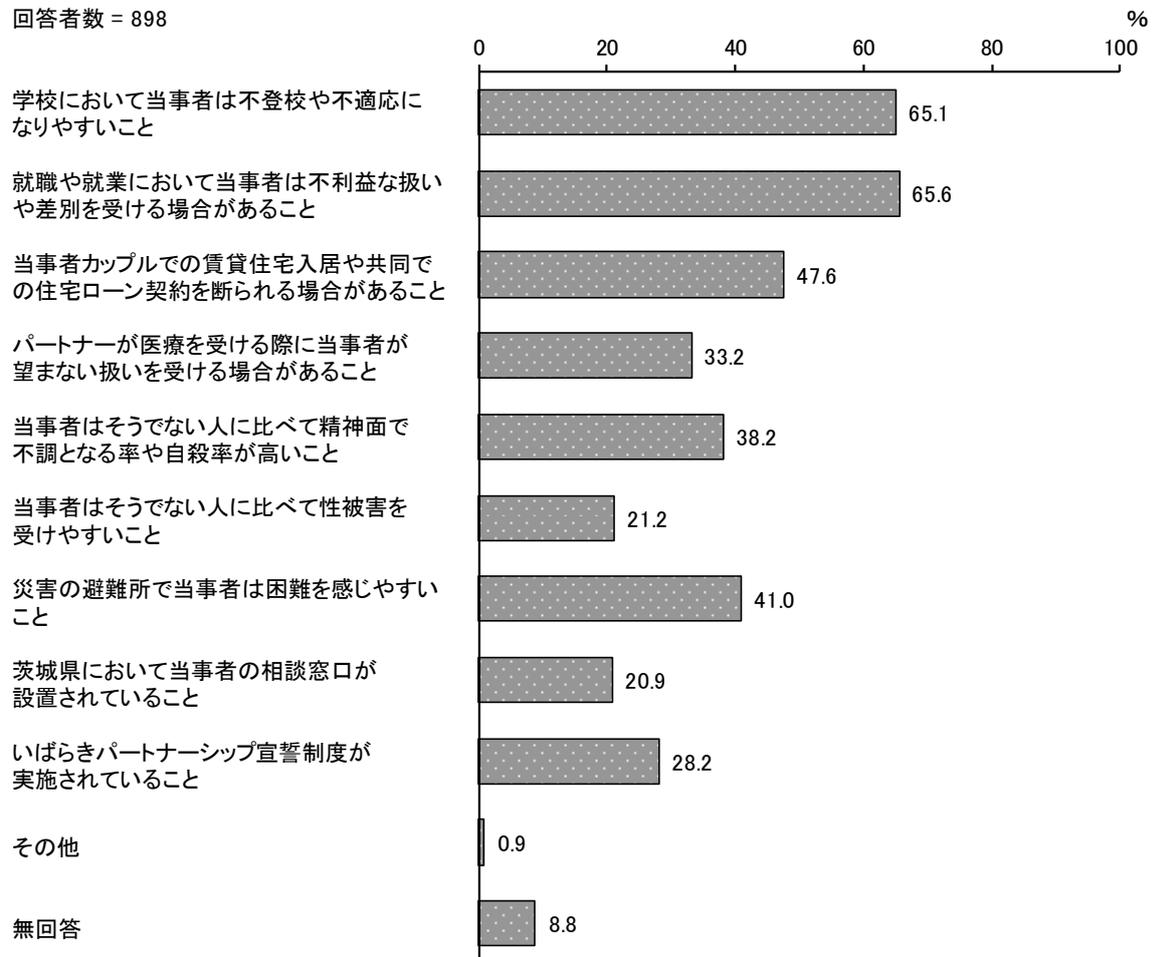
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代・60 歳代で「言葉を聞いているが、意味は知らない」の割合が高くなっています。



問 17 セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の当事者に関連する以下のことについて、知っていたものを全て選んでください。 【新規設問】

「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」の割合が 65.6%と最も高く、次いで「学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと」の割合が 65.1%、「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」の割合が 47.6%となっています。

回答者数 = 898



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと」「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」「パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること」「当事者はそうでない人に比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと」「災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること	当事者が望まない扱いを受ける場合があること	パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること	当事者はそうでない人に比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	当事者はそうでない人に比べて性被害を受けやすいこと	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	茨城県において当事者の相談窓口が設置されていること	いばらきパートナーシップ宣誓制度が実施されていること	その他	無回答
女性	376	72.3	70.2	58.2	42.6	46.8	23.7	47.9	21.3	29.3	0.8	5.9	
男性	520	60.2	62.5	40.0	26.5	32.1	19.4	36.2	20.8	27.5	1.0	10.6	

【性・年齢別】

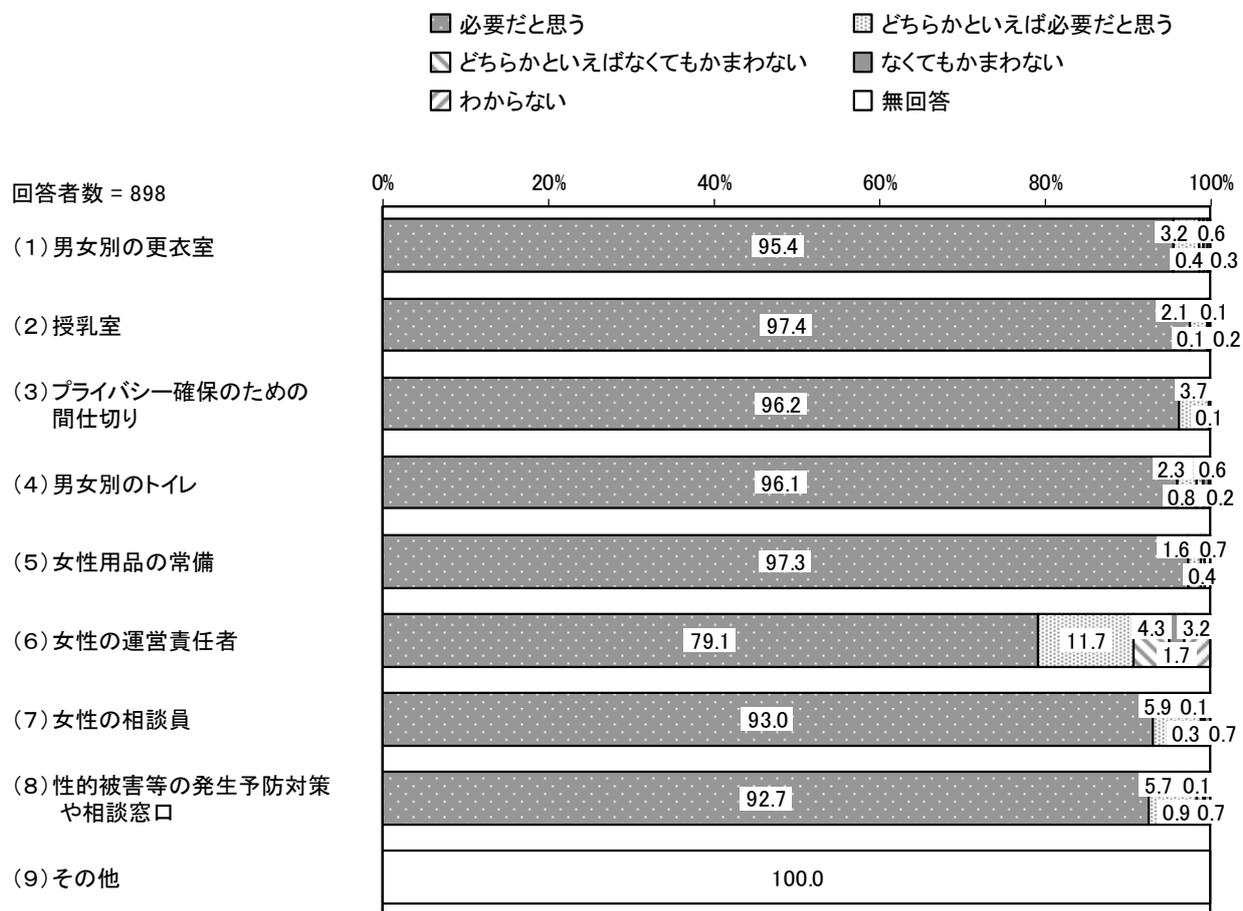
性・年齢別でみると、他に比べ、女性40歳代で「災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと」の割合が、女性50歳代・60歳代で「茨城県において当事者の相談窓口が設置されていること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること	当事者が望まない扱いを受ける場合があること	パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること	当事者はそうでない人に比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	当事者はそうでない人に比べて性被害を受けやすいこと	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	茨城県において当事者の相談窓口が設置されていること	いばらきパートナーシップ宣誓制度が実施されていること	その他	無回答
女性 10歳代・20歳代	90	72.2	71.1	63.3	48.9	41.1	32.2	37.8	18.9	35.6	1.1	7.8	
30歳代	92	73.9	73.9	63.0	46.7	54.3	23.9	51.1	14.1	20.7	1.1	8.7	
40歳代	93	77.4	73.1	51.6	43.0	55.9	19.4	58.1	19.4	28.0	1.1	3.2	
50歳代・60歳代	100	66.0	64.0	56.0	33.0	36.0	20.0	45.0	32.0	33.0	—	4.0	
男性 10歳代・20歳代	78	74.4	65.4	39.7	35.9	35.9	29.5	42.3	21.8	24.4	1.3	9.0	
30歳代	117	59.0	59.0	41.0	31.6	36.8	17.1	35.9	12.0	32.5	0.9	10.3	
40歳代	108	58.3	62.0	39.8	27.8	26.9	20.4	34.3	17.6	22.2	1.9	14.8	
50歳代・60歳代	217	56.7	63.6	39.6	19.8	30.9	16.6	35.0	26.7	28.6	0.5	9.2	

問 18 あなたは、災害が起きた時、避難所にはどのようなものが必要だと考えますか。
(○はそれぞれ1つ)

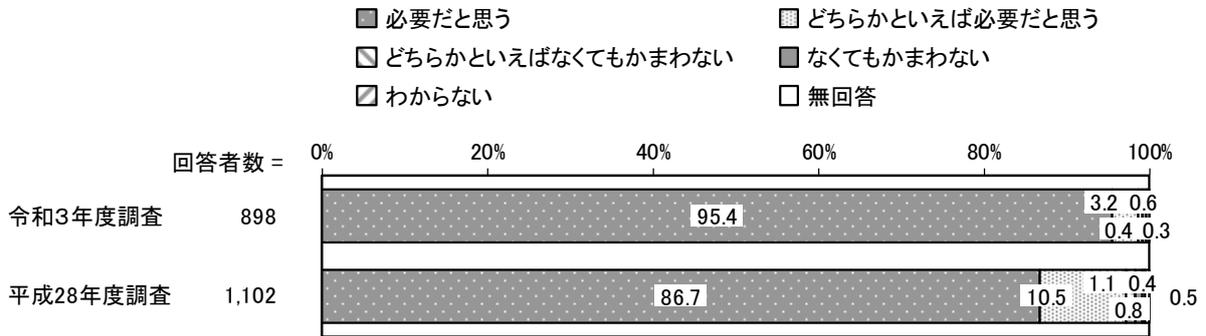
『(6) 女性の運営責任者』で「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」をあわせた“必要だと思う”の割合が低く、「どちらかといえばなくてもかまわない」と「なくてもかまわない」をあわせた“なくてもかまわない”の割合が高くなっています。



(1) 男女別の更衣室

【経年比較】

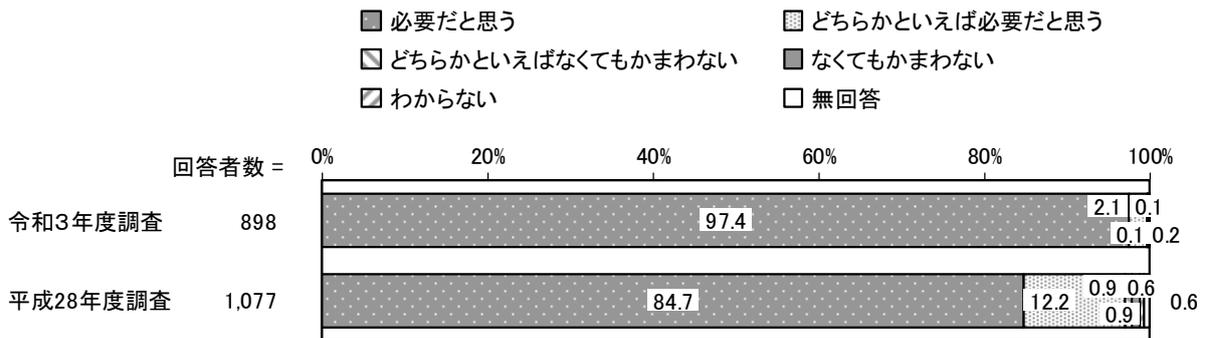
平成28年度調査と比較すると、“必要だと思う”の割合が増加しています。



(2) 授乳室

【経年比較】

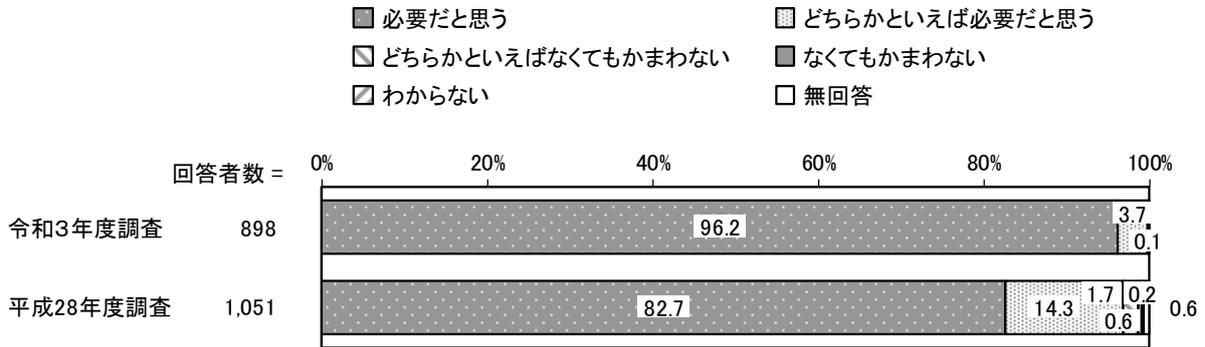
平成28年度調査と比較すると、“必要だと思う”の割合が増加しています。



(3) プライバシー確保のための間仕切り

【経年比較】

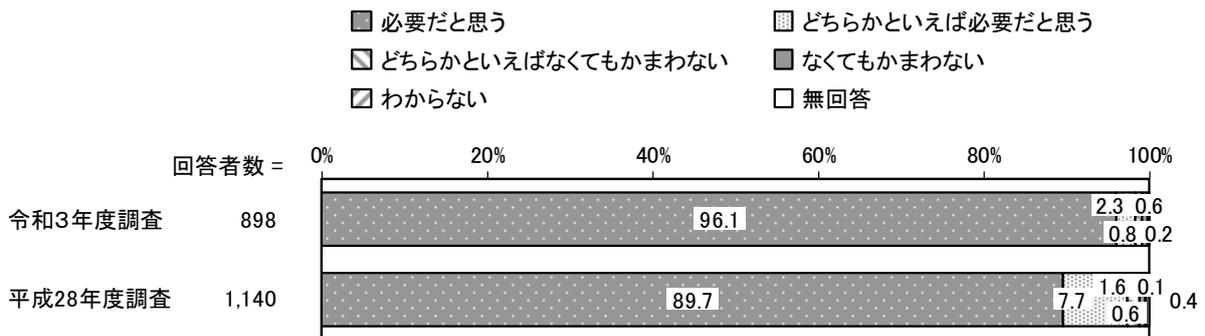
平成 28 年度調査と比較すると、“必要だと思う”の割合が増加しています。



(4) 男女別のトイレ

【経年比較】

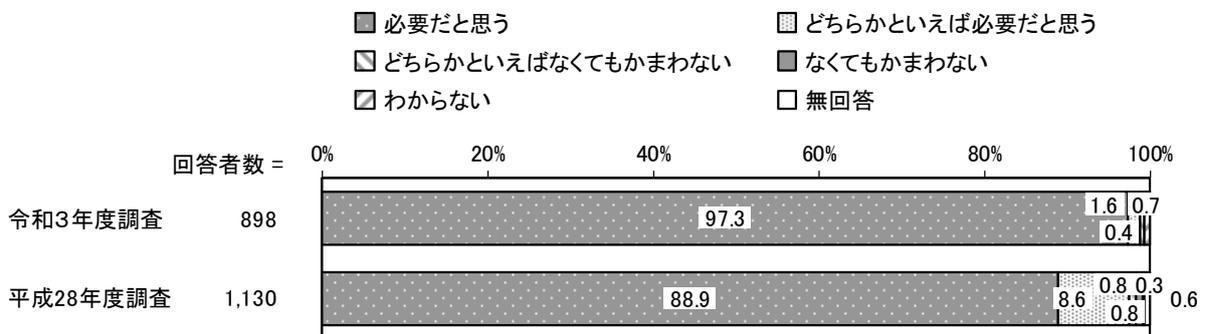
平成 28 年度調査と比較すると、“必要だと思う”の割合が増加しています。



(5) 女性用品の常備

【経年比較】

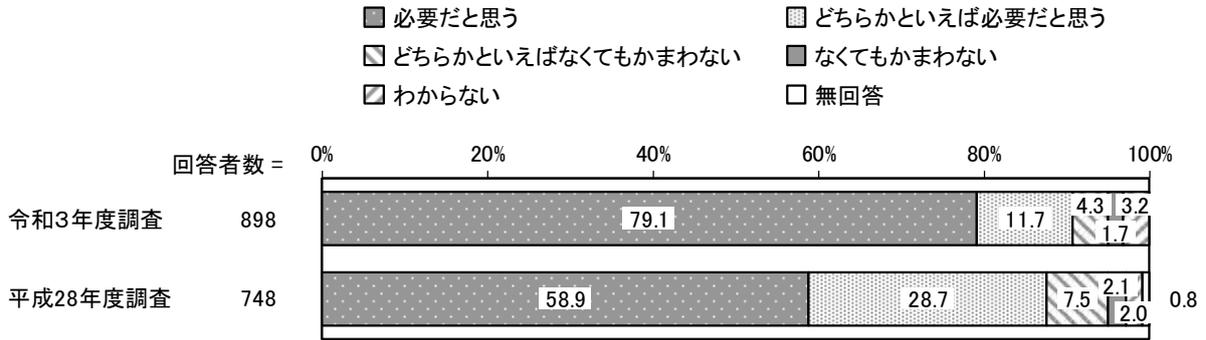
平成 28 年度調査と比較すると、“必要だと思う”の割合が増加しています。



(6) 女性の運営責任者

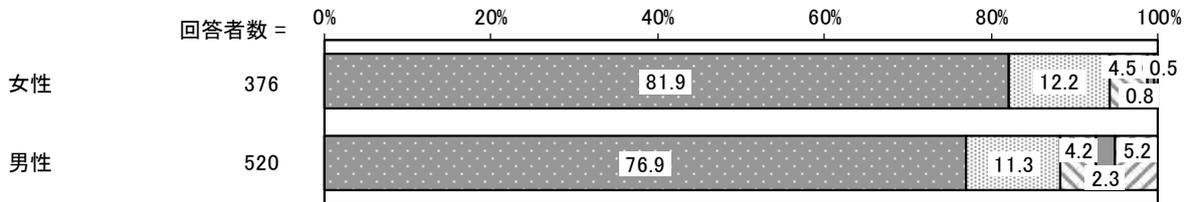
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“必要だと思う”の割合が増加しています。



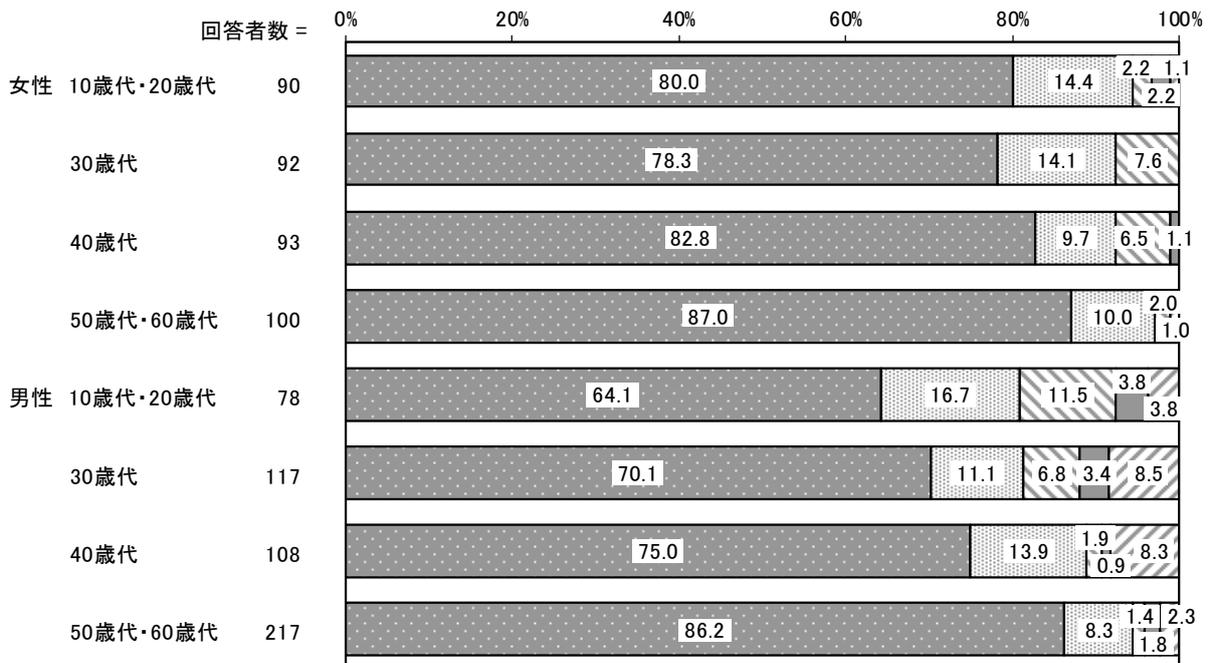
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“必要だと思う”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

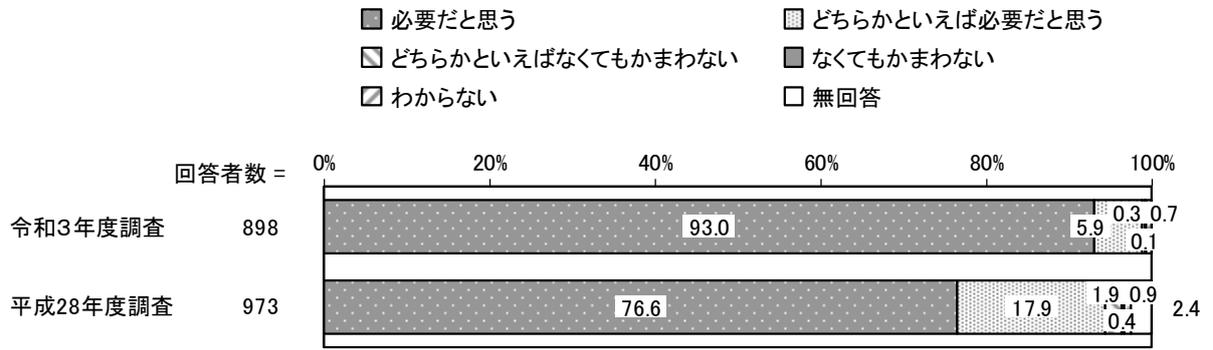
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性10歳代・20歳代で“なくてもかまわない”の割合が高くなっています。



(7) 女性の相談員

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、“必要だと思う”の割合が増加しています。



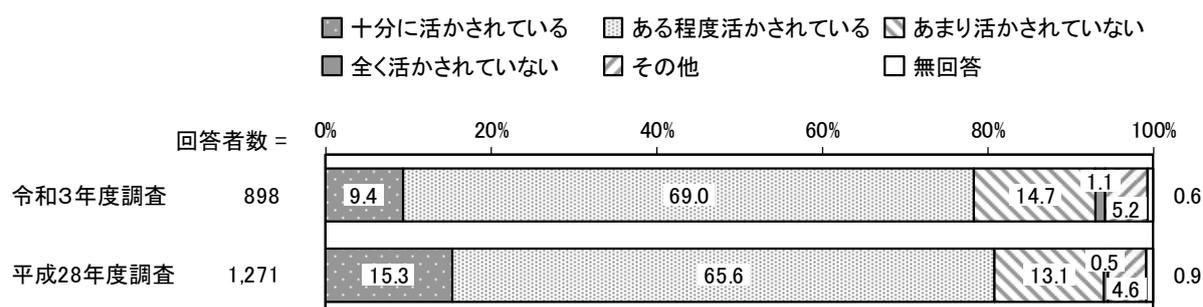
(3) 市政運営について

問 19 あなたは、つくば市の市政運営において、女性の意見や視点が十分に活かされていると思いますか。(〇は1つだけ)

「十分に活かされている」と「ある程度活かされている」をあわせた“活かされている”の割合が78.4%、「あまり活かされていない」と「全く活かされていない」をあわせた“活かされていない”の割合が15.8%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

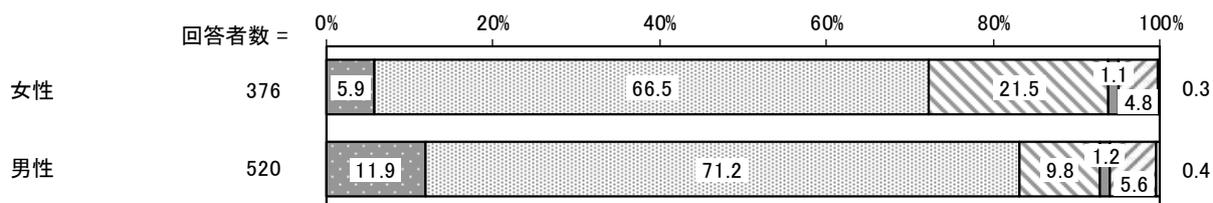


<「その他」意見より>

- ・「女性視点が十分に活かされること」という視点自体が男女共同参画とずれている。
- ・客観的に判断できるデータ等の根拠を知らないので何とも言えない。 など

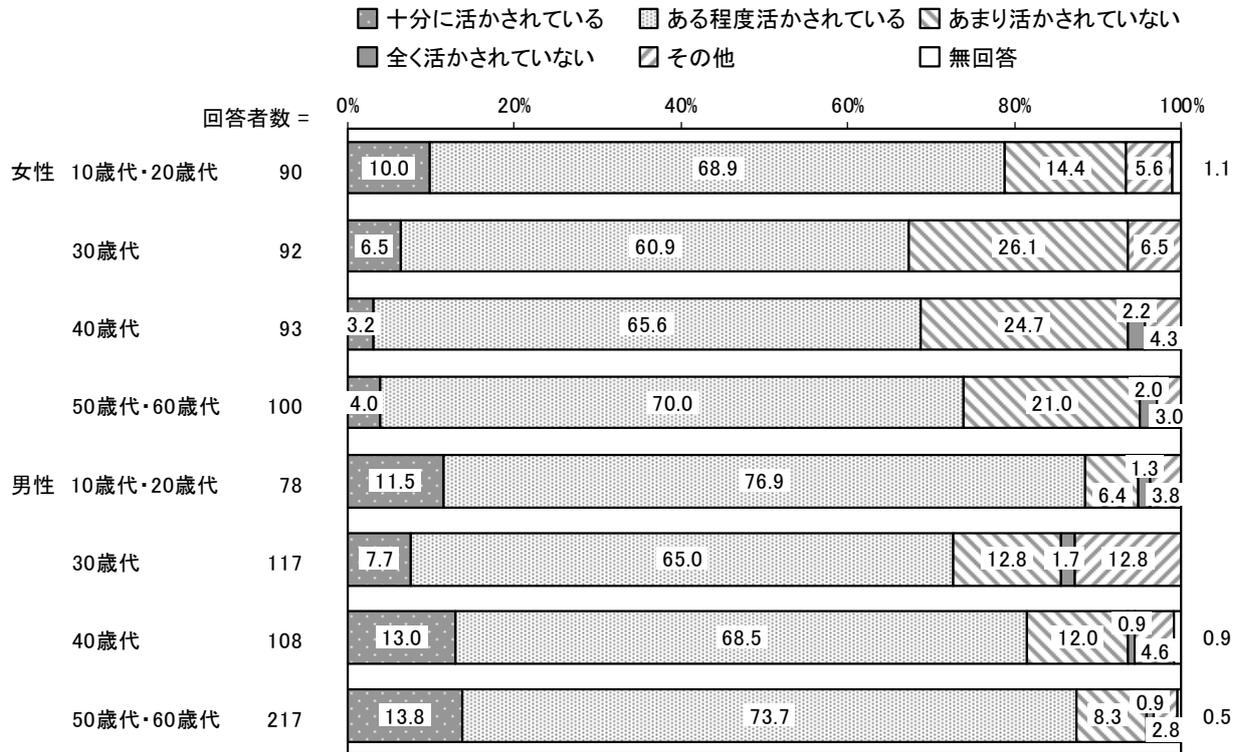
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“活かされていない”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性10歳代・20歳代、男性50歳代・60歳代で“活かされている”の割合が高くなっています。

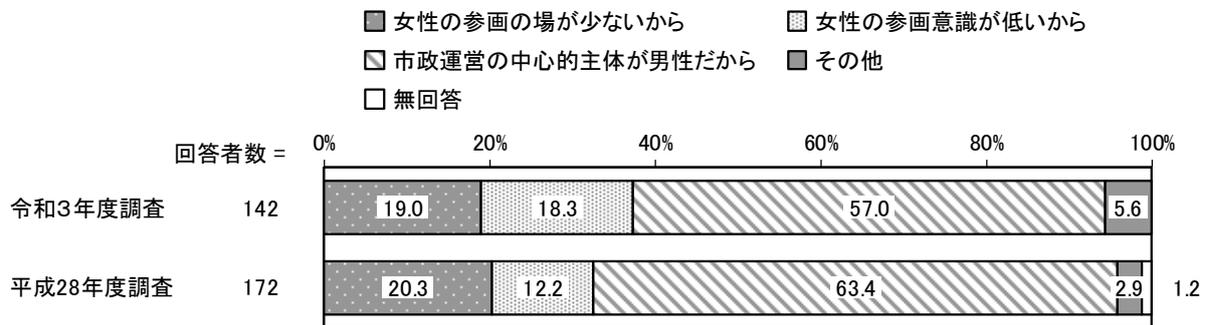


問19で「あまり活かされていない」、「全く活かされていない」と回答した方におうかがいします
問20 それはなぜだと思いますか。(○は1つだけ)

「市政運営の中心的主体が男性だから」の割合が57.0%と最も高く、次いで「女性の参画の場が少ないから」の割合が19.0%、「女性の参画意識が低いから」の割合が18.3%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「女性の参画意識が低いから」の割合が増加しています。一方、「市政運営の中心的主体が男性だから」の割合が減少しています。

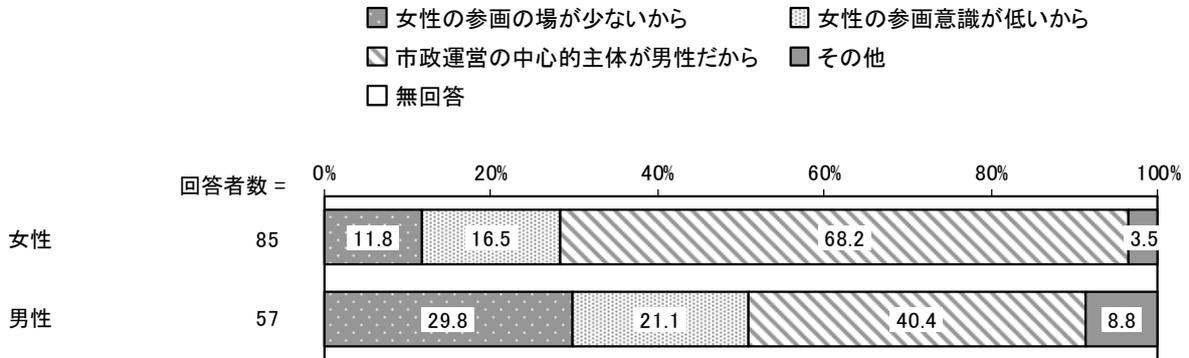


<「その他」意見より>

- ・女性からの意見を言っても、議題にあげてもらえない。
 - ・既に決定されていることに形だけ参加していると感じる。
 - ・女性が参画したいことや都合の良いことにしか参画しないのであれば、それは平等ではない。
- など

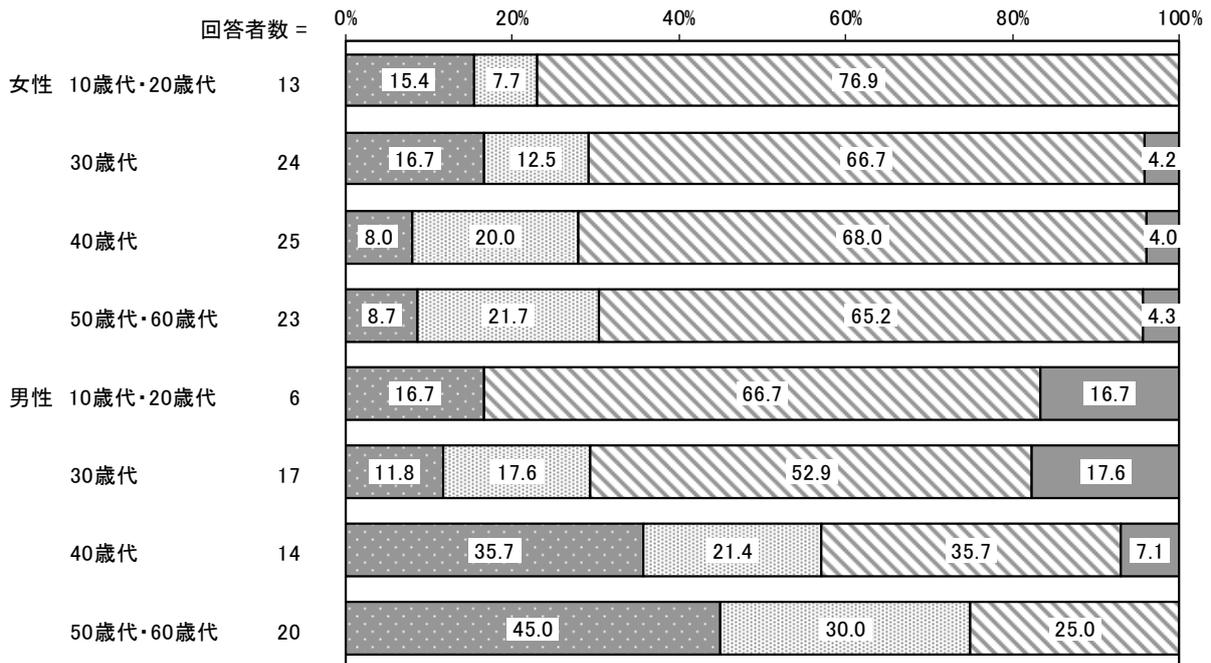
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「市政運営の中心的主体が男性だから」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「女性の参画の場が少ないから」「その他」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性50歳代・60歳代で「女性の参画の場が少ないから」「女性の参画意識が低いから」の割合が高くなっています。

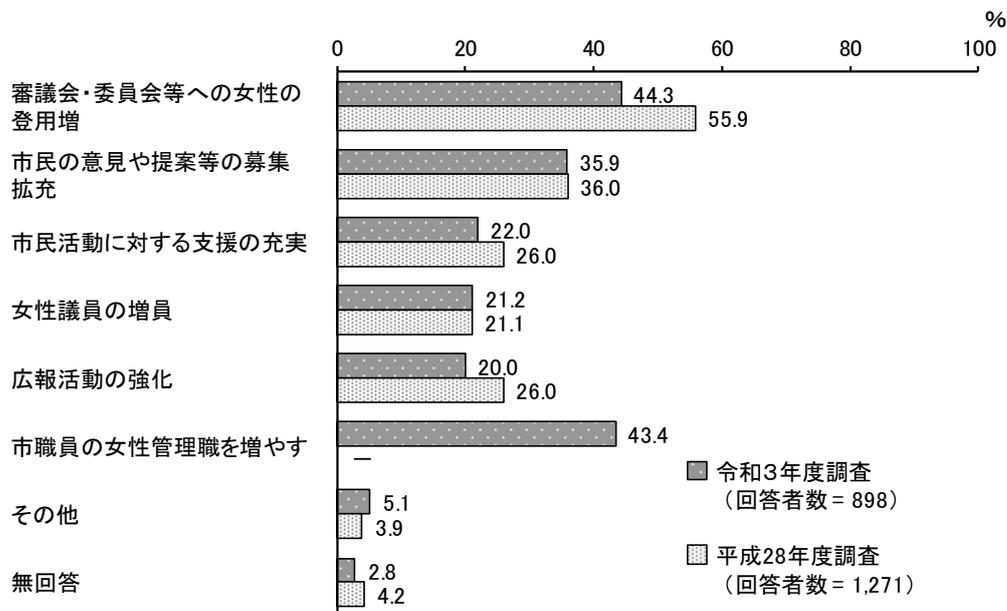


問 21 女性の意見や視点をより一層市政に反映させるためには、何が有効だと思いますか。3つ以内で選んでください。

「審議会・委員会等への女性の登用増」の割合が44.3%と最も高く、次いで「市職員の女性管理職を増やす」の割合が43.4%、「市民の意見や提案等の募集拡充」の割合が35.9%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「審議会・委員会等への女性の登用増」「広報活動の強化」の割合が減少しています。



※前回は「各種懇談会・フォーラム等の充実」「情報公開の充実」の選択肢がありました。また、「市職員の女性管理職を増やす」の選択肢がありませんでした。

<「その他」意見より>

- ・ 部署ごとの男女比率の均等化。
- ・ 男女で区別することを強調しないこと。
- ・ 匿名で意見を伝える場があると、意見や本音を吸い上げやすい。
- ・ 女性の意見や視点について意識していること自体、男女共同参画が遅れている。 など

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 30 歳代で「広報活動の強化」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	審議会・委員会等への 女性の登用増	市民の意見や提案 等の募集拡充	市民活動に対する 支援の充実	女性議員の増員	広報活動の強化	市職員の女性管理 職を増やす	その他	無回答
女性 10 歳代・20 歳代	90	40.0	37.8	20.0	27.8	16.7	44.4	2.2	1.1
30 歳代	92	40.2	38.0	22.8	29.3	7.6	50.0	4.3	1.1
40 歳代	93	49.5	37.6	23.7	18.3	24.7	34.4	9.7	3.2
50 歳代・60 歳代	100	52.0	40.0	29.0	18.0	23.0	43.0	1.0	2.0
男性 10 歳代・20 歳代	78	34.6	34.6	23.1	24.4	20.5	38.5	5.1	1.3
30 歳代	117	35.0	30.8	17.9	17.9	22.2	41.9	12.0	6.8
40 歳代	108	37.0	28.7	13.9	23.1	18.5	48.1	6.5	2.8
50 歳代・60 歳代	217	54.8	38.7	24.9	17.5	23.0	45.2	2.3	1.4

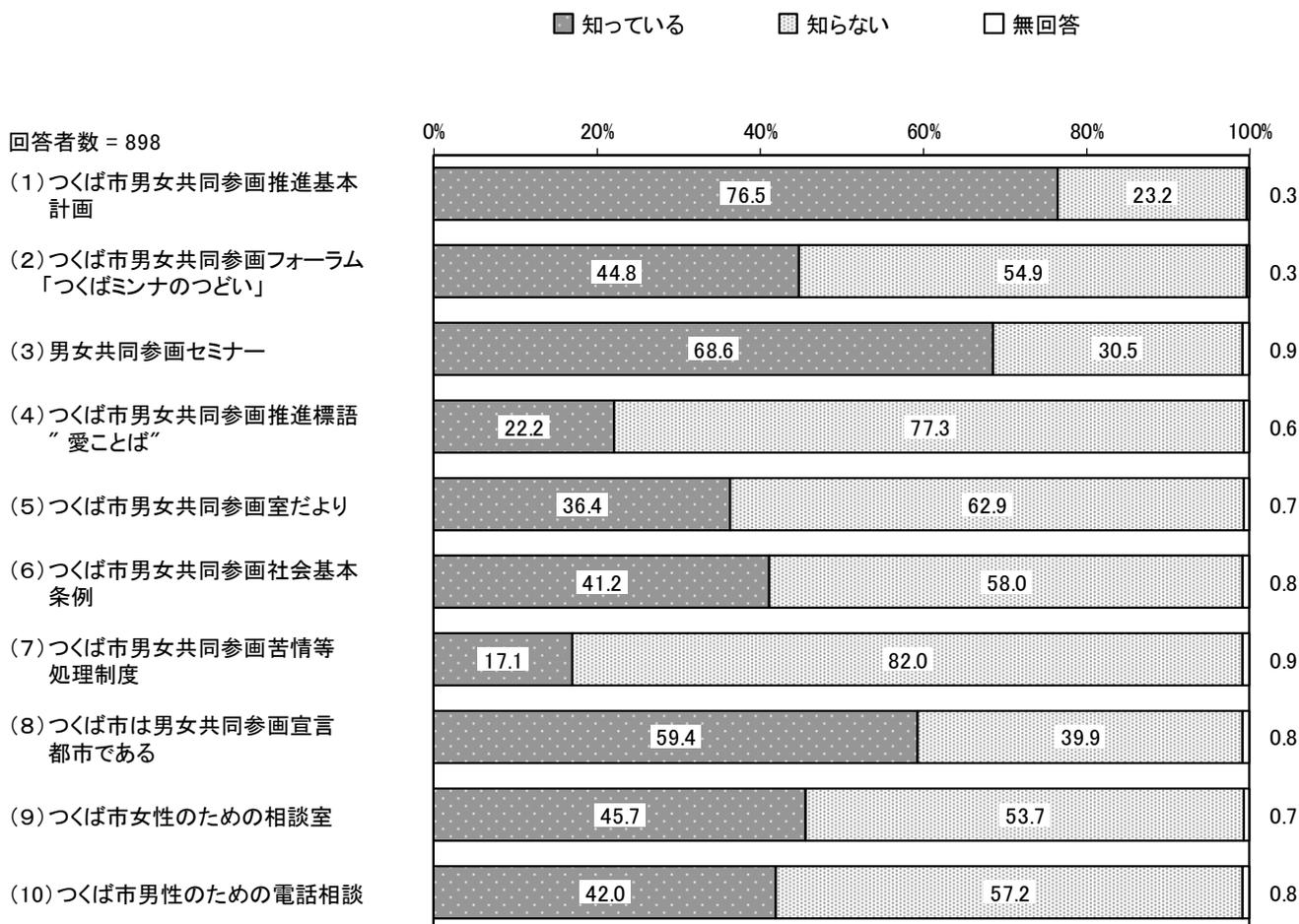
(4) 男女共同参画の取り組みについて

問 22 市では、女性の地位向上や男女共同参画の推進のために、様々な事業や啓発活動を行っています。あなたは、次の取組について知っていますか。

(○はそれぞれ1つ)

【新規設問】

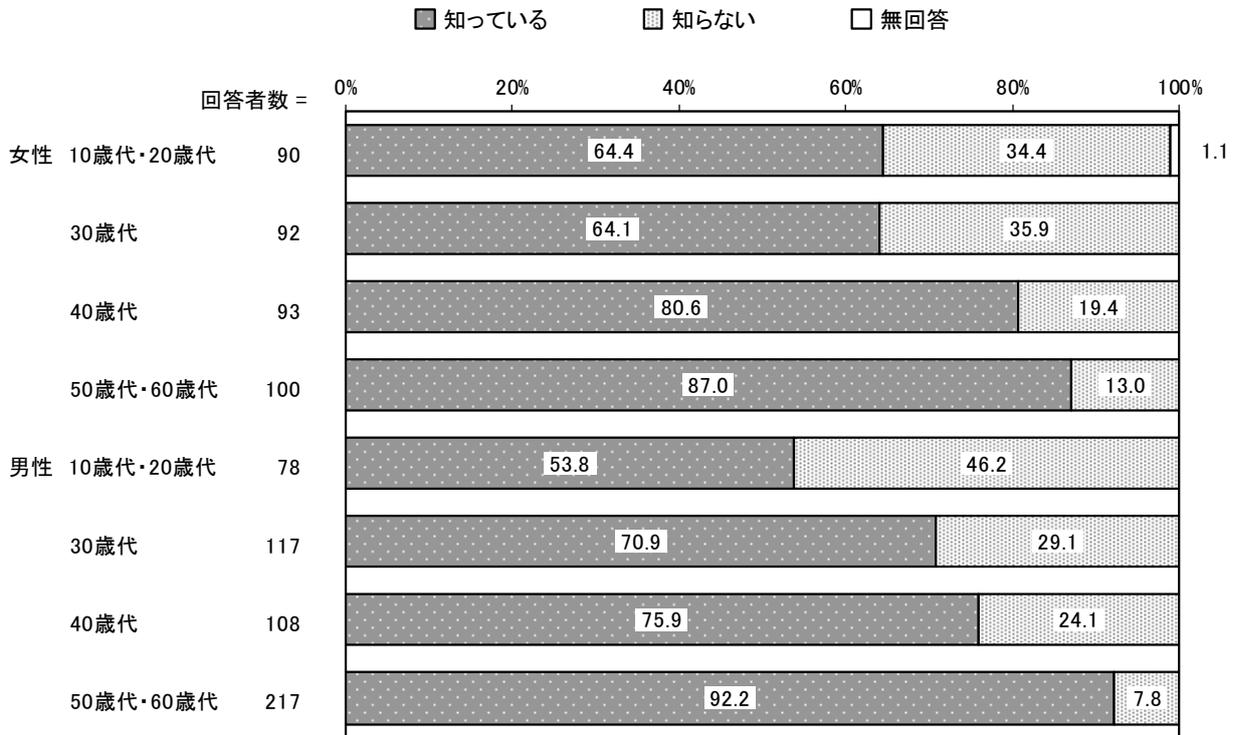
『(1) つくば市男女共同参画推進基本計画』で「知っている」の割合が76.5%、『(7) つくば市男女共同参画苦情等処理制度』で「知らない」の割合が82.0%となっています。



(1) つくば市男女共同参画推進基本計画

【性・年齢別】

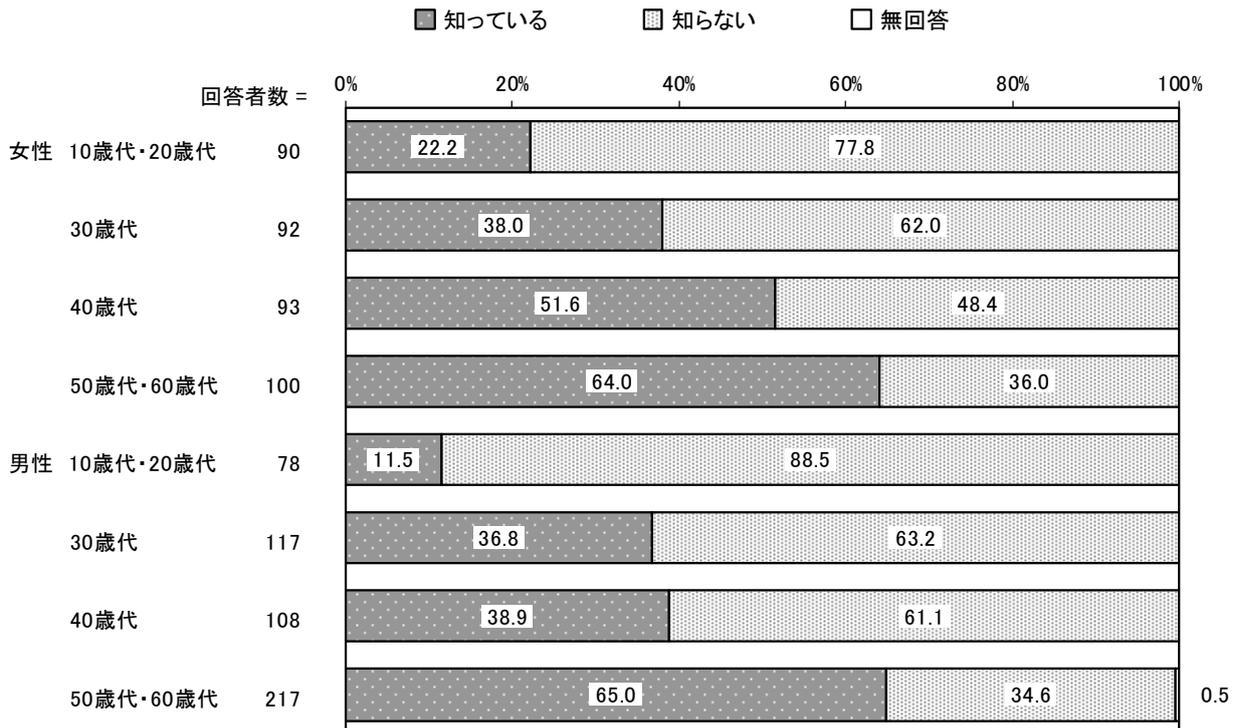
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 50 歳代・60 歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(2) つくば市男女共同参画フォーラム「つくばミンナのつどい」

【性・年齢別】

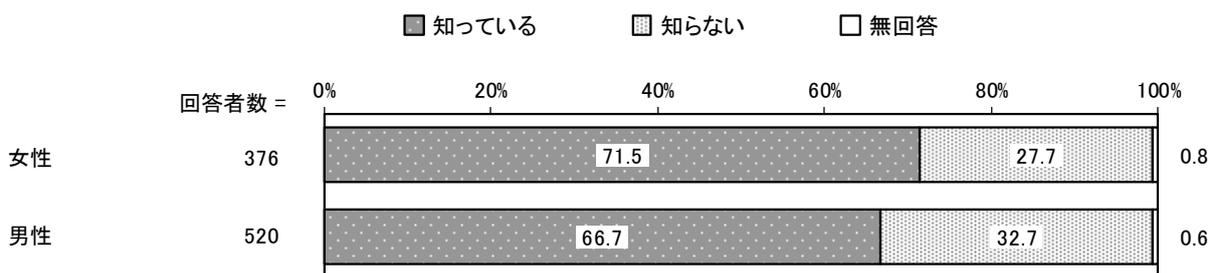
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 10 歳代・20 歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(3) 男女共同参画セミナー

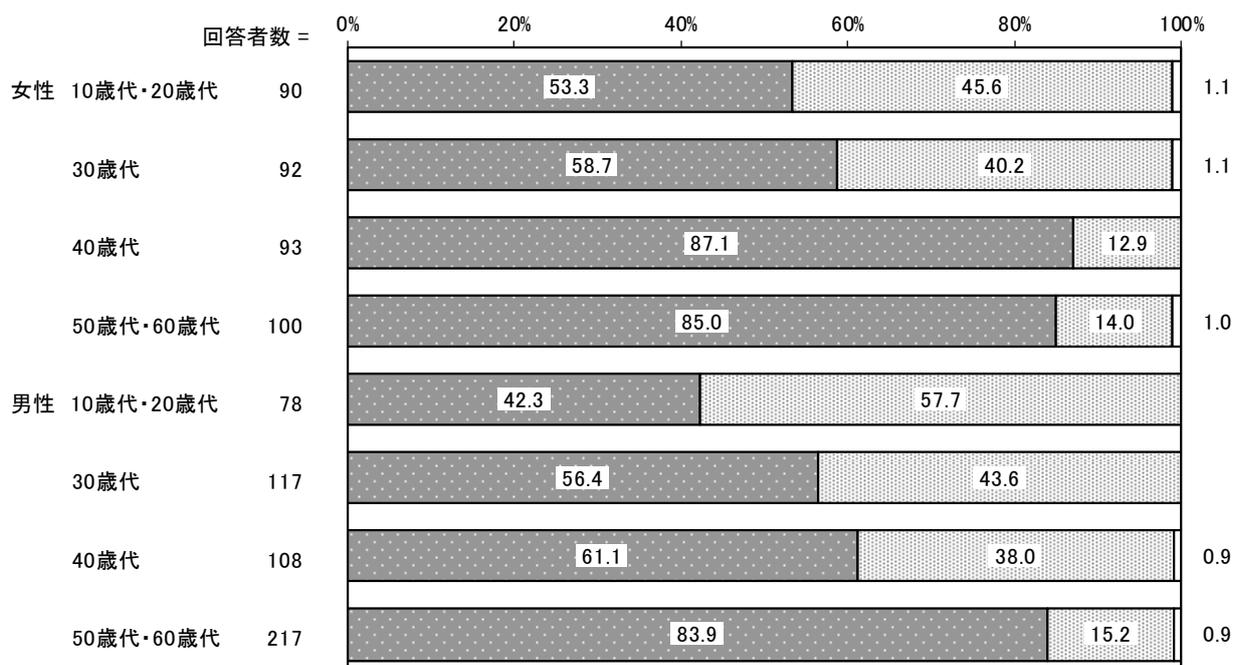
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

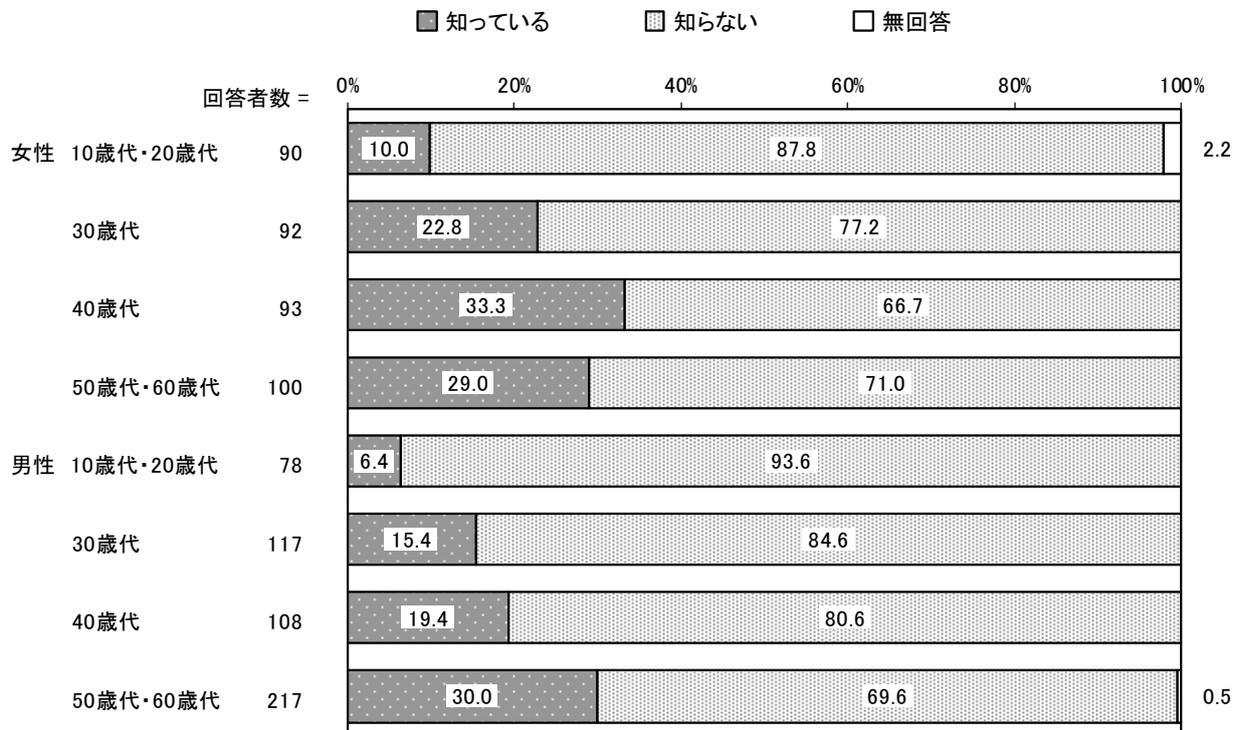
性・年齢別でみると、他に比べ、男性10歳代・20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(4) つくば市男女共同参画推進標語 “愛ことば”

【性・年齢別】

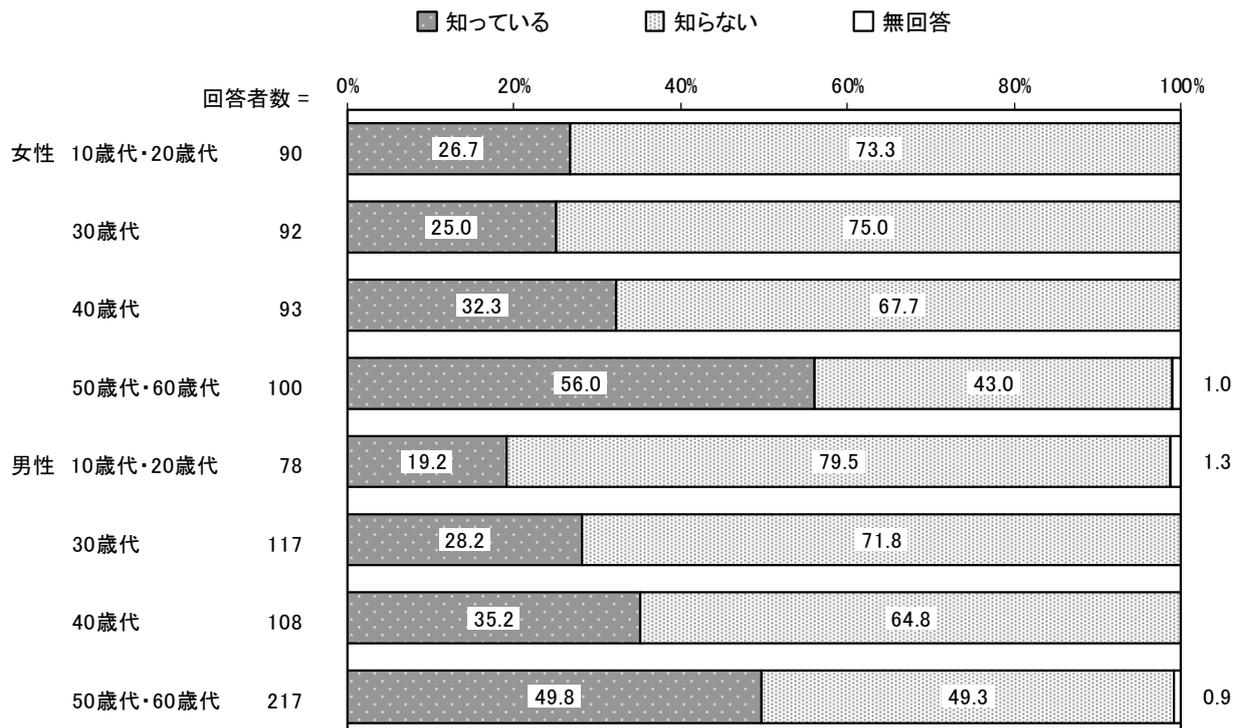
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 10 歳代・20 歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(5) つくば市男女共同参画室だより

【性・年齢別】

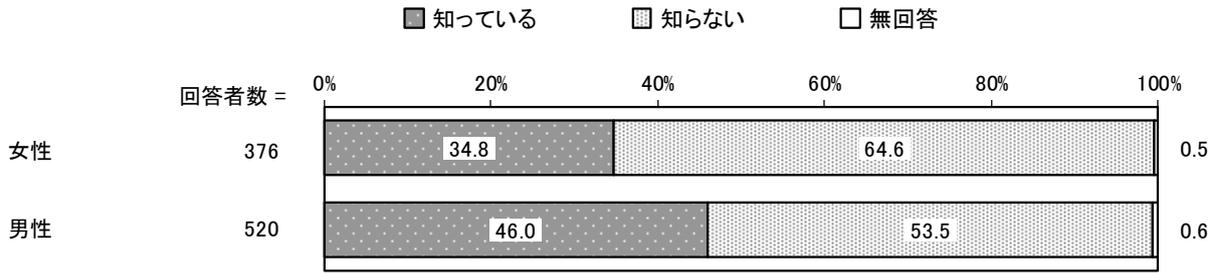
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性 50 歳代・60 歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(6) つくば市男女共同参画社会基本条例

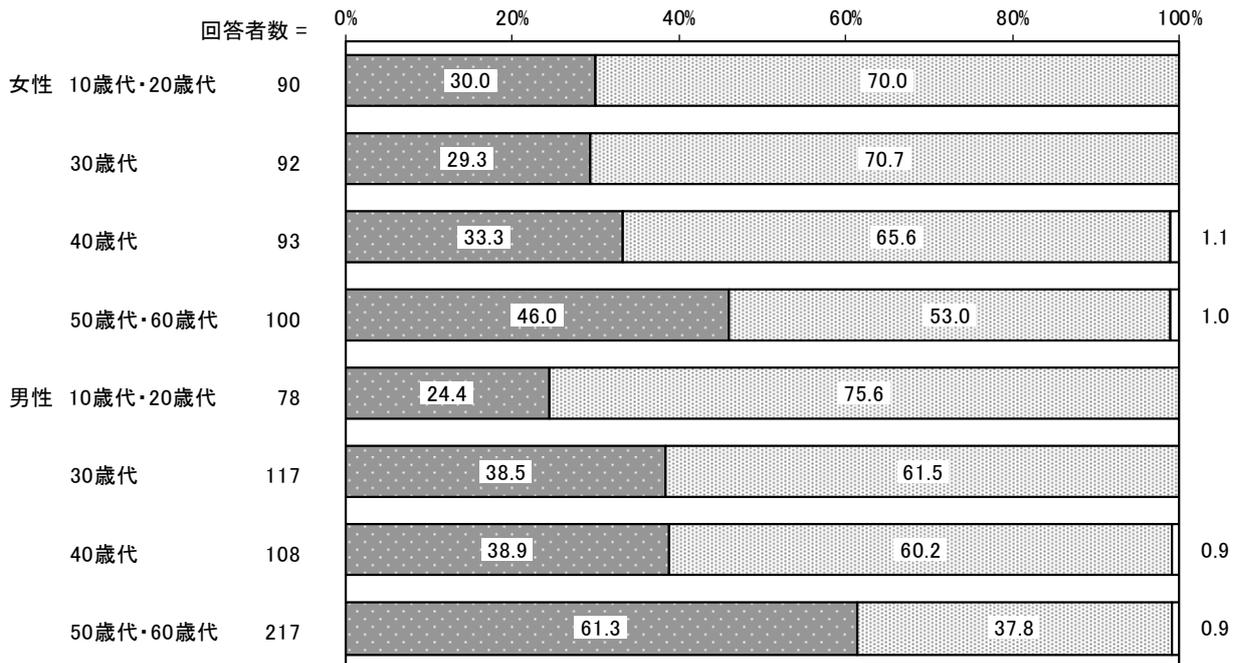
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

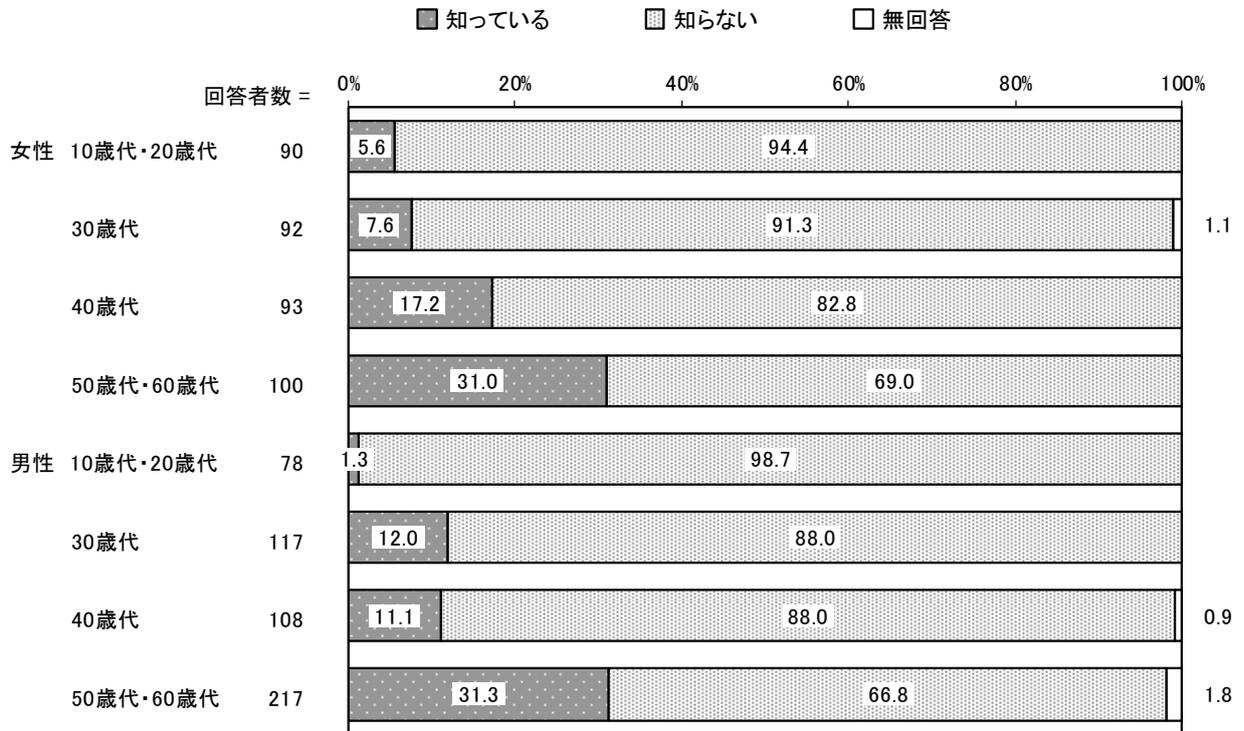
性・年齢別でみると、他に比べ、男性 50 歳代・60 歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(7) つくば市男女共同参画苦情等処理制度

【性・年齢別】

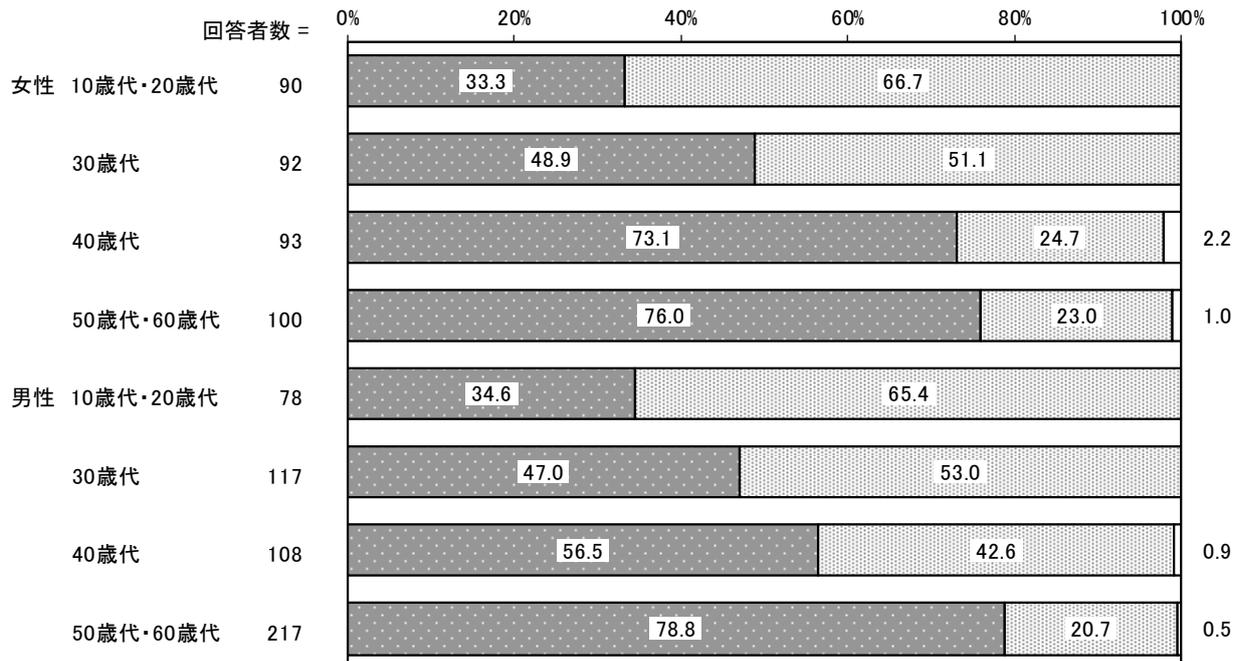
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性女性ともに50歳代・60歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



(8) つくば市は男女共同参画宣言都市である

【性・年齢別】

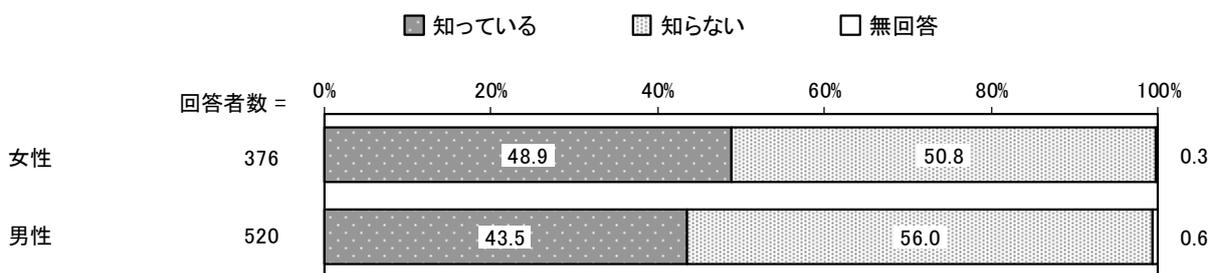
性・年齢別で見ると、男性女性ともに、年齢が上がるにつれ「知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。



(9) つくば市女性のための相談室

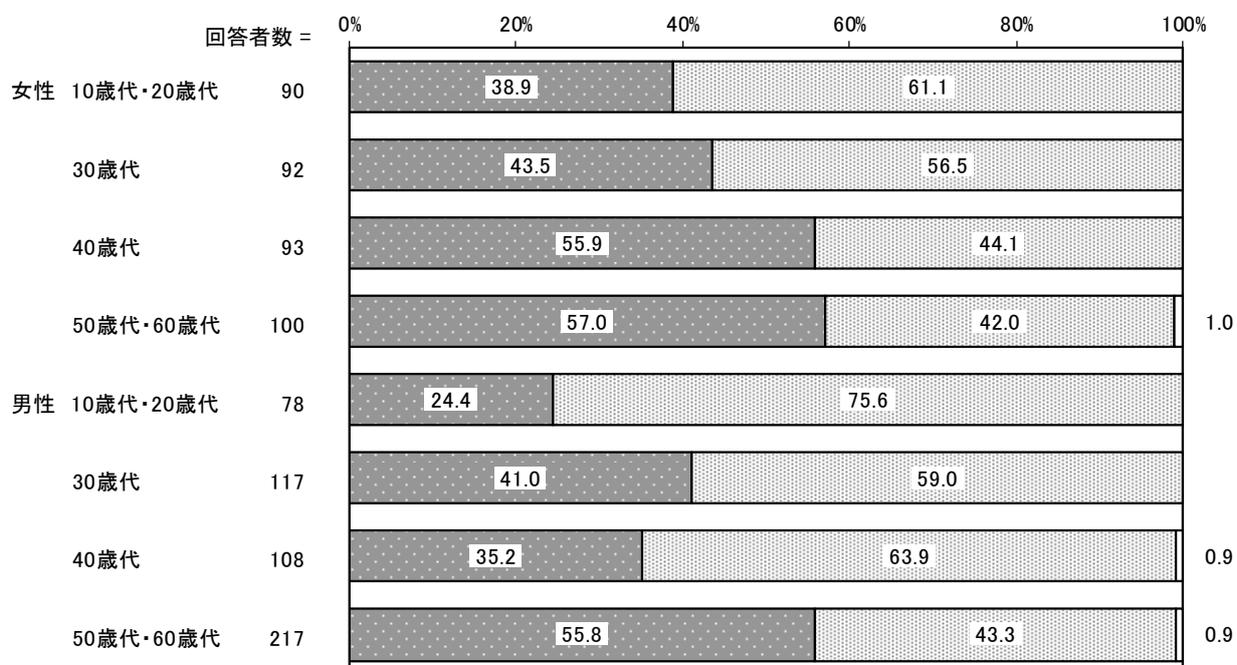
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

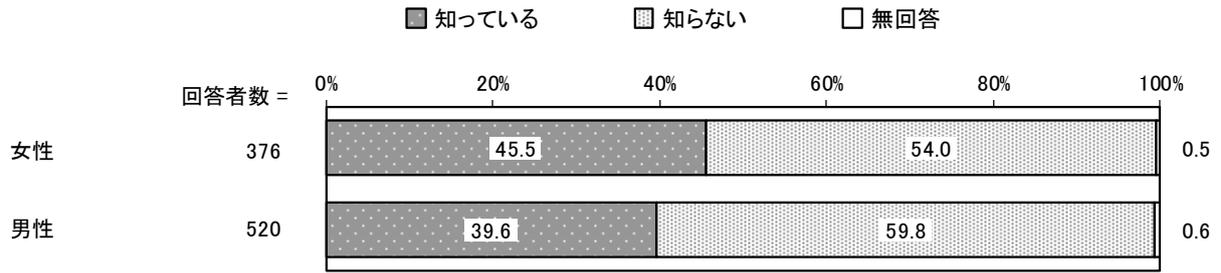
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性 10 歳代・20 歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(10) つくば市男性のための電話相談

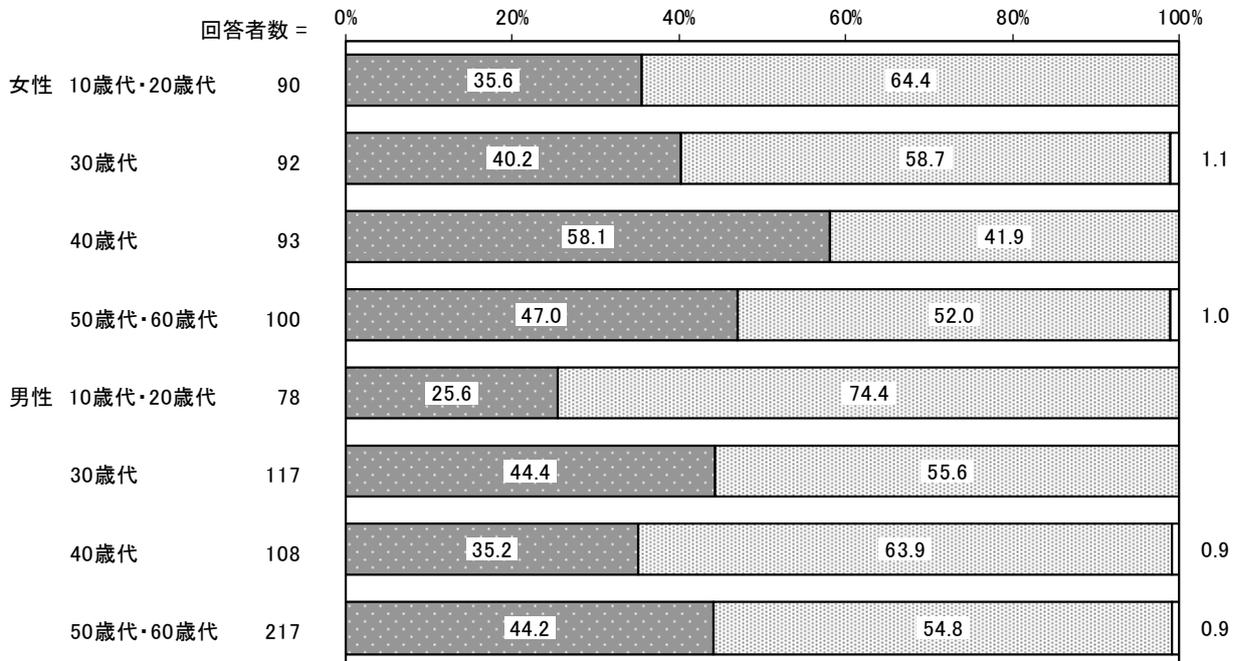
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性40歳代で「知っている」の割合が高くなっています。

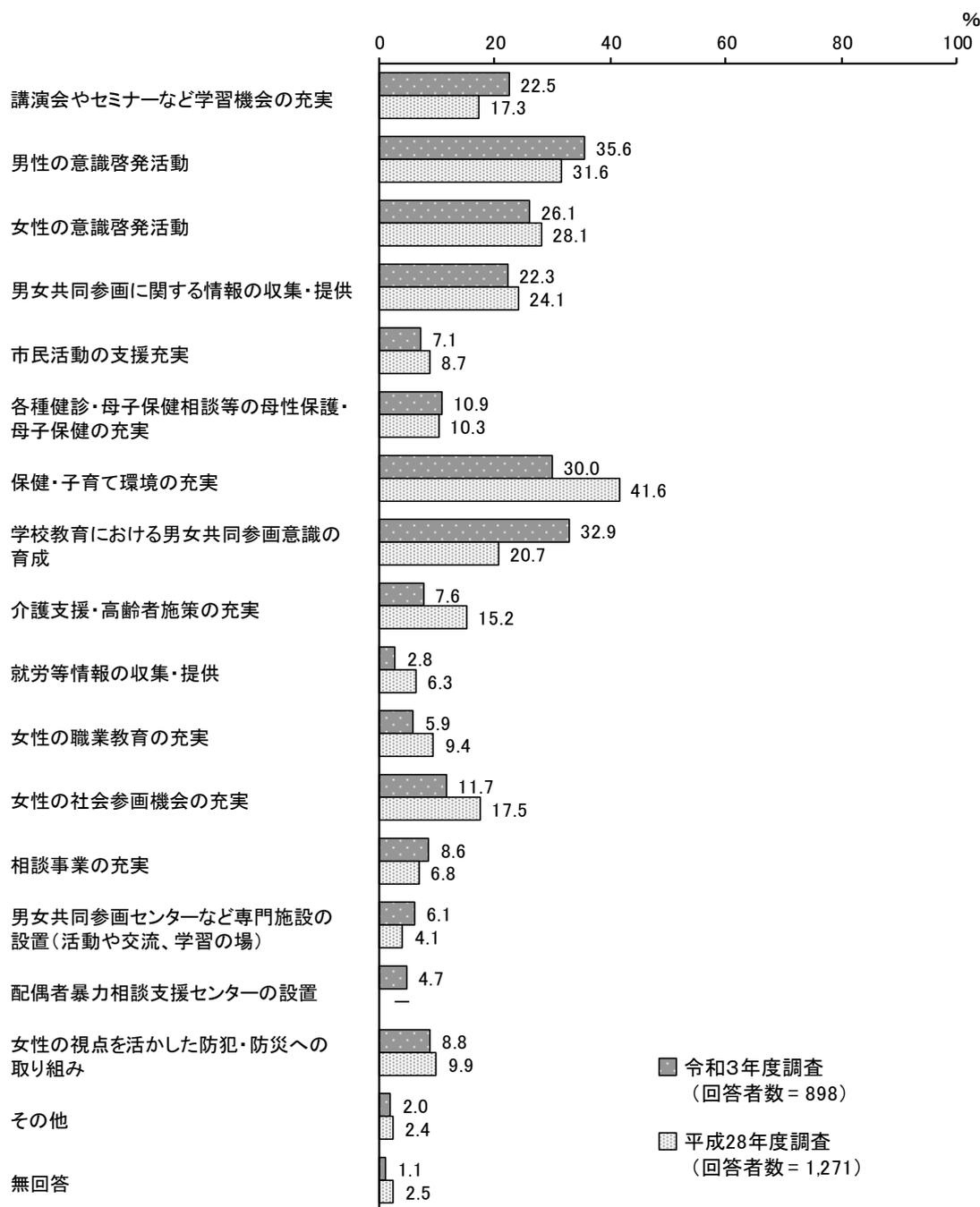


問 23 男女共同参画社会の実現に向けて、市としてどのようなことに力を入れたら良いと思いますか。最も重要だと思うものを3つ以内で選んでください。

「男性の意識啓発活動」の割合が35.6%と最も高く、次いで「学校教育における男女共同参画意識の育成」の割合が32.9%、「保健・子育て環境の充実」の割合が30.0%となっています。

【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「学校教育における男女共同参画意識の育成」の割合が増加しています。一方、「保健・子育て環境の充実」「介護支援・高齢者施策の充実」「女性の社会参画機会の充実」の割合が減少しています。



※前回は「配偶者暴力相談支援センターの設置」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「保健・子育て環境の充実」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「男性の意識啓発活動」「女性の意識啓発活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	講演会やセミナーなど学習機会の充実	男性の意識啓発活動	女性の意識啓発活動	男女共同参画に関する情報の収集・提供	市民活動の支援充実	母子保健の充実	各種健診・母子保健相談等の母性保護・母子保健の充実	保健・子育て環境の充実	学校教育における男女共同参画意識の育成	介護支援・高齢者施策の充実	就労等情報の収集・提供	女性の職業教育の充実	女性の社会参画機会の充実	相談事業の充実	男女共同参画センターなど専門施設の設置(活動や交流、学習の場)	配偶者暴力相談支援センターの設置	女性の視点を活かした防犯・防災への取り組み	その他	無回答
女性	376	21.0	29.3	22.1	21.3	6.4	13.3	37.2	34.6	7.7	2.4	6.9	11.2	8.8	7.2	6.6	11.4	1.1	0.5	
男性	520	23.7	40.4	29.0	23.1	7.7	9.2	24.8	31.7	7.5	3.1	5.2	12.1	8.5	5.4	3.3	6.9	2.7	1.2	

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性 30 歳代で「保健・子育て環境の充実」の割合が、男性 40 歳代で「男性の意識啓発活動」の割合が高くなっています。また、女性 40 歳代で「学校教育における男女共同参画意識の育成」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	講演会やセミナーなど学習機会の充実	男性の意識啓発活動	女性の意識啓発活動	男女共同参画に関する情報の収集・提供	市民活動の支援充実	母子保健の充実	各種健診・母子保健相談等の母性保護・母子保健の充実	保健・子育て環境の充実	学校教育における男女共同参画意識の育成	介護支援・高齢者施策の充実	就労等情報の収集・提供	女性の職業教育の充実	女性の社会参画機会の充実	相談事業の充実	男女共同参画センターなど専門施設の設置(活動や交流、学習の場)	配偶者暴力相談支援センターの設置	女性の視点を活かした防犯・防災への取り組み	その他	無回答
女性 10 歳代・20 歳代	90	16.7	16.7	18.9	20.0	7.8	26.7	43.3	26.7	6.7	2.2	7.8	13.3	3.3	10.0	5.6	13.3	—	2.2	
30 歳代	92	14.1	28.3	20.7	13.0	1.1	15.2	51.1	35.9	6.5	1.1	9.8	10.9	10.9	1.1	7.6	16.3	4.3	—	
40 歳代	93	24.7	37.6	25.8	28.0	8.6	4.3	33.3	40.9	8.6	2.2	5.4	4.3	9.7	9.7	3.2	7.5	—	—	
50 歳代・60 歳代	100	28.0	34.0	23.0	24.0	8.0	8.0	23.0	35.0	9.0	4.0	5.0	16.0	10.0	8.0	10.0	8.0	—	—	
男性 10 歳代・20 歳代	78	24.4	38.5	25.6	20.5	5.1	14.1	26.9	23.1	5.1	3.8	6.4	7.7	12.8	6.4	3.8	3.8	2.6	—	
30 歳代	117	19.7	41.0	20.5	15.4	7.7	14.5	41.0	24.8	6.8	2.6	6.8	12.8	6.0	2.6	2.6	9.4	5.1	2.6	
40 歳代	108	17.6	48.1	33.3	23.1	5.6	1.9	20.4	37.0	4.6	5.6	2.8	15.7	8.3	5.6	0.9	9.3	2.8	1.9	
50 歳代・60 歳代	217	28.6	36.9	32.7	28.1	9.7	8.3	17.5	35.9	10.1	1.8	5.1	11.5	8.3	6.5	4.6	5.5	1.4	0.5	

つくば市男女共同参画に関する市民意識調査 調査結果報告書
令和4年3月

編集発行：つくば市 市民部 市民活動課 男女共同参画室
〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1
電話：029-883-1111（代表）
ホームページ：<https://www.city.tsukuba.lg.jp/>